

取扱説明書

刺しゅう機付コンピューターミシン

EMW40 シリーズ



使い方動画



<https://s.brother/cvdaf/>

- ご使用になる前に必ず本書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 本書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。
- 最新の取扱説明書は、ブラザーのサポートサイト（<https://s.brother/cpdaf/>）でご覧いただけます。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

人への危害や損害を未然に防ぐために、必ずお守りください。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。

 警告	「死亡や重傷を負うおそれのある」内容です。
 注意	「傷害を負うおそれのある」内容です。
重 要	「物的損害が発生するおそれのある」内容です。

■ お守りいただく内容を区分して説明しています。

	「してはいけない」内容です。
	「実行しなければならない」内容です。

警告

火災・感電・故障・事故など

をさけるために



一般家庭用電源 AC100V の電源で使う



濡れた手でプラグの抜き差しはしない



爆発性および導電性の粉塵が発生する環境では使わない



本製品を清掃する際、近くで可燃性のスプレーなどを使わない

可燃性スプレーの例

- ほこり除去スプレー
- 殺虫スプレー
- アルコールを含む除菌、消臭スプレー
- アルコールなどの有機溶剤や液体



プラグは根元まで確実に差し込む



次の場合は電源を切り、プラグを抜く

- 接触不良などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき
- ミシンの使用後や、そばを離れるとき
- 使用中に停電したとき



異常・故障時は...

すぐにプラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡を！

(またはお客様相談室 (ミシン 119 番) へ)

異常などの例：

- 煙が出た、異臭や異常音がする
- ミシンを落とした
- 電源コードやプラグの破損
- 本体に水が入った



次の場合はお買い上げの販売店へご連絡を！

アクセサリに水が入った

アクセサリを踏んでしまった



本製品は、お子様の手の届かないところで使用・保管する

(本製品には小さな部品が含まれており、誤飲のおそれがあります)



本機が入っていた袋は、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄する
(かぶって遊ぶと、窒息のおそれがあります)

⚠ 注意

火災・感電などをさけるために



● 次のようなことをしない

- ・ たこ足配線
- ・ 電源を切らずにプラグを抜く
- ・ ゆるんだコンセントに差し込む
- ・ 電源コードを引っ張って抜く



● 電源コードは、次のような扱いをしない

- ・ 無理に曲げる
- ・ ねじる
- ・ たばねたまま使う
- ・ 重い物を載せる など

けが・針折れなど

をさけるために



● 縫製中は次のことをしない

- ・ 針やプーリー、てんびんなど、動いている部品に手を近づける
- ・ 針の下などに指を入れる
- ・ 布地を無理に引っ張ったり、押したりする

● 曲がった針は使わない

● リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かない

(すべったときにけがのおそれがあります)



● 針や押えの交換時は、針・押え交換キーを押して、ミシンをロックする (誤ってスイッチを押すと、ミシンが作動するおそれがあります)

● 上糸や下糸などに関する操作は、本書に従って正しく行う (誤ると、糸がらみなどが発生し、針の折れや曲がりのおそれがあります)

火災・感電・けが・故障など

をさけるために

設置・保管場所



● 次の場所に設置や保管をしない

- ・ 著しく高温や低温になる
(使用環境温度は 5 ~ 40 °C)
- ・ 急激に温度が変化する
- ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い
(火のついたたばこやろうそく、アイロン、ストーブなど)
- ・ スプレー (布用スプレーなど) を使う部屋
- ・ 湿気や湯気が多い
- ・ 屋外や、直射日光が当たる
- ・ ほこりや油煙が多い
- ・ 不安定な場所 (ぐらつく、傾くなど)

● 換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりをためない

● 換気口をふさがない

取り扱い



● 換気口や内部にドライバーなどを差し込んだり、異物を入れない (高電圧部に触れるおそれがあります)

● 修理や分解、改造は行わない

● フットコントローラーの上に物を置かない



● 本書に記載の整備は、プラグを抜いてから行う

持ち運び



● 急激または、不用意に持ち上げない



● ハンドルを持って運ぶ

(他の部分では、こわれたり、すべって落とすおそれがあります)

重要

故障・損傷などを

さけるために



● 本製品のお手入れには、シンナー・ベンジン・アルコールなどの有機溶剤、洗剤を使わない (塗装がはがれたり、傷がついたりするおそれがあります)



● 本製品への注油は行わない



● 付属品、別売品は純正品を使う

ブラザー純正品または推奨品以外の部品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。
※ その他のものが必ず不具合を起こすわけではありません。

💡 お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。日本国外では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
 - 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
 - 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。
 - 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
 - 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
 - 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
 - お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。
-

規格について

無線 LAN ご使用時のご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. 製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、使用周波数を変更するため、速やかに無線 LAN の使用チャンネルか内線用の通信チャンネルを変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談窓口へお問い合わせください。
3. その他、製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談窓口へお問い合わせください。

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

- 無線 LAN では、ネットワークケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。
- その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
 - ・ メールの内容
- などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

- 本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

- セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

電波の種類と干渉距離

2.4 DS4/OF4

「2.4」：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す。

「DS」：変調方式が DS-SS 方式であることを表す。
(IEEE802.11b のとき)

「OF」：変調方式が OFDM 方式であることを表す。
(IEEE802.11g/n のとき)

「4」：想定される与干渉距離が 40m 以下であることを表す。

「---」：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

無線モジュール内蔵について

この製品は、日本の電波法に基づき認証された無線モジュールを搭載しております。

レーザー機器について

IEC 60825-1 基準

このマシン付属のアクセサリは、IEC 60825-1:2014 基準で定められたクラス 1 レーザ製品です。

クラス 1 レーザ製品

ステッチレギュレーターには、出力 0.6mW、波長 840 ~ 860nm、ビーム広がり角 1.5mrad、パルス持続時間 26us、繰返し周波数 10 kHz の目に見えないレーザーを搭載し、保護筐体や回路設計によって、安全なレベルの出力に制限されています。ただし、ステッチレギュレーターを分解・改造すると、目に障がいをもたらす可能性があります。

▲ 注意

- ・ ステッチレギュレーターは、レーザー装置にクラス 1 レーザを使用しています。レーザー装置はいかなる状況でも分解・改造しないでください。
- ・ 取扱説明書に記載している以外の操作や調整を行った場合は、危険な値のレーザー光にさらされるおそれがあります。

スキャンに関するご注意

スキャンを行うときは、以下の点にご注意ください。

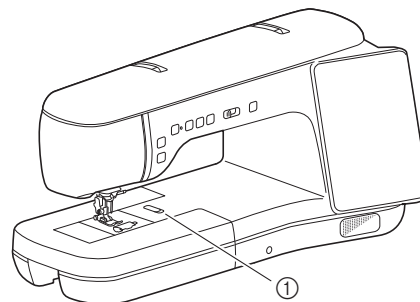
- 法律で禁止されているもの（絶対にスキャンしないでください）
 - ・ 紙幣、貨幣、政府発行有価証券、国債証券、地方証券
 - ・ 外国で流通する紙幣、貨幣、証券類
 - ・ 未使用の郵便切手やはがき
 - ・ 政府発行の印紙、および酒税法や物品税法で規定されている証券
 - 著作権のあるもの
 - ・ 著作権の対象となっている著作物を、個人的に限られた範囲内で使用する以外の目的でスキャンすることは、禁止されています
 - その他注意を要するもの
 - ・ 民間発行の有価証券（株券、手形、小切手）、定期券、回数券
 - ・ 政府発行のパスポート、身分証明書、通行券、食券などの切符類など
- * 上記のスキャンデータの取り扱いは、お客様の自己責任となります。弊社ではそれらの利用、漏洩、その他法令上の取扱い等について責任を負いかねます。
- * 著作権の対象となっている著作物（特に人気キャラクター）を、著作者の許諾なく営利用または業務用として複製することはできません。また、有名ブランド品の図案、ロゴ、名称、マーク等については、無許諾での複製は法律上罰せられます。これらについては、勝手に複製、縫製しないようご注意ください。

警告表示について

本製品には下記の警告が表示されています。警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。

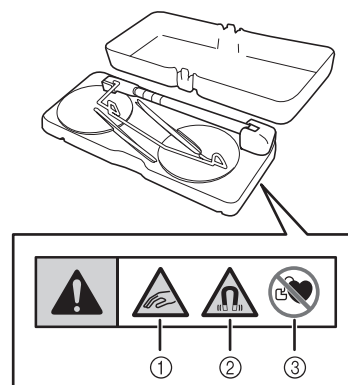
また、警告表示は、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。

■ ミシン本体



■ 糸立てスタンド

底面に警告ラベルが貼りつけられています。

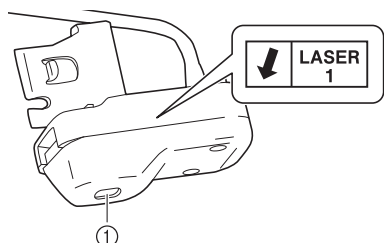


本製品にはマグネットが含まれています。

- ① 糸たてスタンドと本機の上ふたの間に指や物を挟まないように注意してください。
- ② マグネットを精密電子機器、コンピューターのディスク装置、磁気ストライプ付きクレジットカードなどに近づけないでください。
- ③ ペースメーカーをお使いの場合は、糸たてスタンドを使用しないでください。

■ ステッチレギュレーター

ステッチレギュレーターに関する警告表示が側面にあります。



① レーザー発光部

▲ 注意

- 目に見えないレーザーが矢印の開口部から発光しています。本製品はレーザー製品クラス 1 に準拠し安全性を確保しておりますが、レーザー発光部を覗き込まないでください。目に悪影響を及ぼす可能性があります。

商標について

WPA™、WPA2™、WPA3™ は Wi-Fi Alliance® の商標です。

「マジックテープ」は (株) クラレの面ファスナーの登録商標です。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

ブラザー製品および関連資料等に記載されている社名及び商品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

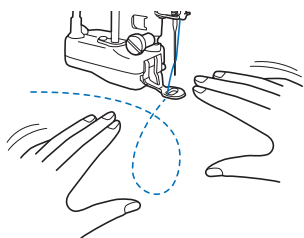
無線 LAN 接続に関するご注意

本製品の無線 LAN インターフェースは、電気通信事業者（移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダ等）の通信回線（公衆無線 LAN を含む）に直接接続することができません。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルーター等を経由し接続してください。

注目の機能

■ ステッチレギュレーター

ステッチレギュレーターを使用すると、設定したぬい目の長さでフリーモーションキルトやフリーモーションしつけぬいができます。(P. 112)



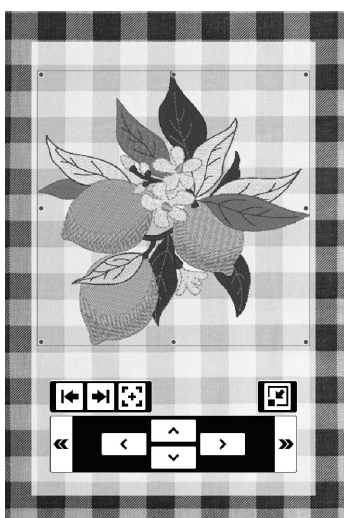
■ ピクチャープレイ刺しゅう機能

写真を刺しゅうデータに変換できます。(P. 175)



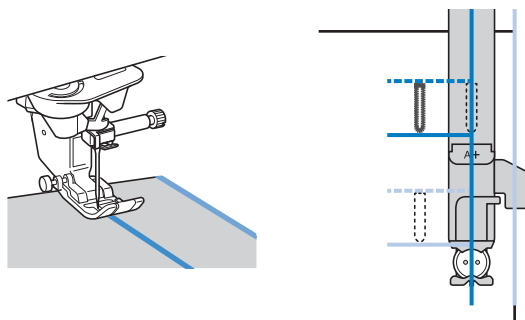
■ 布地に映し出した刺しゅう模様の編集

刺しゅう模様を布地に映し出して編集することができます。(P. 152)



■ プロジェクターでガイドラインを映す

ガイドライン機能で布地に映し出された線をたどると、縫製しやすくなります。(P. 63)



■ 使い方動画

使い方動画をモバイル端末やパソコンでご覧いただけます。



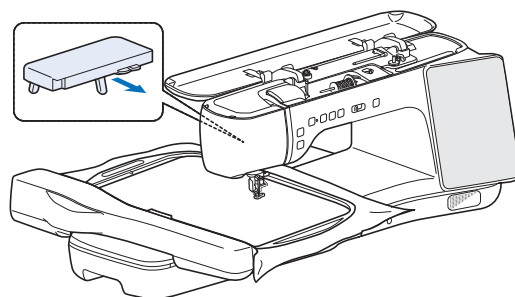
<https://s.brother/cvdaf/>

画面に表示される QR コードからもアクセスできます。(P. 27)

■ 刺しゅう枠とサポートテーブル

刺しゅう枠 (465 mm × 297 mm) が使用できます。(P. 126)

サポートテーブルを使うと、刺しゅう枠と布地が支えられるため、縫製品質を維持できます。(P. 124)



■ その他の機能

- ・ 刺しゅう模様の絞り込み (P. 133)
- ・ ボイスガイドンス (P. 26)

目次

第1章 めう前の準備 11

各部の名称	11
付属品	12
アクセサリケースを使用する	12
補助テーブルを使用する	13
マルチドライバーを使う	13
デュアルタッチペンを使用する	13
電源の入れ方	14
液晶画面の操作	15
ツールチップ	15
市販の USB マウスを使用する	15
ホーム画面	16
実用・文字模様画面	17
設定画面	20
ミシンの使い方面面	27
無線 LAN 接続機能	29
操作できること	29
無線 LAN 接続を設定する	30
針と糸を準備する	32
布地と糸の種類による針の使い分け	32
糸こま押えと糸こまネットの使い方	33
針の交換	34
下糸を巻く / 取り付ける	35
下糸を巻く	35
下糸をセットする	38
下糸を引き出す	39
上糸通し	40
上糸通し	40
糸たてスタンドを使う	43
押えの交換	46
押えを交換する	46
付属のアダプターを使用して押えを取り付ける	46
デュアルフィードを使う	47

第2章 基本のぬい方 49

ぬい方	49
ステッチの種類	49
基本のぬい方	49
マルチ機能フットコントローラーを使う	51
返しぬい / 止めぬいをする	53
自動返しぬい / 止めぬい	54
自動糸切り	56
自動押え上下機能	56
自動押え上げ機能	57
模様の先頭に戻る	57
文字 / 飾り模様を編集する	57
模様の設定	59
振幅 / ぬい目の長さ / [L/R シフト] を設定する	59
糸調子を調節する	60
実用ぬい設定を記憶する	61
メモリー機能を使う (文字・模様ぬい)	62
文字 / 飾り模様を保存する	62
模様を呼び出す	62
布地にガイドラインを映す	63
ガイドラインを設定する	63
ガイドラインを使用したピーシング	65
ボタン穴のガイドライン	66
デュアルタッチペンでプロジェクターを操作する	68
デュアルタッチペンでプロジェクターを操作する	68
プロジェクターで模様を映す / 編集する	68
便利な機能	70
ピボット	70
ニーリフターを使用する	70
自動押え圧補正	71
ぬいながら振幅を変更する	71

画面で針位置を確認する	72
針位置 - ぬい位置	73
ぬい終わり位置を設定する	73
上手にぬうコツ	76
ぬい方のコツ	76
いろいろな布地をぬう	76
文字 / 飾り模様をぬう	78

第3章 いろいろなぬい方 79

実用模様	79
直線ぬい	79
ジグザグぬい	81
たち目かがり	82
まつりぬい	83
ボタン穴かがり	85
4 ステップ ボタン穴かがり	89
ボタンつけ	90
かんどめ	91
ダーニング (つくろいぬい)	91
アイレット (はとめ穴)	92
しつけぬい	93
ファスナーつけ	93
テーパリング機能	96
カウチング	99
横送り	101
ステップ模様を作成する	102
模様を調整する	103
2 本針でぬう	104
ぬうときのテクニック	105
キルトぬい	108
ピーシング	108
デュアルフィードを使ったキルティング	109
フリーモーションキルト	109
ステッチレギュレーターを使って、フリーモーション キルト / しつけぬいをする	112
手ぬい風直線	117
マイイラスト機能	118
イラストデザイン	118
イラストの入力	119
メモリー機能を使う (マイイラスト機能)	121

第4章 基本の刺しゅう 123

刺しゅうの準備	123
刺しゅうの手順	123
刺しゅう押え < W > を取り付ける	123
刺しゅう機を取り付ける	124
刺しゅう枠に布地を張る	125
刺しゅう枠をセットする	129
きれいに刺しゅうするために	130
刺しゅうする	132
刺しゅう模様カテゴリー	132
刺しゅう模様を選ぶ	132
刺しゅう模様を絞り込む	133
枠模様を選ぶ	134
ボタン穴 / アイレット模様を選ぶ	134
アルファベット文字模様を選ぶ	135
模様の位置を確認する	137
刺しゅうする	138
キーのはたらき (刺しゅう)	140
刺しゅう編集画面	140
文字模様編集画面	142
縫製画面	143
模様の編集	144
模様の大きさを変える	144
模様を組み合わせる	145
複数の模様を選択する	146
選択した複数の模様をグループ化する	147
模様を整列する	147

連続模様（ボーダー模様）を作る	148
模様を繰り返し刺しゅうする	150
模様のイメージを確認する	151
布地に映し出した刺しゅう模様を確認／編集する	152
プロジェクターで刺しゅう模様を確認する	152
デュアルタッチペンを使用して布地に映し出した刺しゅう模様を編集する（スタイラスによるプロジェクター編集）	153
刺しゅう位置を合わせる	155
布地を画面に表示する	155
刺しゅう位置合わせシールを使う	157
模様と針の位置をあわせる	158
カメラビューウィンドウを使用する	159
刺しゅう時の調整	160
下糸が少なくなったら	160
刺しゅうの途中で糸が切れたときは	161
針に糸を通しにくい場合や刺しゅう枠を外しにくい場合	162
電源を切った後、刺しゅうを再開する	162
糸調子を整える	163
上糸調子进行调整する	163
下糸張力調整用内かま（調整ネジに着色なし）进行调整する	164
メモリー機能を使う（刺しゅう）	165
刺しゅう模様を保存する	165
刺しゅう模様を呼び出す	166

第5章 いろいろな刺しゅう 167

色を編集する	167
刺しゅうの糸色を変える	167
カラーシャッフル機能を使って、新しい配色を設定する	167
糸色ごとに並べ替える	168
1色で刺しゅうする	169
さまざまな刺しゅうの機能	169
縫製スキップ設定	169
組み合わせた模様のぬい順を変える	170
刺しゅうのしつけぬい	171
文字をつなげて刺しゅうする	172
印刷と刺しゅうの組み合わせ機能	173
ピクチャープレイ刺しゅう機能	175
取り込んだ画像を調整する	175
変換方法を選択する	179
適切な糸色と糸密度を選択する	181
アプリケとカウチング	182
アプリケピースを作る	182
アプリケ模様を刺しゅうする	185
枠模様を使ってアプリケを作る	187
カウチング模様を刺しゅうする	189
キルト作品に刺しゅうを使う	192
デザインの周りにキルティング模様を作る	192
布地全体にキルト模様を刺しゅうする（エッジトゥエッジキルト機能）	193
キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）を刺しゅうする（自動模様つなぎ）	199
キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）を刺しゅうする（半自動模様つなぎ）	201
六角形キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）	206
カメラを使って模様をつなぐ	210
分割模様を刺しゅうする	210
位置を指定して模様をつなぐ	215
モバイルアプリを使用する	223
My Stitch Monitor アプリ	223
Artspira（アートスピラ）アプリ	223
My Design Snap アプリ	223

第6章 マイデザインセンター 225

マイデザインセンター	225
模様を作る前に	225
基本操作でスティッピング模様を作る	225

キーのはたらき（マイデザインセンター）	228
描画画面	228
スタンプキーの使い方	229
線を描く	230
模様を塗る	230
線やステッチの種類、色を設定する	231
ブラシの種類、ステッチの種類、塗りつぶしの色を設定する	232
選択キーの使い方	233
消しゴムキーの使い方	233
サイズキーの使い方	234
モチーフステッチデータまたはデコラティブフィル模様データを取り込む	234
ステッチ設定画面	236
模様ごとにぬい方を設定する	236
線ぬいと面ぬいの設定	237
一括でぬい方を設定する	239
スキャンした画像や画像データを使って模様を作成する	239
スキャン枠を使用する	239
下絵をスキャンする	241
下絵を取り込む	242
線画変換で模様を作る	243
イラスト変換で模様を作る	245
マイデザインセンターでさまざまな刺しゅうをする	247
模様の周りに飾りぬいをする	247
2枚の布地にキルト綿を挟んで刺しゅうする場合	249
カウチング模様の周りに飾りぬいをする	250

第7章 お手入れとトラブルシューティング 253

お手入れのしかた	253
注油に関して	253
ミシンを保管するときのご注意	253
お手入れ	253
カメラ／プロジェクターの針位置調整	255
製品を貸与・譲渡・廃却するときの注意	256
プロダクトナンバー／シリアル番号（機械番号）を確認する	256
ミシンのソフトウェアをアップデートする	256
USB メディアでアップデートする	256
無線 LAN でアップデートする	257
困ったとき	258
上糸がつる	258
布裏で糸がからまる	259
糸調子が合わない	259
布がミシンに入り込んでとれなくなった	260
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	261
こんなときは	262
エラーメッセージ	267

第8章 付録 269

仕様	269
ぬい方早見表	271
索引	278

第1章 ぬう前の準備

❖ お願い

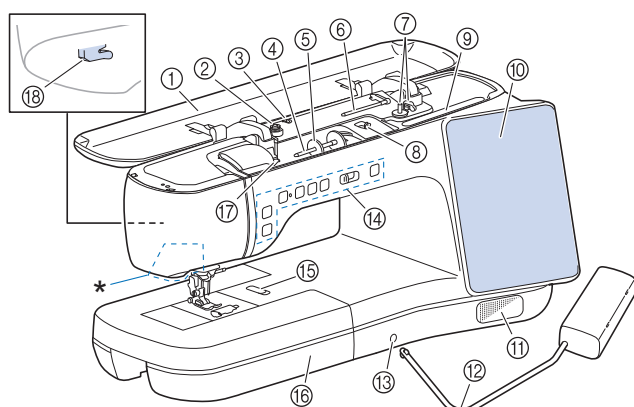
- 必ず最新のソフトウェアをインストールしてください。
詳しくは、P. 256「ミシンのソフトウェアをアップデートする」を参照してください。

各部の名称

■ 正面

重要

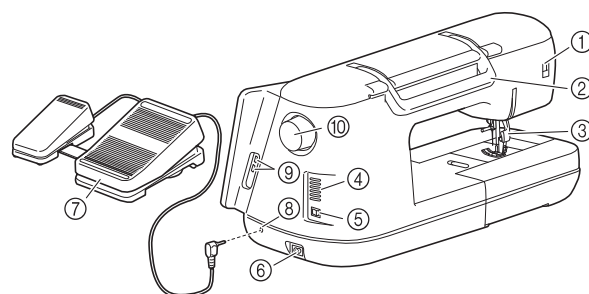
- 1 kg 以上の重さのあるものを上ふたに置かないでください。上ふたが破損する可能性があります。
- カメラやプロジェクターに触れないでください。正しく表示されなくなります。



* カメラとプロジェクター（内蔵）

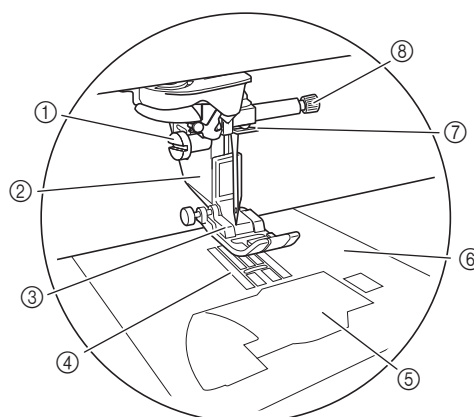
- ① 上ふた
- ② 下糸巻き案内 (P. 35)
- ③ 糸案内 (P. 35)
- ④ 糸たて棒 (P. 40)
- ⑤ 糸こま押え (P. 40)
- ⑥ 補助糸たて棒 (P. 35、P. 104)
- ⑦ 下糸巻き装置 (P. 35)
- ⑧ 糸巻き量調整つまみ (P. 35)
- ⑨ デュアルタッチペントレイ (P. 13)
- ⑩ 液晶画面 (P. 15)
- ⑪ スピーカー
- ⑫ ニーリフター (P. 70)
- ⑬ ニーリフター差し込み口 (P. 70)
- ⑭ 操作スイッチとスピードコントロールレバー (P. 12)
- ⑮ 針板レバー (P. 253)
- ⑯ 付属品ケース／補助テーブル (P. 13)
- ⑰ 糸案内板 (P. 40)
- ⑱ 糸切り (P. 40)

■ 右側面 / 背面図



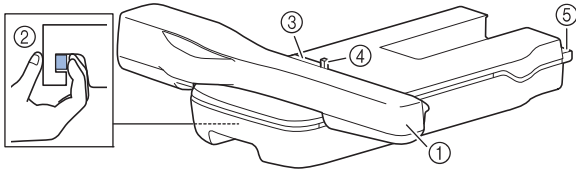
- ① 押えコネクタ (P. 47)
- ② ハンドル
ミシンを持ち運ぶときに持ちます。
- ③ 押えレバー
押えを上げ下げします。 (押え上下スイッチ) を押して押えを上げた後は、押えレバーは使用できません。
- ④ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがないでください。
- ⑤ 電源スイッチ (P. 14)
- ⑥ 電源ジャック (P. 14)
- ⑦ マルチ機能フットコントローラー (P. 51)
- ⑧ フットコントローラージャック (P. 51)
- ⑨ USB ポートコネクタ (P. 15、P. 62)
- ⑩ プーリー
針を上げ下げするときに手前に回します。

■ 針と押え部分



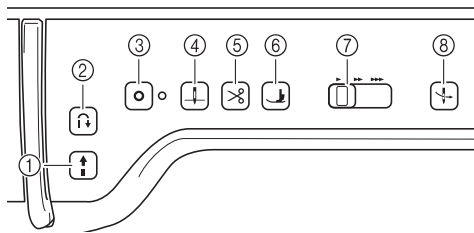
- ① 押えホルダーのネジ (P. 46)
- ② 押えホルダー (P. 46)
- ③ 押え
縫製するときに布地を押さえます。選択した模様にあった押えを取り付けてください。
- ④ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。
- ⑤ 針板ふた (P. 38、P. 81)
- ⑥ 針板 (P. 80、P. 253)
- ⑦ 針棒糸かけ (P. 40)
- ⑧ 針のとめネジ (P. 34)

■ 刺しゅう機



- ① キャリッジ (P. 124)
- ② 刺しゅう機取り外しレバー (P. 125)
- ③ 刺しゅう枠ホルダー (P. 129)
- ④ 枠固定レバー (P. 129)
- ⑤ 刺しゅう機のコネクタ (P. 124)

■ 操作スイッチ



① スタート/ストップスイッチ

縫製を開始または停止します。スタート/ストップスイッチは、ミシンの状態によって色が変わります。

緑： スタートできる状態のときまたは縫製中。
赤： スタートできない状態。

② 返しぬいスイッチ

このスイッチを押すと、選択した模様に応じて、返しぬいや止めぬいをします。(P. 54)

③ 止めぬいスイッチ

このスイッチを押すと1針ぬいを繰り返した後で、止めぬいをします。

文字・模様ぬいをするときは、模様を最後までぬってから止めぬいをします。(P. 53)

また、刺しゅうモードで下糸を交換するとき、糸を切る前にこのスイッチを押して止めぬいをします。(P. 160)

④ 針上下スイッチ

このスイッチを押すと、針の位置が上下に切り換わります。このスイッチを繰り返し押すと、1針ぬいができます。

⑤ 糸切りスイッチ

ぬい終わった後にこのスイッチを押すと、上糸と下糸を切ります。

⑥ 押え上下スイッチ

このスイッチを押すと、押えが下がり布地を押えます。もう一度押すと押えが上がります。

⑦ スピードコントロールレバー

このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。左に動かすと遅くなります。右に動かすと速くなります。

⑧ 自動糸通しスイッチ

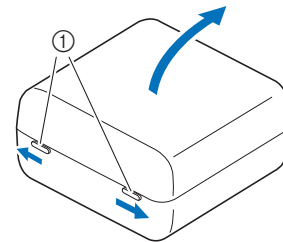
このスイッチを押すと、自動的に針の糸通しをします。

付属品

ミシンの付属品については、別紙「付属品」を参照してください。

アクセサリケースを使用する

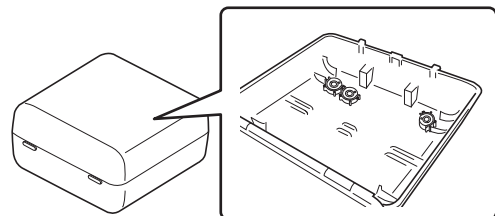
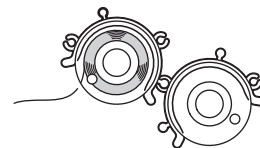
アクセサリケースの前面にあるつまみを外側にスライドさせて開きます。



① つまみ

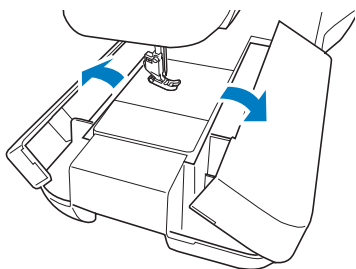
お知らせ

- ・ボビンクリップを取り付けることで、糸がボビンからほどけなくなります。
- ・ボビンクリップはアクセサリケースカバーの中に収納できます。



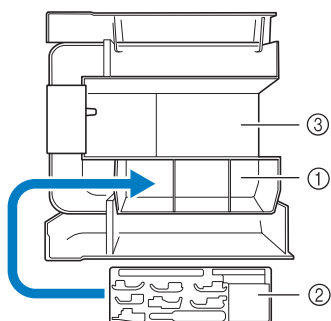
補助テーブルを使用する

補助テーブルの中に付属品を収納することができます。図のようにふたを開けてください。



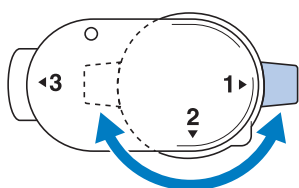
お知らせ

- 押え収納トレイがアクセサリケースに3つ入っています。補助テーブルの中に押え収納トレイがひとつ入るので、入れておくと便利です。



- ① 押え収納トレイがセットできます。
- ② 押え収納トレイ
- ③ 針板収納スペース

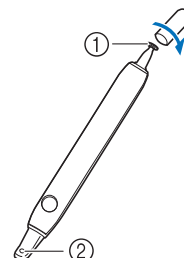
マルチドライバーを使う



ポジション「1」	押えホルダーや針のとめネジを取り付けたり取り外したりする際に使用します。 (P. 34、P. 46)
ポジション「3」	枠調整ネジをしめたり、ゆるめたりする際に使用します。 (P. 128)

デュアルタッチペンを使用する

付属のデュアルタッチペンはどちらのペン先も使用します。画面の操作には透明ディスクを使用し、プロジェクターの操作にはライトを使用してください。(P. 68)



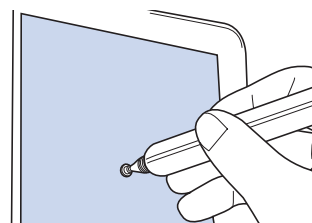
- ① 透明ディスク
- ② ライト

重要

- デュアルタッチペンの透明ディスクで液晶画面を押してください。他の部分で液晶画面を押すと、傷がつくことがあります。
- 透明ディスクを引っ張らないでください。破損の原因になります。

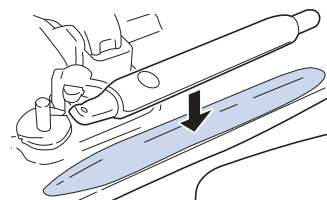
画面を操作する

デュアルタッチペンの透明ディスクで液晶画面を押します。



お知らせ

- デュアルタッチペンを極端に傾けて液晶画面を押すと、押した位置が正しく検出されないことがあります。
- デュアルタッチペンはミシン内に保管できません。上ふたを開け、デュアルタッチペンを置きます。



電源の入れ方

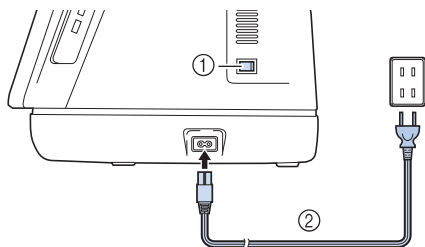
▲ 警告

- ・ 一般家庭用電源 AC100 V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ・ 電源コードのプラグがコンセントおよびミシンの電源ジャックにしっかり差し込まれているか確認してください。火災、感電、故障の原因となります。
- ・ 火災、感電、故障の原因となりますので、次のような場合は電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 使用中に停電したとき
 - ・ 接続不良や断線により、ミシンが正常に動作しないとき
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき

▲ 注意

- ・ 本機に付属の電源コードをご使用ください。火災・感電の原因となります。
- ・ 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- ・ 電源プラグを抜くときは、まず電源スイッチを切ってください。必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- ・ 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。電源コードに重い物をのせないでください。電源コードを加熱しないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードやプラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- ・ 電源コードのプラグを状態の悪いコンセントに差し込まないでください。火災・感電の原因となります。

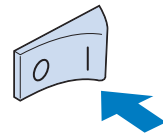
- 1 電源コードを電源ジャックに差し込み、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100 V）に差し込みます。



- ① 電源スイッチ（左側（O 側）が押されている状態）
② 電源コード

- 2 電源を入れるときは、電源スイッチの右側（I 側）を押します。

* ミシンが起動するまでに時間がかかることがあります。起動中に画面が暗くなることもあります。電源を切らずにオープニング画面が表示されるまでお待ちください。



- 3 オープニング画面が表示されたら、液晶画面を指で押します。

📖 お知らせ

- ・ 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。

- 4 電源を切るときは、電源スイッチの左側（O 側）を押します。

■ ミシンを初めて使うとき

初めて本機の電源を入れたときは、言語と日時を設定してください。

- 1 < と > を押して言語を設定し、[OK] を押します。

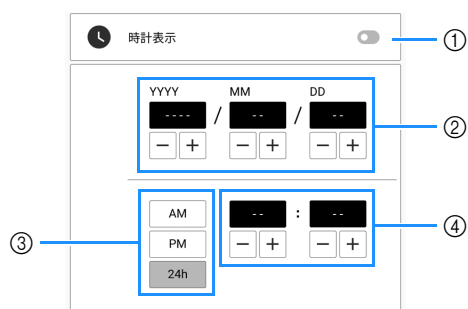


- 2 [OK] を押して、エンドユーザー使用許諾契約（EULA）を読みます。

- 3 エンドユーザー使用許諾契約を読んだら、[同意します]を押します。

* 各ページお読みください。画面を指でスワイプしてページをめくります。

- 4 日時設定の確認メッセージが表示されます。
[OK] を押します。
- 5 または を押して日時設定をします。
その後、[OK] を押します。

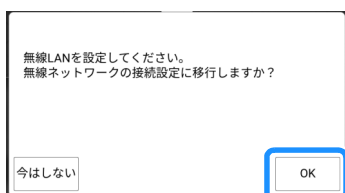


- ① 時計表示のオン/オフを切り替えます。
- ② 年（YYYY）、月（MM）、日（DD）を設定します。
- ③ 24 時間表示 / 12 時間表示を選択します。
- ④ 現在の時刻を設定します。

お知らせ

- 一定期間、ミシンを使用しなかった場合は、設定した日時がクリアされます。

- 6 無線 LAN 接続に関するメッセージが表示されます。接続を設定する場合は、[OK] を押し、P. 30「無線 LAN 接続を設定する」の 5 ～ 8 の手順を参照して無線 LAN 接続の設定を完了します。



- 7 ボイスガイド設定の確認メッセージが表示されます。ボイスガイド機能をオンにする場合は、[OK] を押し、P. 26「ボイスガイド」を参照して設定します。

液晶画面の操作

液晶画面やキーは必ず指または付属のデュアルタッチペンで押し、機能を選択してください。（P. 13）

重要

- 指または付属のデュアルタッチペンで画面を押してください。シャープペンシルやドライバーなど、先がとがったものや硬いもので押さないでください。また、画面を強く押さないでください。故障の原因となります。

お知らせ

- 本書に記載されている画面やアイコンは実際と異なる場合があります。

ツールチップ

一部のキーにはツールチップがあり、キーを長押しすると、キーの説明を小さなウインドウで表示します。

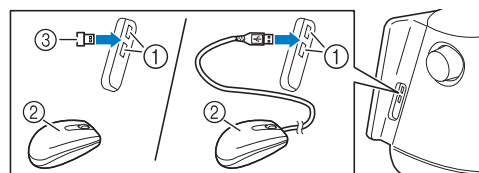


市販の USB マウスを使用する

市販の USB マウスをミシンの USB ポートコネクタに接続することができます。マウスの左ボタンでアイコンやキーの選択などの操作が可能です。

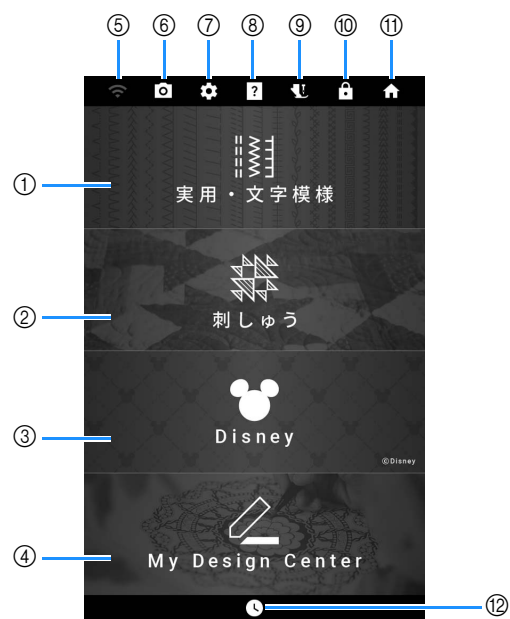
お知らせ

- ミシンの操作には、パソコンで使う一般的なマウスを使用してください。本機で使用できないマウスもあります。
- マウスをミシンに接続すると、画面にポインターが表示されます。
- キーの上にマウスを移動すると、ツールチップを表示することができます。



- ① USB ポートコネクタ
- ② USB マウス
- ③ USB マウスのレシーバー

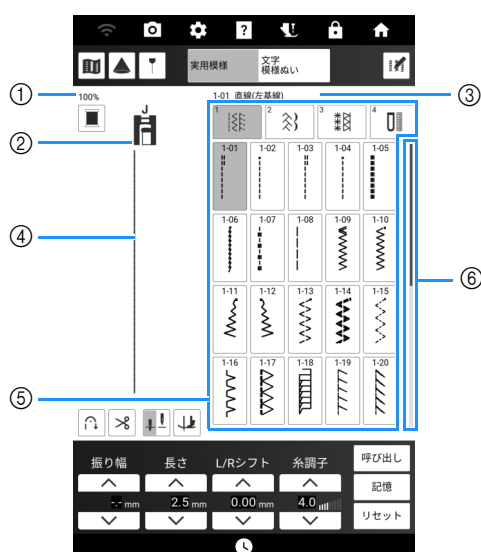
ホーム画面



No.	表示	はたらき	参照
	名称		
①		実用模様または文字／飾り模様を選択します。	17、49
	実用・文字模様（実用ぬい）キー		
②		刺しゅう模様を選択します。	132
	刺しゅうキー		
③		ディズニー模様を選択します。	—
	©Disney Disney（ディズニー）キー		
④		オリジナルの刺しゅう模様を作成します。	225
	My Design Center（マイデザインセンター）キー		
⑤		無線 LAN 設定を行います。また、無線 LAN の電波強度も表示されます。新しいアップデートファイルがあるときは、  と表示されます。	30、257
	無線 LAN 設定キー		
⑥		針の位置を確認します。	72
	カメラビューキー		
⑦		設定を変更します。	20
	設定キー		

No.	表示	はたらき	参照
	名称		
⑧		ミシンの使い方を確認します。画面に表示される QR コードから、ミシンの使い方動画にアクセスできます。	27
	ミシンの使い方キー		
⑨		針や押えなどを交換する前に押します。ミシンが作動しないように他のすべてのキーと操作スイッチがロックされます。	34、38、46
	針・押え交換キー		
⑩		画面をロックします。もう一度押すと、解除します。	—
	画面ロックキー		
⑪		前に行った操作をすべてキャンセルし、ホーム画面に戻ります。	—
	ホームキー		
⑫		日時を設定します。	14
	日時設定キー		

実用・文字模様画面

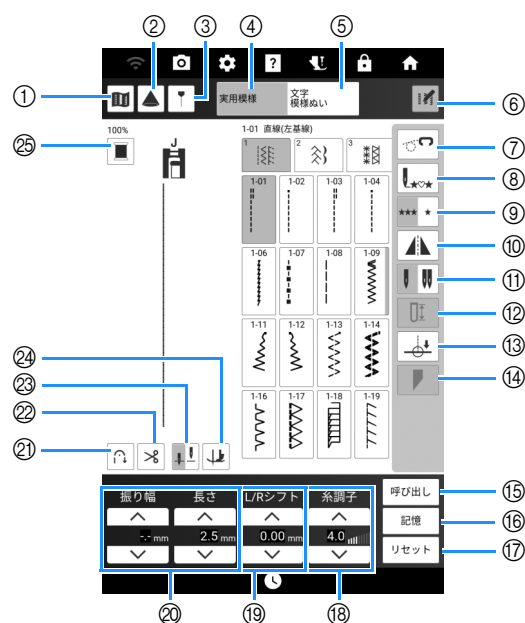


No.	表示 名称	はたらき	参照
①	100%	選択模様が実際の大きさからどれくらいの比率で画面表示されているか示します。	—
	模様表示サイズ		
②		縫製に適した押えを示します。縫製前に、ここで表示している押えを取り付けてください。	46
	押え表示		
③	1-01 直線(左基線)	選択中の模様の番号と名前を表示します。	—
	選択中の模様		
④		選択模様のイメージを表示します。100%のときは、ほぼ実寸大での表示になります。 を押すと、模様のイメージとカメラ映像が同時に表示できるので、模様が実際の布地にどうぬわれるかを確認できます。	72
	模様イメージ		
⑤		カテゴリーを選択し、ぬいたい模様のキーを押します。	49
	模様選択画面		
⑥		スクロールバーをスライドして、模様選択画面のページを移動します。	—
	スクロールバー		

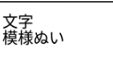
■ キーのはたらき（実用模様画面）

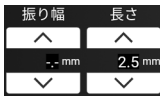
お知らせ

- ・ を押すと編集機能キーが表示されます。
- ・ 模様の種類によって、使用できない編集機能があります。使用できる編集機能の場合は、模様を選択しているときにキーが表示されます。



No.	表示 名称	はたらき	参照
①		選択した模様を拡大して表示します。 を押すと、画像の糸色が変わります。拡大画像を表示するときは、を押します。表示エリアからはみ出している部分を見るときは、 / を押します。	—
	プレビューキー		
②		プロジェクター機能を使うときに押します。	68
	プロジェクターキー		
③		ガイドラインマーカを表示または設定するときに押します。ガイドラインマーカを使用すると、布端のキルトピーシングや位置合わせが簡単になります。	63
	ガイドラインマーカキー		
④	実用模様	直線ぬい、ジグザグぬい、ボタン穴かがり、まつりぬいなど洋裁によく使う模様（実用模様）を選ぶときに押します。	49
	実用模様キー		

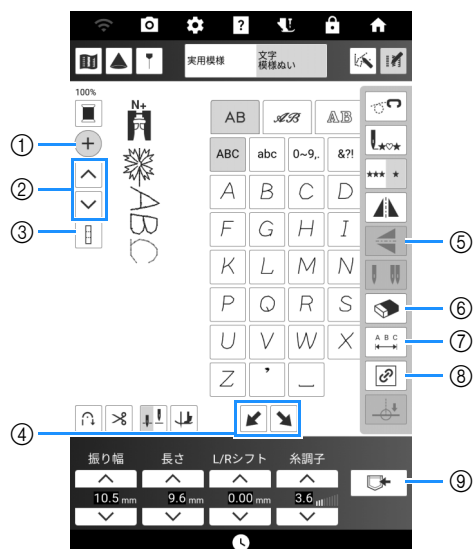
No.	表示	はたらき	参照
	名称		
⑤		文字や飾りなどの模様を選ぶときに押します。	49
	文字模様ぬいキー		
⑥		画面に編集機能キーを表示するときに押します。	—
	編集メニューキー		
⑦		フリーモーションモードにするときに押します。 押えがフリーモーションキルトに最適な高さに上り、送り歯が下がります。	109
	フリーモーションモードキー		
⑧		停止時に押すと、縫製中の模様を先頭に戻すことができます。	57
	模様の頭出しキー		
⑨		連続ぬい／単独ぬいを切り替えます。	57
	連続／単独ぬいキー		
⑩		模様が左右に反転します。	—
	反転キー		
⑪		2本針モードを選択するときに押します。押すごとに、1本針と2本針の設定が切り替わります。キーが灰色で表示されているときは、選択した模様を2本針モードでぬうことはできません。	104
	1本針/2本針キー		
⑫		ボタン穴かがり模様を選択したときに、ボタン穴の長さを手動で設定します。	87
	ボタン穴長さキー		
⑬		ぬい終わり位置を設定するときに押します。	73
	ぬい終わり位置設定キー		
⑭		模様のぬい始めとぬい終わりの角度を変更します。	96
	模様テーパリングキー		
⑮		保存した模様を呼び出すときに押します。	61
	呼び出しキー		
⑯		変更した模様の設定（振り幅とぬい目の長さ、糸調子など）を記憶するときに押します。	61
	記憶キー		
⑰		選択した模様の、保存済みの設定を初期値に戻すときに押します。	61
	リセットキー		
⑱		選択した模様の糸調子を示します。  と  で糸調子の設定を変更できます。	60
	糸調子キー		
⑲		 を押すとぬい模様が右へずれ、  を押すと左へずれます。模様によっては、この機能が使用できません。この機能が使用できる模様のみ、位置の調整ができます。	59
	[L/R シフト] キー		

No.	表示	はたらき	参照
	名称		
⑳		選択した模様の振り幅とぬい目の長さを示します。  と  を押すと、振り幅とぬい目の長さを調節することができます。	59
	ぬい目調節キー		
㉑		自動止めぬい（返しぬい）を使用するときに押します。	54
	自動止めぬいキー		
㉒		自動糸切り機能を設定するときに押します。	56
	自動糸切りキー		
㉓		針の停止位置（上／下）を選択します。1本針と2本針のどちらが設定されているかを確認することもできます。  1本針／針位置下  1本針／針位置上  2本針／針位置下  2本針／針位置上	70、104
	針停止位置設定キー		
㉔		ピボットキー  は、針位置設定キーが  に設定されているときに表示されます。ピボット設定にするときに押します。ピボット設定にしている間は、ミシンを停止したとき、針が下がり、押えは少し上がった状態になります。さらに、再度ぬい始めると、自動で押えが下がります。	57、70
	ピボットキー／自動上げキー		
㉕		このキーを押すと、画面の糸色が変わります。	72
	糸色変更キー		

■キーのはたらき（文字・模様ぬい画面）

お知らせ

- ⑦に表示されるキーは、選択されている模様によって異なります。



No.	表示 名称	はたらき	参照
①	模様追加キー	このキーを押すと、模様を追加できます。	57
②	模様選択キー	このキーを押して、編集する模様を選択します。	58
③	全選択オン/オフキー	最後に入力した模様のみを選択するか、組み合わせたすべての模様を選択するかを切り替えます。	—
④	ステップ効果キー	ステップ模様を作成するときに押します。	102
⑤	上下反転キー	模様を選んでから押すと、模様が上下に反転します。	—
⑥	削除キー	選択した模様を削除します。	57

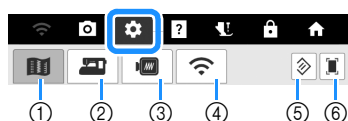
No.	表示 名称	はたらき	参照
⑦	糸密度キー	選択した模様に応じて、次の3つのキーのいずれかが表示されます。 の模様を選んでから、このキーを押すと、模様の糸密度が変わります。 : 糸密度・低 : 糸密度・高 全選択オン/オフキーを にしたときは、すべての模様の糸密度を変更できます。	—
	模様の長さキー	の模様を選んでから、このキーを押すと、振り幅とぬい目の長さを変えずに、模様の長さを5段階から選ぶことができます。 1 2 3 4 5	—
	文字間キー	文字模様の文字間隔を調整できます。入力されたすべての文字に設定が適用されます。	—
⑧	縦横比維持キー	模様を拡大または縮小するときに縦横比を維持します。	58
⑨	模様データ保存キー	このキーを押すと、組み合わせた模様や設定を変更した模様を保存できます。	62

お知らせ

- 他のキーについては、P. 17「キーのはたらき（実用模様画面）」を参照してください。

設定画面

⚙️を押してミシンの初期設定（言語、スピーカー音量、オープニング表示など）を変更します。



- ① 実用ぬい、文字模様ぬいの設定を表示します
- ② ミシン本体の設定を表示します
- ③ 刺しゅうの設定を表示します
- ④ 無線 LAN 設定を表示します
- ⑤ このキーが表示されているページの各設定が初期値に戻ります。
- ⑥ 表示されている設定画面を画像ファイルとして USB メディアに保存できます。USB メディアをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。画像ファイルが [bPocket] という名前のフォルダーに保存されます。

お知らせ

- < または > を押すと、前または次のページが表示されます。
- は機能のオン/オフを切り替えるスイッチです。 と表示されているときは、機能がオフ（使用不可）になっています。

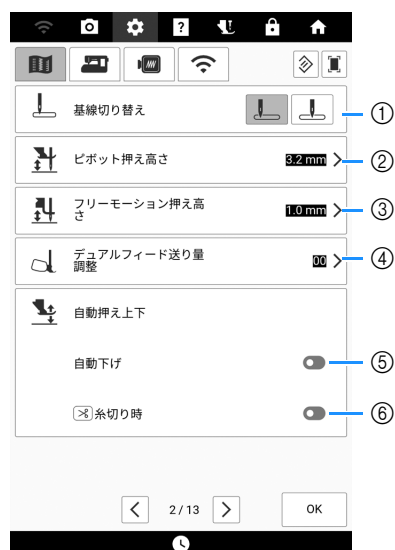
■ 実用ぬい、文字模様ぬいの設定

□ 1 ページ



- ① この設定をオンにすると、スピードコントロールレバーが振り幅調節レバーに切り替わります。(P. 71)
直線ぬいを選択した場合、スピードコントロールレバーを使って針位置を変えることができます。(P. 79)
- ② 模様を調整します。(P. 103)
- ③ 押えの高さを調節します。(押えが上がった状態の、押えの高さを選択します。)
- ④ 押え圧を調節します。数字が大きいほど押え圧は強くなります。通常は [3] に設定してください。
- ⑤ オンにすると、縫製中に内蔵センサーが布地の厚さを自動的に検知します。これにより、スムーズに布送りすることができます。(P. 71、P. 77)

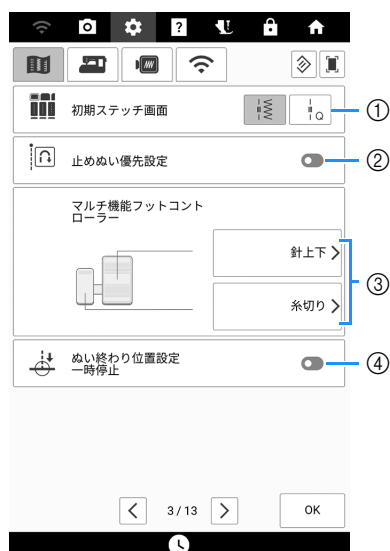
□ 2 ページ



- ① 電源スイッチを入れたときに自動的に選択される模様として、[1-01 直線（左基線）] または [1-03 直線（中基線）] のいずれかを選択します。
- ② ピボット機能を有効にしたときの、縫製停止時の押えの高さを変更します。(P. 70)

- ③ フリーモーションモードに設定したときの、押えの高さを変更します。(P. 109)
- ④ デュアルフィードの送りを調整します。(P. 48)
- ⑤ スタート/ストップスイッチを押すか、フットコントローラーを踏むと、押えが上がっている場合は、自動的に押えを下げてぬい始めます。
- ⑥  (糸切スイッチ) を押すと、糸を切る前に自動的に押えが下がります。また、糸を切った後に押えが上がります。

□ 3 ページ



- ① 模様選択画面で最初に表示する模様として、実用模様  またはキルト模様  のいずれかを選択します。
- ② この設定をオンにして止めぬいをする模様をぬうと、ぬい始め/ぬい終わりに、 (返しぬいスイッチ) を押しても止めぬいをします。(P. 54)
- ③ マルチ機能フットコントローラーへ設定したい機能を選択します。(P. 51)
- ④ 編集メニューの[ぬい終わり位置設定]を設定しているときに、この設定をオンにすると、ミシンが一時的に停止し、ぬい終わり設定シールをはがすことができます。(P. 73)

■ ミシン本体の設定

□ 4 ページ



- ① 表示言語を選択できます。
- ② ボイスガイダンス機能のオン/オフを切り替えます。(P. 26)
- ③ ボイスガイダンスの言語や音声を変更します。(P. 26)
- ④ ボイスガイダンスの音量を調節します。
- ⑤ スピーカーの音量を調整できます。
- ⑥ ステッチレギュレーターの警告音量を調節します。(P. 116)
- ⑦ 針元と縫製エリアのライトの明るさを調整します。
- ⑧ 画面の明るさを調整します。

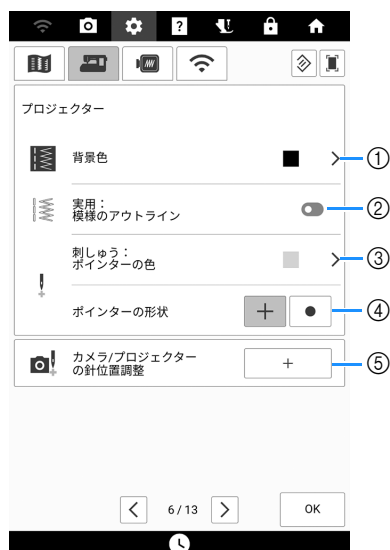
□ 5 ページ



- ① ミシンの電源を入れたときにオープニング画面を表示するかしないかを選択します。
- ② [エコモード]または[電源オフサポートモード]を設定すると、消費電力を節約できます。(P. 25)
- ③ スクリーンセーバーに切り替わるまでの時間を選択できます。

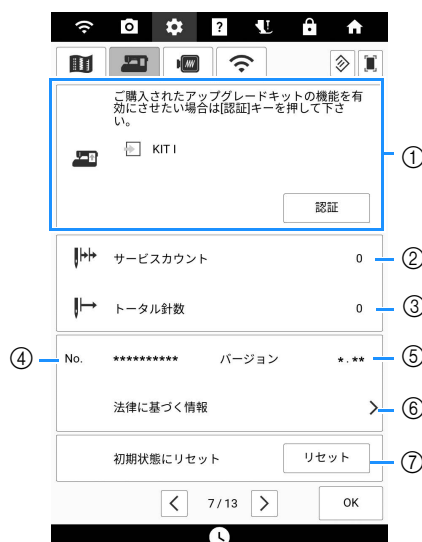
- ④ スクリーンセーバーの画像を選択します。(P. 25)
- ⑤ [針位置 - めい位置]のオン/オフを切り替えます。(P. 73)
- ⑥ 上糸・下糸センサーのオン/オフを切り替えます。オフにすると、糸をセットしていなくてもミシンを動かすことができます。

□ 6 ページ



- ① プロジェクター機能使用時の背景色を選択します。(P. 68)
- ② 模様のアウトラインを表示します。(P. 68)
- ③ ポインターの色を選択します。(P. 137)
- ④ ポインターの形状を十字または点から選択します。(P. 137)
- ⑤ 針位置を測定して、カメラ表示とプロジェクター投影を調整します。(P. 255)

□ 7 ページ



- ① アップグレードキットを認証します。
アップグレードキットは国や地域によっては発売されていないことがあります。アップグレードキットは国や地域によっては発売されていないことがあります。アップグレードキットについては、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご確認ください。
[Kit 1]と表示されている灰色のタブおよびキーは、アップグレードキット[Kit 1]を購入して有効にすると使用できるようになります。



- ② ミシンの前回のメンテナンス以降にめわれた針数を表示します。(定期メンテナンスの時期については、お買い上げの販売店にご相談ください。)
- ③ 本機でめわれた累積針数を表示します。
- ④ ミシンのプロダクトナンバーを示します。
- ⑤ プログラムのバージョンを表示します。
- ⑥ 法的情報を表示します。
- ⑦ ミシン内に保存されているすべてのデータ、設定した内容、ネットワーク設定情報を消去します。(P. 256)

■ 刺しゅうの設定

□ 8 ページ



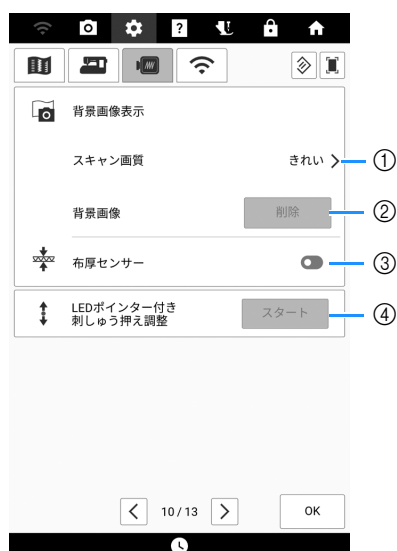
- ① 使用する刺しゅう枠を選択します。(P. 225)
- ② 中心マークやグリッドの表示を変更します。
- ③ 刺しゅう時の速度を調節します。
- ④ 刺しゅうの糸調子を調整します。(P. 163)
- ⑤ 刺しゅう押えの高さを調節します。
- ⑥ 刺しゅう時の針停止位置を選択します。
- ⑦ オンに設定され、押えが上がっている状態でスタート/ストップスイッチを押すと、刺しゅうを開始するときに押えが自動的に下がります。

□ 9 ページ



- ① 表示単位 (mm / インチ) を選択します。
- ② 縫製画面の糸色表示を変更します。[糸色名]または [#123] (糸番号) を選択します。
- ③ 糸色表示の糸ブランドを選択します。初期設定の [オリジナル] は、模様を作成時に使用したブランドの糸で表示されます。
糸ブランドの設定は、次に模様を取り込んだときに反映されます。(P. 138)
- ④ 模様表示エリアの背景色を選択します。
- ⑤ 模様サムネイルの背景色を選択します。
- ⑥ 模様サムネイルのサイズを選択します。
- ⑦ 模様からしつけぬいまでの距離を設定します。(P. 171)

□ 10 ページ



- ① 布地を背景画像として表示するときの画質を選択できます。(P. 155)
- ② スキャンした画像を消去します。
- ③ オンに設定すると、内蔵カメラが布地の厚さに応じて背景画像の表示を調整します。(P. 156)
- ④ LED ポインター付き刺しゅう押え < W+ > (別売) の位置と明るさを調整します。

■ 無線 LAN の設定

□ 11 ページ



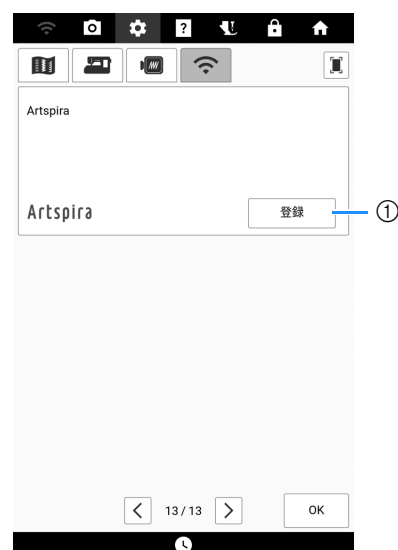
- ① 無線 LAN 機能のオン／オフを切り替えます。(P. 30)
- ② 接続する SSID を表示します。
- ③ ミシンを無線 LAN に接続します。(P. 30)
- ④ 無線 LAN 機能のミシンの名前を表示します。
- ⑤ 無線 LAN 機能のミシンの名前を変更します。
- ⑥ 無線 LAN の状態を表示します。
- ⑦ ネットワーク設定をリセットします。
- ⑧ アプリケーションの概要を表示します。

□ 12 ページ



- ① 新しいソフトウェアがある場合は、アップデートファイルをダウンロードします。(P. 257)
- ② プログラム情報を表示します。(P. 257)

□ 13 ページ



- ① Artspira (アーツピラ) アプリを登録します。(P. 223)

■ [エコモード]または[電源オフサポートモード]を選択する

[エコモード]または[電源オフサポートモード]を設定することで、消費電力を節約できます。

を押して、[エコモード]と[電源オフサポートモード]を表示して、モードに入る時間を設定します。(P. 21)

【エコモード】:

マシンは設定した一定時間を過ぎるとスリープモードになります。もう一度操作するときは、画面に触れるかスタート/ストップスイッチを押してください。

【電源オフサポートモード】:

マシンは設定した一定時間を過ぎると省電力状態になります。電源を切り、もう一度電源を入れて操作を再開してください。

お知らせ

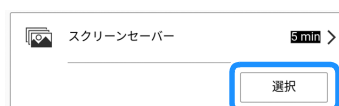
- [エコモード]または[電源オフサポートモード]を設定した状態で本機の電源を入れ直す場合は、電源を切って5秒ほど待ってから入れてください。
- [エコモード]と[電源オフサポートモード]について詳しくは、P. 269「仕様」を参照してください。

■ スクリーンセーバーの画像を変更する

あらかじめ登録されている画像の代わりに、お持ちの画像を本機のスクリーンセーバーに使用することができます。

対応画像ファイルについて詳しくは、P. 269「仕様」を参照してください。

- 1 を押して、設定画面の[スクリーンセーバー]を表示します。
- 2 [選択]を押して、次に[ユーザー設定]を押します。



- 3 画像が入ったUSBメディアをマシンのUSBポートコネクタに差し込みます。
- 4 [変更]を押します。



* [削除]を押すと、画像が削除されます。

5 ミシンに接続したデバイスを押します。

- * USBメディアが2つ接続されている場合は、表示されているUSBメディア名を確認し、使用するUSBメディア名を押してください。



6 ファイル名を押して画像を選択し、[セット]を押してから[OK]を押します。

お知らせ

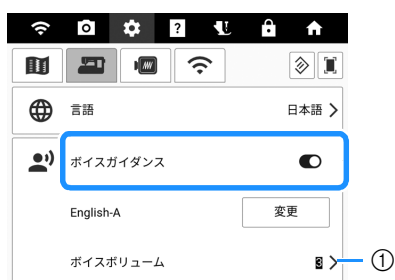
- スクリーンセーバー用にあらかじめ登録されている画像を使用するときは、[標準]を押します。



■ ボイスガイダンス

ガイダンスメッセージの読み上げ機能を使用できます。

- 1 音声をダウンロードできるように、あらかじめ無線 LAN に接続しておきます。
(P. 30)
- 2 を押して、設定画面の[ボイスガイダンス]を表示し、機能をオンに設定します。



① ボイスガイダンスの音量を調節します。

- 3 [変更]を押して、ボイスガイダンスの言語と音声を選択します。

* を押すと、選択した設定のサンプル音声を確認できます。



- 4 [次へ]を押します。

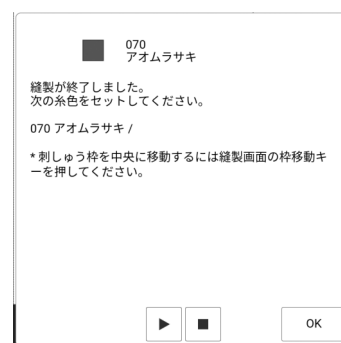
→ ボイスガイダンスのデータの確認中であることを示すメッセージが表示されます。ボイスガイダンスのデータのダウンロードが必要な場合は、ダウンロードが開始されます。

- 5 ボイスガイダンスの準備ができたことを示すメッセージが表示されたら、[OK]を押します。

→ ガイダンスメッセージが読み上げられるようになります。

お知らせ

- を押すと、メッセージをもう一度聞くことができます。読み上げを停止したいときは、を押します。



ミシンの使い方面面

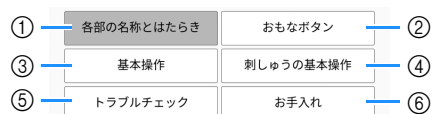
[?]を押すと、ミシンの使い方面面が表示されます。下図の画面から各機能が利用できます。



- ① ミシンの取扱説明書を表示します。(P. 28)
- ② ミシンの使い方の説明を表示します。(P. 27)
- ③ 実用模様のぬい方の説明を表示します。(P. 27)
- ④ 選択した模様の説明を表示します。(P. 27)
- ⑤ 画面に表示される QR コードから、ミシンの使い方動画にアクセスできます。動画に表示される仕様は、実際の製品とは異なる場合があります。
- ⑥ アプリケーションの概要を表示します。情報を見たいアプリのキーを押します。

■ ぬい方キーを使う

[ぬい方]を押すと、次の画面が表示されます。画面上部に項目が表示されます。詳しい内容を知りたい項目のキーを押します。



- ① ミシンの主要部とそのはたらき
- ② 操作スイッチの使い方
- ③ ミシンの糸通し、押えの交換などの基本操作
- ④ 刺しゅう機の取り付けや刺しゅう時の布地の準備などの刺しゅうの基本操作
- ⑤ よくあるトラブル
- ⑥ ミシンのお手入れ

■ ぬい方キーを使う

作りたいものに適した模様がわからないときや、選択した模様についての詳しい説明が見たいときに、この機能を活用してください。

- 1 ホーム画面で[実用・文字模様]を押します。
- 2 [?]を押します。
- 3 [ぬい方]を押します。
- 4 ご覧になりたいぬい方のカテゴリーキーを押します。



- 5 説明を読んで、適切な模様を選択します。

→ 選択した模様のぬい方が画面に表示されます。画面に表示された手順に従ってぬってください。

■ 模様説明キーを使う

実用模様を選んでから[?]を押して、[模様説明]を押すと、選んだ模様の詳しい説明が表示されます。

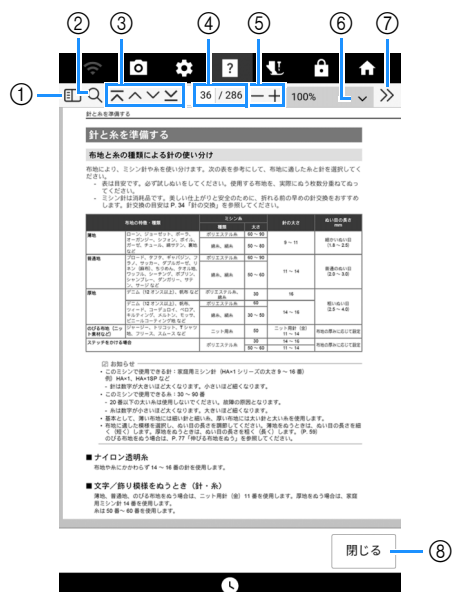
例：4-01 の説明を表示する場合

- 1 4-01 を押します。
- 2 [?]を押します。
- 3 [模様説明]を押します。

■ 取扱説明書（PDF ファイル）の見方

- 1 **[?]**を押します。
- 2 **[説明書]**を押します。
- 3 ご覧になりたい文書を選択します。
- 4 取扱説明書を読みます。
画面を指でスワイプしてページをめくりま
す。

* ページをめくる方向を変える場合は、**>>>** (7) を
押します。



- ① 各ページのサムネイルが表示されます。
- ② 文書内を検索できます。(日本語入力はできません)
- ③ 最初のページ/前のページ/次のページ/最後のページを表示できます。
- ④ 現在のページ/ページの総数を表示します。特定のページを表示する場合は、ボックスにページ番号を入力します。
- ⑤ ページを拡大／縮小表示できます。
- ⑥ ページの拡大率を選択します。
- ⑦ その他の設定が表示されます。
- ⑧ 画面を閉じます。

📄 お知らせ

- ・ ブラザーサポートサイトにアクセスすると、モバイル端末やパソコンで取扱説明書を表示できます。お使いの PDF ビューワーに検索機能がある場合は、文書内を検索することもできます。



<https://s.brother/cpdaf/>

■ 使い方動画

使い方動画をモバイル端末やパソコンでご覧いただけます。



<https://s.brother/cvdaf/>

画面に表示される QR コードからもアクセスできます。(P. 27)

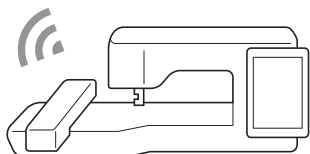
無線 LAN 接続機能

操作できること

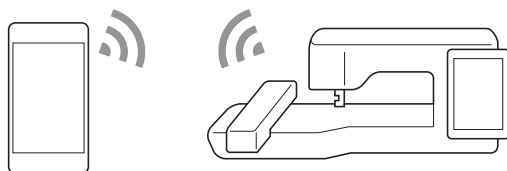
ミシンが無線 LAN に接続していると、次の便利な操作をすることができます。

■ アップデートを行う場合

アップデートファイルをミシンに直接ダウンロードします。(P. 257)

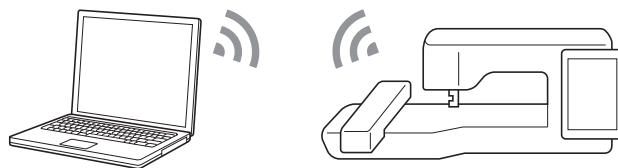


■ モバイルアプリ



名称	機能	参照
My Stitch Monitor	モバイル端末からミシンの動作状況を確認できます。	223
My Design Snap	刺しゅうのデザイン作成のために、モバイル端末からミシンに画像を転送できます。	223
Artspira (アートスピラ)	アプリで公開したコンテンツをミシンに転送し、アプリの機能を使ってオリジナル作品作りを楽しめます。	223

■ Windows アプリ



名称	機能	参照
Design Database Transfer	パソコンから刺しゅう模様を無線でミシンに転送できます。アプリは以下の URL からパソコンにダウンロードできます。 https://s.brother/cadkc/ Design Database Transfer 側の設定も必要です。詳しくは、Design Database Transfer の取扱説明書を参照してください。	—
刺しゅう PRO (別売)	パソコンの刺しゅう編集ソフト (刺しゅう PRO バージョン 11 以降) で編集した刺しゅう模様を無線でミシンに転送できます。また、ミシンで編集した刺しゅう模様を刺しゅう PRO に転送できます。刺しゅう PRO 側の設定も必要です。詳しくは、刺しゅう PRO の取扱説明書を参照してください。	—

1

ぬい前の準備

無線 LAN 接続を設定する

本機はお使いの無線 LAN に接続することができます。無線 LAN の接続要件については、P. 269「仕様」を参照してください。

1  を押します。

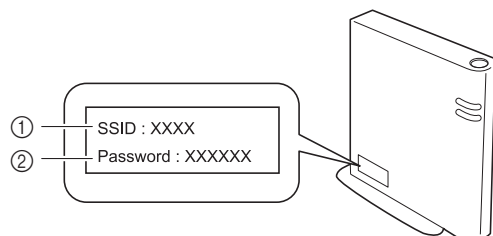


2 [無線 LAN 有効] をオンにします。



→ 本機から無線 LAN へ接続信号の送信が始まります。

3 ミシンを無線 LAN に接続するために、お使いのホームネットワークのセキュリティ情報（SSID とパスワード）が必要です。パスワードは、ネットワークキー、セキュリティキー、または暗号化キーと呼ばれる場合もあります。最初にセキュリティ情報を確認し、メモします。



① SSID

② パスワード（ネットワークキー）

お知らせ

- セキュリティ情報がない場合、無線 LAN 接続を設定することはできません。
- セキュリティ情報を見つける方法
 - お使いのホームネットワークに付属の説明書を確認してください。
 - 初期設定時の SSID は、メーカー名やモデル名の場合があります。
 - セキュリティ情報がわからない場合は、ルーターの製造元、ネットワーク管理者、またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。
 - SSID やパスワード（ネットワークキー）は、大文字と小文字が区別されるものがあります。正しく記録してください。

4 [無線 LAN 接続] の横にある > を押します。



→ 使用可能な SSID のリストが表示されます。

5 3 でメモした SSID を選択します。

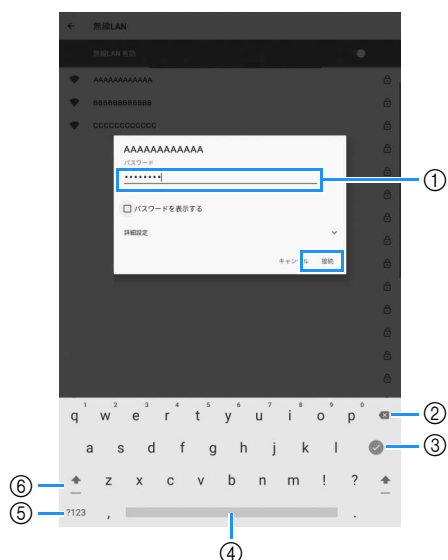


→ パスワード（ネットワークキー）を入力する画面が表示されます。

お知らせ

- 無線アクセスポイント／ルーターが SSID を発信していない場合、SSID は自動検出されません。この場合は、[ネットワークを追加] を押し、必要な情報を入力します。
- ミシンがすでにホームネットワークに接続している場合は、[保存済みネットワーク] を押します。保存した SSID を選択し、[接続] を押します。

- 6 メモしたパスワード（ネットワークキー）を入力して、[接続] を押します。



- ① 文字入力エリア
- ② バックスペースキー（カーソル位置の文字を削除します）
- ③ 押すとキーボードが非表示になります。文字入力エリアを押すと、キーボードが再び表示されます。
- ④ スペースキー
- ⑤ 文字／数字選択キー
- ⑥ 大文字／小文字選択キー

- 7 SSID の下に [接続済み] が表示されていることを確認したら、← を押します。



💡 お願い

- パスワードを誤って入力した場合は、もう一度 SSID を押し、正しいパスワードを入力してください。パスワード入力画面が表示されない場合は SSID を押します。表示された画面で  を押してパスワード入力画面を表示して、正しいパスワードを入力してください。
- 誤った SSID を選択した場合は、正しい SSID を押してください。誤った SSID を手動で入力した場合は、[ネットワークを追加] を押し、必要な情報を入力してください。

📖 お知らせ

- 接続している SSID を押すと、詳細情報が表示されます。右上の  を押して [詳細設定] を表示し、IP アドレスとプロキシを設定できます。

- 8 [OK] を押して、設定を終了します。



- ① [マシン名] にある名前が P. 29 「操作できること」で説明したアプリで使用されます。

📖 お知らせ

- 接続している間、信号強度はディスプレイの左上隅のアイコンで表示されます。
- 一度無線 LAN 接続を設定すると、ミシンの電源を入れるたびに無線 LAN に接続します。ただし、無線 LAN 設定画面の [無線 LAN 有効] はオンのままにする必要があります。

針と糸を準備する

布地と糸の種類による針の使い分け

布地により、ミシン針や糸を使い分けます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選択してください。

- 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
- ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。針交換の目安は P. 34 「針の交換」を参照してください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の太さ	ぬい目の長さ mm
		種類	太さ		
薄地	ローン、ジョーゼット、ポーラ、オーガンジー、シフォン、ボイル、ガーゼ、チュール、綿サテン、裏地など	ポリエステル系	60 ～ 90	9 ～ 11	細かいぬい目 (1.8 ～ 2.5)
		綿糸、絹糸	50 ～ 80		
普通地	ブロード、タフタ、ギャバジン、フラノ、サッカー、ダブルガーゼ、リネン（麻布）、ちりめん、タオル地、ワッフル、シーチング、ポプリン、シャンプレー、ダンガリー、サテン、サージ など	ポリエステル系	60 ～ 90	11 ～ 14	普通のぬい目 (2.0 ～ 3.0)
		綿糸、絹糸	50 ～ 60		
厚地	デニム（12 オンス以上）、帆布 など	ポリエステル系、 綿糸	30	16	粗いぬい目 (2.5 ～ 4.0)
	デニム（12 オンス以上）、帆布、ツイード、コーデュロイ、ペロア、キルティング、メルトン、モッサ、ビニールコーティング地 など	ポリエステル系	60	14 ～ 16	
		綿糸、絹糸	30 ～ 50		
のびる布地（ニット素材など）	ジャージー、トリコット、Tシャツ地、フリース、スムース など	ニット用糸	50	ニット用針（金） 11 ～ 14	布地の厚みに応じて設定
ステッチをかける場合		ポリエステル系	30	14 ～ 16	布地の厚みに応じて設定
			50 ～ 60	11 ～ 14	

お知らせ

- ・ このミシンで使用できる針：家庭用ミシン針（HA×1 シリーズの太さ 9 ～ 16 番）
例）HA×1、HA×1SP など
 - 針は数字が大きいほど太くなります。小さいほど細くなります。
- ・ このミシンで使用できる糸：30 ～ 90 番
 - 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
 - 糸は数字が小さいほど太くなります。大きいほど細くなります。
- ・ 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。
- ・ 布地に適した模様を選択し、ぬい目の長さを調節してください。薄地をぬうときは、ぬい目の長さを細く（短く）します。厚地をぬうときは、ぬい目の長さを粗く（長く）します。（P. 59）
のびる布地をぬう場合は、P. 77 「伸びる布地をぬう」を参照してください。

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14 ～ 16 番の針を使用します。

■ 文字／飾り模様をぬうとき（針・糸）

薄地、普通地、のびる布地をぬう場合は、ニット用針（金）11 番を使用します。厚地をぬう場合は、家庭用ミシン針 14 番を使用します。

糸は 50 番～ 60 番を使用します。

■ 刺しゅう用の針

11 番を使用します。小さな文字など、ぬい目の短い模様を刺しゅうする場合は、ボールポイント針（刺しゅう用）の使用をお勧めします。

▲ 注意

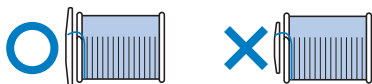
- 布地と糸と針の組み合わせは、先述の表に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9～11 番）でぬうと、針が折れ、けがをするおそれがあります。

糸こま押えと糸こまネットの使い方

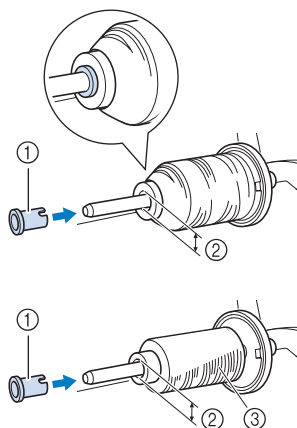
使用する糸こまを確認し、必要な部品を用意します。

■ 糸こま押え

糸こま押えのサイズは 3 種類ありますので、使用する糸こまのサイズに合わせてお選びください。



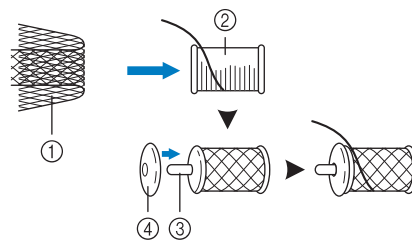
下図のような糸こまを使用するときは、糸こま押え（特殊）を使用してください。
糸こま押え（特殊）がしっかり取り付けられていることを確認してください。取り付け後、糸をひっぱってひっきりなく糸が繰り出すことを確認してください。



- ① 糸こま押え（特殊）
- ② 穴の直径が 8 mm から 10.5 mm
- ③ 糸こま（チーズ巻き）

■ 糸こまネット

ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。



- ① 糸こまネット
- ② 糸こま
- ③ 糸たて棒
- ④ 糸こま押え

- * 糸こまネットを使用する場合は、必ず約 5 ～ 6 cm 糸を引き出してください。
- * 糸こまネットを使用する場合は、必要に応じて糸調子を調節してください。

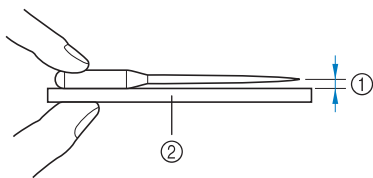
針の交換

▲ 注意

- 針を交換するときは、必ず画面のを押して、すべてのキーと操作スイッチをロックしてください。ロックされていない状態で、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。
- 針は必ず家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が折れてけがをするおそれがあります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがの原因になります。

💡 お願い

- 針を使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせてすき間が平行になっていることを確認してください。曲がった針は使用しないでください。



- ① 平行なすき間
② 平らな面

- 針は消耗品です。次の事例にあてはまるときは、針を交換してください。
 - 針が布地に刺さる際に通常と異なる音（パツパツやバスッバスッなど）が出る時（針先が折れていたりつぶれていたりする可能性があります。）
 - 目とびが起きるとき（針が曲がっている可能性があります。）
 - 目安として、洋服などを1作品ぬい終えたとき

1 （針上下スイッチ）を押して針を上げます。

2 を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックします。

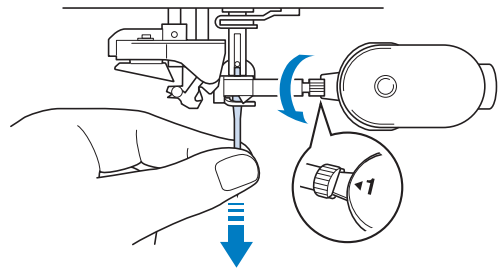
* [押えが自動で下がります。よろしいですか？] のメッセージが表示されたら、[OK] を押して操作を続けてください。

💡 お願い

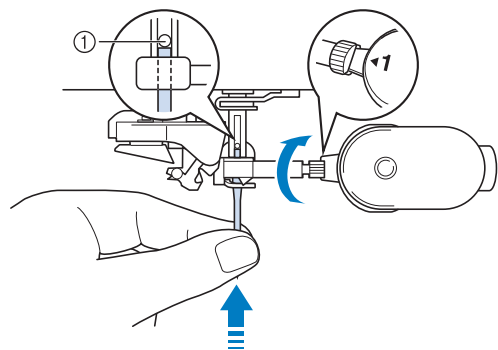
- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

3 押えを取り外します。（P. 46）

4 左手で針を持ちながら、右手でマルチドライバーを手前に回し、針のとめネジをゆるめます。針を抜きます。



5 針の平らな面を背中側にして、新しい針をストッパーに当たるまで差し込みます。マルチドライバーで針のとめネジをしっかりとめます。



- ① ストッパー

▲ 注意

- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、ドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針が折れ、けがをするおそれがあります。

6 押えを取り付けます。（P. 46）

7 を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

下糸を巻く / 取り付ける

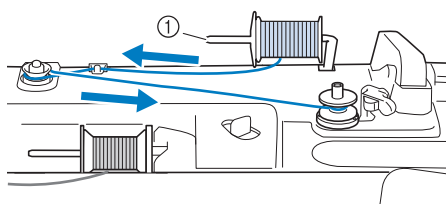
下糸を巻く

重要

- 付属のボピンは本機純正品です。必ず純正ボピンをご使用下さい。ボピンの高さは 11.5 mm です。

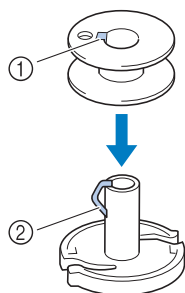
■ 補助糸たて棒で下糸を巻く場合

糸たて棒を縫製に使いながら、補助糸たて棒で下糸を巻くことができます。



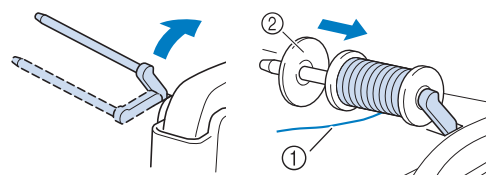
① 補助糸たて棒

- 1 電源スイッチを入れ、上ふたを開けます。
- 2 ボピンのミゾと下糸巻き軸のバネを合わせて、ボピンを軸にセットします。



① ボピンのミゾ
② 下糸巻き軸のバネ

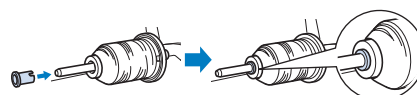
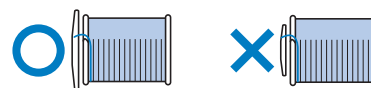
- 3 ボピン用の糸こまと糸こま押えを補助糸たて棒にセットします。



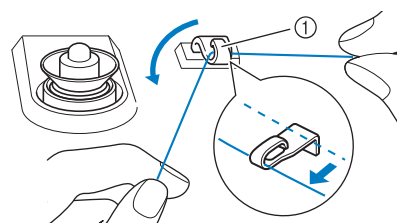
① 糸は下から手前に巻き出します。
② 糸こま押え

重要

- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、故障の原因となります。
- 使用する糸こまのサイズに合った糸こま押えを選んでください。使用する糸のサイズに合った糸こま押えの選び方については、P. 33「糸こま押えと糸こまネットの使い方」を参照してください。

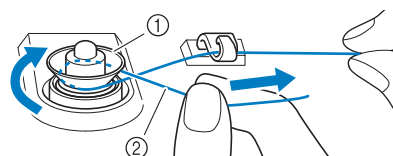


- 4 右手で糸こま付近で糸を持ちます。左手で糸端を持って、両手で糸案内に糸をかけます。



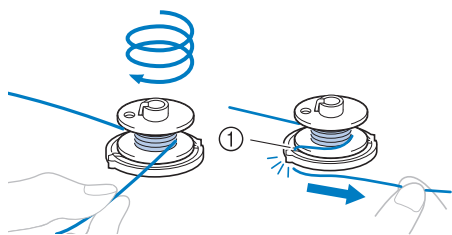
① 糸案内

- 5 下糸巻き案内に糸を巻きつけて、糸が下糸巻き案内の下にあることを確認します。



① 下糸巻き案内
② 糸が下糸巻き案内の皿の間にしっかり入っていることを確認してください。

- 6** 糸を時計回りに 5 ～ 6 回巻き付けて、ボビン受け座のガイドミゾにひっかけ、糸を切ります。



① ガイドミゾ (カッター付)

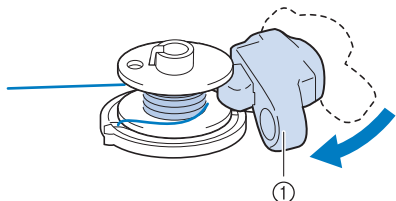
🔔 お願い

- ボビンに糸を巻くときは、必ず時計回りに巻いてください。下糸巻き軸に糸が巻き付くことがあります。

⚠ 注意

- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れ、けがをするおそれがあります。

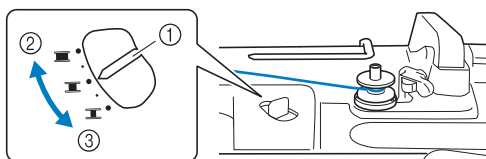
- 7** ボビンホルダーを左へカチッと音がするまで押します。



① ボビンホルダー

📖 お知らせ

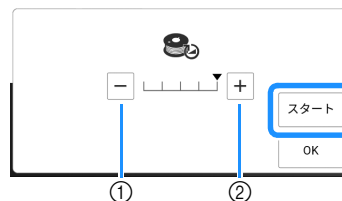
- 糸巻き量調整つまみで糸を巻く量を 5 段階から選択することができます。



- ① 糸巻き量調整つまみ
② 多い
③ 少ない

- 8** [スタート]を押します。

- * 下糸が正しく巻けていない場合は、[ストップ]を押してください。糸を切り、ボビンホルダーを右へ押してから、ボビンを取り外してください。



- ① 押すと巻き上げ速度が遅くなります。

- ② 押すと巻き上げ速度が速くなります。

→ 下糸巻きが始まります。下糸巻き中は [スタート] が [ストップ] に変わります。下糸巻きが終了すると、ボビンの回転が止まります。ボビンホルダーが自動的に元の位置に戻ります。

📖 お知らせ

- [OK]を押すと、下糸巻き画面を最小化できます。画面の右上に表示されている  を押すと、最小化された下糸巻き画面がもう一度表示されます。

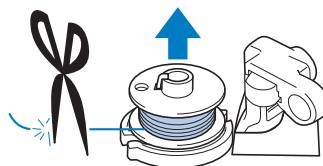


- キルト用のナイロン糸など、堅めの糸を下糸に巻くとき、通常の糸を巻くときと異なる動作音がしますが、故障ではありません。

重要

- ナイロン透明糸など伸縮性のある糸は、低速で下糸巻きを開始し、半分程度巻かれたら停止してください。巻きくずれやボビンが破損する原因になります。

- 9** 下糸巻きが終わったら、糸を切り、ボビンを取り外します。

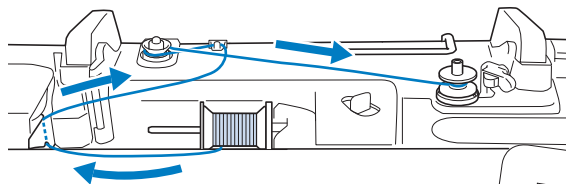


重要

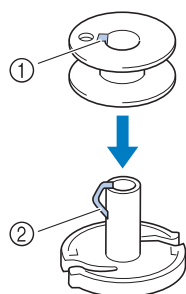
- ボビンを取り外すときは、ボビン受け座を引っ張らないでください。ボビン受け座が緩んだり外れたりして、ミシンが破損するおそれがあります。

■糸たて棒で下糸を巻く場合

ぬい始める前に、糸たて棒を使って下糸を巻いてください。縫製中はこの糸たて棒を使って下糸を巻くことはできません。

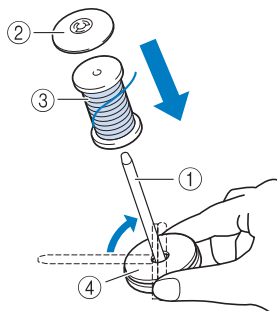


- 1 電源スイッチを入れ、上ふたを開けます。
- 2 ボピンのミゾと下糸巻き軸のパネを合わせて、ボピンを軸にセットします。



- ① ボピンのミゾ
- ② 下糸巻き軸のパネ

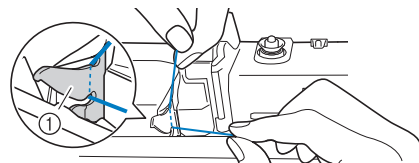
- 3 糸たて棒が上向きになるように起こします。糸が手前から出るように糸たて棒に糸こまを差し込みます。



- ① 糸たて棒
- ② 糸こま押え
- ③ 糸こま
- ④ 糸こまフェルト

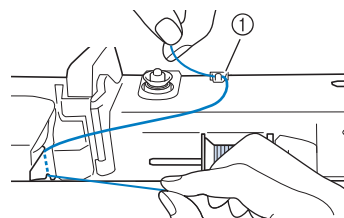
- 4 糸こま押えを奥までしっかり差し込み、糸たて棒を元に戻します。

- 5 右手で糸こまからの糸を持ち、左手で糸端を持って、糸案内板のミゾに糸を通します。



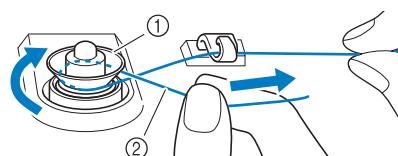
- ① 糸案内板

- 6 糸案内に糸をかけます。



- ① 糸案内

- 7 下糸巻き案内に糸を巻きつけて、糸が下糸巻き案内の下にあることを確認します。

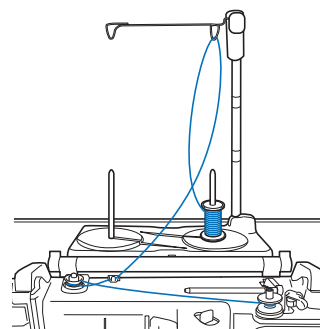


- ① 下糸巻き案内
- ② 糸が下糸巻き案内の皿の間にしっかり入っていることを確認してください。

- 8 P. 35「補助糸たて棒で下糸を巻く場合」の手順 6～9を行います。

■糸たてスタンドを使って下糸を巻く

糸こまからアンテナの糸案内に糸を通し、P. 35「補助糸たて棒で下糸を巻く場合」の手順 4～9を参照して下糸を巻いてください。糸たてスタンドについては、P. 43「糸たてスタンドを使う」を参照してください。



下糸をセットする

▲ 注意

- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、糸調子不良や、針折れが原因でけがをするおそれがあります。

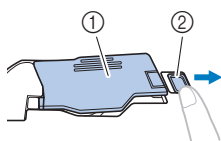


- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず液晶画面の **U** を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックしてください。ロックされていない状態で、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

- 1** **U** を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックし、押えを上げます。

* [押えが自動で下がります。よろしいですか?] のメッセージが表示されたら、[OK] を押して操作を続けてください。

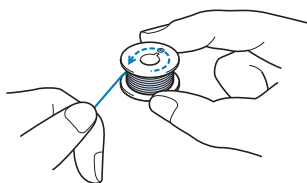
- 2** 針板ふたのつまみを右側に押します。



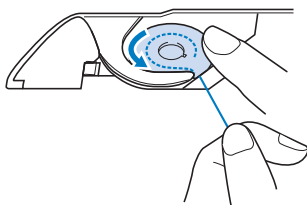
- ① 針板ふた
- ② つまみ

- 3** 針板ふたを外します。

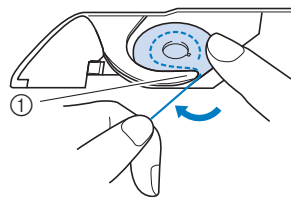
- 4** 右手でボビンを持ち、左手で糸の端を持ちます。



- 5** 糸が左巻きになるようにしてボビンをかまに入れます。



- 6** 右手でボビンを軽く押さえながら、左手で巻き終わりの糸を針板のツメにかけます。

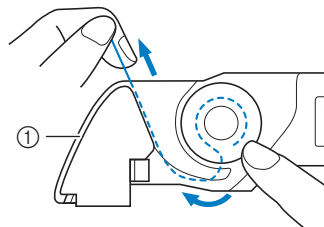


- ① ツメ

💡 お願い

- ボビンは必ず指で押え、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。ボビンを逆の方向にセットすると、糸切れや糸調子不良の原因となります。

- 7** 右手でボビンを軽く押さえながら、針板のミゾに糸を通し、左手で軽く引っ張ります。

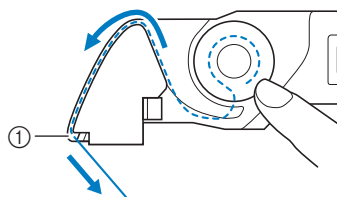


- ① ミゾ

📖 お知らせ

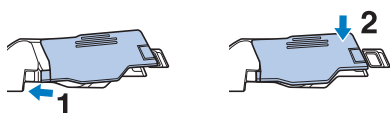
- このように糸をひっぱることで、内かまの板ばねの間に糸が入り、縫製時、下糸に適切な張力を加えることができます。

- 8** 右手でボビンを軽く押さえながら、左手で残りのミゾに糸を通します。その後、糸をカッターで切ります。



- ① カッター

- 9 針板ふたの左下のタブを針板に差し込んでから (1)、針板ふたの右側を上から軽く押して取り付けます (2)。



- 10 を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

お知らせ

- 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。ぬい始める前に下糸を引き出したい場合は、P. 39「下糸を引き出す」の手順で糸を引き出します。

下糸を引き出す

ギャザーやダーツ、フリーモーションキルト (ステッチレギュレーターぬいを含む)、刺しゅうをぬうときなど、あらかじめ下糸を引き出しておきたいときは、以下の手順に従って操作してください。

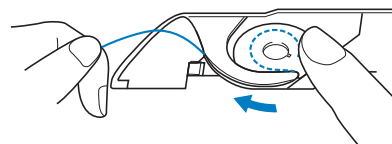
お知らせ

- 先に上糸を通してから、下糸を引き出します。(P. 40「上糸通し」)

- 1 P. 38「下糸をセットする」の1～5を参照して、ボビンをかまに入れます。

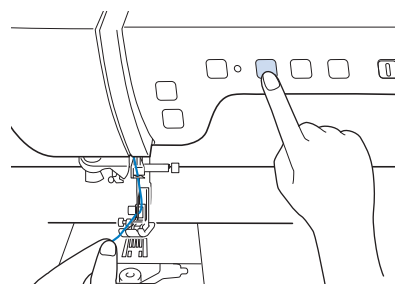
- 2 下糸を矢印のようにミゾにそって通します。

- * 糸をカッターで切らないでください。
- * 針板ふたは外したままにしてください。



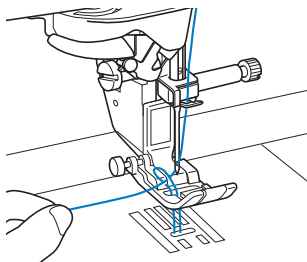
- 3 を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

- 4 上糸を持ち、 (針上下スイッチ) を押して針を下げます。

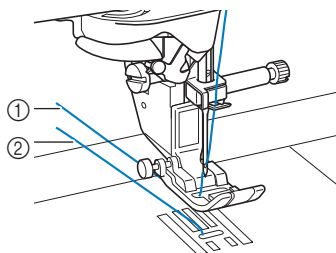


- 5  (針上下スイッチ) を押して針を上げます。

- 6** 上糸を軽く引き上げて、下糸を針板の穴から出します。



- 7** そのまま下糸を引き出し、上糸とそろえて押えの下を通し、後ろ側へ 10 cm ほど引き出しておきます。



- ① 上糸
② 下糸

- 8** 針板ふたを元に戻します。

上糸通し

上糸通し

▲ 注意

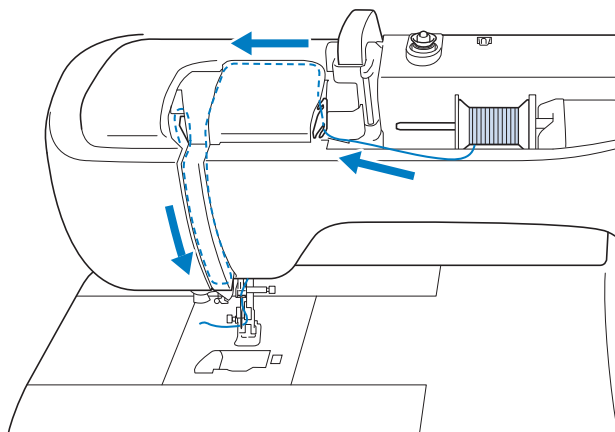
- 上糸は必ず正しく通してください。糸が正しく通されていない場合、糸がからんで針が折れ、けがをすることがあります。

重要

- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。針と糸は正しい組み合わせで使用してください。詳しくは P. 32 「布地と糸の種類による針の使い分け」を参照してください。
- 9 番の針を使用する場合は、手で針に糸を通してください。糸通し装置を使用すると、ミシンが破損することがあります。

📖 お知らせ

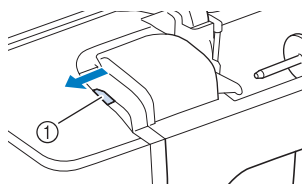
- 糸通し装置は、家庭用ミシン針 (HA × 1) 11 番～16 番で使用してください。
- ナイロン透明糸や特殊な糸を使用するときは、糸通し装置は使用できません。
- 2 本針を取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。



- 1** 電源スイッチを入れます。

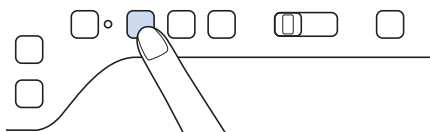
- 2**  (押え上下スイッチ) を押して、押えを上げます。

→ シャッターが開いて、糸通しできるようになります。



① シャッター

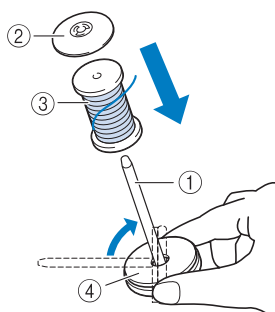
- 3**  (針上下スイッチ) を押して針を上げます。



重要

- 糸通し装置を使用する前に、必ず針を上げてください。針に正しく糸が通らず、糸通し装置が破損することがあります。

- 4** 糸たて棒が上向きになるように起こします。糸が手前から出るように糸たて棒に糸こまを差し込みます。

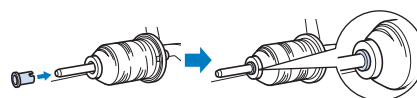
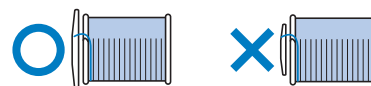


- ① 糸たて棒
② 糸こま押え
③ 糸こま
④ 糸こまフェルト

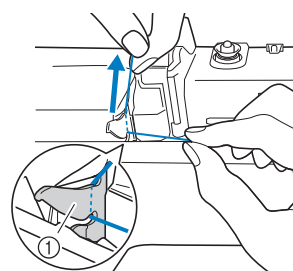
- 5** 糸こま押えを奥までしっかり差し込み、糸たて棒を元に戻します。

⚠ 注意

- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸が糸たて棒にからまり、針が折れ、けがをするおそれがあります。
- 使用する糸こまのサイズに合った糸こま押えを選んでください。使用する糸こまのサイズに合った糸こま押えの選び方については、P. 33「糸こま押えと糸こまネットの使い方」を参照してください。

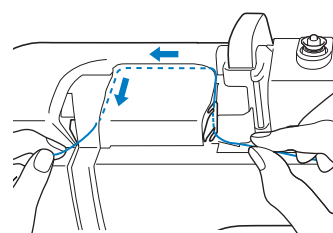


- 6** 右手で糸こまからの糸を持ち、左手で糸端を持って、糸案内板のミゾに糸を通します。

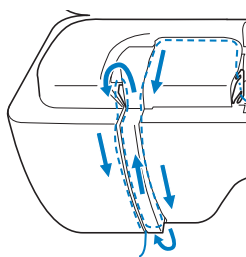


① 糸案内板

- 7** 右手で糸を持ちながら、矢印のように糸案内カバーに糸を通します。

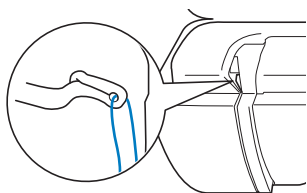


- 8** 図のように、糸をミゾに沿って下に通し、上に上げ、また下に通します。

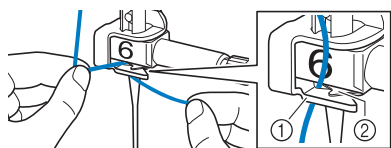


お知らせ

- ミゾの上部から中を見ると、てんびんに糸がかかっていることを確認できます。

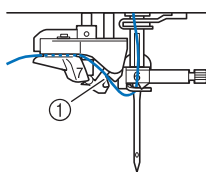


- 9** 一方の手で糸を押え、もう一方の手で糸の端を持ち、図のように針棒系かけ (6 の印) に糸をかけます。



- ① 針棒系かけ
② ツメ

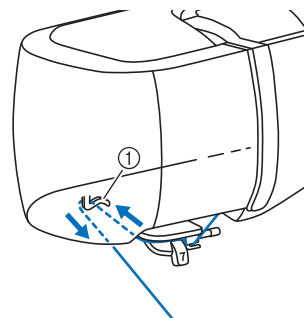
- 10** 糸案内皿 (7 の印) に糸を通します。糸案内のミゾに糸が通っていることを確認してください。



- ① 糸案内のミゾ

- 11** (押え上下スイッチ) を押して、押えを下げます。

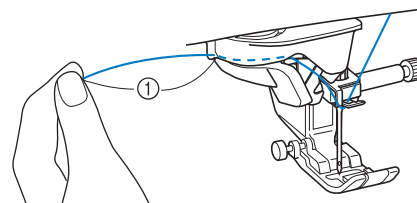
- 12** 図のように、糸を引き上げて、ミシンの糸切りで糸を切ります。



- ① 糸切り

お願い

- メタリック糸のようにほどけやすい糸を使用する場合は、糸を切ってしまうと針に通しにくくなります。その場合は、糸案内皿 (7 の印) に糸を通した後、糸切りを使わずに糸を約 8 cm 引き出してください。

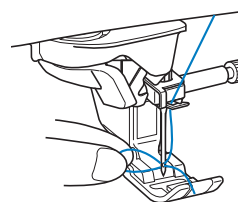


- ① 約 8 cm

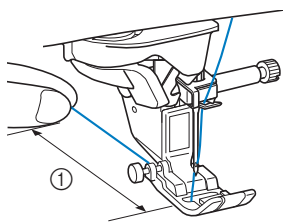
- 13** (自動糸通しスイッチ) を押して、針に糸を通します。

- 14** 針穴を通った糸をゆっくり引き出します。

- * 針穴を通った糸が輪になった場合は、輪を後ろ側に引っ張り、針穴から糸を引き出します。



- 15** 押えを上げ、押えの下から後ろ側へ 10 cm ほど糸を引き出します。



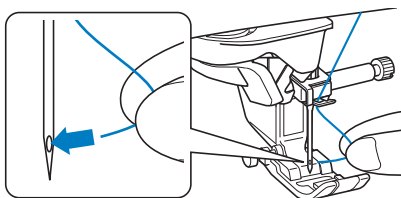
① 約 10 cm

お知らせ

- 針に糸が通っていなかったり、針棒糸かけに正しくかかっていなかった場合は、手順 **3** からやり直してください。

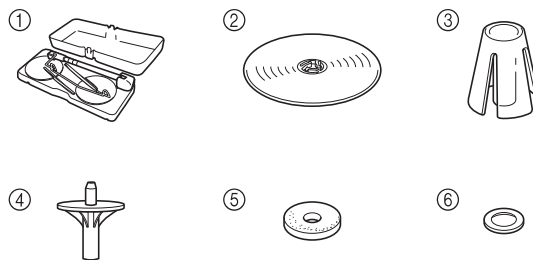
お願い

- 糸通し装置を使用できない針や糸を使用する場合は、手で手前から針穴に糸を通してください。



糸たてスタンドを使う

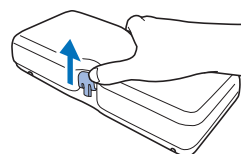
付属の糸たてスタンドは直径の大きな糸こま（チーズ巻き）に使用すると便利です。



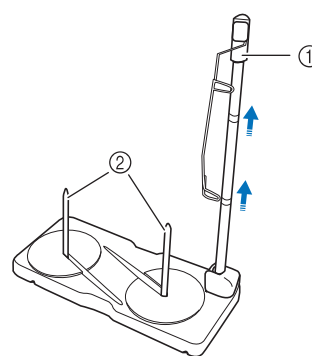
- ① 糸たてスタンド
 - ② 糸こま押え（特大）＜ 2 個＞
 - ③ スプールクッション＜ 2 個＞
 - ④ 糸こま押えベース＜ 2 個＞
 - ⑤ 糸こまフェルト＜ 2 個＞
 - ⑥ リング＜ 4 個＞
- * ② から ⑥ の部品はビニール袋に入っています。

■ 糸たてスタンドを組み立てる

- 1** 糸たてスタンドの出っ張り部を持ち、ふたを取り外します。

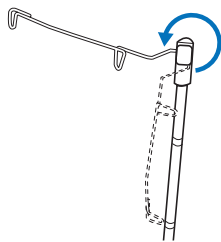


- 2** 2ヶ所のストッパーがカチッとはまるまでアンテナをいっぱい伸ばします。糸たて棒を起こします。

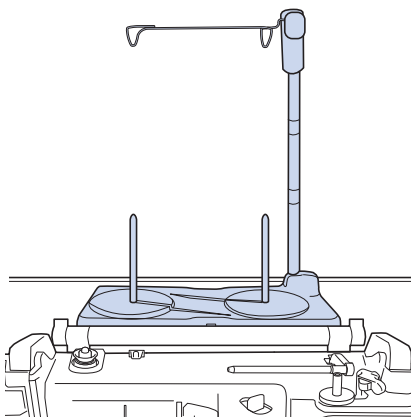


- ① アンテナ
- ② 糸たて棒

3 糸案内を反時計回りに回します。



4 ミシンの上ふたを開け、図のように糸たてスタンドを上ふたの上に置きます。



重要

- 1 kg 以上の重さのあるものを上ふたに置かないでください。上ふたが破損する原因となります。ふたを外したときの糸たてスタンドの重量は約 280 g です。
- 糸たてスタンドを付けた状態で、上ふたを閉じないでください。
- アンテナや糸たて棒を強く押したり、引っ張ったりしないでください。破損の原因になります。
- 糸たて台に糸こま以外のものを載せないでください。
- 糸たてスタンドを使用して縫製しているときは、下糸を巻かないでください。

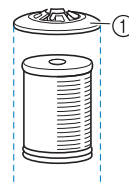
💡 お願い

- 糸たてスタンドがしっかりと固定されていることを確認してください。しっかりと固定されていないと、縫製中に糸たてスタンドが倒れる原因になります。

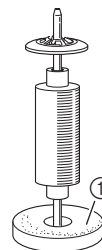
■ 糸こまと糸こま押えについて

必ず、糸こまよりも少し大きなサイズの糸こま押え (①) を使用してください。

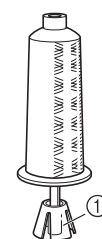
糸こまよりも小さいものや、大きすぎるものを使用すると、糸が引っかかり縫製不良の原因となります。



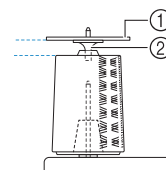
芯が細い糸こまを使用するときは、付属のフェルト (①) を糸たて棒に通した後、フェルトの中央の穴に糸こまの芯が入るように糸こまをセットし、糸こま押えを差し込みます。



糸たて棒より高さのある糸こまを使用する場合は、スプールクッション (①) を使用してください。綿糸以外の糸こまを使用するときは、糸こま押えを使用する必要はありません。

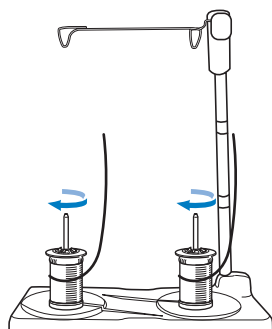


綿糸など毛羽立った糸を使用する場合は、図のように糸こま押えベース (②) に糸こま押え (①) をセットします。糸こまの大きさや糸の残量に応じて、適切なサイズの糸こま押えを使ってください。糸こま押え (小) を糸こま押えベースに取り付けて使用することはできません。



■ 糸たてスタンドを使ってミシンに糸を通す

- 1 ミシンに糸たてスタンドを取り付けます。(P. 43)
- 2 糸こまを、時計回りに糸が引き出される方向に糸たて棒にセットします。糸こま押えをしっかりと糸たて棒に差し込みます。



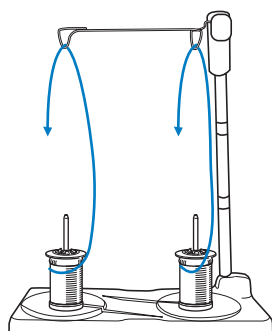
⚠ 注意

- 糸こまが互いに接触しないようにしてください。接触していると、糸がスムーズに引き出されず、針が折れてけがをするおそれがあります。また、糸こまが中央のアンテナに接触していないことを確認してください。

💡 お願い

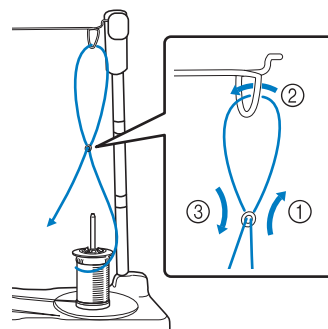
- 糸こまを2つ使用するときは、両方の糸こまを必ず同じ方向にセットしてください。
- 糸こまの下に糸がはさまらないようにしてください。

- 3 糸こまから糸を引き出します。真上の糸かけに奥から手前に糸をかけます。

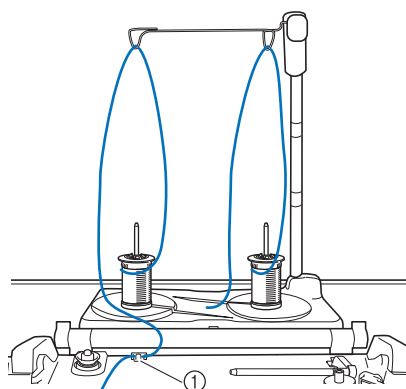


💡 お願い

- 隣接する糸こまの糸にからまないように、糸をかけてください。
- 糸をかけた後、糸こままわりのたるんだ糸を巻き取ってください。糸がたるんでいたり、糸がらみなどの原因になることがあります。
- メタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、糸のからまりを防ぐため、付属のリングを使用します。糸通しの順序：糸を、まずリングに下から通し (①)、糸かけに通した後 (②)、再びリングに上から通します (③)。リングを使用するときは、糸こま押えベースは使用しないでください。



- 4 糸案内の右から左へ糸を通します。



① 糸案内

- 5 P. 40「上糸通し」の手順 6 ~ 15 を参照して上糸を通します。

押えの交換

▲ 注意

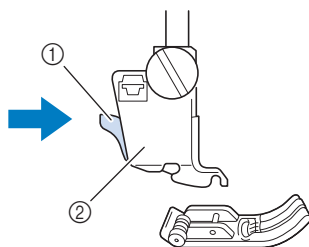
- 押えを交換するときは、必ず画面のを押して、すべてのキーと操作スイッチをロックしてください。ロックされていない状態で、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。
- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たって折れ、けがをするおそれがあります。
- 押えは前後の向きを確認して正しい向きで取り付けてください。押えの向きをまちがえると針が押えに当たり、折れてけがをする原因となります。

重要

- 押えは必ず純正品を使用してください。

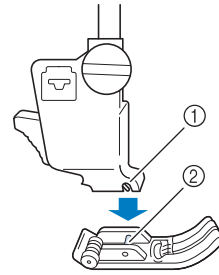
押えを交換する

- 1  (針上下スイッチ) を押して針を上げます。
- 2  を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックします。
* [押えが自動で下がります。よろしいですか？] のメッセージが表示されたら、[OK] を押して操作を続けてください。
- 3 押えレバーを手で上げます。
- 4 押えホルダーの黒いボタンを押し、押えを取り外します。



- ① 黒いボタン
② 押えホルダー

- 5 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。押えレバーを手で下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



- ① ミゾ
② ピン

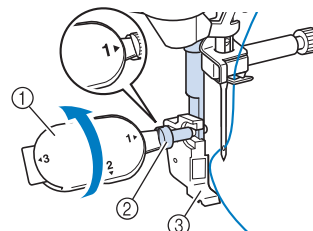
- 6 押えレバーを上げて、押えがしっかりと取り付けられていることを確認します。
- 7  を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

付属のアダプターを使用して押えを取り付ける

付属のアダプターとネジ（小）を使用すると、エコキルト押え< E >や別売の押えを取り付けることができます。



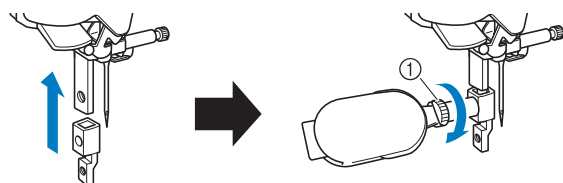
- 1 押えを取り外します。（P. 46）
- 2 押えホルダーのネジをゆるめ、押えホルダーを外します。



- ① マルチドライバー
② 押えホルダーのネジ
③ 押えホルダー

- 3 押えホルダーのネジを押え棒から完全に外します。

- 4** 押え棒の平らな面とアダプターの穴の平らな面を合わせて差し込みます。アダプターのネジ穴と押え棒のネジ穴を合わせ、ドライバーで押えホルダーのネジをしっかりと締めます。

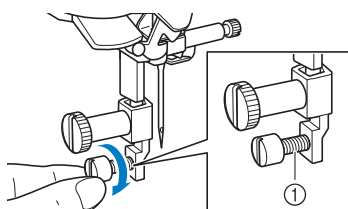


① 押えホルダーのネジ

お知らせ

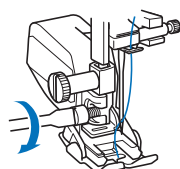
- ・エコークルト押え<E>を取り付ける場合は、P. 111「エコークルト」を参照し、**4**に進みます。

- 5** 付属のネジ (小) を 2 ～ 3 回手で回して、押え棒に仮止めします。



① ネジ (小)

- 6** 別売の押えの取扱説明書を参照して押えを取り付けます。付属のドライバー (大) でネジ (小) をしめます。



▲ 注意

- ・付属のドライバー (大) を使って、しっかりとネジをしめてください。ネジがゆるい場合、針が押えに当たり、けがをするおそれがあります。

デュアルフィードを使う

デュアルフィードを使うと、針板や押えに貼りついてぬいにくい布 (ビニール素材、革、合成皮革など) や、ぬいずれしやすい布 (キルト生地など) でもきれいに仕上がります。

お願い

- ・デュアルフィードを使うときは、中速か低速でぬってください。

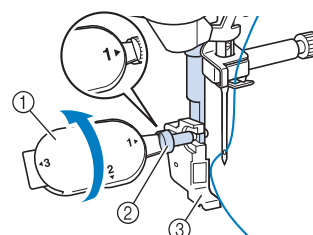
お知らせ

- ・デュアルフィードをミシンに接続している場合は、デュアルフィードでぬえる模様のみ選択できます。
- ・貼りつきやすい布地を重ねてぬうときは、ぬいはじめにしつけをしておく、きれいに仕上がります。

■ デュアルフィードを取り付ける

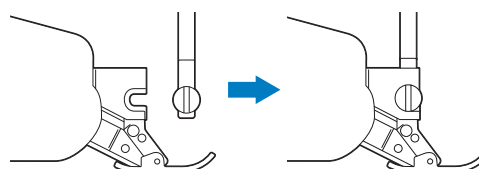
- 1** を押します。押えを取り外します。(P. 46)

- 2** 押えホルダーのネジをゆるめ、押えホルダーを外します。

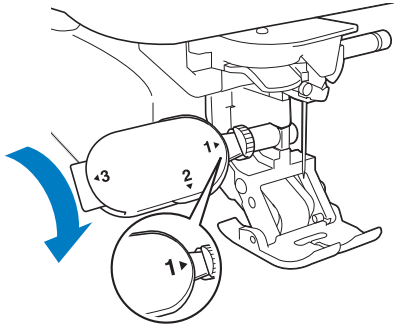


- ① マルチドライバー
- ② 押えホルダーのネジ
- ③ 押えホルダー

- 3** 押え棒のネジにデュアルフィードのミゾに合わせて取り付けます。



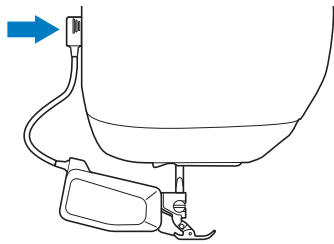
- 4** デュアルフィードを右手で押えながら、付属のマルチドライバーでネジをしっかりとしめます。



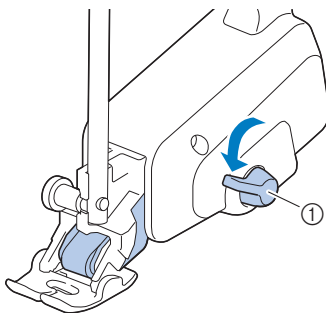
▲ 注意

- 付属のマルチドライバーを使って、しっかりとネジをしめてください。ネジがゆるい場合、針が押えに当たり、けがをするおそれがあります。

- 5** デュアルフィードのプラグをミシンの背面にある押えコネクタに差し込みます。



- 6** を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。
- 7** 布地をデュアルフィードの下に置き、ぬい始めの位置に布地を合わせます。
- 8** フィード位置レバーを下げて、縫製ができる状態にします。



① フィード位置レバー

💡 お願い

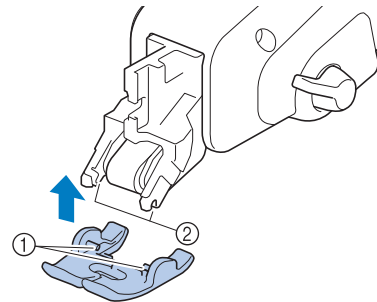
- 縫製中は、フィード位置レバーを操作しないでください。

📖 お知らせ

- フィード位置レバーが上がっていると布送りしません。フィード位置レバーが下がっていると、黒いローラーベルトが下がり、布送りできる状態です。

■ 押え足を取り付ける／取り外す

押え足のピンをミゾに合わせて取り付け、カチッとなるまで押し込みます。



- ① ピン
- ② ミゾ

外す場合は、押え足の先端と後部を押し下げると外れます。

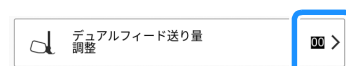
■ デュアルフィードの送り量を調整する

デュアルフィード機構によって、上側の布地はぬい目長さの設定に従って送られます。ぬいにくい布地を使う場合はデュアルフィードの送り量を微調整します。

- 1** を押して設定画面の[デュアルフィード送り量調整]を表示します。

- 2** 数字を押して上側の布地の送り量を選択します。

- * 通常は [00] を選択してください。
- * 大きい数字を押すと、上側の布地の送り量が増えます。小さい数字を押すと、上側の布地の送り量が減ります。



第2章 基本のぬい方

ぬい方

ステッチの種類

■ 実用模様

隠れているカテゴリーを表示するときは、カテゴリキーを横にスワイプします。



表示	カテゴリー名
1	直線／たち目かがり
2	飾り
3	ヘアルーム
4	ボタン穴かがり／かんどめ
5	横送り
6	キルト
7	その他
8	テーパリング

■ 文字・模様ぬい

隠れているカテゴリーを表示するときは、カテゴリキーを横にスワイプします。



表示	カテゴリー名
9	大型飾り
10	大型植物
11	大型モチーフとメッセージ
12	小型飾り
13	小型植物
14	キャンドルウィック

表示	カテゴリー名
12	大型サテンステッチ
13	7mm サテンステッチ
14	クロスステッチ
15	実用飾り
16	ディズニー * ディズニー模様は個人使用目的かつ非営利目的でのみ使用できます。商業目的で使用することは固く禁じられています。
AB	アルファベット書体（ゴシック体）
AB	アルファベット書体（筆記体）
AB	アルファベット書体（アウトライン文字）
AB	キリル文字
	ポケット（内蔵 / 外部メモリー）（P. 62）

基本のぬい方

⚠ 注意

- ミシン操作中は、針の動きに十分にご注意ください。針、プーリー、てんびんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。
- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けがの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れ、けがをするおそれがあります。

重要

- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。針が曲がったり折れたりするおそれがあります。

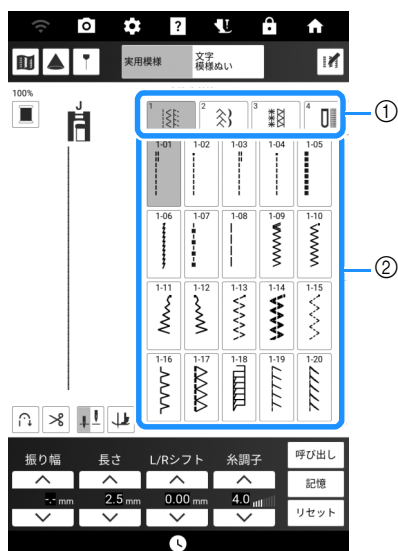
💡 お願い

- まず、実際にお使いになるものと同じ布地と糸を使って、試しぬいをしてください。

1 ホーム画面の[実用・文字模様]を押して、実用模様を表示します。針が下がっている場合は、 (針上下スイッチ) を押して針を上げます。

2 カテゴリーを選択し、ぬいたい模様のキーを押します。

* 隠れているカテゴリーを表示するときは、カテゴリキーを横にスワイプします。



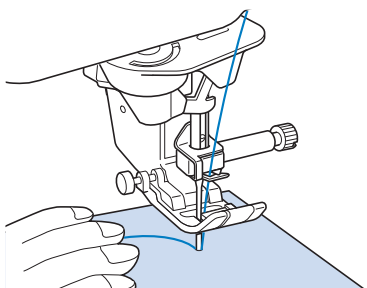
① カテゴリー

② 模様キー

→ 画面の左上に使用する押えが表示されます。

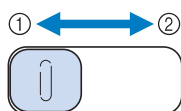
3 画面左上に表示されている押えを確認して、押えを取り付けます。(P. 46)

4 布地を押えの下に置きます。左手で布地と糸端を押え、 (針上下スイッチ) を押してぬい始め位置に針を刺します。



5 押えを下げます。

6 スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。

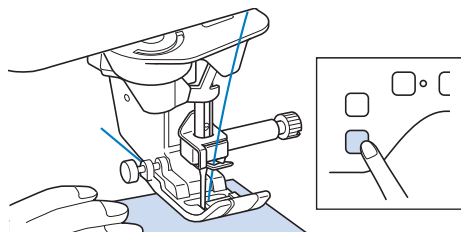


① ゆっくり

② はやく

7 スタート/ストップスイッチを押して、ぬい始めます。(フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。)

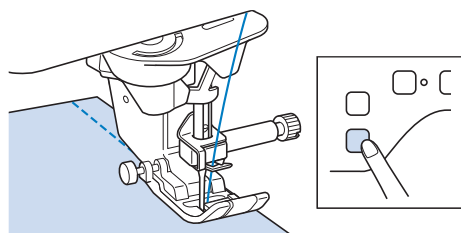
* 布地に軽く手を添えてください。



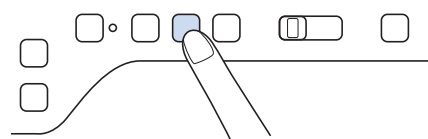
お知らせ

- ・フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチでぬい始めることはできません。

8 ぬい終わったら、もう一度スタート/ストップスイッチを押します。(フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーから足を離します。)



9  (糸切りスイッチ) を押して糸を切ります。



重要

- ・糸を切った後は、 (糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がからまったり、ミシンが故障する原因となります。
- ・押えの下に布地がないときや、ミシンが動いているときは、 (糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がらみや故障の原因となります。

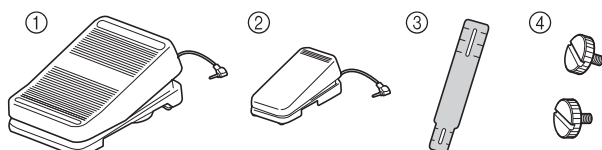
🔍 お願い

- ・ナイロン透明糸などの特殊な糸を切るときは、はさみを使用してください。

- 10** 針が完全に止まったら、押えを上げて布地を取り出します。

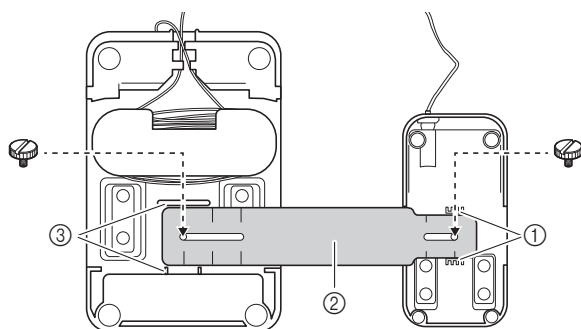
マルチ機能フットコントローラーを使う

マルチ機能フットコントローラーを使用すると、縫製のスタート/ストップのほかに糸切りや返しぬいなど、さまざまな機能を設定してミシンを操作することができます。



- ① メインフットコントローラー
② サイドペダル
③ 固定プレート
④ 取付けネジ × 2

- 1** 固定プレートの小さい方の端をサイドペダル下部のガイドに合わせ、取付けネジで軽く固定します。
固定プレートの大きい方の端をメインフットコントローラー下部のガイドに合わせ、取付けネジで軽く固定します。



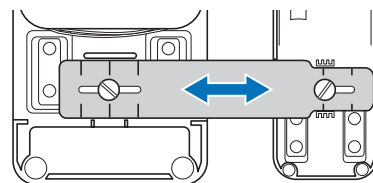
- ① サイドペダルのガイド
② 固定プレート
③ メインフットコントローラーのガイド

📖 お知らせ

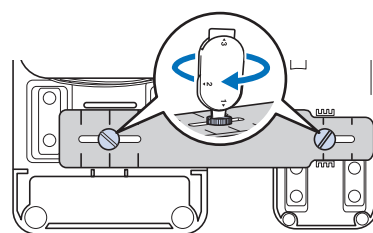
- ・サイドペダルは、メインフットコントローラーの左右どちらにも取り付けることができます。
- ・メインフットコントローラーとサイドペダルは、固定プレートを取り付けずに使用することもできます。

- 2** メインフットコントローラーとサイドペダルの間隔を調整します。

- * 間隔を調整する際は、固定プレートについている目盛りを目安にしてください。



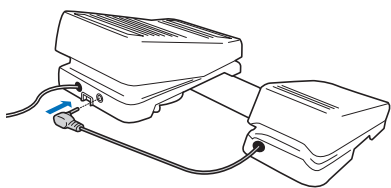
- 3** 取付けネジをしっかりとしめ、メインフットコントローラーとサイドペダルを固定します。



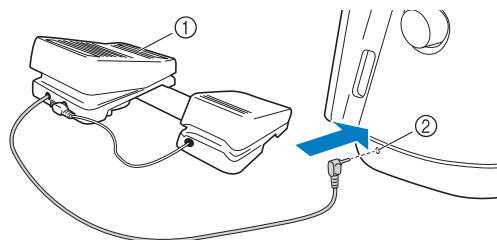
📖 お知らせ

- ・メインフットコントローラーとサイドペダルの間隔を再調整する場合は、取付けネジを少しゆるめてから、メインフットコントローラーとサイドペダルの位置を調整します。

4 サイドペダルのプラグをメインフットコントローラーのジャックに差し込みます。



5 メインフットコントローラーのプラグをミシン右側にあるフットコントローラージャックに差し込みます。



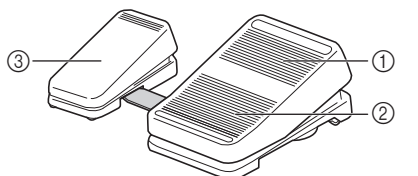
- ① メインフットコントローラー
② フットコントローラージャック

お知らせ

- メインフットコントローラーのコードの長さは調節できます。(P. 53)

6 電源を入れます。[設定]を押して、設定画面の[マルチ機能フットコントローラー]を表示します。

7 マルチ機能フットコントローラーへ設定したい機能を選択します。



	コントロール部分	設定できる機能
①	メインフットコントローラー	スタート/ストップ
②	ヒールキックスイッチ	以下のいずれかを選択 ・ [糸切り] ・ [針上下]
③	サイドペダル	・ [1針ぬい] ・ [返しぬい] (模様によっては、止めぬい機能が働きます。(P. 54)) ・ [止めぬい] ・ [押え上下] ・ [指定なし]

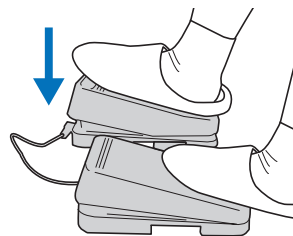
お知らせ

- サイドペダルに[返しぬい]を設定すると、ジグザグ模様を使ったつくろいぬい(ダーニング)が簡単にできます。メインフットコントローラーを踏み続けながら、もう一方の足でサイドペダルを踏んだり離したりを繰り返して、ぬい進んだ分だけ返しぬいをすると、つくろいぬい(ダーニング)ができあがります。返しぬいのスピードは、メインフットコントローラーを踏み込む量に応じて決まります。

8 [OK]を押します。

9 試しぬいをして、意図した設定になっていることを確認します。

縫製速度は、メインフットコントローラーを浅く踏むと遅く、深く踏み込むと速くなります。メインフットコントローラーまたはサイドペダルを離すと縫製が止まります。



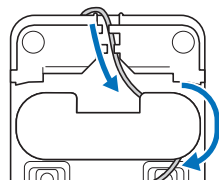
お知らせ

- スピードコントロールレバーで、メインフットコントローラーの最高速度を調節することができます。
- マルチ機能フットコントローラーを接続している場合は、スタート/ストップスイッチでぬい始めることはできません。

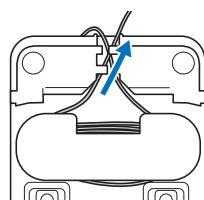
■メインフットコントローラーのコードの長さを調節する

- 1 メインフットコントローラーのコードをほどきます。
- 2 コードをツメの間に通し、好みの長さになるまでコードを巻きます。

* コードは時計回りでも反時計回りでも巻くことができます。



- 3 コードをツメの間に通します。

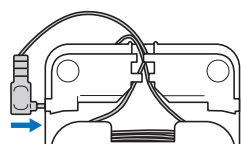


💡 お願い

- メインフットコントローラーでコードを踏まないように、コードはツメの間に通してください。

📖 お知らせ

- コードを収納するときは、コードをツメの間を通してから、プラグをメインフットコントローラーのジャックに差し込みます。

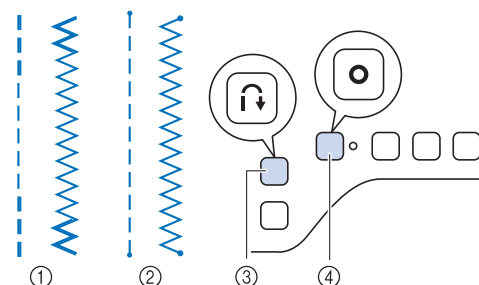


返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいまたは止めぬいをします。

① (返しぬいスイッチ) を押している間、模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。

② (止めぬいスイッチ) を長押しすると、同じ場所で3～5針ぬってから止まります。(P. 12)



- ① 返しぬい
- ② 止めぬい
- ③ (返しぬいスイッチ)
- ④ (止めぬいスイッチ)

スイッチを押したときのミシンの動きは、選択している模様によって異なります。(P. 55「返しぬいスイッチまたは止めぬいスイッチを押した場合のミシンの動き」の表を参照。)

📖 お知らせ

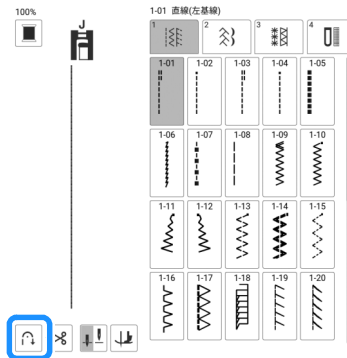
- 文字・模様ぬいの場合に④ (止めぬいスイッチ) を押すと、模様の途中でスイッチが押されたときも、1模様がぬい終わったところで止めぬいがぬわれます。1模様がぬい終わるまでの間は、④ (止めぬいスイッチ) の右横にある緑のLEDライトが点灯します。止めぬいが終わると、LEDライトは消えます。

自動返しぬい／止めぬい

模様を選んだときに自動止めぬいを設定しておく、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をします。

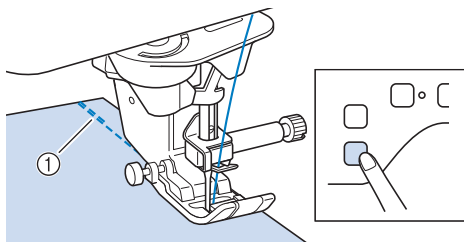
1 模様を選択します。

2 を押して、自動止めぬいを設定します。



→ 表示がに変わります。

3 ぬい始めの位置に針をさして、スタート／ストップスイッチを押します。



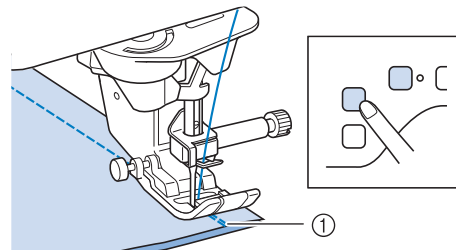
① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をして、縫製を続けます。

お知らせ

- 縫製中にスタート／ストップスイッチを押すと、縫製を一時停止または再開できます。

4 ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）または（止めぬいスイッチ）を押します。



① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をして止まります。

お知らせ

- 自動止めぬい機能をオフにするときは、を押します。

■ 返しぬいスイッチまたは止めぬいスイッチを押した場合のミシンの動き

スイッチを押したときのミシンの動きは、選択している模様によって異なります。

	 (返しぬい スイッチ)	 (止めぬい スイッチ)
自動返しぬい／止めぬい機能がオフの場合。		
実用模様   	 を押している間、返しぬいをします。	 を押している間、3～5針の止めぬいをします。
実用模様    上部にドットマークがある模様	 を押している間、返しぬいをします。*	 を押している間、3～5針の止めぬいをします。
実用模様 直線／ジグザグ模様以外	 を押している間、3～5針の止めぬいをします。	 を押している間、3～5針の止めぬいをします。
文字模様ぬい	 を押している間、3～5針の止めぬいをします。	 を押している間、3～5針の止めぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、スイッチ横のLEDが点灯し、1模様を完成させてから3～5針の止めぬいをします。

	 (返しぬい スイッチ)	 (止めぬい スイッチ)
自動返しぬい／止めぬい機能がオンの場合。		
実用模様   	ぬい始めにスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に返しぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、返しぬいをします。	ぬい始めにスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に返しぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、止めぬいをします。
実用模様    上部にドットマークがある模様	ぬい始めにスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に止めぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、返しぬいをします。*	ぬい始めにスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に止めぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、止めぬいをします。
実用模様 直線／ジグザグ模様以外	ぬい始めにスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に止めぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、止めぬいをします。	ぬい始めにスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に止めぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、止めぬいをします。
文字模様ぬい	ぬい始めにスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に止めぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、止めぬいをします。	ぬい始めにスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に止めぬいをします。 ぬい終わりに  を押すと、スイッチ横のLEDが点灯し、1模様を完成させてから3～5針の止めぬいをします。

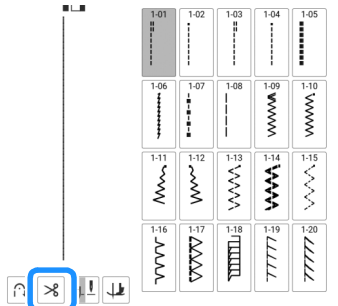
* 設定画面で[止めぬい優先設定]をオン (P. 20) にすると、返しぬいの代わりに止めぬいをします。

自動糸切り

ぬい終わりに自動的に糸を切るように設定することができます。自動糸切りを設定すると、自動返しぬい／止めぬいも有効になります。

1 模様を選択します。

2  を押して、自動糸切りを設定します。



→ 表示が  になり、自動糸切りと自動返しぬい／止めぬいが設定されます。

お知らせ

- 自動糸切り機能をオフにするときは、もう一度  を押します。

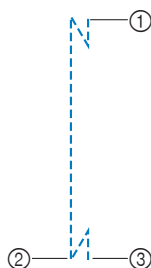
3 ぬい始めの位置に針をさして、スタート／ストップスイッチを押します。

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい始めます。

4 ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）または （止めぬいスイッチ）を1回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

→ 返しぬい（または止めぬい）を行った後、ミシンが停止し、糸を切ります。



① スタート／ストップスイッチを押した地点

② （返しぬいスイッチ）または （止めぬいスイッチ）を押した地点

③ ここで糸が切れる。

自動押え上下機能

押えを自動的に上下させるように設定をすることで、よりスムーズにぬうことができます。

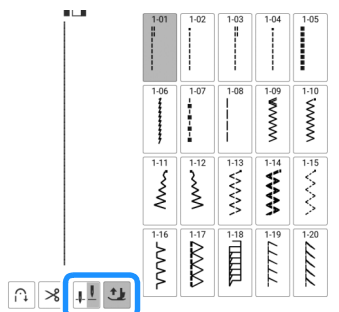
 を押して、設定画面の[自動押え上下]を表示します。



- ① オンに設定した場合、スタート／ストップスイッチを押すか、フットコントローラーを踏むと、押えが上がっている場合は、自動的に押えを下げてぬい始めます。
- ② オンに設定した場合、（糸切りスイッチ）を押すと、押えが上がっている場合は、自動的に押えを下げて糸を切ります。糸切り後に押えが上がりません。

自動押え上げ機能

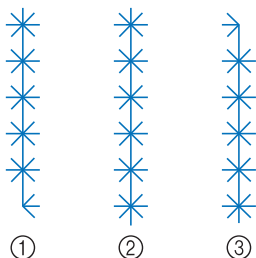
針位置がに設定されている場合、ピボットキーの代わりに自動上げキーが表示されます。自動上げキーがに設定されている場合、マシンが止まると押えと針が自動的に上がります。



模様の先頭に戻る

ぬっている途中でマシンを停止したときに、模様を先頭に戻すことができます。この機能は、試しぬいの後や、模様が正しくぬわれなかったときに役立ちます。

縫製を再開する前に、を押してからを押すと、模様の先頭に戻ります。



- ① 縫製を止める
- ② 縫製を再開する (を押した場合。)
- ③ 縫製を再開する (を押していない場合。)

文字／飾り模様を編集する

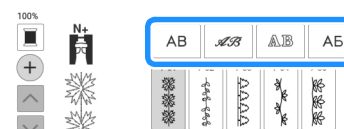
■ いろいろな模様を組み合わせる
例：



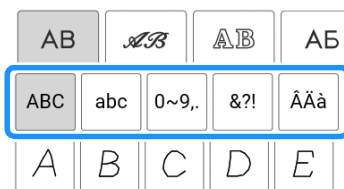
- 1  を選択して  を押すと、表示が  になります。



- 2 フォントを選択します。

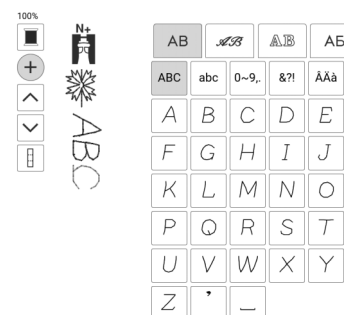


- 3 タブを押して、文字の種類を選択します。

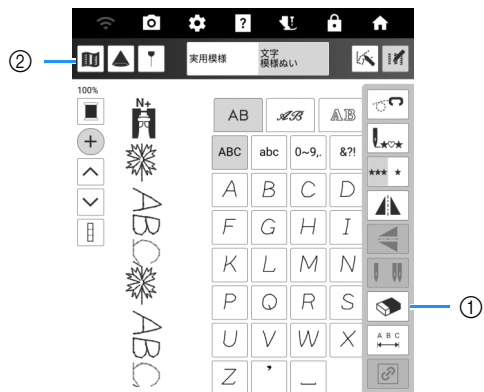


- 4 文字を入力します。

* スペースを入力するときは、 を押します。



- 5 連続ぬいにしたいときは、を押してから
を押してにします。



- ① を押すと、入力した最後の模様が削除されます。他の模様を削除するときは、またはを押して模様を選択してから、を押します。
- ② 組み合わせた模様の全体のイメージを表示することができます。

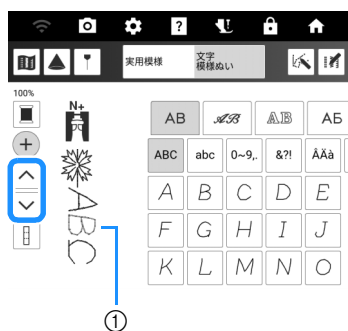
お知らせ

- ぬい終わったら、文字間の余分な糸を切り取ってください。



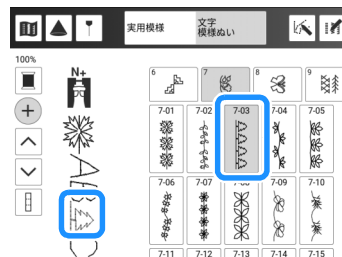
■ 模様を挿入する

- 1 またはを押して、挿入したい箇所の前にある模様を選択します。



- ① 選択された模様

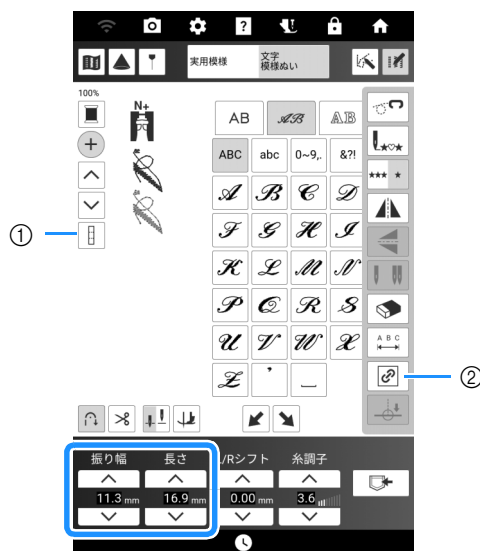
- 2 挿入したい模様を選択します。



→ 1 で選択した模様の直後に新しく挿入されます。

■ 模様の変更

模様を選んでからまたはを押し、振り幅とぬい目の長さを変えます。



- ① 全選択オン/オフキーをにしたときは、すべての模様の変更ができます。



- ② 縦横比維持キーをにしたときは、縦横比を維持しながらぬい模様のサイズを変更できます。



模様の設定

振り幅／ぬい目の長さ／[L/R シフト] を設定する

模様を選択すると、適切な模様設定が自動的に選択されます。この設定は、必要に応じて変更することができます。

🔧 お問い合わせ

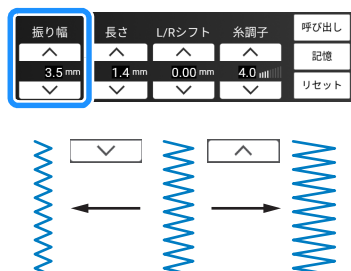
- 振り幅または L/R シフトを調節した後は、プーリーをゆっくりと手前（反時計回り）に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。

📖 お知らせ

- [リセット] を押すと設定が初期設定に戻ります。
- 設定を変更できない模様もあります。
- 模様の設定を記憶しないで (P. 61)、ミシンの電源スイッチを切ったり、他の模様を選択すると、初期設定に戻ります。

■ 振り幅を調節する

□[△] または □[▽] を押して、振り幅を広げたり狭くしたりします。

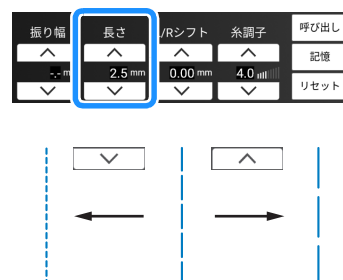


■ ぬい目の長さを調節する

□[△] または □[▽] を押して、あらく（長く）したり細く（短く）したりします。

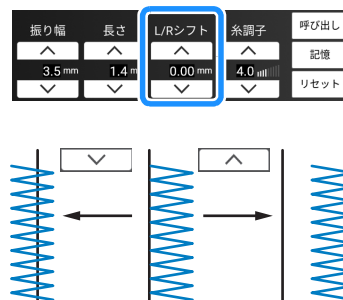
重要

- ぬい目がつまる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目がつまった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



■ [L/R シフト] を設定する

□[△] または □[▽] を押して、模様を左右に動かして位置を変更します。



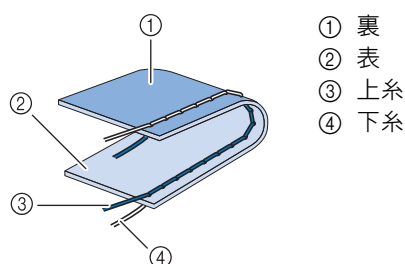
糸調子を調節する

布地や糸の種類に合わせて、糸調子を調節します。

振り幅	長さ	L/Rシフト	糸調子	呼び出し
△	△	△	△	記憶
1.5 mm	2.5 mm	0.00 mm	4.0 μm	リセット
▽	▽	▽	▽	

正しい糸調子

上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。



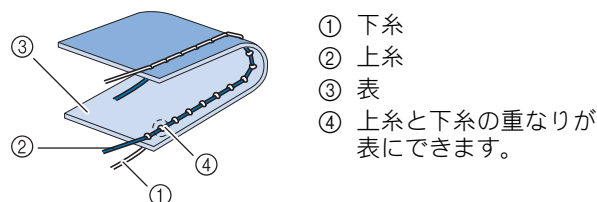
お知らせ

- 飾り模様やサテンステッチは布地の裏に上糸が少し出ることがあります。

上糸が強すぎる場合

下糸が布地の表に出る場合は、上糸の糸調子が強すぎます。

▽を押すごとに、上糸が弱くなります。



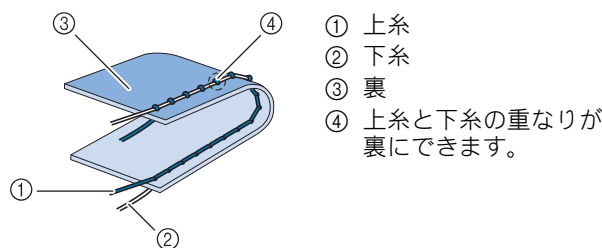
お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなる場合があります。下糸のセットをやり直してください。(P. 38)

上糸が弱すぎる場合

上糸が布地の裏に出る場合は、上糸の糸調子が弱すぎます。

△を押すごとに、上糸が強くなります。



お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなる場合があります。上糸通しをやり直してください。(P. 40)

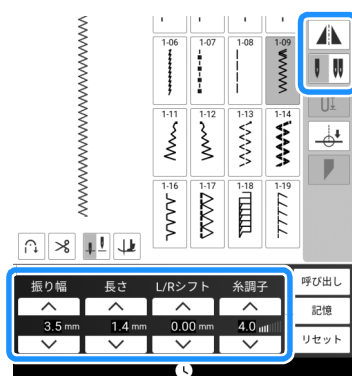
実用ぬい設定を記憶する

反転、2本針、振り幅、ぬい目の長さ、L/Rシフト、糸調子などの設定は、模様ごとに保存できます。

■ 模様の設定を記憶する

1 模様を選びます。

2 設定を変更します。



3 [記憶] を押します。



→ 設定が記憶され、自動的に元の画面に戻ります。

📖 お知らせ

- [リセット] を押した後に [記憶] を押すと、選択した模様の記憶済みの設定が初期設定に戻ります。
- 模様の設定がすでに 5 つ記憶されているときに、[記憶] を押すと、メッセージが表示されます。[OK] を押してメッセージを閉じ、P. 61 「記憶した設定を呼び出す」を参照して、[呼び出し] を押して設定を消去してください。再度 [記憶] を押すと、設定が記憶されます。

■ 記憶した設定を呼び出す

1 模様を選びます。

2 [呼び出し] を押します。

3 呼び出す設定の番号の付いたキーを押して、[呼び出し] を押します。

* [閉じる] を押すと、設定を呼び出さずに元の画面に戻ります。



① 番号の付いたキー

→ 選んだ設定が呼び出され、自動的に元の画面に戻ります。

📖 お知らせ

- [削除] を押すと、選択した番号の設定を消去します。
- [全削除] を押すと、記憶されている設定をすべて削除できます。

メモリー機能を使う（文字・模様ぬい）

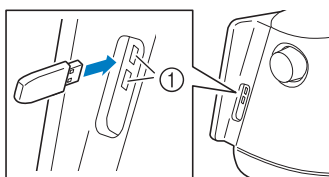
文字／飾り模様を保存する

よく使う模様を、ミシンのメモリーまたは USB メディアに保存できます。

1 を押します。



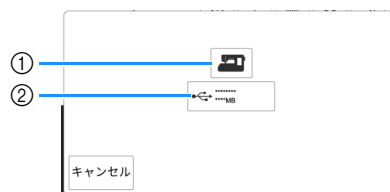
2 USB メディアに模様を保存する場合は、USB メディアをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。



① USB ポートコネクタ

3 保存先を選択し、保存します。

- * USB メディアが 2 つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。



- ① ミシンのメモリーに保存します。
- ② USB メディアに保存します。
模様は [bPocket] という名前のフォルダーに保存されます。

💡 お願い

- [記憶中...] の画面が表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

📄 お知らせ

- メモリー機能については、P. 269 「仕様」を参照してください。

模様を呼び出す

ミシンのメモリーまたは USB メディアに保存された模様を呼び出します。

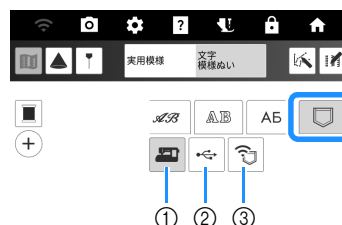
1 USB メディアから模様を呼び出す場合は、USB メディアをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。

- * 対応しているファイル拡張子について詳しくは、P. 269 「仕様」を参照してください。

2 を押して、保存先を押します。

この例では、 を押します。

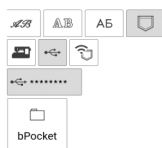
- * USB メディアが 2 つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。



- ① ミシンのメモリーから呼び出します。
- ② USB メディアから呼び出します。
- ③ 無線 LAN 経由で呼び出します。詳しくは、刺しゅう PRO（バージョン 11 以降）の取扱説明書を参照してください。

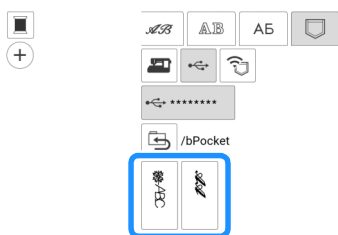
お知らせ

- 呼び出したい模様が USB メディア内のフォルダーにあるときは、フォルダーのキーを押してください。



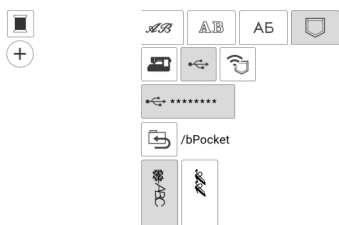
3 呼び出す模様のキーを押します。

- * を押すと、前の画面に戻ります。



お知らせ

- を押すと、保存した模様を削除したり、USB メディアからミシンのメモリーに保存したりすることができます。



- ① 画面に表示中のすべての模様を選択します。
- ② 選択した模様すべてを選択解除します。
- ③ 選択した模様を削除します。
- ④ 選択した模様をミシンのメモリーに保存します。

布地にガイドラインを映す

ガイドラインを設定する

ガイドライン機能で布地に映し出された線をたどると、縫製がしやすくなります。

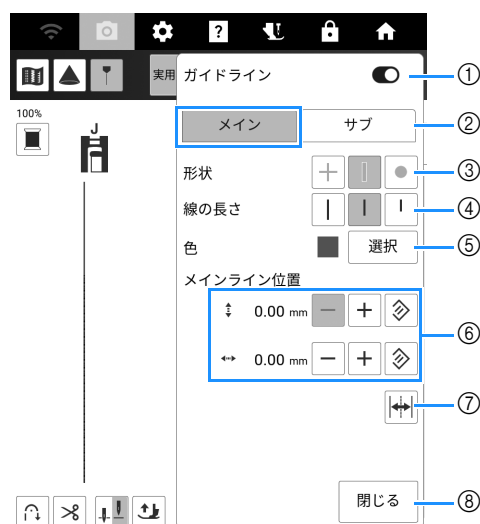
1 を押します。



→ ガイドライン設定画面が表示されます。

2 ガイドライン設定を行います。

■ メインライン



- ① ガイドライン機能のオン／オフを切り替えます。
- ② 設定を行うガイドラインを選択します。
- ③ ガイドラインマーカーの形状を十字、線または点から選択します。
- ④ メインラインの長さを選択します。
- ⑤ メインラインの色を選択します。
- ⑥ メインラインの位置を指定します。位置をリセットするときは、 を押します。
- ⑦ 針位置の中心を基準としてメインラインの位置を反転します。
- ⑧ ガイドライン設定を終了します。

■ サブライン

📖 お知らせ

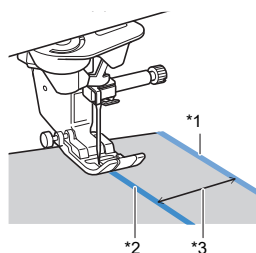
- 🔍 を押すと初期設定に戻ります。
- サブラインの位置はメインラインの位置が基準になります。メインラインとサブラインの間隔を変えずにガイドラインを動かしたいときは、メインラインの位置を変更してください。

□ サブライン |

直線のガイドラインが表示されます。



- ① サブラインの色を選択します。
- ② サブラインの位置（メインラインからの距離）を指定します。



- *1 サブライン
- *2 メインライン
- *3 [サブライン位置] (②) で指定した距離

□ サブライン 罫

格子状のラインが表示されます。



- ① サブラインの色を選択します。
- ② サブラインの格子の間隔を指定します。

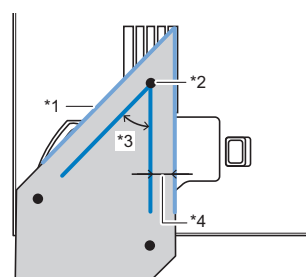
□ サブライン フ

角度のあるキルトピースをぬうためのガイドラインが表示されます。



- ① サブラインの色を選択します。
- ② サブラインの角度を指定します。(*3)
- ③ サブラインのぬいしろ幅を指定します。(*4)

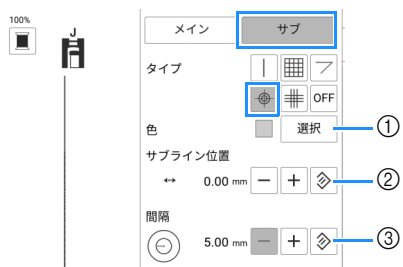
キルトピースを中表でぬい合わせる（ぬい始め位置ができあがり線の交点になる）場合



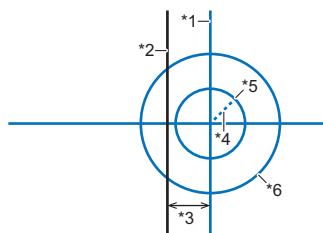
- *1 サブラインをキルトピースの端に合わせます。
- *2 メインラインの交点からぬい始めます。
- *3 [角度] (②) で指定した角度
- *4 [縫い代幅] (③) で指定した距離

□ サブライン

同心円が表示されます。



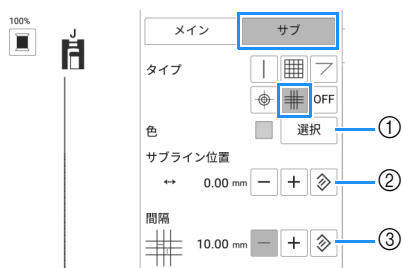
- ① サブラインの色を選択します。
- ② 同心円の位置（メインラインからの距離（*3））を指定します。
- ③ 同心円の間隔（*4）を指定します。



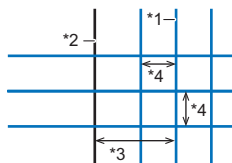
- *1 サブライン
- *2 メインライン
- *3 [サブライン位置] (②) で指定した距離
- *4 [間隔] (③) で指定した半径
- *5 半径が③で指定した長さの円
- *6 半径が③で指定した長さの2倍の円

□ サブライン

3本格子を表示します。



- ① サブラインの色を選択します。
- ② 3本格子の位置（メインラインからの距離（*3））を指定します。
- ③ 3本格子の間隔を指定します。



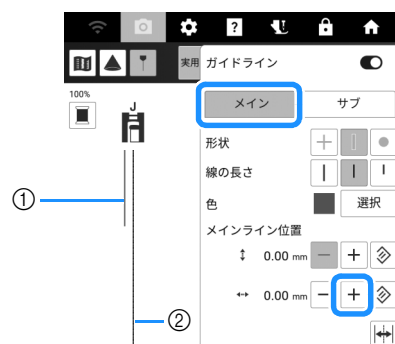
- *1 サブライン
- *2 メインライン
- *3 [サブライン位置] (②) で指定した距離
- *4 [間隔] (③) で指定した長さ

ガイドラインを使用したピーシング

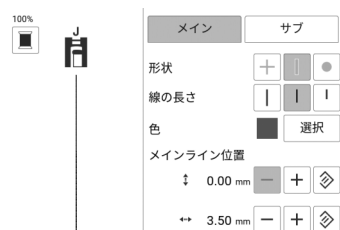
- 1 Q-01 [ピーシング直線 (中基線)] を選択し、を押します。
- 2 画面に表示されている模様と[メイン]のガイドライン位置が合っていることを確認します。

お知らせ

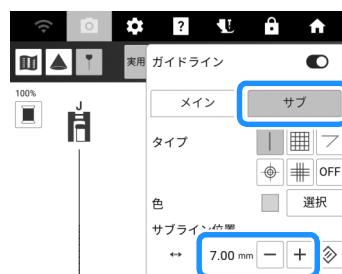
- ・設定画面の[基線切り替え]がに設定されている場合は、[メインライン位置]を3.50 mmに設定し、ガイドラインを模様の中基線に合わせます。



- ① メインガイドライン
- ② 模様



- 3 [サブ]の[サブライン位置]を7 mmに設定します。



- 4 [閉じる]を押します。
- 5 布端をサブラインに合わせ、布端から7 mmをぬいます。

* 詳しくは、P. 64「サブライン」を参照してください。

ボタン穴のガイドライン

■ ボタン穴を縦に並べる場合

- 1 ボタン穴かがり模様を選びます。ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付け、押えの台皿を引き出し、ボタンを挿入します。

* 詳しくは P. 85 「ボタン穴かがり」を参照してください。

- 2 を押します。

お知らせ

- ・ を押すと、選択した模様をガイドラインと一緒に投影することができます。(P. 69)

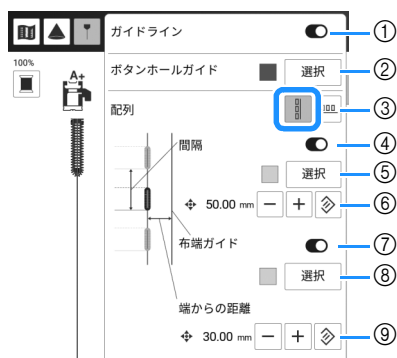
- 3  (押え上下スイッチ) を押して、ボタン穴かがり押え< A+ >を下げます。

→ ボタン穴の長さがガイドラインに反映されます。

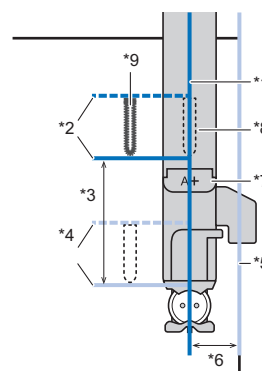
お知らせ

- ・ ボタン穴かがり押え< A+ >を下げると、ボタン穴の長さが投影に反映されます。

- 4 を押して、ガイドラインの設定を行います。



- ① ガイドライン機能のオン/オフを切り替えます。この機能をオンにすると、サブライン（*4、*5）もオンになり、メインライン（*1、*2）と共に映し出されます。
- ② メインラインの色を選択します（*1、*2）。
- ③ ボタン穴を配置する方向を切り替えます。
- ④ ボタン穴の間隔を示すサブライン（*4）のオン/オフを切り替えます。
- ⑤ サブライン（*4）の色を変更します。
- ⑥ ボタン穴の間隔（*3）を変更します。を押すと、間隔がリセットされます。
- ⑦ ボタン穴の中心線から布端までの距離を示すサブライン（*5）のオン/オフを切り替えます。
- ⑧ サブライン（*5）の色を変更します。
- ⑨ ボタン穴の中心線から布端までの距離（*6）を変更します。を押すと、間隔がリセットされます。

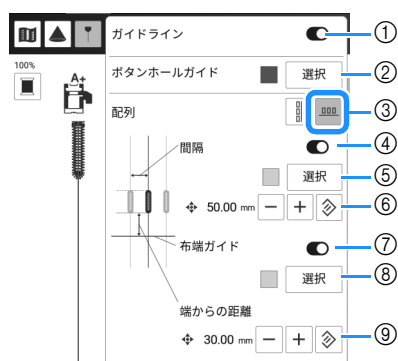


- *1 ボタン穴の中心線（メインライン）
- *2 ボタン穴の長さ（メインライン）
- *3 [間隔] (⑥) で指定したボタン穴の間隔
- *4 次にぬうボタン穴の位置（サブライン）
- *5 布端（サブライン）
- *6 [端からの距離] (⑨) で指定したボタン穴の中心線から布端までの距離
- *7 ボタン穴かがり押え< A+ >
- *8 これからぬうボタン穴の位置
- *9 を押すと、選択したボタン穴かがり模様が押えの横に投影されます。(P. 69)

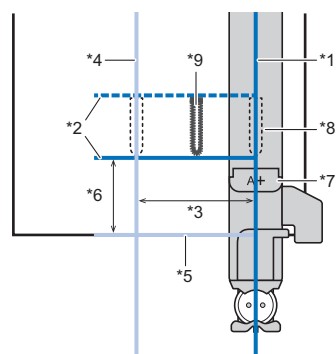
- 5 [閉じる]を押します。

■ ボタン穴を横に並べる場合

- 1 P. 66「ボタン穴を縦に並べる場合」の手順1～3に従ってください。
- 2 を押して、ガイドラインの設定を行います。



- ① ガイドライン機能のオン/オフを切り替えます。この機能をオンにすると、サブライン（*4、*5）もオンになり、メインライン（*1、*2）と共に映し出されます。
- ② メインラインの色を選択します（*1、*2）。
- ③ ボタン穴を配置する方向を切り替えます。
- ④ ボタン穴の間隔を示すサブライン（*4）のオン/オフを切り替えます。
- ⑤ サブライン（*4）の色を変更します。
- ⑥ ボタン穴の間隔（*3）を変更します。を押すと、間隔がリセットされます。
- ⑦ ボタン穴の下端から布端までの距離を示すサブライン（*5）のオン/オフを切り替えます。
- ⑧ サブラインの色（*5）を変更します。
- ⑨ ボタン穴の下端から布端までの距離（*6）を変更します。を押すと、間隔がリセットされます。



- *1 ボタン穴の中心線（メインライン）
- *2 ボタン穴の長さ（メインライン）
- *3 [間隔]（⑥）で指定したボタン穴の間隔
- *4 次にぬうボタン穴の中心線（サブライン）
- *5 布端（サブライン）
- *6 [端からの距離]（⑨）で指定したボタン穴の下端から布端までの距離
- *7 ボタン穴かがり押え< A+ >
- *8 これからぬうボタン穴の位置
- *9 を押すと、選択したボタン穴かがり模様が押えの横に投影されます。（P. 69）

- 3 [閉じる]を押します。

デュアルタッチペンでプロジェクターを操作する

デュアルタッチペンでプロジェクターを操作する

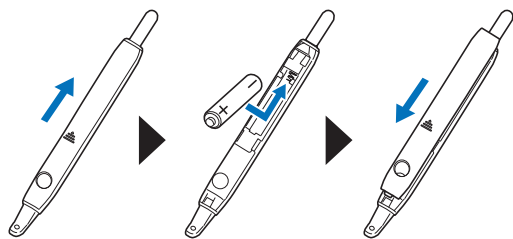
💡 お願い

- デュアルタッチペンを分解したり、改造したりしないでください。
- 電池を交換するときは、ピンセットや金属ペンなどの金属類を使用しないでください。

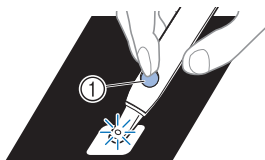
重要

- デュアルタッチペンを長期間使用しないときは、電池を取り外してください。

- 新品の単 4 アルカリ電池のマイナス (-) 面が上になるようにデュアルタッチペンに取り付けます。



- ボタンを押してデュアルタッチペンのライトを点灯します。



① ボタン

→ ミシンの内蔵カメラがデュアルタッチペンからの光を検出すると、デュアルタッチペンでプロジェクターを操作できます。

💡 お願い

- ミシンの内蔵カメラとデュアルタッチペンの発光部の間に手や布地、物などを置かないでください。内蔵カメラがデュアルタッチペンからの光を検出できない場合があります。

プロジェクターで模様を映す／編集する

プロジェクター機能で選択した模様を布地に映すことができます。

📖 お知らせ

- 本書に掲載されている映像のイラストはイメージです。実際の映像とは異なる場合があります。

- 模様を選択します。

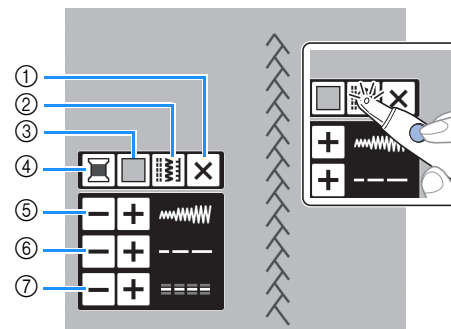
- ▲を押します。



→ 選択したぬい模様と調整キーが布地に映し出されます。

- デュアルタッチペンで操作したいキーの上に置き、ボタンを押してライトを点灯させます。

* ミシンの内蔵カメラがデュアルタッチペンからの光を検出すると、デュアルタッチペンでプロジェクターを操作できます。



- プロジェクターをオフします。
- 別の模様を選択します。(P. 69)
- [背景色]の設定を変更します。
- 糸色を変更します。
- 振り幅を設定します。
- ぬい目の長さを設定します。
- [L/R シフト]を設定します。

📖 お知らせ

- 設定画面で、投影時の背景色と実用模様のアウトラインの設定を変更できます。(P. 22)



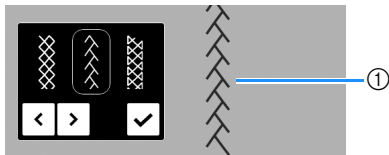
■ 模様を選択する

- 1 デュアルタッチペンのボタンを押して、の上でライトを点灯させます。

お知らせ

- 模様映し出されている間は、液晶画面で模様を選択することはできません。液晶画面から模様を選択するときは、画面の【キャンセル】を押してください。【キャンセル】を押すと、プロジェクターはオフになります。

- 2 の上でデュアルタッチペンのボタンを押し、模様を選択します。模様が表示されたら、の上でボタンを押します。



① 設定する模様

■ ボタン穴かがり押えを使用する模様を選択する場合

- 1 ボタン穴かがり模様を選びます。ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付け、押えの台皿を引き出し、ボタンを挿入します。

- * 詳しくは P. 85 「ボタン穴かがり」を参照してください。
- * かんどもめまたはつくろいぬい模様を選択した場合は、目盛りをぬいたい長さに合わせます。詳しくは、P. 91 「かんどもめ」および P. 91 「ダーニング（つくろいぬい）」を参照してください。

- 2 を押します。

→ 選択したぬい模様と調整キーが布地に映し出されます。

お知らせ

- ボタン穴かがり押え< A+ >の横に模様が映し出されます。
- 押えを下げると、調整キーは表示されなくなります。

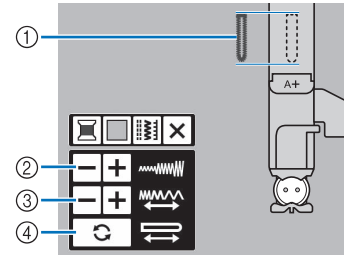
- 3  (押え上下スイッチ) を押して、ボタン穴かがり押え< A+ >を下げます。

→ ボタン穴の長さが映し出された模様に反映されます。

お知らせ

- ボタン穴かがり押え< A+ >を下げると、ボタン穴の長さが投影に反映されます。

- 4 必要に応じて、デュアルタッチペンを使って模様の変更をします。



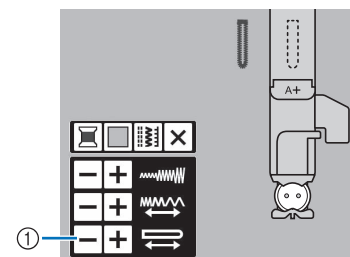
- ① 映し出されたボタン穴かがり模様
- ② 振り幅を設定します。
- ③ ぬい目の長さを設定します。
- ④ ボタン穴の長さは映像に反映されます。

お知らせ

- ボタン穴かがり押え< A+ >にボタンを入れなくても、、の順に押すと、【スリット】でボタン穴の長さを設定できるようになります。(P. 87)

振り幅	長さ	スリット	糸調子	呼び出し
5.0 mm	0.4 m	20 mm	4.0 mm	記憶
↓	↓	↓	↓	リセット

ボタン穴の長さを【スリット】で設定するときは下図のように調整キーが投影されます。



- ① ボタン穴の長さを設定します。

便利な機能

ピボット

ピボット機能を選択すると、ミシン停止時に針が下がり、押えが自動的に上がります。ミシンを止めて布地を回転するときに便利です。

▲ 注意

- ピボット設定が選択されている場合、スタート/ストップスイッチを押したり、フットコントローラーを踏み込むと、押えが上がっていてもミシンが作動します。事故を防ぐために、針の付近に手や物を近づけないように注意してください。

📖 お知らせ

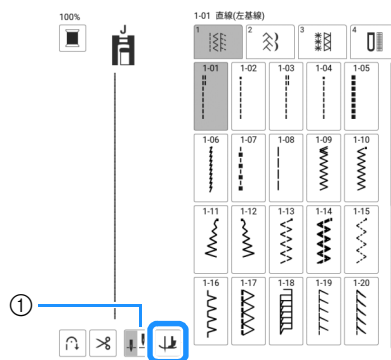
- 縫製を止めたときの押えの高さを変更することができます。🔧を押して設定画面の[ピボット押え高さ]を表示し、高さを選択します。



1 模様を選びます。

2 ⏴を押して、ピボット設定を選択します。

- * ピボット機能を使うときは、針位置を ⏴ に設定してください。



① 針位置設定キー

→ 表示が ⏴ に変わります。

📖 お知らせ

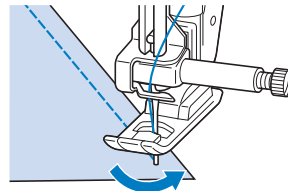
- 模様選択時に ⏴ が灰色で表示される場合は、ピボット機能は使用できません。

3 布地をぬい始めの位置に合わせて、スタート/ストップスイッチを押します。

4 方向を変える位置でスタート/ストップスイッチを押して、ミシンを止めます。

→ 針が布地にささった状態でミシンが止まります。このとき、押えは上がっています。

5 布地を回転して、スタート/ストップスイッチを押します。

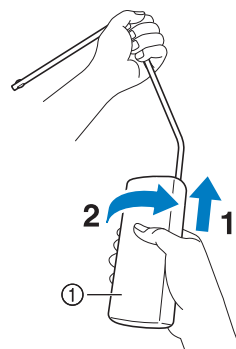


→ 押えが自動的に下がり、ぬい始めます。

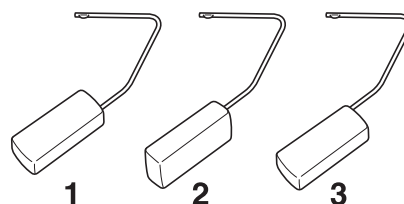
ニーリフターを使用する

ニーリフターを使うと、ひざで押えの上げ下げができ、両手が使え便利です。

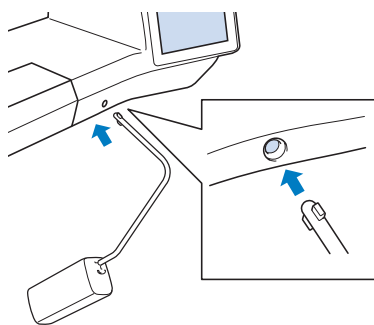
1 ニーリフターハンドルを少し上にスライドさせ、使いやすい角度までニーリフターのハンドルを回してください。



① ニーリフターのハンドル



- 2** ニーリフターの先端の突起部をミシン本体の前面にある差し込み口のミゾに合わせます。ニーリフターを奥まで差し込みます。



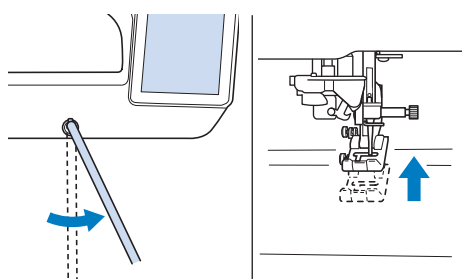
重要

- ニーリフターのハンドル部の角度変更は、ニーリフターがミシンに取り付けられていないときに行ってください。ニーリフターを取り付けたまま角度変更した場合、ミシン本体の前面にある差し込み口が破損するおそれがあります。

お知らせ

- ニーリフターは差し込み口の奥までしっかりと差し込んでください。正しく差し込まれていないと、使用中に外れることがあります。

- 3** 押えを上げるときは、ニーリフターをひざで右に押します。押えを下げるときは、ニーリフターからひざを離します。



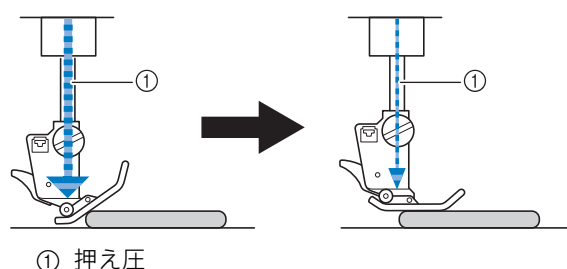
お願い

- 縫製中は、ニーリフターにひざが触れないように注意してください。

自動押え圧補正

縫製中、内蔵センサーが布地の厚さを自動検出し、押え圧を自動補正します。そのため、布地をスムーズに送ることができます。押え圧の補正はぬっているあいだ続きます。厚地の布 (P. 76) やキルト生地 (P. 109) をぬう場合、この機能は便利です。

⚙️を押してから、[自動押え圧補正]をオンに設定します。(P. 20)



ぬいながら振り幅を変更する

スピードコントロールレバーで振り幅を調節することにより、微妙に振り幅を変化させながら模様をぬうことができます。この機能が設定されているときは、フットコントローラーを使用してぬいます。

- 1** フットコントローラーを取り付けます。(P. 51)

- 2**  を選択し、ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 3** [長さ]のを押して、ぬい目を細かくします。

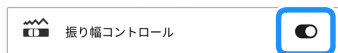
振り幅	長さ	L/Rシフト	糸調子	呼び出し
3.50 mm	0.00 mm	4.0 mm	記憶	リセット

お知らせ

- ぬい目の長さを 0.3 ~ 0.5 mm に設定すると、きれいなサテン模様になります (ぬい目の設定は、布地の種類や糸の太さによって異なります)。

4 を押して[振り幅コントロール]を表示します。

5 [振り幅コントロール]をオンにします。



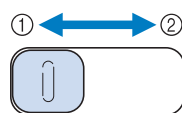
6 [OK]を押します。

→ 画面が以下ようになります。

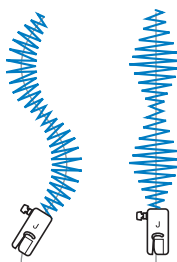


7 縫製中に、スピードコントロールレバーをスライドさせて振り幅を調節します。

* フットコントローラーでぬう速さを調節します。



① 狭くなる
② 広くなる



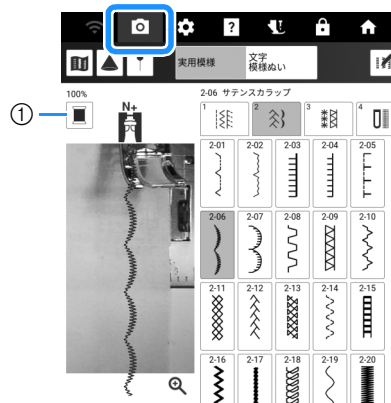
8 ぬい終わったら、[振り幅コントロール]をオフにします。

画面で針位置を確認する

実際にぬう布地に模様を表示して、縫製のイメージを画面で確認することができます。

1 模様を選択し、を押します。

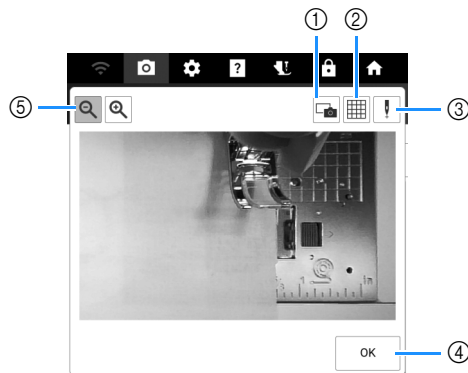
→ 選択した模様とセットされている布地が表示されます。



① 画面に表示される糸色を変更します。

2 表示されたイメージまたはを押します。

→ カメラビューウィンドウが表示されます。



① カメラの映像を USB メディアに保存するときに押します。

ミシンに USB メディアを差し込み、カメラの映像を保存します。(P. 11)

② 画面にグリッドを表示するときに押します。

③ 押えを下げてから、を押すと針落ち位置が「+」で画面に表示されます。

* 布地を動かすときは、一度押えを上げてから動かし、再度下げてください。

④ ウィンドウを閉じます。

⑤ を押すと、拡大表示されます。を押すと、元の表示サイズに戻ります。

お知らせ

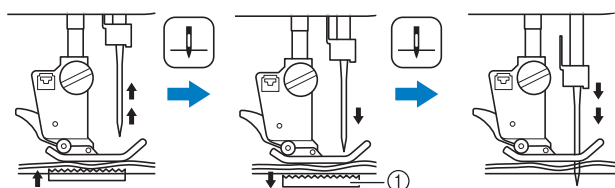
- もう一度  を押すと、カメラの映像は消えます。
- ぬい始めるとカメラの映像は表示されません。
- 画面で表示される針落ち位置は実際に針が落ちる位置と異なることがあります。その場合は、カメラの針位置を設定を行うと問題が解決する場合があります。詳しくは、P. 255 「カメラ／プロジェクターの針位置調整」を参照してください。

針位置 - ぬい位置

 を押してから、[針位置 - ぬい位置] をオンに設定します。(P. 21)



[針位置 - ぬい位置] がオンになっている場合、ぬい始めの針位置を確認できるように針が布地の近くまで下がります。 (針上下スイッチ) を押すたびに針位置が変わります。



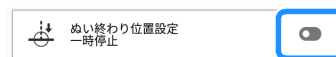
- ① 送り歯が下がります。このとき、布地を動かして針落ち位置を細かく合わせることができます。

ぬい終わり位置を設定する

お願い

- 実際に使用するものと同じ素材と模様を使用して、試しぬいをしてぬい上がりを確認してください。次のような場合、ミシンのぬい終わり位置がずれることがあります。
 - ぬい終わり設定シールが緩んでいる。
 - 布地がまっすぐにぬわれていない。
 - 送り時に布地を強く押しすぎた。
 - 厚地、キルティング生地、のびる布地、薄地など、ぬいにくい布地を使用した。

- 1 模様を選びます。
- 2  を押して、設定画面の [ぬい終わり位置設定一時停止] がオフになっていることを確認し、[OK] を押します。



- 3  を押して、[ガイドライン] をオンに設定します。選択した模様に合わせて、[メインライン位置] を設定します。その後、[閉じる] を押します。



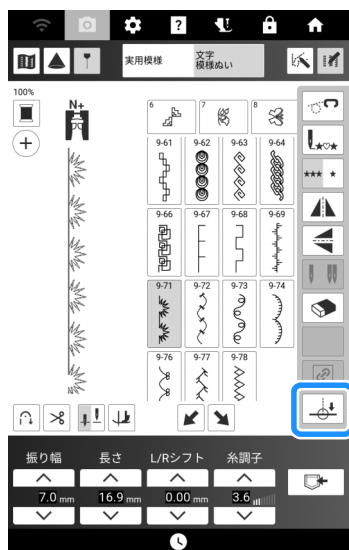
お知らせ

- [サブ] に  を選択すると格子状のラインが表示されます。

- 4  を押します。



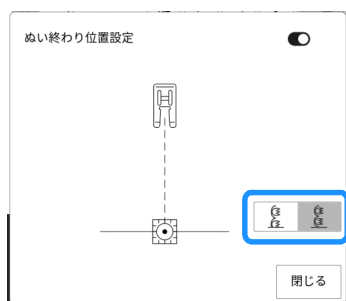
5 を押します。



お知らせ

-  が灰色で表示され、選択できない場合は、選択した模様のぬい終わり位置を設定できません。別の模様を選択してください。
- この機能の使用時は、自動止めぬい機能と自動糸切り機能は使用できません。

6 を押して、模様のぬい終わりを設定します。 選択後に [閉じる] を押します。



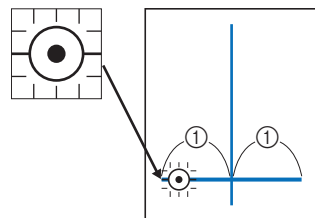
	模様の長さが調整され、設定したぬい終わり位置で縫製が止まり、模様が完成します。 このキーが灰色で表示され使用できない場合、この機能は使えません。この調整によって、模様が縦方向に少し伸縮してぬわれることがあります。	
	ぬい終わりは調整されません。ぬい終わりの位置に達すると、模様が完成していても、縫製は直ちに停止します。	

お知らせ

- [ぬい終わり位置設定] をオンに設定すると、模様はプロジェクターで映せません。
- [ぬい終わり位置設定] をキャンセルするときは、[ぬい終わり位置設定] をオフにしてから [閉じる] を押します。

7 チャコペンで布地に模様をぬう線（できあがり線）とぬい終わりの線を引きます。

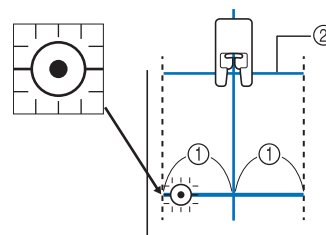
8 ぬう範囲を避けてぬい終わり設定シールを貼ります。チャコペンで引いたぬい終わり位置の左右 4 cm 以内にぬい終わり設定シールを貼ります。



① 4 cm

お知らせ

- ぬい終わり位置の左右どちらにも貼れる場合は、左側に貼ることをお勧めします。
- ぬい終わり設定シールはできるだけぬい終わり位置の近くに貼ることをお勧めします。
- ぬう範囲を避けてぬい終わり設定シールを貼れない場合は、P. 75 「一時停止設定」を参照してください。
- 針下の水平ガイドラインは、ぬい終わり設定シールを貼ることができる範囲を示しています。



① 4 cm

② ガイドライン

9 布地をミシンにセットし、押えを下げます。

お願い

- ぬう前に、ぬい終わり設定シールがはがれていないことを確認してください。また、ぬい終わり設定シールが手で覆われていないことを確認してください。ミシンがぬい終わり設定シールを検知できなくなります。

- 10** スタート／ストップスイッチを押して、ぬい始めます。フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。
ぬい目がまっすぐになるように、布地をゆっくりと送ります。

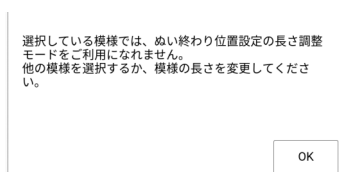
💡 **お願い**

- チャコペンで引いた線とガイドラインが合っていることを確認しながら、布を傾けないようにまっすぐにぬってください。
- 無理に布地を送らないでください。ミシンが設定したとおりに停止できなくなることがあります。

→ ミシンは設定したぬい終わり位置で自動的に停止します。

📖 **お知らせ**

- **6** で   に設定したときに、模様調整できなかった場合は、次のメッセージが表示されます。[ぬい終わり位置設定]をキャンセルして、別の模様を選択するか、模様の長さを変更します。



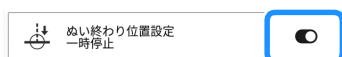
- 11** ぬい終わり設定シールをはがします。

■ **一時停止設定**

ぬう範囲を避けてぬい終わり設定シールを貼ることができない場合は、縫製を一時停止する設定に変更することで、ぬい終わり設定シールに近づくとステッカーをはがせるようにすることができます。

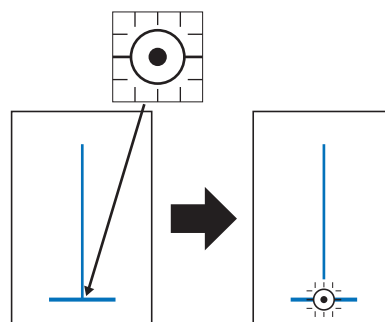
- 1** 模様を選びます。

- 2**  を押して、設定画面の [ぬい終わり位置設定一時停止] をオンに設定し、[OK] を押します。



- 3** P. 73 「ぬい終わり位置を設定する」の手順 **3** ～ **6** を行います。

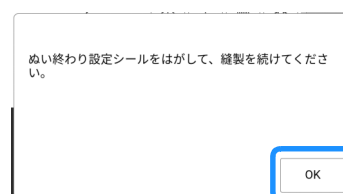
- 4** チャコペンで布地に模様をぬう線（できあがり線）とぬい終わりの線を引き、ぬい終わり設定シールを貼ります。



- 5** P. 73 「ぬい終わり位置を設定する」の手順 **9** ～ **10** を行います。

→ 針がシールに近づくとミシンが停止し、次のメッセージが表示されます。

- 6** ぬい終わり設定シールをはがし、[OK] を押します。



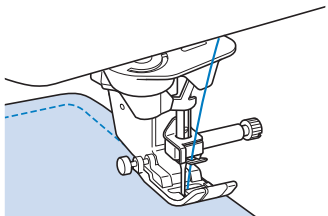
- 7** もう一度スタート／ストップスイッチを押します。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。
→ 模様をぬい終わると、ミシンは停止します。

上手にぬうコツ

ぬい方のコツ

■ カーブをぬう

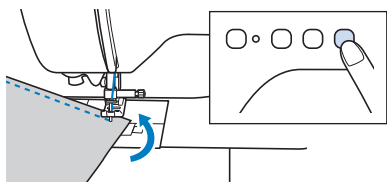
ぬい目を布端と平行になるように、ミシンを止めて少しずつ布地の向きを変えながらぬいます。



ぬい目の長さを少し短めに設定すると、きれいなぬい目ができます。ぬい目が布端と平行になるように少しずつ布地の向きを変えながら、ゆっくりとぬいます。

■ ぬい方向を変える

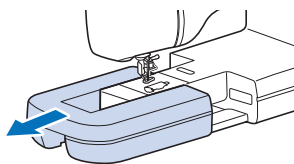
方向を変える位置でミシンを止めます。針を布に刺したまま、 (押え上下スイッチ) を押して押えを上げます。針を軸にして布地を回し、ぬい方向を変えます。 (押え上下スイッチ) を押して、押えを下げてぬいます。



ぬい方向を変えるときは、ピボット機能を有効にしておくと便利です。(P. 70)

■ 筒ものをぬう

補助テーブルを取り外すと、フリーアームでぬうことができ、袖口やズボンの裾など、筒状のものをぬいやすくなります。

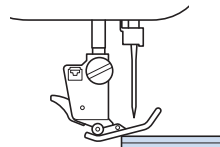


いろいろな布地をぬう

◇ お願い

- P. 32「布地と糸の種類による針の使い分け」を参照して、作品で使用するものと同じ布地に試しぬいをしてください。布地の枚数や模様に合わせて糸調子や振り幅、ぬい目の長さを調節しながら、仕上がりを確認してください。

■ 厚い布地をぬう



▲ 注意

- 無理に布地を押し込まないでください。針が折れけがをするおそれがあります。

◇ お知らせ

- 厚い布地ほど太い針を使用してください。(P. 32)

□ 押えの下に布地が入らない場合

布地が押えの下にスムーズに入らない場合は、2つの方法を試してください。

方法1：押えの高さを設定画面で変更する。(P. 20)

方法2：押えレバーをさらに押し上げて、押えもう一段上げて、布地を押えの下に入れる。

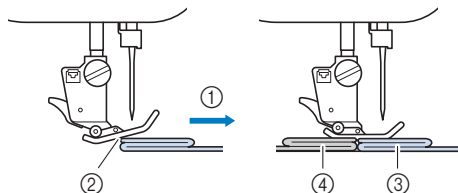
◇ お知らせ

-  (押え上下スイッチ) を押して押えを上げた後は、押えレバーは使用できません。

□ 布地が送られない場合

デニムやキルト生地のような厚い布地をぬう場合、押えが水平でないとぬい始めに布地が送れないことがあります。この場合、ジグザグ押え<J>の押え固定ピン（左側の黒いスイッチ）を使って押えを水平に保ちながらぬうことで、布送りがスムーズになります。

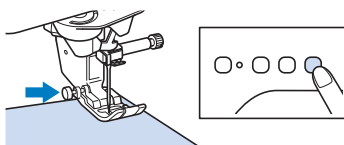
押えのずれが大きい場合は、押えのかかとの下に厚紙や布地（ぬう布地と同じ厚さのもの）を敷くとスムーズにぬい始められます。



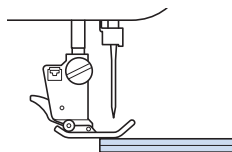
- ① ぬう方向
- ② ずれ
- ③ ぬう布地
- ④ 布地または厚紙

1 押えを上げます。

2 ジグザグ押え<J>の左側にある黒いボタンを押したまま、（押え上下スイッチ）を押して押えを下げます。



3 ボタンから手を離します。



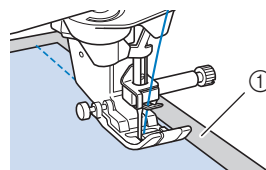
→ 押えが水平になり、布が送られます。ぬい進めると押えはもとに戻ります。

📖 お知らせ

- 設定画面で【自動押え圧補正】（自動押え圧補正）をオンにすると、センサーが布地の厚さを自動的に読み取ります。スムーズに布送りができ、きれいに仕上げるができます。（P. 71）

■ 薄い布地をぬう

アイロンスプレーのりを使ってアイロンをかけたり、布地の下にハترون紙などの薄い紙、または刺しゅう用の芯をしいてぬうと、ぬいやすくなります。紙や芯をしく場合は、ぬい終わった後にていねいに取り除きます。



① ハترون紙など

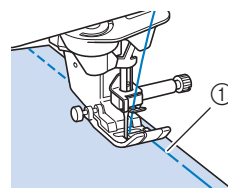
■ 伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。ぬい目がずれている場合は、不織布の水溶性シートを布地の下に敷き、ぬい合わせます。

また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。

📖 お知らせ

- 伸びる布地は、押え圧を弱くするときれいに仕上がります。



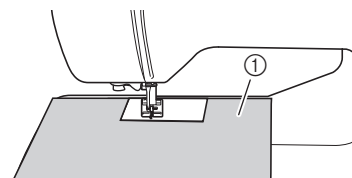
① しつけ

■ 皮革またはビニール生地をぬう

皮革やビニール生地など、押えに貼りつきやすい布地をぬう場合は、押えをデュアルフィードに交換してください。（P. 47）

皮革やビニール生地が補助テーブルに貼りつく場合は、コピー用紙やトレーシングペーパーを補助テーブルの上に置いてぬうと、布地がスムーズに動きます。

針板にかからないように紙を置くと、紙は布と一緒にぬわれません。



① コピー用紙またはトレーシングペーパー

■ 面ファスナー（マジックテープ®）をぬう

▲ 注意

- 面ファスナーを細い針（9～11番）でぬうと、針が折れてけがをするおそれがあります。

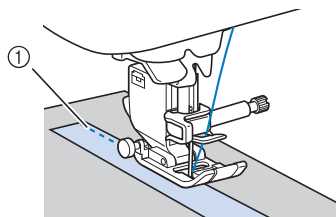
重要

- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。

👉 お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

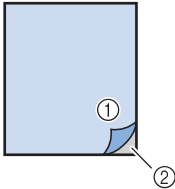
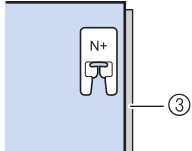
プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認します。面ファスナーの端を低速でぬいます。針が通らない場合は、厚地用の針に交換してください。（P. 32）



① 面ファスナーの端

文字／飾り模様をぬう

次の表で、布地／針／糸の適切な組み合わせをご確認ください。

布地	伸びる布地、薄地、織りのあらい布地は、裏面に別売の接着芯を貼ってください。接着芯を貼りたくないときは、ハترون紙などの薄い紙を布地の下に敷いてぬってください。   ① 布地 ② 接着芯 ③ 薄い紙
糸	50～60番
針	薄地、普通地、のびる布地：ニット用針（金）11番 厚地：家庭用ミシン針（HA×1）14番
押え	模様ぬい押え＜N+＞ 他の押えを使用すると、きれいに仕上がらないことがあります。

第3章 いろいろなぬい方

3

いろいろなぬい方

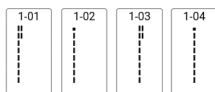
実用模様

⚠ 注意

- 押えを交換するときは、必ず **U** を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックしてください。ロックされていない状態で、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをすることがあります。押えの交換について詳しくは、P. 46 「押えを交換する」を参照してください。

直線ぬい

1 模様を選びます。



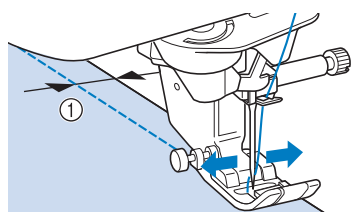
- * 模様について詳しくは、P. 271 「ぬい方早見表」を参照してください。

2 縫製します。

- * 詳しくは P. 49 「基本のぬい方」を参照してください。
- * 必要に応じて、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいまたは止めぬいをします。(P. 53)

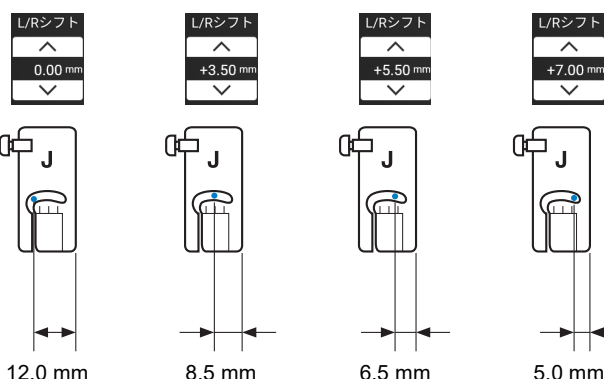
針位置を変更する

直線ぬいの場合、[L/R シフト] の **▽** または **△** を押して針位置を左右に移動させることができます。押えの右端から針までの距離を L/R シフトで合わせ、押えの端を布端に合わせながらぬうときれいな仕上がりになります。



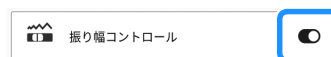
① L/R シフト

振り幅	長さ	L/Rシフト	糸調子	呼び出し
△	△	△	△	記憶
2.5 mm	2.5 mm	0.00 mm	4.0 mm	リセット
▽	▽	▽	▽	



📖 お知らせ

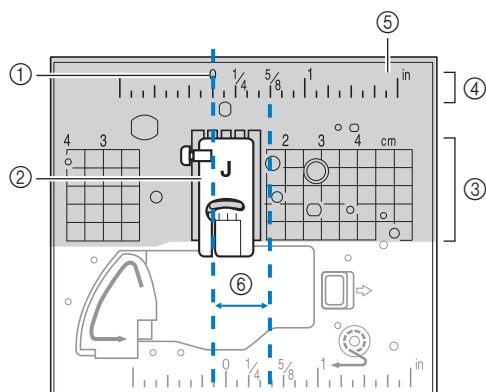
- L/R シフト機能を使用する場合、Q-01 の模様は使用できません。
- 設定画面の [振り幅コントロール] がオンに設定されている場合、直線ぬいの針位置をスピードコントロールレバーで変更できます。フットコントローラーでミシンを操作してください。



- ① 模様を左に動かします。
- ② 模様を右に動かします。

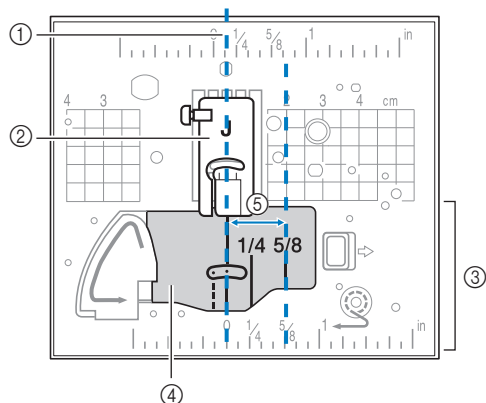
■ 布地を針板や針板ふた（マーク付）の印に合わせる

□ 左基線の模様の場合 (L/R シフト：0.00 mm)



- ① ぬい目
- ② 押え
- ③ センチ目盛り
- ④ インチ目盛り
- ⑤ 針板
- ⑥ 約 16 mm

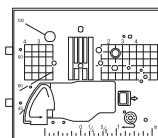
□ 中基線の模様の場合 (L/R シフト：3.50 mm)



- ① ぬい目
- ② 押え
- ③ インチ目盛り
- ④ 針板ふた（マーク付）
- ⑤ 約 16 mm

■ 直線針板と直線押えを使用する場合

直線針板および直線押えが使用できるのは、中基線の直線ぬいのみです。直線針板と直線押えは、薄地をぬうときや、普通の針板では針穴に引き込まれやすいような小さな布片をぬうときに使用してください。

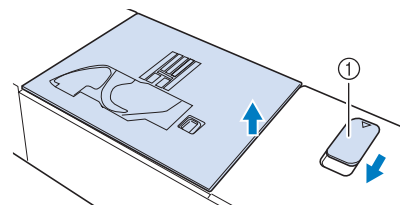


▲ 注意

- 直線押えは必ず直線針板と組み合わせて使用してください。針が折れ、けがをするおそれがあります。

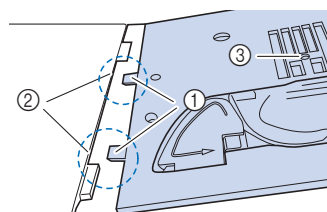
1 ミシンの電源を切ってから、針板を外します。

- * 詳しくは、P. 253 「かまの掃除」の手順 **1** ～ **6** を参照してください。



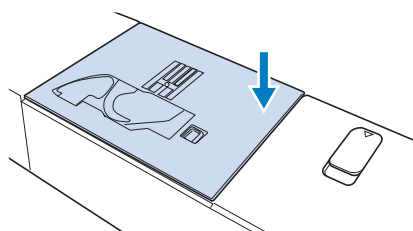
- ① 手前に引きます。
→ 針板が開きます。

2 直線針板の出っ張り部をミシンのミゾに入れます。



- ① 出っ張り部
- ② ミゾ
- ③ 丸い穴

3 直線針板の右側を押し下げて固定します。



4 必要に応じて、補助テーブルを取り付けます。

5 針と直線押えを取り付けます。(P. 34、P. 46)

6 直線ぬいの模様を選択します。

お知らせ

- 直線針板がミシンに取り付けられている場合は、直線針板でぬえる模様のみ選択できます。
- 直線針板がミシンに取り付けられている場合は、針が自動的に中基線に移動します。

お願い

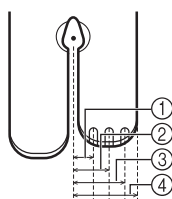
- ぬう前に、プーリーをゆっくりと手前（反時計回り）に回し、針が直線押えと直線針板に当たらないことを確認してください。

7 縫製します。

- ぬい終わった後は、必ずミシンの電源を切り、直線針板と直線押えを取り外してください。標準針板とジグザグ押え<J>を再度取り付けてください。

お知らせ

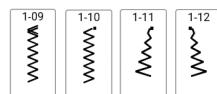
- 押えの目盛りをガイドとして使うこともできます。



- ① 2.25 mm
- ② 4.25 mm
- ③ 6.25 mm
- ④ 8.5 mm

ジグザグぬい

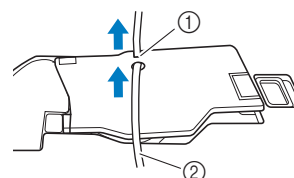
ジグザグぬいは、たち目かがり (P. 82) やアップリケ (P. 105)、パッチワークなどいろいろな用途に使えて便利です。模様について詳しくは、P. 271「ぬい方早見表」を参照してください。



■ コードガイドふたを使用する

1 ミシンから針板ふたを外します。(P. 38)

2 図のように、コードガイドふたの穴に芯ひもを通します。



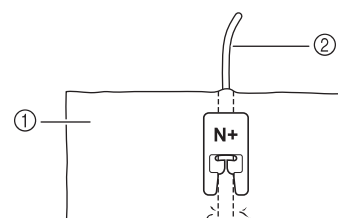
- ① ミゾ
- ② 芯ひも

3 コードガイドふたを取り付け、芯ひもがスムーズに送られることを確認します。

4 ジグザグの振り幅を2.0 mm～2.5 mmに設定します。

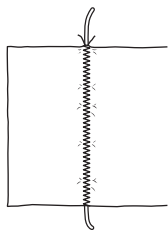
5 模様ぬい押え<N+>を取り付けます。

6 芯ひもを、押えの下にくるようにミシンの後ろ側へ引き出します。その上に布地の表面を上にして置きます。



- ① 布地 (表)
- ② 芯ひも

7 縫製し、飾り仕上げを行います。

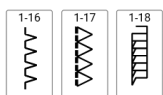


たち目かがり

裁断した布の端がほつれないように、たち目かがり処理をします。
模様について詳しくは、P. 271「ぬい方早見表」を参照してください。

■ たち目かがり押え<G>を使用する

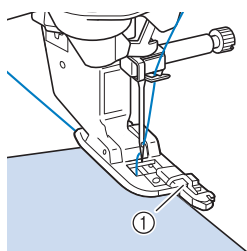
- 1 模様を選び、たち目かがり押え<G>を取り付けます。



▲ 注意

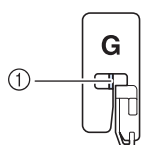
- ・ たち目かがり押え<G>を使用する場合は、たち目かがり押え<G>で使用できる模様を選択してください。使用できない模様をぬうと、針が押えに当たり、折れてけがをするおそれがあります。

- 2 押えのガイドに布端を当て、押えを下げます。



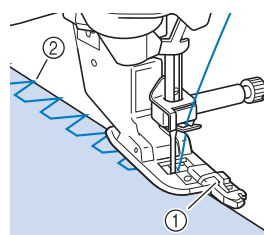
① ガイド

- 3 プーリーを手前に（反時計回り）回します。針が押えに当たらないことを確認してください。



① 針が押えのピンに当たらないように注意してください。

- 4 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。



① ガイド
② 針落ち位置

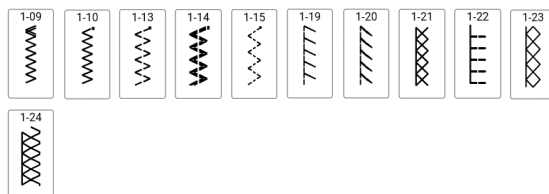
- 5 ぬい終わったらスタート/ストップスイッチを押してミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

重要

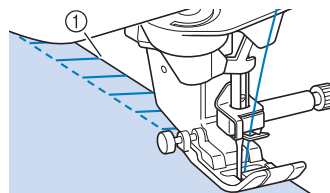
- ・ ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。
- ・ 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えを上げると、押えが破損するおそれがあります。

■ ジグザグ押え<J>を使う

- 1 模様を選び、ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- 2 針が布端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。



① 針落ち位置

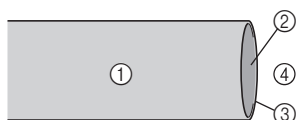
まつりぬい

スカートやズボンのすそをまつります。

お知らせ

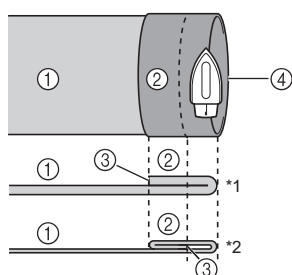
- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



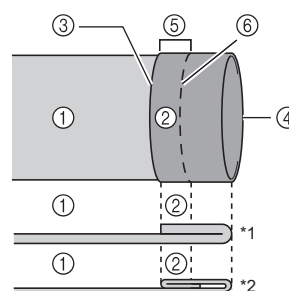
- ① 布地の裏
- ② 布地の表
- ③ 布端
- ④ すそ側

2 できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



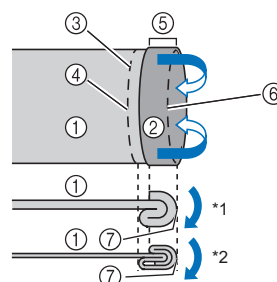
- ① 布地の裏
- ② 布地の表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- *1 厚い布地
- *2 普通地

3 布端から約5 mmのところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



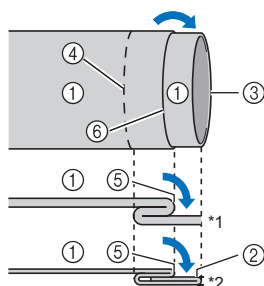
- ① 布地の裏
- ② 布地の表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5 mm
- ⑥ しつけ
- *1 厚い布地
- *2 普通地

4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



- ① 布地の裏
- ② 布地の表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5 mm
- ⑥ しつけ
- ⑦ しつけの位置
- *1 厚い布地
- *2 普通地

5 布端を開いて裏返します。

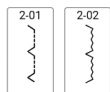


- ① 布地の裏
- ② 布地の表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ しつけの位置
- ⑥ しつけ
- *1 厚い布地
- *2 普通地

6 まつりぬい押え < R > を取り付けます。

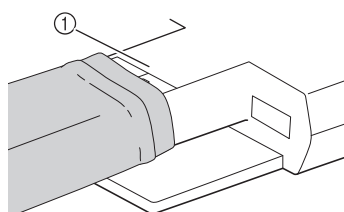


7 模様を選びます。



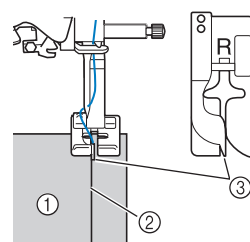
8 補助テーブルを取り外し、フリーアームが使えるようにします。

9 フリーアームに布地を入れ、布地が正しく送られることを確認します。



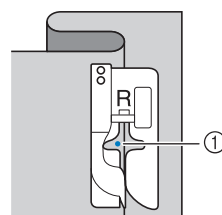
- ① フリーアーム

10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



- ① 布地の裏
- ② 折り山
- ③ ガイド

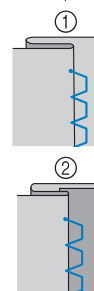
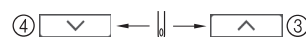
11 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が折り山に少しかかっていることを確認します。



- ① 針落ち位置

針落ち位置を変更するときは、針を上げてから振り幅を変更します。(振り幅はミリ単位やインチ単位で設定することはできません。)

振り幅	長さ	L/Rシフト	糸調子
00	2.0 mm	mm	4.0



- ① 厚い布地
- ② 普通地
- ③ 針が折り山のほうにかかりすぎている場合は、針落ち位置を右に移動させます。
- ④ 針が折り山にかかっていない場合は、針落ち位置を左に移動させます。

お知らせ

- ・ 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。針が折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりにません。

12 折り山に押えのガイドに沿わせてぬいます。

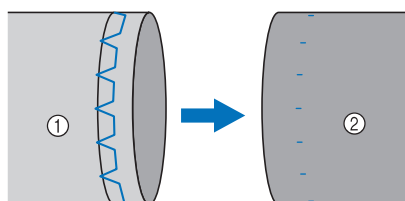
- * ぬい始めと終わりに止めぬいをすることをお勧めします。

13 ぬい終わったらスタート/ストップスイッチを押してミシンを止め、針と押えを上げて、押えの下にある布地をミシンの後ろに引いて取り出します。

重要

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどこし、布地を表に返します。



- ① 布地の裏
- ② 布地の表

ボタン穴かがり

お願い

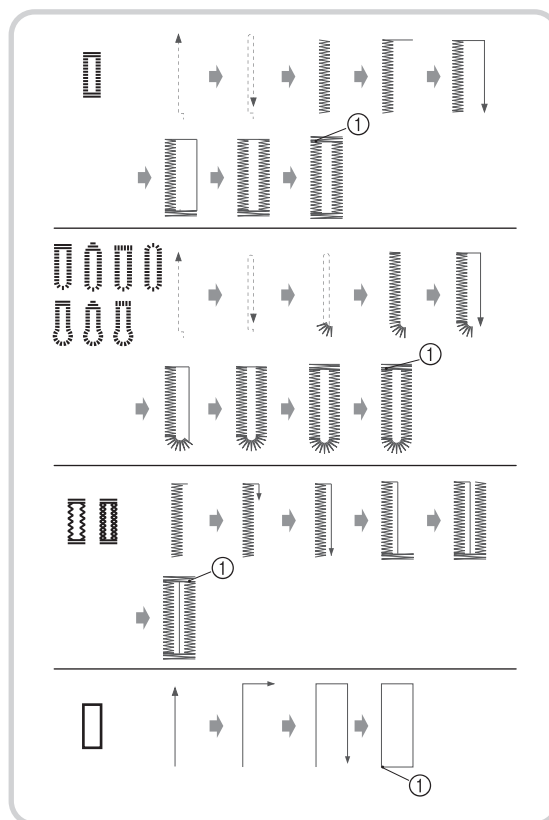
- ボタン穴かがり模様とガイドラインをプロジェクターで映すことができます。詳しくは以下を参照してください。
 - P. 68 「プロジェクターで模様を映す／編集する」
 - P. 66 「ボタン穴のガイドライン」

ボタンの大きさに合ったボタン穴かがりができます。

ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。

お知らせ

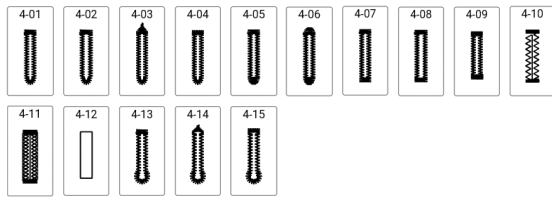
- 模様について詳しくは、P. 271 「ぬい方早見表」を参照してください。



- ① 止めぬい

1 ボタン穴かがり模様を選び、ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付けます。

ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。



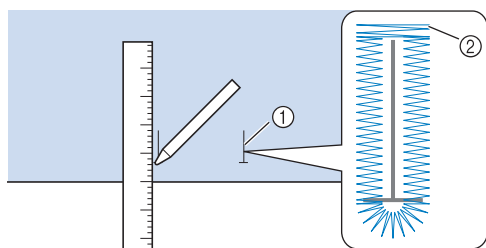
重要

- ボタン穴かがり押え< A+ >の取り付けおよび取り外しの際、押えに過度の力を加えないでください。押えが破損する可能性があります。また、ボタン穴かがり押え< A+ >を着脱するときは、針に当たらないように注意してください。

🔔 お願い

- 押えを取り付ける前に、ボビンに糸が十分あることを確認してください。
- P. 32「布地と糸の種類による針の使い分け」を参照して、作品で使用されているものと同じ布地に試しぬいをしてください。
- 内蔵カメラはボタン穴かがり押え< A+ >の位置を検出します。カメラに触れないでください。(P. 11「各部の名称」参照)
- ボタン穴かがり押え< A+ >から< A+ >のシールを剥がしたり、上糸などをシールの上にのせたりしないでください。カメラが押えを検出できなかったり、ボタン穴がぬえなかったりすることがあります。
- のびる布地をぬうときなど、布地が正しく送られない場合は、安定板を取り付けてください。(P. 88)

2 布地にボタンの穴の位置と長さのしるしをつけます。

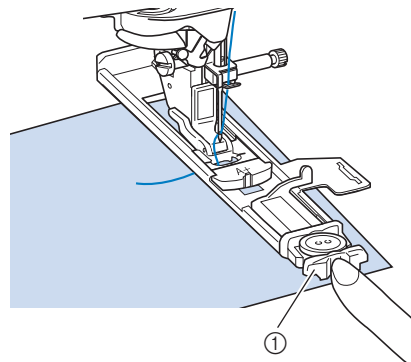


- ① 布地上のしるし
- ② できあがりのボタン穴かがり

📖 お知らせ

- ボタン穴の長さは最大で約 47 mm (ボタンの直径 + 厚み) です。

3 押えの台皿を引き出し、ボタン穴に通すボタンをのせます。ボタンにすき間がないように台皿を戻します。

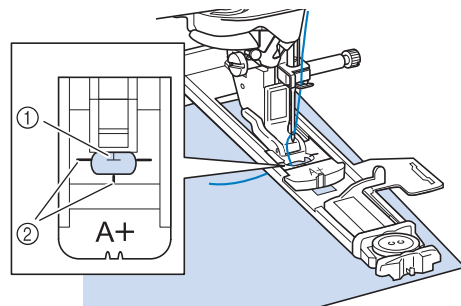


- ① 台皿

📖 お知らせ

- 台皿に入れたボタンの大きさによって、ボタン穴かがりの大きさが決まります。ボタンが台皿に収まらない場合は、P. 87 を参照してください。

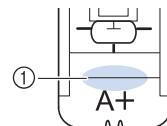
4 布地につけたしるしと押えのしるしを合わせ、押えを下げます。



- ① 布地のしるし
- ② 押えのしるし

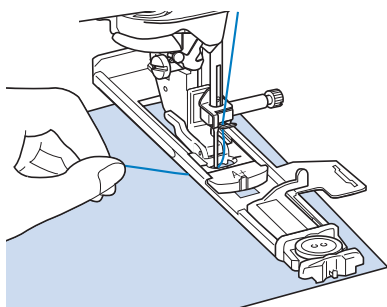
🔔 お願い

- 押えを下げた後、① にすき間がないことを確認してください。



5 上糸の端を軽く引っ張ってぬいます。

- * 布を手でゆっくり送りながら、ボタン穴かがりをしてください。



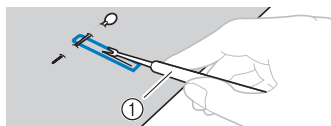
→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

6 (糸切りスイッチ) を1回押します。押えを上げて、布地を取り外します。

お知らせ

- はさみを使って糸を切る場合は、 (針上下スイッチ) を押して針を上げてから押えを上げ、布地を引き出してから糸を切ってください。

7 かんどめの内側にまち針を刺し、リッパーでボタン穴の中央に切り込みを入れます。



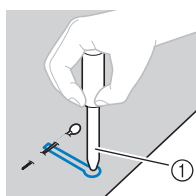
① リッパー

⚠ 注意

- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。

お知らせ

- はとめ穴の場合は、ボタン穴の丸い側にはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り込みを入れてください。

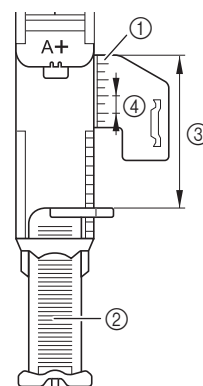


① はとめ穴パンチ

■ 変わった形のボタンの場合／ボタンが台皿にのらない場合

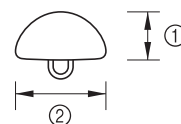
台皿の目盛りをでき上がり寸法 (ボタンの直径 + 厚み) に合わせてください。

押えスケールの長い印の間隔は 5 mm です。



- ① 押えスケール
- ② 台皿
- ③ でき上がり寸法 (ボタンの直径 + 厚み)
- ④ 5 mm

例：直径 15 mm、厚さ 10 mm のボタンの場合、スケールを 25 mm に合わせます。



- ① 10 mm
- ② 15 mm

□ ボタン穴の長さを調節する

台皿の目盛りを合わせる代わりに、でき上がり寸法を画面で設定することもできます。



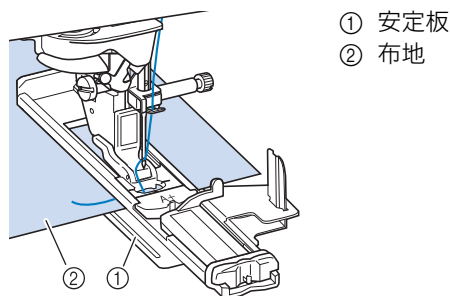
お知らせ

- プロジェクターを起動し、デュアルタッチペンでボタン穴の長さを調節することもできます。(P. 68)

■ 布地が正しく送られない

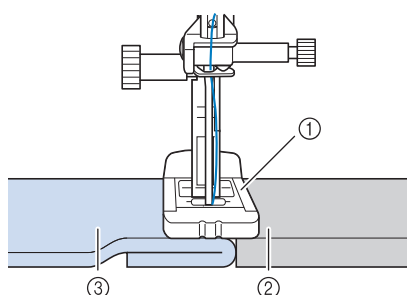
布地が送られないときは、ぬい目をあらくしてください。

厚い布地やのびる布地をぬう場合など、ぬい目をあらくしても布地が正しく送られない場合は、安定板を取り付け、安定板とボタン穴かがり押え < A+ > の間で布地を送ります。はじめに、安定板を押えに取り付けてから、押えを押えホルダーに取り付けてください。



■ 厚い布地をぬう

布または紙を折りたたんだものを布地の横に置いて、ボタン穴かがり押えが水平になるようにすると、安定して布を送ることができます。



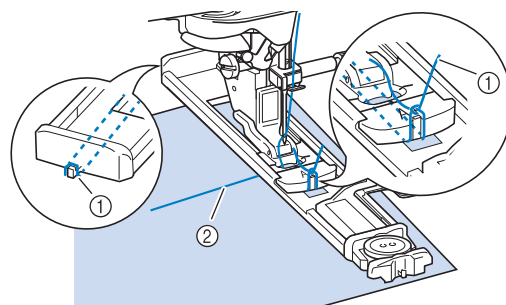
■ 伸びる布地をぬう

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、ボタン穴かがりに芯ひもを入れてください。

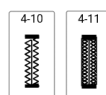
💡 お願い

- 布地の裏に接着芯を貼って、布地が伸びないようにしてください。

- 1 ボタン穴かがり押え < A+ > の後部のつのに芯ひもをひっかけます。芯ひもの端を押えのミゾにはさんで仮結びします。



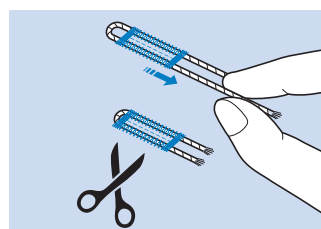
- 2 模様を選択してぬいます。



📖 お知らせ

- 振り幅を芯ひもの太さに合わせて調整します。

- 3 ぬい終わったら、芯ひもを軽く引いてぴんと張り、余分な部分を切り落とします。



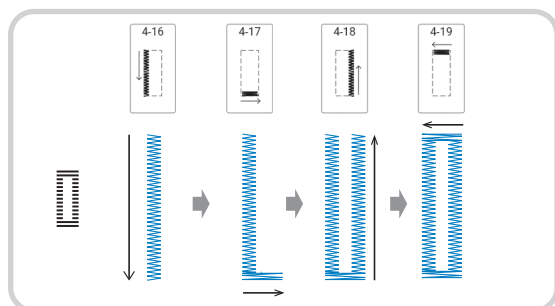
4 ステップ ボタン穴かがり

4 ステップ ボタン穴かがりを使うと、ボタン穴の長さを自由に決めて、ぬうことができます。

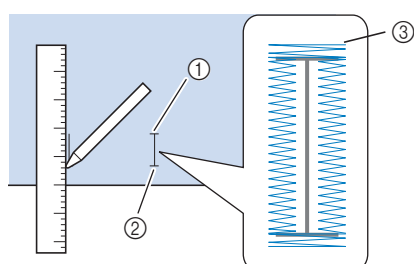
🔍 お問い合わせ

- 模様の設定を変更するときは、すべての模様の設定が同様に変更されていることを確認してください。

4 ステップ ボタン穴かがりは、以下のようにぬいます。



- 1 布地にボタンの穴の位置と長さのしるしをつけます。



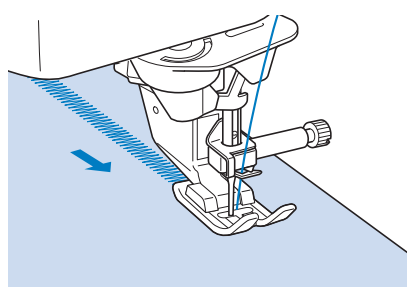
- ① ぬい始め位置
- ② ぬい終わり位置
- ③ できあがりのボタン穴かがり

- 2 模様ぬい押え< N+ >を取り付け、ボタン穴

の左側をぬうために  を選択します。

- 3 スタート/ストップスイッチを押して、ぬい始めます。

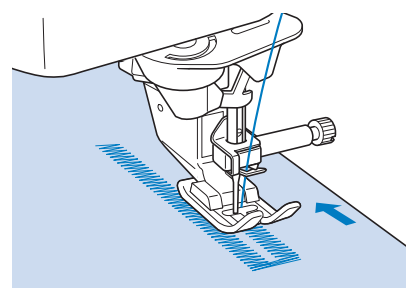
- 4 ぬい終わり位置までぬったら、スタート/ストップスイッチを押して、ミシンを止めます。



- 5 かんどめをぬうために  を選択して、スタート/ストップスイッチを押します。

→ かんどめをぬった後、ミシンは自動的に止まります。

- 6 ボタン穴の右側をぬうために  を選択して、スタート/ストップスイッチを押します。



- 7 ボタン穴の右側をぬったら、スタート/ストップスイッチを押して、ミシンを止めます。

* ボタン穴の右側を左側と同じ長さだけぬってください。

- 8 かんどめをぬうために  を選択して、スタート/ストップスイッチを押します。

→ かんどめをぬった後、ミシンは自動的に止まります。

- 9 押えを上げて、布地を取り除きます。

- 10 P. 85「ボタン穴かがり」の手順 7 を参照して、ボタン穴に切り込みを入れます。

3

いろいろなぬい方

ボタンつけ

このミシンでは、2 つ穴または 4 つ穴のボタンつけができます。

💡 お願い

- ボタンつけをするときは自動糸切り機能を使用しないでください。糸の始末ができなくなります。

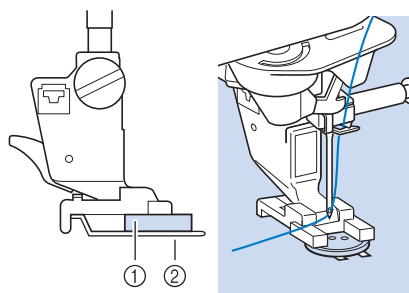
1 ー を選択します。



→ 自動的に送り歯が下がります。

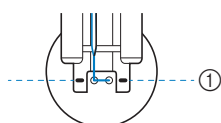
2 押えを上げます。

3 ボタン付け押え< M >を取り付け、ボタンを金属板に沿って押えにはさんで、押えを下げます。



- ① ボタン
- ② 金属板

4 プーリーを手前（反時計回り）に回し、針が正しく左右のボタン穴に入ることを確かめます。



- ① ボタンの穴をボタン付け押え< M >の印に合わせます。
- * 針が穴に入らない場合は、模様の振り幅を調節してください。

5 上糸の端を軽く持ってぬいます。

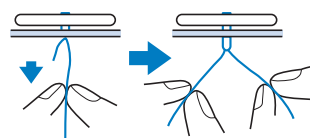
→ ぬい終わるとミシンは自動的に止まります。

- * ボタンつけの操作を 2 回繰り返すと、ボタンがしっかり付きます。

重要

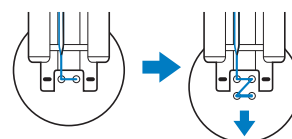
- ぬうときには、ボタンに針が当たらないように注意してください。

6 裏から下糸の端を引っ張って上糸を引き出します。2 本の糸の端を結び、余分な糸を切ります。



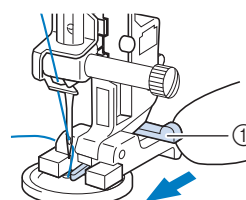
■ 4 つ穴ボタンをつけるときは

手前の 2 つの穴からボタンつけをします。ぬい終わったら押えを上げ、針が次の 2 つ穴に入るように布を移動し、同様にぬいます。



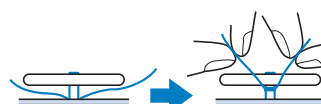
■ ボタン足をつけるときは

1 めう前に、足レバーを手前に押します。



- ① 足レバー

2 ぬい終わったら、上糸を長めに切り、ボタンと布地の間に巻きつけ、ぬい始めの上糸と結びます。



3 ぬい始めとぬい終わりの下糸の両端を布地の裏側で結びます。

4 余分な糸を切ります。

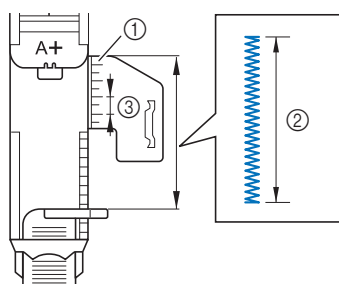
かんどめ

かんどめは、ポケット口など、力のかかる部分を補強するときに使います。

1  を選びます。

2 ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付け、目盛りをかんどめの長さに合わせます。

ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

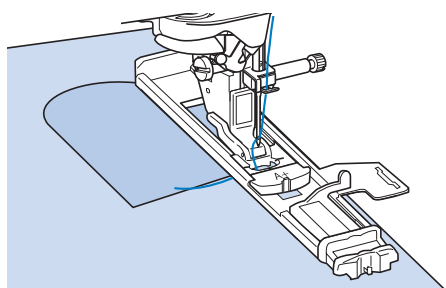


- ① 押えスケール
- ② できあがり寸法
- ③ 5 mm

お知らせ

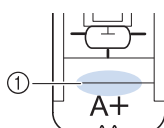
- ボタン穴かがり押えでかんどめの長さを設定する代わりに、画面上で設定できます。(P. 87)

3 ポケット口が手前にくるように布地を置きます。

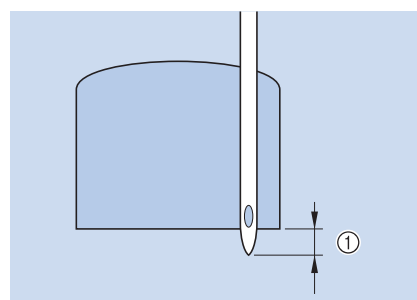


お願い

- 押えを下げた後、① にすき間がないことを確認してください。



4 最初の針落ち位置を確認して押えを下げます。



① 2 mm

5 上糸の端を軽く引っ張ってぬいます。

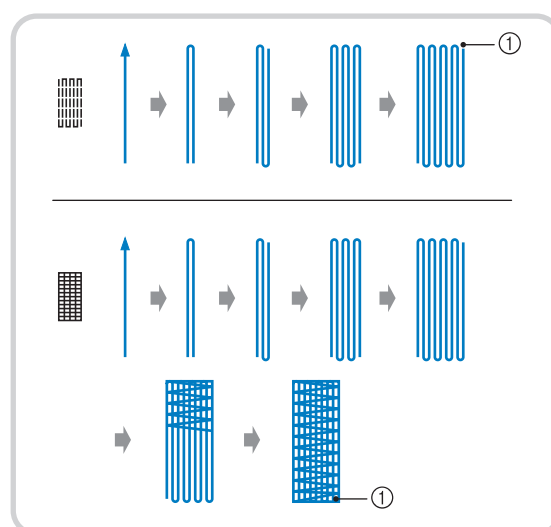
→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

お知らせ

- 布地が送られないとき（たとえば、布地が厚すぎるとき）は、P. 88「厚い布地をぬう」を参照してください。

ダーニング（つくろいぬい）

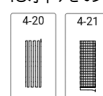
ダーニングは補修などに使います。ダーニングぬいは、下図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。



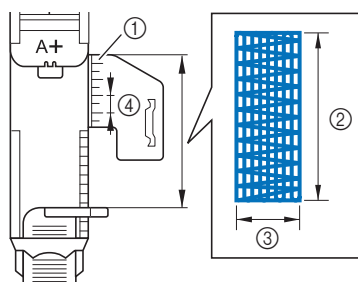
① 止めぬい

1 模様を選び、ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付けます。

ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。



- 2** 押えスケールの目盛りを、つくろいぬいの長さに合わせます。

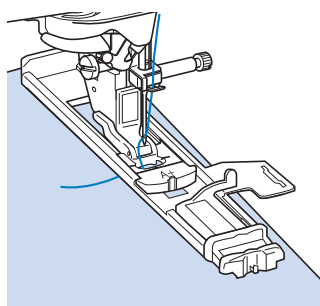


- ① 押えスケール
- ② できあがり寸法
- ③ 7 mm 幅
- ④ 5 mm

📖 お知らせ

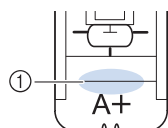
- ボタン穴かがり押えでつくろいぬいの長さを設定する代わりに、画面上で設定できます。(P. 87)

- 3** つくろいぬいを始める位置に針が落ちることを確認して、上糸を押えの下に送り、押えを下げます。



💡 お願い

- 押えを下げた後、① にすき間がないことを確認してください。



- 4** 上糸の端を軽く引っ張って、スタート/ストップスイッチを押し、ぬいます。

→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

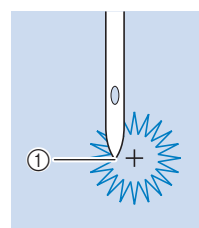
アイレット (はとめ穴)

アイレットはベルトの穴かがりなどに使います。

- 1**  または  を選択します。

- 2**  を選択する場合は、振り幅またはぬい目の長さを調節して、アイレットの大きさを選びます。(P. 59)

- 3** 模様ぬい押え < N+ > を取り付け、プーリーを手前 (反時計回り) に回して針落ち位置を確認します。



- ① 針落ち位置

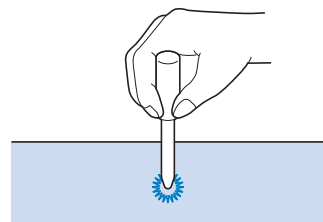
- 4** 押えを下げてぬいます。

→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

💡 お願い

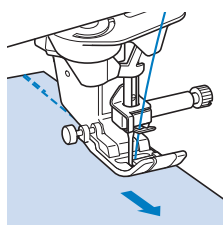
- きれいに仕上がらない場合は、P. 103 「模様を調整する」を参照して調節を行ってください。

- 5** はとめ穴パンチでぬい模様の中央に穴をあけます。



しつけぬい

- 1-08 を選択し、ジグザグ押え<J>を取り付けます。
- ぬう前に、下糸を引き上げて上糸と合わせ、ミシンの後方へ引き出します。(P. 39)
* ぬい目をきれいにするために、両方の糸端を持ったままぬい始めてください。
- 必要に応じて、 (返しぬいスイッチ) または  (止めぬいスイッチ) を押し続けて止めぬいを4針ぬいます。その後、スタート/ストップスイッチを押して縫製を続けます。
- 布地をまっすぐに保ちながらぬいます。



- 5 必要に応じて、ぬい終わりに止めぬいをします。

■ ステッチレギュレーターを使ったしつけぬい

ステッチレギュレーターを使用すると、設定したぬい目の長さでフリーモーションしつけぬいができます。詳しくは、P. 112「ステッチレギュレーターを使って、フリーモーションキルト/しつけぬいをする」を参照してください。

■ フリーモーションしつけぬい

送り歯をさげることにより、布地を自由に動かしながらしつけをぬうことができます。

- S を押してから S-02 を選択します。
→ 押えがフリーモーションぬいに必要な高さに上がり、送り歯が下がります。
- 必要に応じて、 (返しぬいスイッチ) または  (止めぬいスイッチ) を押したままで、止めぬいを4針行います。

- 3 スタート/ストップスイッチを押して、ぬいます。針が上がっている間に、布地を次のぬい位置にスライドさせ、1針ぬいます。この操作を繰り返します。

📖 お知らせ

- マルチ機能フットコントローラーのサイドペダルが[1針ぬい]に設定すると、サイドペダルを使用して1針ぬいのしつけができます。(P. 51)

- 4 必要に応じて、ぬい終わりに止めぬいをします。

ファスナーつけ

■ つき合わせ

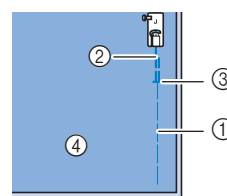
袋物などに使います。

- 1-03 を選択します。

💡 お願い

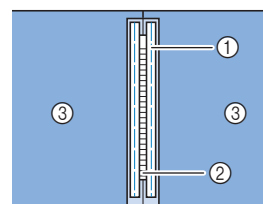
- 必ず直線（中基線）を選んでください。

- 2 ジグザグ押え<J>を取り付け、あき止まりまで直線でぬいます。あきの部分はしつけぬい (P. 93) をかけます。



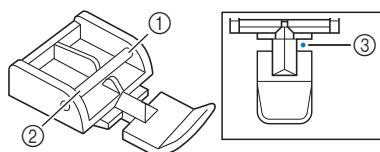
- ① しつけぬい
- ② 返しぬい
- ③ あき止まり
- ④ 布地の裏

- 3 ぬいしろを割り、図のようにぬい目とファスナーの中央を合わせ、しつけぬいでファスナーを付けます。



- ① しつけぬい
- ② ファスナー
- ③ 布地の裏

- 4** ジグザグ押え<J>を外します。片押え<I>の右側のピンを押えホルダーに合わせて取り付けます。

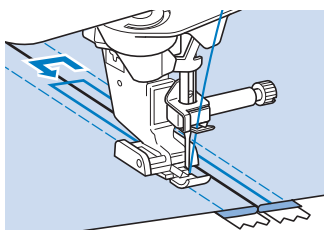


- ① 右側
② 左側
③ 針落ち位置

💡 お願い

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線（中基線）を使用してください。プーリーを手前（反時計周り）に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。

- 5** 表を上にして7～10 mmのぬいしろでぬい、ぬい終わったらしつけを外します。



▲ 注意

- ぬうときには、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れて、けがをするおそれがあります。

■ 脇あき

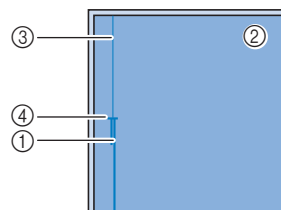
スカートやワンピースの脇あきに使います。

- 1**  を選択します。

💡 お願い

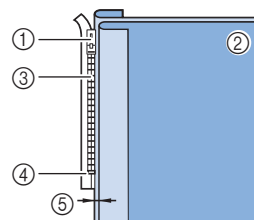
- 必ず直線（中基線）を選んでください。

- 2** ジグザグ押え<J>を取り付け、あき止まりまで直線でぬいます。あきの部分はしつけぬいをします。



- ① 返しぬい
② 布地の裏
③ しつけぬい
④ あき止まり

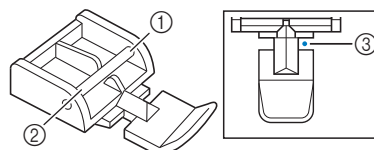
- 3** ぬいしろを割り、後ろスカート（後ろ身頃）のぬいしろを3 mm 出して折り山をファスナーのムシのきわに合わせます。



- ① スライダー
② 布地の裏
③ ムシ
④ あき止まり
⑤ 3 mm

- 4** ジグザグ押え<J>を外します。

- 5** 片押え<I>の右側のピンを押えホルダーに合わせて取り付けます。



- ① 右側
② 左側
③ 針落ち位置

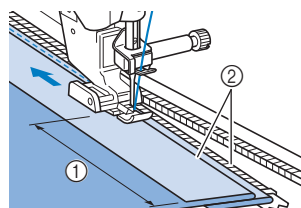
💡 お願い

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線（中基線）を使用してください。プーリーを手前（反時計周り）に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。

- 6** 3mm のぬいしろの中心に針が落ちるように布を置きます。

7 あき止まりからぬい始め、布の先端から 5 cm ほどのところまでぬい、ミシンを止めます。

8 スライダーを下げ、端までぬいます。

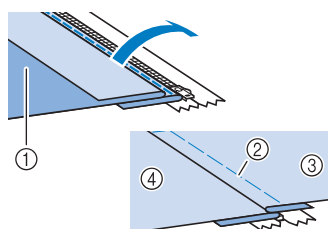


- ① 約 5 cm
- ② 3 mm

⚠ 注意

- ぬうときには、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れて、けがをするおそれがあります。

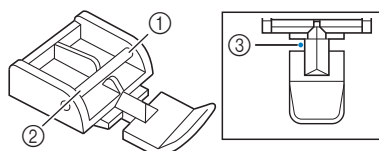
9 ファスナーを閉じて表に返し、しつけぬいをします。



- ① スカートの前身頃（裏）
- ② しつけぬい
- ③ スカートの前身頃（表）
- ④ スカートの後身頃（表）

10 押えを外し、押えの左側のピンを押えホルダーに合わせて付け替えます。

- * ファスナーの左側をぬうときには、針の位置は押えの右側に落ちるようにします。ファスナーの右側をぬうときには、針の位置は押えの左側に落ちるようにします。



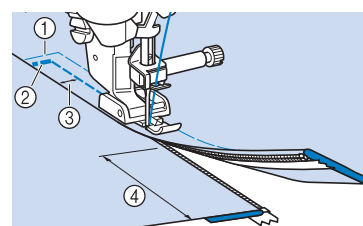
- ① 右側
- ② 左側
- ③ 針落ち位置

11 押えの左端に、ファスナーのムシがくるように布を置きます。

12 ファスナーの端まで返しぬいをし、ぬい続けます。

13 布端から 5 cm ほど手前までぬい、ミシンを止めます。針を布地に落としたまま、しつけを外します。

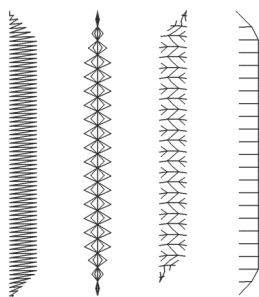
14 ファスナーを開け、端までぬいます。



- ① しつけぬい
- ② 返しぬい
- ③ 7 mm ~ 10 mm
- ④ 約 5 cm

テーパリング機能

模様のぬい始めとぬい終わりの角度を変えることができます。これは、鋭角の図形をぬうときや飾りぬい、アップリケの固定などに便利です。



用途に応じて、ぬい終わる方法を選びます。

- P. 96 「方法 1：返しぬいスイッチを押してぬい終わりの角度を変える」
- P. 98 「方法 2：指定した数の模様をぬう」
- P. 98 「方法 3：ぬい終わり設定シールでぬい終わり位置を設定する」

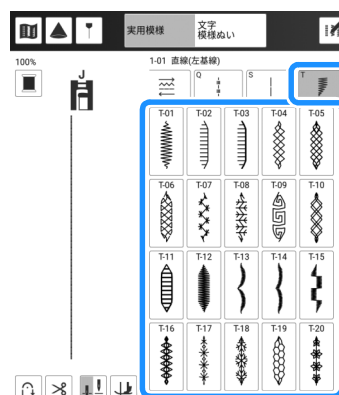
💡 お願い

- 実際に使用するものと同じ素材と模様を使用して、試しぬいをしてぬい上がりを確認してください。必要に応じて、布に接着芯を貼ってください。
- ぬい始めとぬい終わりに止めぬいが必要な場合は、 (止めぬいスイッチ) を使用します。

テーパリング機能がオンの場合、 (返しぬいスイッチ) を止めぬいに使用することはできません。

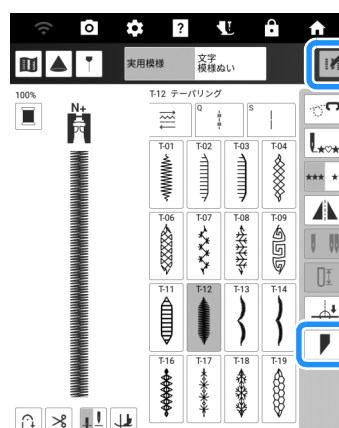
■ 方法 1：返しぬいスイッチを押してぬい終わりの角度を変える

- 1 [実用模様] を選択してから  を押し、テーパリングの模様を選択します。

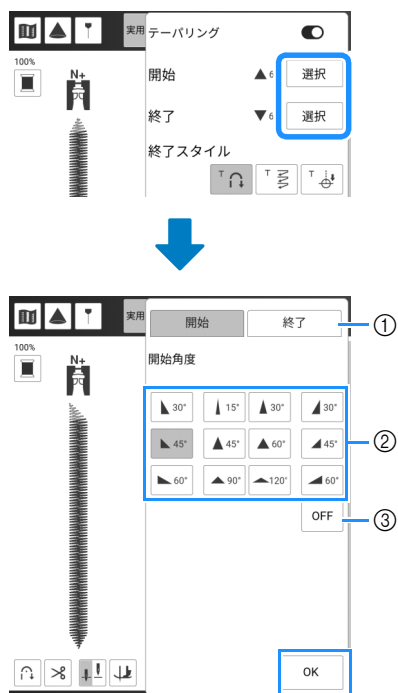


- 2 必要に応じて、振り幅とぬい目の長さを変更します。

- 3  を押してから  を押します。

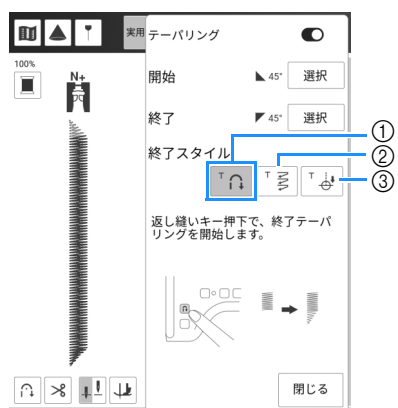


- 4 [選択] を押し、ぬい始めとぬい終わりの角度設定を選択し、[OK] を押します。



- ① ぬい始めまたはぬい終わりを選択します。
② 角度を選択します。
③ 角度を変えないように設定します。

- 5 終了スタイルを選択します。この例では、 (返しぬいスイッチ) を押したときにぬい終わりの角度変更を開始するために、 を選択します。



- ①  (返しぬいスイッチ) を押すとぬい終わりの角度が変わり始め、ぬい終わるとミシンが停止します。
② 指定した数の模様がぬい終わるとミシンが停止します。指定した模様の数には、角度を変えるために使用する模様の数も含まれます。(P. 98)
③ ぬい終わり設定シールを貼った位置でミシンが停止します。(P. 98)

- 6 必要に応じて、ぬう位置にチャコペンで線を引きます。

- 7 縫製を開始します。

- 8 必要な長さをぬったら、 (返しぬいスイッチ) を押します。

→  (返しぬいスイッチ) を押すと、ぬい終わりの角度変更が始まり、ぬい終わるとミシンが停止します。

お知らせ

- ぬい終わりの角度変更を開始する位置で、縫製を止めた場合 (スタート/ストップスイッチを押すか、フットコントローラーから足を離した場合) は、 (返しぬいスイッチ) を押し、スタート/ストップスイッチを押すか、フットコントローラーを踏むと縫製が再開します。縫製が再開されると同時にぬい終わりのテーパリングが開始されます。

- 9 ぬい終わったら、[テーパリング] をオフにしてから [閉じる] を押します。

3

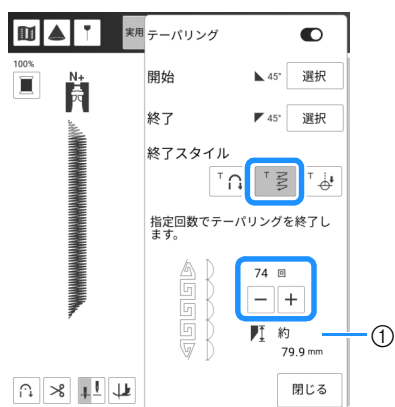
いろいろなぬい方

■ 方法 2：指定した数の模様をぬう

この方法では、模様（角度を変えるために使用する模様も含む）の数を指定します。指定することで、同じ長さの模様を繰り返しぬうことができます。

1 P. 96「方法 1：返しぬいスイッチを押してぬい終わりの角度を変える」の手順 **1**～**4**を参照して、ぬい始めとぬい終わりの角度設定を選択します。

2  を押して、模様の数（角度を変えるために使用する模様も含む）を指定します。



① 模様のおおよその長さ

📖 お知らせ

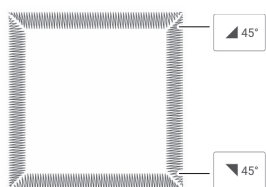
- 角度を変えるために使用する模様の数は、模様や角度によって異なります。試しぬいをして仕上がりを確認してください。

3 縫製します。

→ ぬい終わるとミシンは自動的に止まります。

📖 お知らせ

- 正方形にぬうときは、ぬい始めに  をぬい終わりに  を選択してから、辺をぬい終わるごとに布地を 90 度回転して、同じ模様をぬいます。ぬい方向を変えるときは、ピボット機能を有効にしておく便利です。（P. 70）



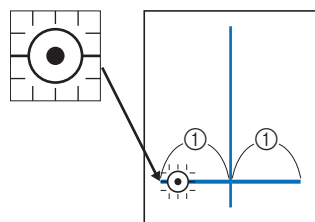
■ 方法 3：ぬい終わり設定シールでぬい終わり位置を設定する

💡 お願い

- 手順と注意事項については、P. 73「ぬい終わり位置を設定する」を参照してください。

1 チャコペンで布地に模様をぬう線（できあがり線）とぬい終わりの線を引きます。

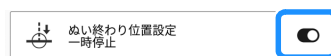
2 ぬう範囲を避けてぬい終わり設定シールを貼ります。チャコペンで引いたぬい終わり位置の左右 4 cm 以内にぬい終わり設定シールを貼ります。



① 4 cm

📖 お知らせ

- ぬう範囲を避けてぬい終わり設定シールを貼れない場合は、P. 75「一時停止設定」を参照してください。



3 P. 96「方法 1：返しぬいスイッチを押してぬい終わりの角度を変える」の手順 **1**～**4**を参照して、ぬい始めとぬい終わりの角度設定を選択します。

4  を押します。

- * キーが灰色で表示されているときは、この機能は選択したぬい目の長さで使うことができません。



① 自動止めぬい機能と自動糸切り機能は使用できません。

5 縫製を開始します。

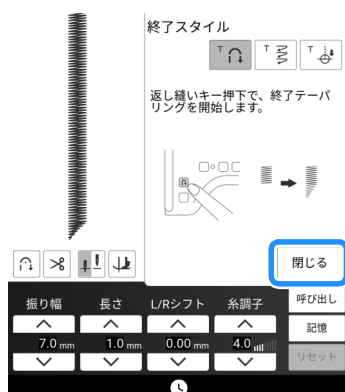
→ めい終わるとミシンは自動的に止まります。

6 めい終わり設定シールをはがします。

■ 設定を保存する

設定しためい始めとめい終わりの角度、終了スタイル、模様を設定をミシンのメモリーに保存できます。

1 テーパリング機能を設定したら、[閉じる]を押します。



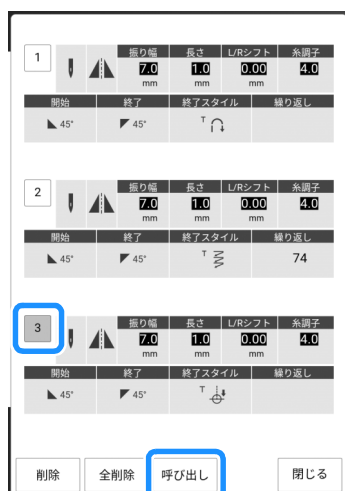
2 [記憶]を押します。

■ 保存した設定を呼び出す

1 模様を選択し、[呼び出し]を押して、保存した設定を呼び出します。

2 呼び出す設定の番号の付いたキーを押して、[呼び出し]を押します。

* テーパリング機能がオンに設定されている場合、設定を呼び出すことはできません。



📖 お知らせ

- 設定の保存と呼び出しについて詳しくは、P. 61「実用めい設定を記憶する」を参照してください。

カウチング

毛糸を使って、飾り模様をぬうことができます。

⚠ 注意

- 推奨する毛糸の太さは並太タイプ、または4番 (4mm) です。細すぎる毛糸や太すぎる毛糸、または特別な形状（平ら、毛足が長い）の毛糸、2本以上の毛糸を使用すると、きれいに仕上がらなかったり、けがや故障の原因となったりします。

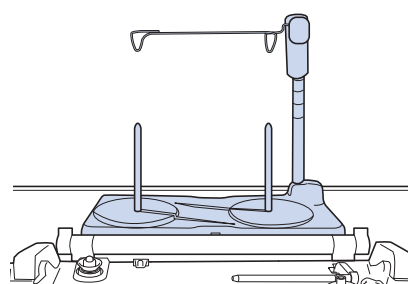
💡 お願い

- 実際にぬいつける前に、布地に試しぬいをしてください。
- 伸びる布地、薄地、織りが粗い布地、めい縮みしやすい布地をぬう場合は、接着芯を使用することをお勧めします。

■ カウチングの準備をする

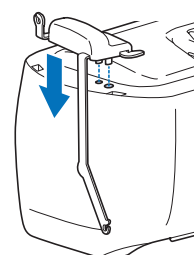
1 ミシンに糸たてスタンドを取り付けます。

このとき、アンテナをのばさないでください。



* 詳しくは、P. 43「糸たてスタンドを組み立てる」を参照してください。

2 カウチング用糸ガイドをミシンの左上にある差し込み口に挿入します。



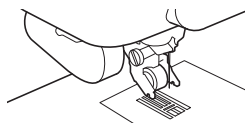
3 [U]を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックしてから、押えレバーを上げます。

3

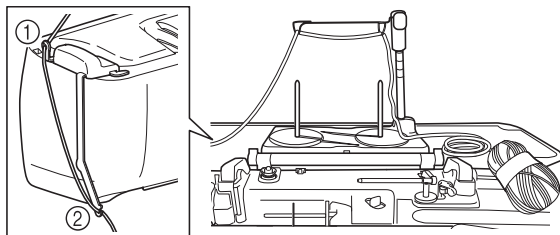
いろいろなめい方

- 4** デュアルフィード用カウチング押えは取り付けずに、デュアルフィードをミシンに取り付けます。

* 詳しくは、P. 47「デュアルフィードを取り付ける」を参照してください。



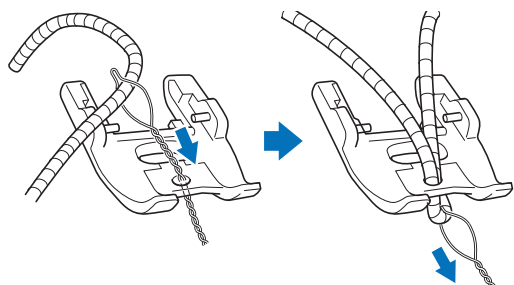
- 5** 毛糸をアンテナとカウチング用糸ガイドに通します (① から ② へ)。



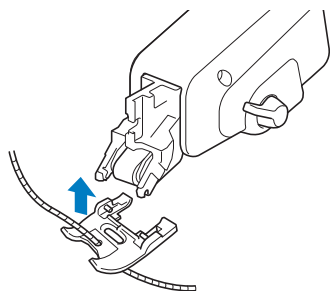
お願い

- 作業中に糸がからまないように注意してください。

- 6** 毛糸をデュアルフィード用カウチング押えに通します。
毛糸を紐通しの輪に通し、紐通しをデュアルフィード用カウチング押えの穴の上から下へ通します。



- 7** デュアルフィード用カウチング押えをデュアルフィードに取り付けます。



- 8** 毛糸をミシンの後方へ 10 cm ほど引き出します。

- 9**  を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

- 10** ミシンに上糸を通します。

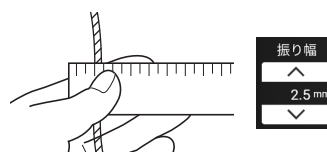
お願い

- 上糸を糸たてスタンドにセットしないでください。糸同士がからまるおそれがあります。

■ カウチングぬいをする

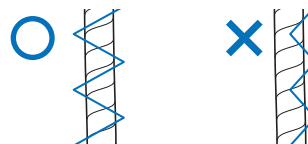
- 1**  を選びます。

- 2** 毛糸の幅を測り、その幅に合わせて振り幅を設定します。



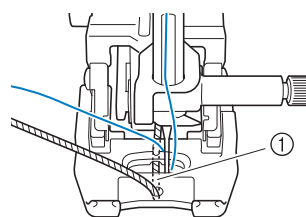
お願い

- 毛糸をぬいつけることができる十分な幅があることを確認してください。



- 3** プーリーを回して針をぬい始めの位置にセットします。毛糸の右側からぬい始めます。

- 4** 毛糸がデュアルフィード用カウチング押えの裏のミゾをまっすぐ通ることを確認し、押えを下げます。

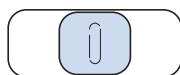


① ミゾ

お願い

- 毛糸がぴんと張らないように、毛糸玉または毛糸の束から適度な量の毛糸を引き出してください。

5 めい速度を中速に設定します。



6 スタート/ストップスイッチを押して、めいます。

- * 両手で布地を軽く押さえながら、めう方向を調節します。

お知らせ

- マルチ機能フットコントローラーを1針めいに設定すると、鋭角をめうときに便利です。(P. 51)
- ピボットは両手で布地を回転させるときに便利です。(P. 70)
- ガイドラインマーカーをオンにすると、簡単にまっすぐなカウチングめいができます。(P. 63)

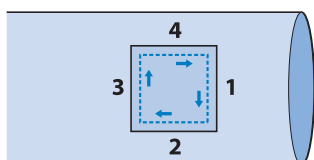
横送り

袖やズボンなどの筒状の布地にワッペンなどをつける場合に使います。

1 補助テーブルを取り外し、ミシンをフリーアームにします。(P. 76)

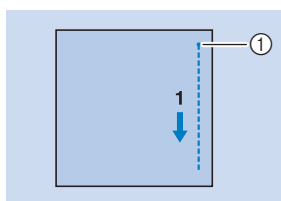
お知らせ

- 筒状の布地をフリーアームに通し、図の順番でめいます。



2 を押してから、模様を選択します。この例では、を押します。次に、模様めい押えく N+ >を取り付けます。

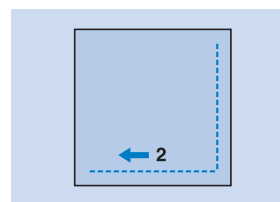
3 めい始めの位置に針を刺し、図のように右側（1番目）をめいます。



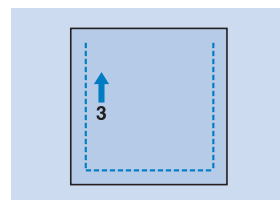
① めい始め位置

4 を選び、図のように下側（2番目）をめいます。

- * 布地が曲がらないように、布地を手で軽く押えながらめってください。

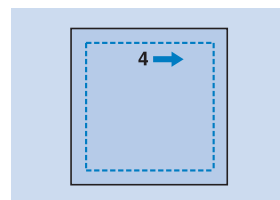


5 を選び、図のように左側（3番目）をめいます。



→ 布地は手前に送られます。

6 を選び、図のように上側（4番目）をめいます。



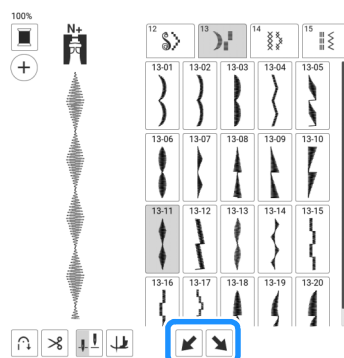
→ 右側（1番目）のめい始めの位置までめい進みます。

3

いろいろなめい方

ステップ模様を作成する

模様が交互に連なるようなステッチ（ステップ模様）を作ることができます。 を押すと、模様を幅半分ずつ左右にずらすことができます。



例：



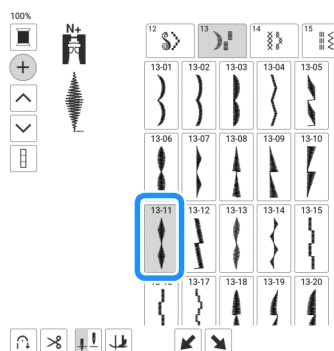
1 を選びます。

2 を押してから を押します。



→ 次の模様が右に移動します。

3 もう一度 を選択します。

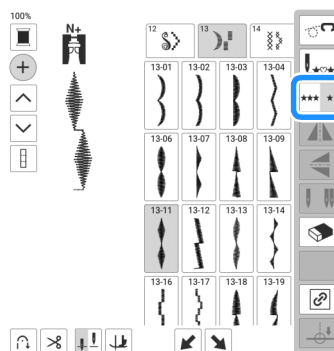


4 を押します。



→ 次の模様が左に移動します。

5 を押してから を押します。



→ 入力した模様が連続して表示されます。

模様を調整する

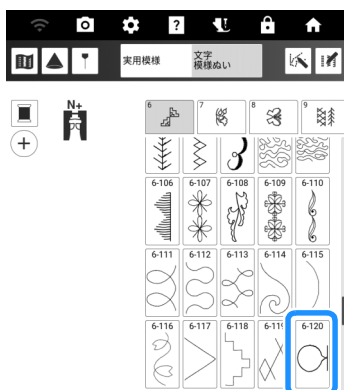
模様がくずれた場合は、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、次のように調整してください。模様の調整を行っても、模様がくずれる場合は、個々の模様で調整を行ってください。

お知らせ

- この機能は次の模様に対応しています。

- 文字
模様ぬい のすべての模様
- 実用模様 の 1-36、2-21、4-24、4-25 および Q-15

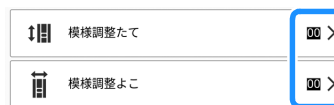
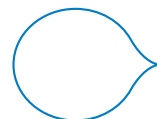
1  を押して  を選択します。

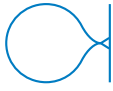


2 模様ぬい押え< N+ >を取り付け、模様をぬいます。

3 ぬい上がりを次の正しい模様と比較します。

 を押し、[模様調整たて] または [模様調整よこ] で模様を調整します。



症状	対処
模様がつかまっているとき 	[模様調整たて] の数字を押して値を大きくします。模様が伸びます。
模様にすきまがあるとき 	[模様調整たて] の数字を押して値を小さくします。模様がつまります。
模様が左にずれているとき 	[模様調整よこ] の数字を押して値を大きくします。模様が右にずれます。
模様が右にずれているとき 	[模様調整よこ] の数字を押して値を小さくします。模様が左にずれます。

4 もう一度ぬいます。

- * 模様が正しくぬえるようになるまで調整してください。

お知らせ

- 設定画面のままぬうことができます。

3

いろいろなぬい方

2 本針でぬう

2 本針を使用すると、2 色の上糸で同じ模様をぬうことができます。上糸は同質で同じ太さのものを用意します。

▲ 注意

- 2 本針を使用するときは、ジグザグ押え< J >を使用してください。針が折れ、けがをするおそれがあります。
- 針を交換するときや糸を通すときは、必ず液晶画面の  を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックしてください。ロックされていない状態で、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

重要

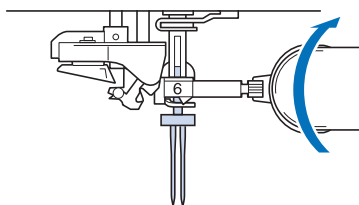
- 2 本針は、必ずブラザー専用 2 本針を使用してください。
-  (自動糸通しスイッチ) は使用できません。2 本針の手前から向こう側に、手で針穴に糸を通してください。 (自動糸通しスイッチ) を使用すると故障の原因となります。

🌟 お願い

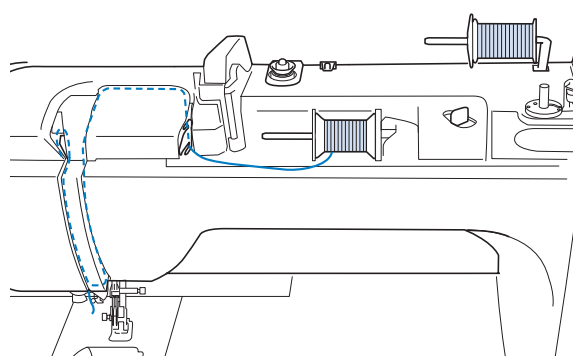
- 2 本針を使用すると、使用する布地や糸の種類によっては、ぬい目が詰まる場合があります。模様ぬい押え< N+ >を使用するか、接着芯を使用してください。

1 を押して、2 本針を取り付けます (P. 34 「針の交換」)。

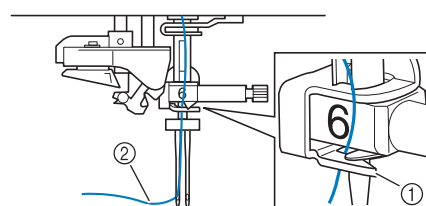
- * [押えが自動で下がります。よろしいですか?] のメッセージが表示されたら、 を押して操作を続けてください。



2 P. 40「上糸通し」の手順 1 ~ 8 を参照して、1 本目の上糸を通します。

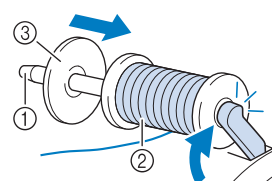


3 糸を針棒糸かけにかけ、手で左側の針に糸を通します。



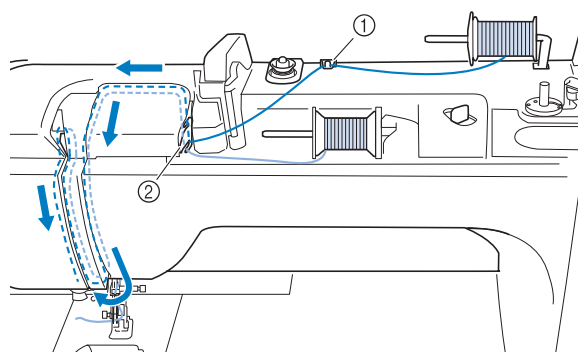
- ① 針棒糸かけ
- ② 1 本目の上糸

4 補助糸たて棒を上げて、下から手前に糸が出るように 2 本目の上糸の糸こまを置きます。



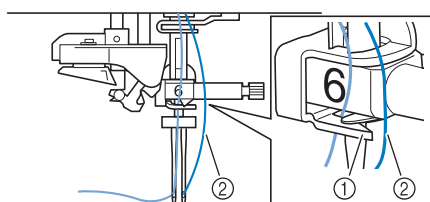
- ① 補助糸たて棒
- ② 糸こま
- ③ 糸こま押え

5 図のようにミシンに糸を通します。



- ① 糸案内
- ② 糸案内板

6 糸を針棒糸かけに通さず、手で右側の針に糸を通します。



- ① 針棒糸かけ
- ② 2本目の上糸

7 を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

8 を押してから、を押して2本針の設定を選択します。



→ 2本針モードになります。2本針ぬいが可能な模様のみを選択できます。

お知らせ

- 模様を選んだときに、キーが灰色で表示されているときは、その模様で2本針が使用できないことを表しています。また、2本針モードに設定できない機能（が表示されない機能）では2本針を使用できません。

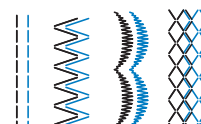
⚠ 注意

- 2本針を使用するときは必ず2本針の設定にしてください。1本針の設定で2本針を使用すると、針が折れ、けがをするおそれがあります。

9 模様を選択します。

- 2本針を使用できる模様については、P. 271「ぬい方早見表」を参照してください。

10 縫製します。



お知らせ

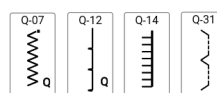
- 2本針で縫製中に、ぬう方向を変えたい場合は、布から針を上げて、押えレバーを上げてから、布の方向を変えます。

ぬうときのテクニック

■ アププリケ

1 両面接着芯を使用して、アププリケピースを土台の布地に固定します。

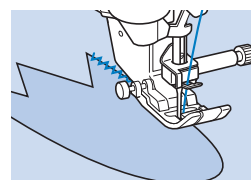
2 模様を選びます。



- 模様について詳しくは、P. 271「ぬい方早見表」を参照してください。

3 押えを取り付けます。

4 プーリーを手前（反時計回り）に回し、針がアププリケのわずかに外側に落ちるようにして、アププリケの端をぬいます。



角をぬう場合は、針がアププリケのわずかに外側の布地に入った状態でミシンを止め、押えレバーを上げ、必要に応じて布地を回してぬう方向を変えます。

■ ゴムひもつけ

📖 お知らせ

- 模様について詳しくは、P. 271 「ぬい方早見表」を参照してください。

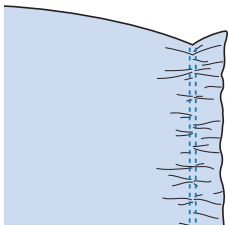
1 直線ぬいを選び、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

2 ぬい目の長さを 4.0mm に、糸調子を 2.0 (ゆるめ) に設定します。(P. 59、P. 60)

📖 お知らせ

- 自動止めぬい  や自動糸切り  は設定しないでください。

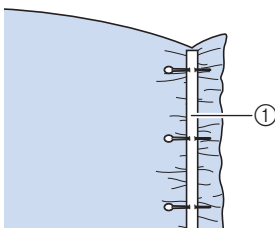
3 布地の表に直線ぬいを 2 本ぬい、下糸を引っ張ってギャザーを寄せます。



📖 お知らせ

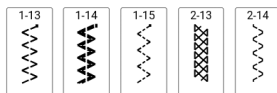
- 直線ぬいをかける前に、プーリーを手前（反時計回り）に回して下糸を引き出します。上糸と下糸を持ち、ミシン後方にある程度引き出します。（必ず押えを上げた状態で行ってください。）

4 ギャザーの上にゴムひもを置き、まち針で止めます。

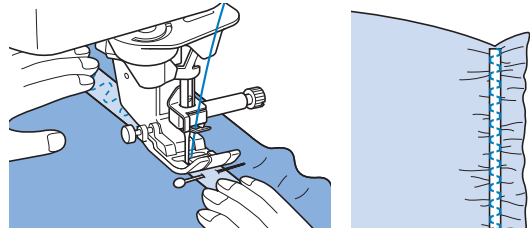


① ゴムひも

5 模様を選びます。



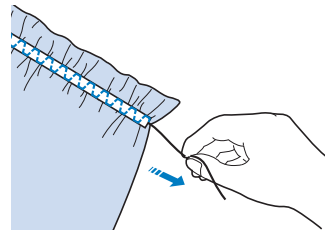
6 ゴムひもの上をぬいます。



▲ 注意

- ぬうときには、まち針などが針に当たらないように注意してください。糸がからまったり針が折れたりして、けがをするおそれがあります。

7 直線ぬいの糸を引き抜きます。



■ ギャザー

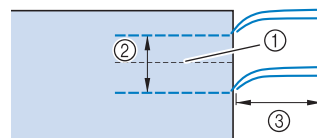
スカートのウェストやシャツの袖などに使います。

1 直線ぬいを選び、ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

2 ぬい目の長さを 4.0mm に、糸調子を 2.0 (ゆるめ) に設定します。

3 下糸と上糸を 50 mm ほど引き出します。(P. 39)

4 できあがり線をはさんで平行に 2 本ぬい、上糸と下糸を端から 50 mm ほど残して切ります。

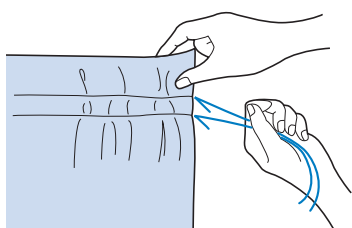


① できあがり線

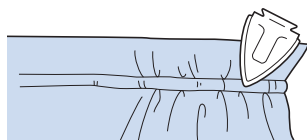
② 10 mm ～ 15 mm

③ 約 50 mm

- 5 下糸を引っ張りながらギャザーを寄せ、糸を結びます。



- 6 ギャザーにアイロンをかけ、整えます。

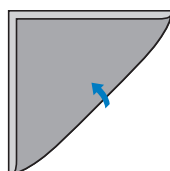


- 7 できあがり線をぬって、しつけを取ります。

■ シェルタック

貝殻を並べたようなアーチ状のタックを「シェルタック」と呼びます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄い布地を使用します。

- 1 バイアスに沿って等間隔に線を引き、その線に沿って布地を折ります。

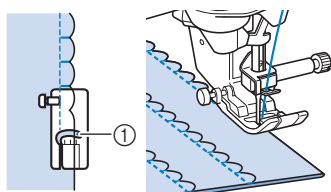


- 2  を選択し、糸調子を強くします。

- 3 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 4 針が布端よりわずかに外側に落ちるようにしながらぬいます。

線にそって順番に折り、ぬってください。



① 針落ち位置

- 5 めい終わったら、布地を取り出します。布を広げアイロンで折り山を片側に倒します。

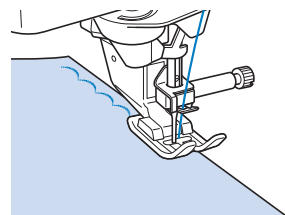
■ スカラップぬい

波型のサテンステッチを「スカラップ」と呼びます。ブラウスの襟やハンカチなどのふち飾りに使います。

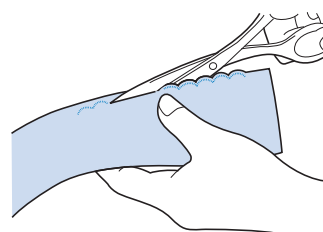
- 1  を選びます。

- 2 模様ぬい押え<N+>を取り付けます。

- 3 模様が布端にかからないように、端を残してぬいます。



- 4 めい目に沿って切り取ります。



- めい目を切らないように注意してください。

キルトぬい

お知らせ

- Q-01 から Q-40 までの 40 種類のキルト模様と、S-03 から S-05 までの模様、キーに「P」あるいは「Q」が表示されている実用模様がキルトぬいに最適です。
- 模様について詳しくは、P. 271 「ぬい方早見表」を参照してください。

ピーシング

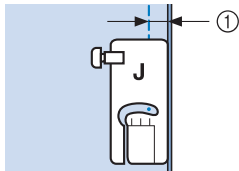
■ ジグザグ押え<J>を使う

布と布をぬい合わせることをピーシングといいます。キルト用の布をカットするときは、ぬいしろを 6.5 mm つけて裁断してください。

- 1  または  を選択し、ジグザグ押え<J>を取り付けます。

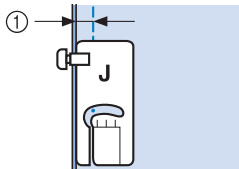
- 2 押えの端に布端に合わせてぬいます。

- * 押えの右側を布地の端に合わせる場合は、 を使用してぬいます。



① 6.5 mm

- * 押えの左側を布地の端に合わせる場合は、 を使用してぬいます。



① 6.5 mm

お知らせ

- 針位置を変更するときは、[L/R シフト] の  または  を押します。
- ガイドラインマーカを参考にしてピーシングができます。詳しくは P. 63 「ガイドラインを設定する」を参照してください。

■ ガイド付きピーシング押えを使用したピーシング

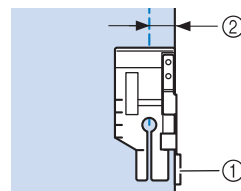
ピーシング押えを使用すると、6.4 mm または 3.2 mm のぬいしろを正確にぬうことができます。キルトのピーシングや、飾りぬいに使用できます。

- 1  を選択し、ガイド付きピーシング押えを取り付けます。

- 2 ガイドと押えのしるしを使って、ぬいしろをぬいます。

ぬいしろ 6.4 mm のピーシング

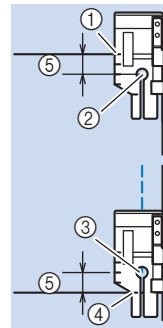
布地の端をガイドに当ててぬいます。



- ① ガイド
② 6.4 mm

ぬいしろを仕上げる

押えのしるしを使って、ぬい始め、ぬい終わり、布地の回転時の針位置を、布端から 6.4 mm の位置に合わせます。



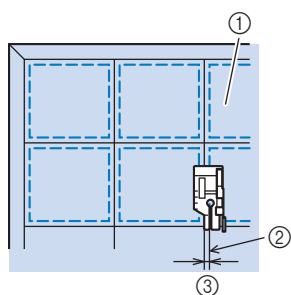
- ① このしるしに布端に合わせてぬい始めます。
② ぬい始め
③ ぬい終わり
④ このしるしが反対側の布端に合ったときにミシンを止めます。必要に応じて布地を回転します。
⑤ 6.4 mm

お知らせ

- ピボットについては、P. 70 「ピボット」を参照してください。

3.2 mm の飾りぬいキルト

布端またはぬい目を押え前部の左端に合わせてぬいます。

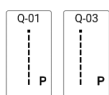


- ① 布地の表
- ② ぬい目
- ③ 3.2 mm

デュアルフィードを使ったキルティング

表地、キルト綿、裏地をぬい合わせることをキルティングと呼びます。デュアルフィードを使用すると、ぬいずれを防ぐことができます。

1 模様を選びます。

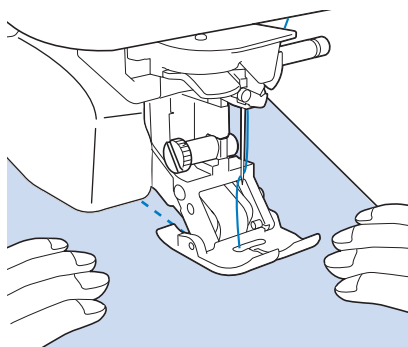


💡 お願い

- 必要に応じて、ぬい目の長さを調整してください。(P. 59)

2 デュアルフィードを取り付けます。(P. 47)

3 縫製中は、押えの両側に手を置いて、布地をしっかり押えます。



💡 お知らせ

- 低速から中速でぬってください。
- ぬい始める前に、キルト面がしっかりとつけられていることを確認ください。

フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときは、を押してからを押して、フリーモーションモードにします。このモードでは、自動的に送り歯が下がり、布地を自由に動かすことができます。押えはフリーモーションぬいに最適な高さになります。

選択した模様に応じてフリーモーションキルト押え< C >またはオープントゥキルト押え< O >を使用します。

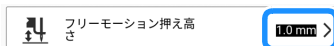
フットコントローラーを取り付けて、一定の速度でぬうことをお勧めします。ぬう速度は、ミシンのスピードコントロールレバーで調節できます。

⚠ 注意

- フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。ぬう速度よりも速く布地を動かすと、針が折れてけがをするおそれがあります。

💡 お知らせ

- ぬい始めるときに内蔵センサーが布地の厚さを検知し、設定画面で設定した高さにキルト押えが上がります。を押して、設定画面の【フリーモーション押え高さ】を表示します。素材の厚みに合わせて押えの高さを調節してください。



- バランスのとれた糸調子でぬうには、上糸の糸調子の調節が必要です。実際に使用する布と同じ布地で、試しぬいをしてください。

💡 お願い

- 最初はきれいに仕上がらないことがあります。十分に試しぬいをした後に作品をぬってください。

■ フリーモーションキルト押え<C>を使用する

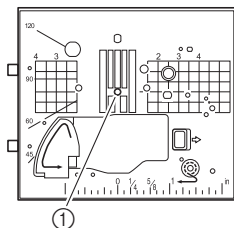
フリーモーションキルト押え<C>と直線針板は、直線模様でフリーモーションキルトをするときに使用します。



▲ 注意

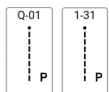
- フリーモーションキルト押え<C>を使用する場合、必ず直線針板を使用し、針位置を中央にしてぬってください。針が中央（中基線）以外の位置にあると、針が折れて、けがの原因となります。

- 1 ミシンの電源を切ってから、直線針板を取り付けます。(P. 80)

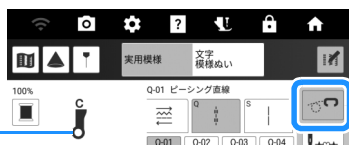


① 丸い穴

- 2 模様を選びます。



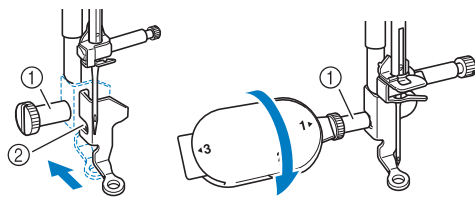
- 3 []を押してから[]を押し、ミシンをフリーモーションモードに設定します。



① フリーモーションキルト押え<C>

- 4 押えホルダーを取り外します。(P. 46)

- 5 図のようにフリーモーションキルト押え<C>を取り付け、押えホルダーのネジでしめます。



- ① 押えホルダーのネジ
- ② ミゾ

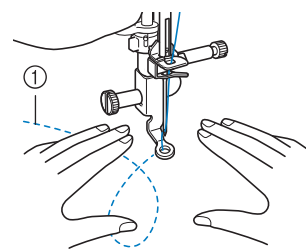
💡 お願い

- フリーモーションキルト押え<C>が正しく取り付けられ、傾いていないことを確認してください。

▲ 注意

- 必ず付属のマルチドライバーを使用して、ネジを確実にしめてください。確実にしめないと、針がキルト押えに当たり、折れてけがをするおそれがあります。

- 6 布地がたるまないように両手で伸ばすようにぬいます。ぬい目が2.0～2.5 mmほどになるよう、一定の速度で布地を送ります。



① ぬい目

- 7 []を押して、フリーモーションモードを解除します。

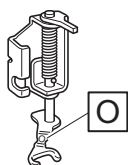
- 8 ぬい終わった後は、必ず直線針板とフリーモーションキルト押え<C>を取り外し、標準針板を取り付けます。

📖 お知らせ

- オープントゥキルト押え<O>も、直線針板と組み合わせて使うことができます。厚さが均一ではない布地のフリーモーションぬいにオープントゥキルト押え<O>を使うことをお勧めします。

■ オープントゥキルト押え<O>を使用する

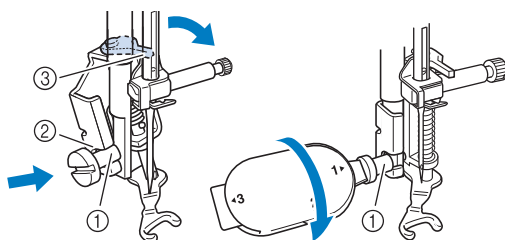
オープントゥキルト押え<O>は、ジグザグ模様や飾り模様でフリーモーションキルトをする場合や、厚さが均一ではない布地にフリーモーションキルトの直線ぬいをする場合に使用します。オープントゥキルト押え<O>を使用すると、いろいろな模様をぬうことができます。使用できる模様の詳細については、P. 271「ぬい方早見表」を参照してください。



📖 お知らせ

- ジグザグ模様や飾り模様を選ぶときは、標準針板を使用する必要があります。

- 1 を押してから を押し、ミシンをフリーモーションモードに設定します。
- 2 模様を選びます。
- 3 押えホルダーを取り外します。(P. 46)
- 4 図のようにオープントゥキルト押え<O>を取り付け、押えホルダーのネジで締めます。



- ① 押えホルダーのネジ
- ② ミゾ
- ③ ピン

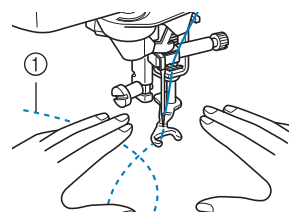
💡 お願い

- オープントゥキルト押え<O>が傾いていないことを確認してください。

⚠ 注意

- 必ず付属のマルチドライバーを使用して、ネジを確実にしめてください。確実にしめないと、針がキルト押えに当たり、折れてけがをするおそれがあります。

- 5 布地がたるまないように両手で伸ばすようにぬいます。ぬい目が2.0～2.5 mmほどになるよう、一定の速度で布地を送ります。

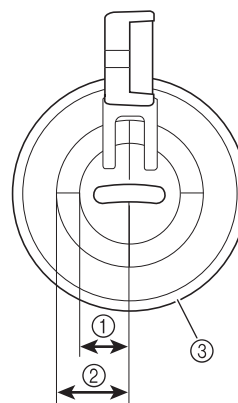


- ① ぬい目

- 6 を押して、フリーモーションモードを解除します。

■ エコーキルト

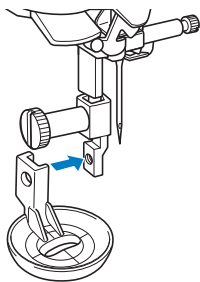
モチーフの周囲を等間隔で幾重にもキルトする方法を、エコーキルトと呼びます。エコーキルトにはエコーキルト押え<E>を使用します。



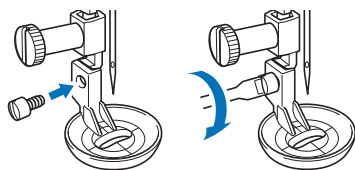
- ① 6.4 mm
- ② 9.5 mm
- ③ エコーキルト押え<E>

- 1 を選びます。
- 2 を押してから を押し、ミシンをフリーモーションモードに設定します。
- 3 押えホルダーを取り外し、アダプターを取り付けます。(P. 46)

- 4** エコーキルト押え<E>を穴を合わせるように、押え棒の左側に置きます。



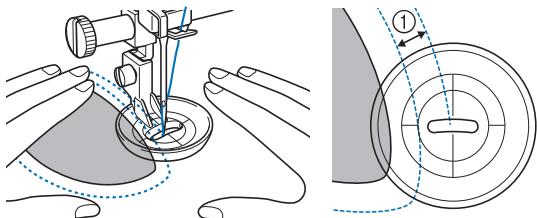
- 5** 付属のドライバー（大）でネジ（小）を締めます。



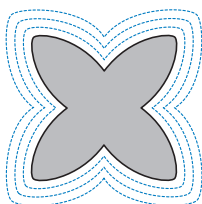
▲ 注意

- 必ず付属のドライバー（大）を使用して、ネジを確実にしめてください。確実にしめないと、針がキルト押えに当たり、折れてけがをするおそれがあります。

- 6** キルト押えの寸法を参考にして、モチーフの回りをぬいます。



① 6.4 mm



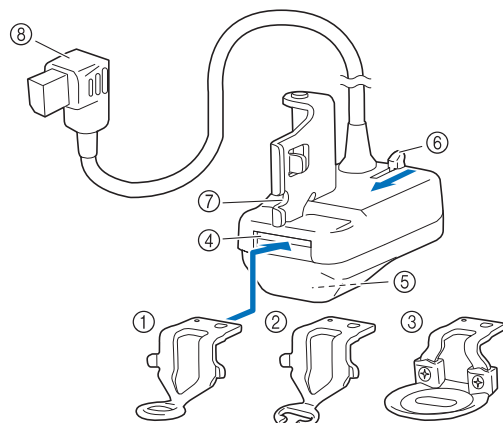
- 7** を押して、フリーモーションモードを解除します。

ステッチレギュレーターを使って、フリーモーションキルト／しつけぬいをする

ステッチレギュレーターを使用すると、設定したぬい目の長さでフリーモーションキルトやフリーモーションしつけぬいができます。ミシンが布地の動きを検知し、設定したぬい目の長さになるように調整します。

■ 各部の名称とはたらき

用途に応じて、ステッチレギュレーターで使う押えを交換します。



- ① ステッチレギュレーターキルト押え
一般的なキルトぬいに使用します。
- ② ステッチレギュレーターオープントゥキルト押え
針元やぬい目が確認しやすい押えです。押えの先端に布地が引っかからないように注意してぬってください。この押えは【しつけモード】を選択している場合には使用しないでください。
- ③ ステッチレギュレーターエコーキルト押え
エコーキルトぬいに使用します。この押えは、毛足の長い素材や段差がある素材をぬうとき、異なる素材をぬい合せるときにも適しています。
- ④ 押え差し込み口
- ⑤ ステッチレギュレーター窓
内部センサーが布地の動きを検知します。
- ⑥ 押え取り外しボタン
手前に押すと押えが外れます。
- ⑦ ステッチレギュレーターのミゾ
- ⑧ ステッチレギュレーターのコネクタ

■ ステッチレギュレーターと押えを取り付ける

▲ 注意

- ステッチレギュレーターの取り付け、取り外し、押えの交換を行う前に、を押して必ずすべてのキーとスイッチをロックしてください。誤ってスイッチを押すなどしてミシンが作動し、けがをするおそれがあります。
- ステッチレギュレーターオープントゥキルト押えを[しつけモード]で絶対に使用しないでください。針が折れるおそれがあります。

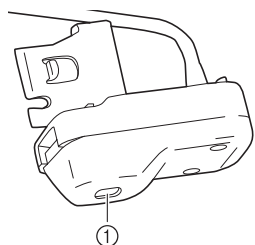


重要

- ステッチレギュレーターを濡らしたとき、落として破損したときは、ステッチレギュレーターをミシンに取り付けしないでください。レーザーセンサーが破損している可能性があります。

💡 お願い

- ステッチレギュレーターを使用する前に、底部の窓を確認してください。ホコリや糸くずがたまっている場合は、内部のレンズを傷つけないように綿棒などの柔らかいもので取り除いてください。針やピンセットなどの硬いものは使用しないでください。



① ステッチレギュレーター窓

1  (針上下スイッチ) を押して針を上げます。

2 を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックします。

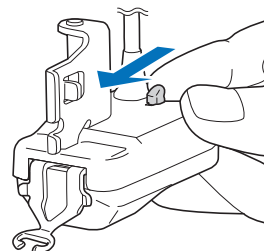
* [押えが自動で下がります。よろしいですか?]のメッセージが表示されたら、[OK] を押して操作を続けてください。

3 押えレバーを上げます。

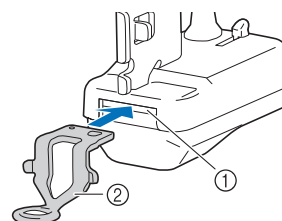
4 押えと押えホルダーを取り外します。
(P. 46)

5 ステッチレギュレーターで使用する押えを準備します。

6 使用しない押えが取り付けられている場合は、押え取り外しボタンをゆっくりと手前に押し込みます。押えが押し出されたら、取り外します。



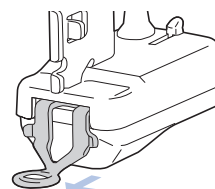
7 押えの向きが正しいことを確認して、押え差し込み口の奥まで押えを押し込みます。



① 押え差し込み口

② 押え

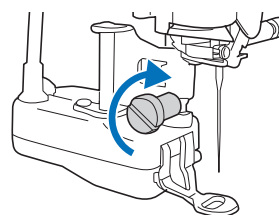
8 押えを少し手前に引いて、しっかりと固定されていることを確認します。押えが抜けた場合は、奥まで入れ直します。



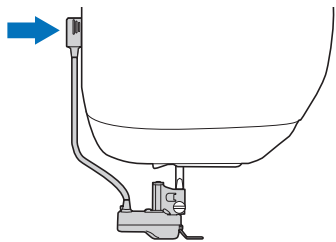
▲ 注意

- 押えがしっかりと固定されていることを確認してください。押えが外れたり、針が折れてけがをするおそれがあります。

9 ステッチレギュレーターのミゾを押え棒のネジに合わせ、ネジをしっかりと締めます。

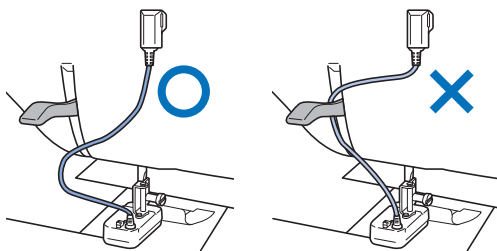


- 10** ステッチレギュレーターのコネクタをミシンの背面にあるジャックに差し込みます。



お知らせ

- ステッチレギュレーターのケーブルが押えレバーに引っかからないようにしてください。



- 11**  を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

■ ステッチレギュレーターを取り付けた状態で押えを交換する

▲ 注意

- 押えを交換するときは、針が指や押えに当たらないように注意してください。けがをしたり、針や押えが破損するおそれがあります。

お知らせ

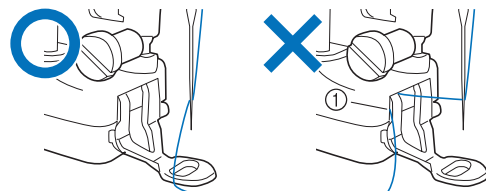
- 押えを交換する前に、布地をミシンから取り外すことをお勧めします。

- 1**  (針上下スイッチ) を押して針を上げます。
- 2**  を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックします。
- 3** P. 113「ステッチレギュレーターと押えを取り付ける」の手順 **6** ~ **8** を参照して押えを交換します。押えを交換した後、糸がステッチレギュレーターに引っかかっていないことを確認します。

- * 押えが上がっている場合は、押えを下げると交換しやすくなります。

重要

- 糸がステッチレギュレーターに引っかかっている場合は、押えを取り外し、糸がかからないように注意しながら再度押えを取り付けます。



- ① 糸が引っかかっていると縫製できません。

- 4**  を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

■ 模様とステッチレギュレーターモードを選択する

1 実用ぬい画面が表示されている状態で、ステッチレギュレーターをミシンに取り付けます。

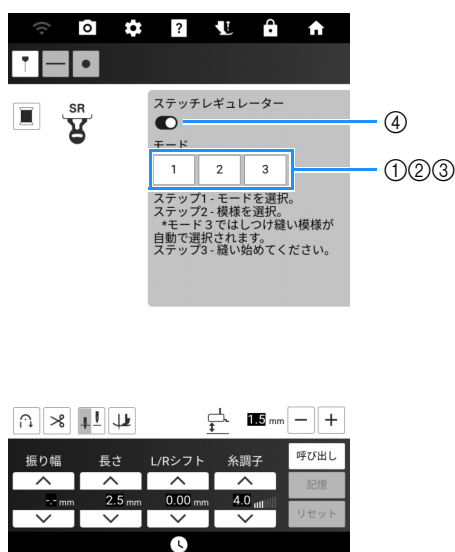
→ メッセージが表示されたら、[OK]を押します。ステッチレギュレーター縫製画面が表示されます。

📖 お知らせ

- 実用ぬい以外の画面が表示されている状態でステッチレギュレーターを取り付けた場合、ホーム画面で[実用・文字模様]を押すとステッチレギュレーター用のぬい画面が表示されます。

2 キーを押して適切なモードを選択します。

- * いずれのモードでもフットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込んで縫製を始めると、ステッチレギュレーターが布地の動きを検知します。フットコントローラーから足を離すと、ミシンが止まります。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、スタート/ストップスイッチを押して縫製を始めると、ステッチレギュレーターが布地の動きを検知します。もう一度押すと縫製が止まります。選択したモードによって、布を動かしていないときのミシンの動作は異なります。



① 間欠モード：

布地を動かすと、設定したぬい目の長さで縫製します。布地の動きがないと、針が上がり、ミシンはスタンバイ状態になり、スタート/ストップスイッチが点滅します。スイッチが点滅している間に布地を動かすと縫製を開始します。一定時間、布地の動きがないとメッセージが表示され、縫製を終了します。

② 連続モード：

縫製を始めると、常にぬい続けるモードです。長方形など角のある形をぬうのに適しています。布地を動かしていないときは、同じ場所をゆっくりとぬっていきます。同じ場所をぬい続けるので、糸がからまないように注意してください。

③ しつけモード：

間隔の広いぬい目を作ります。布地を動かすと、設定したぬい目の長さで縫製します。布地の動きがないと、針が上がり、ミシンはスタンバイ状態になり、スタート/ストップスイッチが点滅します。スイッチが点滅している間に布地を動かすと縫製を開始します。一定時間、布地の動きがないとメッセージが表示され、縫製を終了します。試しぬいをして、ぬい目や糸のほどきやすさを確認し、必要に応じて糸調子を調整してください。

④ [ステッチレギュレーター]のオン/オフを切り替えます。オフにすると、通常のフリーモーションぬいができます。ミシンは布地の動きを検知しないため、一定の速度で布地を送りながら縫製してください。

⚠ 注意

- [ステッチレギュレーター]をオフの状態ですてッチレギュレーターオープントウキルト押えを使用するときは、布地を無理に引っ張らないように注意してください。針が折れる原因となります。

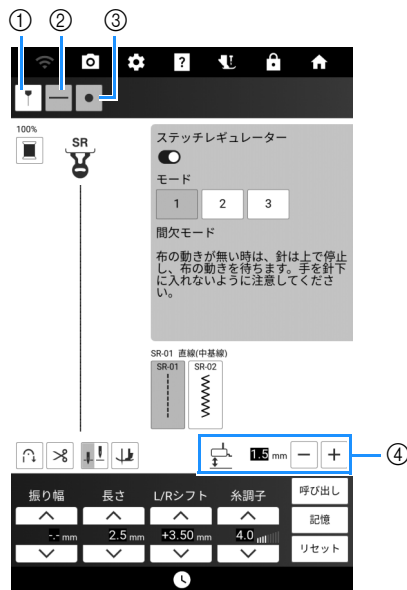
3 模様を選択し、ぬい目の長さを調節します。



📖 お知らせ

- 直線ぬいで小さいパーツやスティップリングをぬう場合は、ぬい目の長さを 1 mm ~ 1.5 mm に設定することをお勧めします。
- ジグザグ模様は、スレッドペインティングに適しています。

4 その他の項目を設定します。



- ① ガイドラインを表示します。(P. 63)
- ② ステッチレギュレーターのセンサー位置を投影する機能のオン/オフを切り替えます。設定画面で選択したプロジェクターの背景色と異なる投影色を選択します (P. 22)。P. 116「ステッチレギュレーターを使って、フリーモーションキルト/しつけぬいをする」の手順 1 を参照してください。
- ③ ステッチレギュレーターの状態を投影する機能のオン/オフを切り替えます。P. 116「ステッチレギュレーターを使って、フリーモーションキルト/しつけぬいをする」の手順 1 を参照してください。
- ④ ステッチレギュレーター押えの高さを調整します。

お知らせ

- 他のキーについて詳しくは、P. 17「実用・文字模様画面」を参照してください。

■ ステッチレギュレーターを使って、フリーモーションキルト/しつけぬいをする

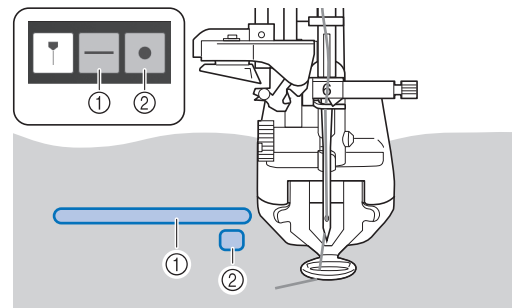
お願い

- 作品を作る前に、実際に使用するものと同じ布地と糸で試しぬいをしてください。使用する布地や糸、ステッチレギュレーターのモード、押えの高さ、布地の動きによって仕上がりが異なる場合があります。
- ぬい目が飛んだり、糸がほつれたりする場合は、次の条件で試しぬいをしてください。
 - 付属のニット用針（金色）を使用する。
 - ぬい目の長さは 2 mm 以下に設定する（[間欠モード] または [連続モード] 選択時）。

▲ 注意

- 糸調子が強すぎると、布地を引っ張ったときに針が折れるおそれがあります。
- 布地を動かしながらぬうときは、針に手を近づけないようにしてください。けがをするおそれがあります。

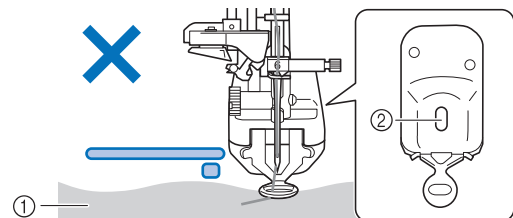
- 1 布地をミシンにセットします。このとき、ステッチレギュレーターのセンサーの下に布地がある状態で縫製できるように、布地の向きを確認してセットします。



- ① センサーが布地を検知できる位置を示します。縫製中はこの線が必ず布地の上に投影されているようにしてください。
- ② ステッチレギュレーターの状態を示します。
 緑色に点灯：縫製の準備ができている、または縫製中。
 緑色に点滅：間欠モードまたはしつけモードでスタンバイ中。
 赤色に点灯：縫製の準備ができていない。
 消灯：ステッチレギュレーター機能がオフになっているか、ステッチレギュレーターの状態を投影する機能がオフになっています (P. 115「模様とステッチレギュレーターモードを選択する」の手順 4 を参照)。

お願い

- センサーの下に布地がない場合、布地の動きを検知できず、設定したぬい目の長さでぬうことができません。必要に応じて、センサーが検知できるサイズの布地を用意してください。



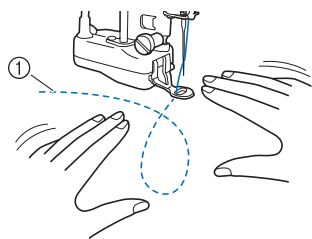
- ① センサーが検知できる位置より手前に布地があるため、布地を検知できません。
- ② センサーの位置

- 2 下糸を布地の上に引き出します。

- * 詳しくは、P. 39「下糸を引き出す」を参照してください。

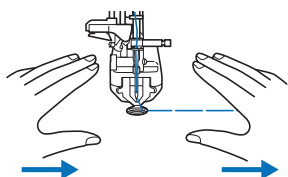
- 3** 押えを下げます。フットコントローラーを踏むか、スタート/ストップスイッチを押し、布地を動かします。

キルトぬい



① ぬい目

しつけぬい



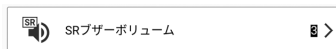
→ 布地を動かす速度に応じて、設定したぬい目の長さで縫製されます。

🔔 お願い

- 縫製前に、押えがステッチレギュレーターに取り付けられていることを確認してください。
- 布地がスムーズに動くように、ステッチレギュレーター押えの高さを調節してください。ステッチレギュレーターのセンサーと布地が離れすぎると、センサーが布地の動きを正確に検知できないことがあります。その場合は、布地の動きを妨げない程度にステッチレギュレーター押えの高さを下げてください。



- 針が上がっているときに、布地をゆっくり慎重に動かしてください。布地を早く動かすと、アラームが鳴ります。
- 縫製中、布地を回転させないでください。ステッチレギュレーターのセンサーが布地の動きを正しく検知できません。
- 均一な長さでぬうために、アラームが鳴らない程度の速度で布地を動かしてください。アラームの音量は設定画面で調整することができます。



- 設定したぬい目の長さより大きく布を動かしてください。設定したぬい目の長さで縫製できなくなります。

- 4** フットコントローラーから足を離すか、スタート/ストップスイッチを押して縫製を止めます。

📖 お知らせ

- 針停止位置を  (下) に設定すると、縫製を止めたときに針が下がったままになります。布地を動かすのを止めてからフットコントローラーから足を離したとき、またはスタート/ストップスイッチを押して縫製を終えたときに、アラーム音が鳴り、針が下がります。
- [記憶] を押すと、現在の設定を記憶することができます。後で設定を呼び出すときは、[呼び出し] を押します。詳しくは P. 61 「実用ぬい設定を記憶する」を参照してください。



手ぬい風直線

手ぬい風直線模様をぬうときは、次の糸を使用することをお勧めします。

上糸：糸が目立たないように、ナイロン透明糸や布地と同じ色の糸を使用します。

下糸：模様が際立つように、布地と異なる色を使用します。



📖 お知らせ

- ほとんどの布地と糸には、14 番の針を使うときれいに仕上がります。
- 布地の表に下糸を多く出したいときは、糸調子を強くしてください。
- S-03、S-04、S-05 の模様は微小なステッチの集まりで作られています。

3

いろいろなぬい方

マイイラスト機能

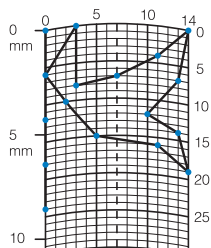
イラストデザイン

マイイラスト機能を使用して、オリジナルの模様を登録できます。マイイラスト機能で作成したデザインと他の模様を組み合わせたデザインをぬうこともできます。(P. 57)

お知らせ

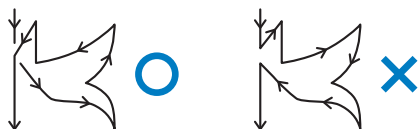
- マイイラスト機能を使用して作成できる模様の大きさは、最大で 7 mm (幅) × 37 mm (長さ) です。

- 模様のデザインをマイイラスト用紙に描きます。目盛りと交差する点を直線で結びます。



お知らせ

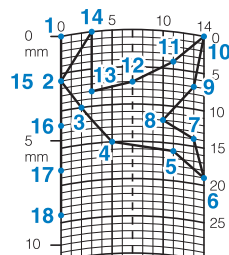
- 模様を閉じるように線を交差させると、よりきれいに仕上がります。より魅力的な模様に仕上げるには、線を交差させてデザインを閉じます。



一筆書きの要領で、線の始めと終わりの高さが同じになるように描きます。



- ぬい順を決めます。

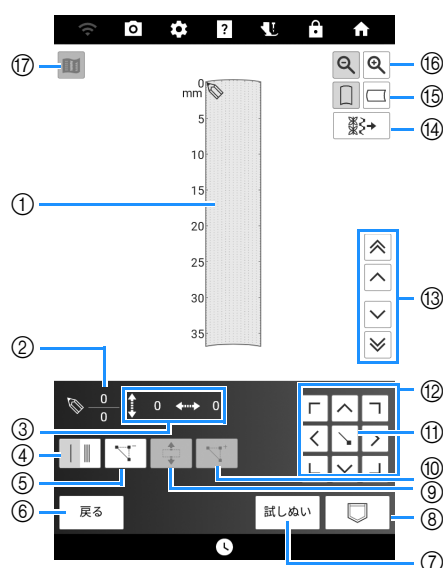


お知らせ

- これで、縫製する模様のデザインが決定されます。

イラストの入力

■ キーのはたらき（マイイラスト機能画面）



- ① ここに作成中の模様が表示されます。
- ② 模様のポイント総数の上に、現在セットされているポイント番号を表示します。
- ③ の Y 座標と の X 座標を表示します。

番号	表示 名称	はたらき	参照
④	 1 重ぬい / 3 重ぬい キー	2 つのポイントの間で 1 重ぬいをするか、3 重ぬいをするかを選ぶことができます。	119
⑤	 点削除キー	選んだポイントを削除することができます。	119
⑥	 戻る 戻るキー	模様データの入力画面を終了します。	—
⑦	 試しぬい 試しぬいキー	模様の試しぬいができます。	119
⑧	 模様のデータ保存 キー	作成中の模様を保存することができます。	121
⑨	 ブロック移動キー	ポイントをグループにまとめて、まとめて移動することができます。	120
⑩	 挿入キー	模様のデザインに新しいポイントを挿入することができます。	121
⑪	 セットキー	模様のデザイン上でポイントをセットすることができます。	119、 120

番号	表示 名称	はたらき	参照
⑫	 矢印キー	表示領域で を移動します。	119、 120
⑬	 ポイント移動キー	を模様の上でポイントからポイントに移動したり、最初に入力されたポイントや最後に入力されたポイントに移動することができます。	120、 121
⑭	 模様インポートキー	サンプル模様や保存した模様を編集することができます。	122
⑮	 グリッド方向キー	マイイラスト用紙の方向を変えることができます。	—
⑯	 拡大キー	作成中の模様を拡大して表示することができます。	—
⑰	 プレビューキー	模様のイメージを表示することができます。	119

■ ポイントを入力する

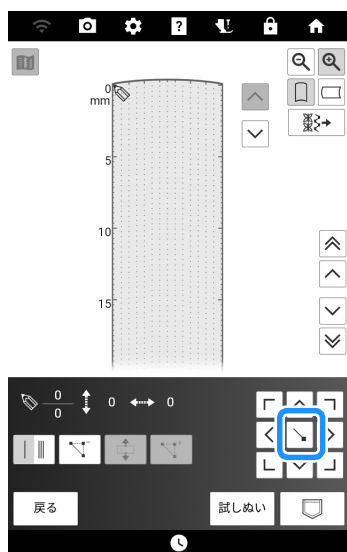
- 1 ホーム画面で[実用・文字模様]を押してから[文字模様ぬい]を押します。

- 2 を押します。



- 3 を使って、 をマイイラスト用紙の最初のポイントの座標に移動します。

- 4 を押して、が示すポイントを追加します。

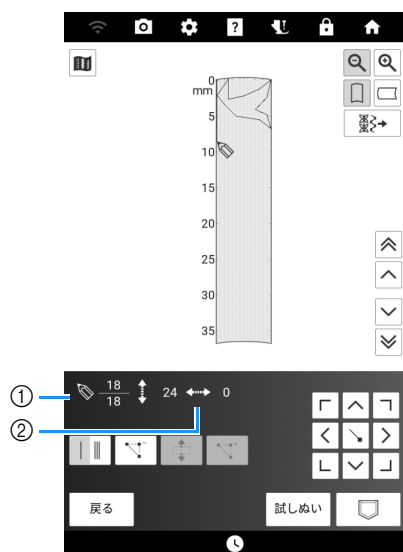


- 5 最初の2つのポイント間で1重ぬいをするか、3重ぬいをするかを選びます。

* 3重ぬいをする場合は、キーを押してとなるようにします。

- 6 模様のデザインが連続した線として画面上に描画されるまで、マイイラスト用紙に描画した各ポイントに対してこの手順を繰り返します。

- * を押すと、入力したポイントを削除できます。
- * [試しぬい]を押すと、試しぬいができます。試しぬいが終わったら、[編集]を押して、前の画面に戻ります。
- * を押すと、模様のイメージが表示できます。



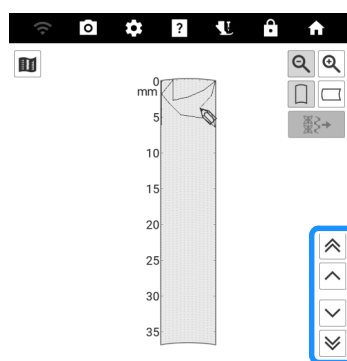
- ① 現在選択されているポイント番号／ポイント総数
② の座標

- 7 模様データを入力し終わったら、を押して模様を保存します。

■ ポイントの移動

- 1 またはを押して、を移動させたいポイントに合わせます。

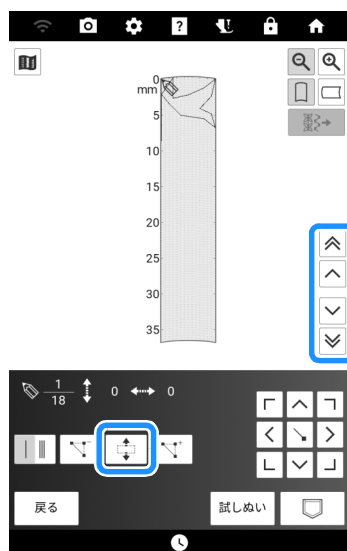
- * を最初のポイントに移動する場合は、を押します。
- * を最後のポイントに移動する場合は、を押します。



- 2 を使って、ポイントを移動します。

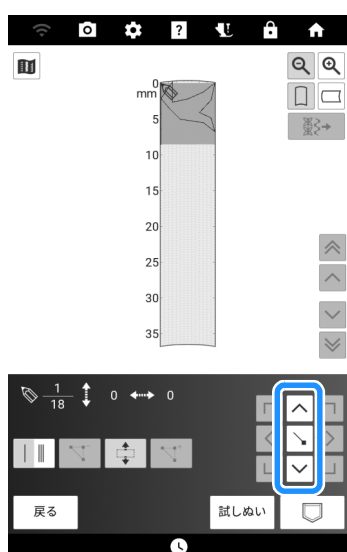
■ イラストの移動

- 1 またはを押して、を移動したい最初のポイントに移動します。を押します。



→ 選んだポイントと、その後で入力したすべてのポイントが選択されます。

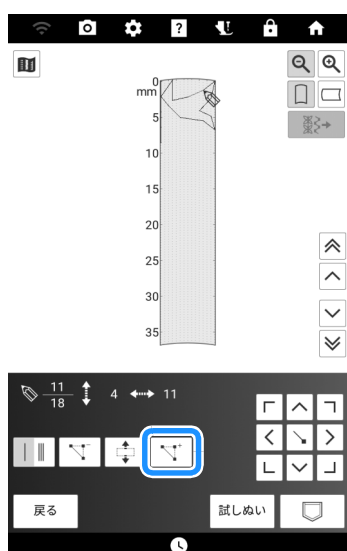
- 2  または  を押して、選択されたポイントすべてを移動させて  を押します。



→ 選択したポイントすべてが移動します。

■ 新しいポイントの挿入

- 1  または  を押して、新しいポイントを追加したい場所に  を移動します。
- 2  を押します。



→ 新しいポイントが挿入され、 が新しいポイントに移動します。

- 3

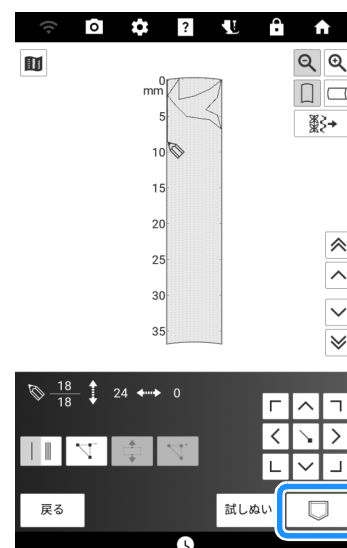
↖	↑	↗
←	■	→
↙	↓	↘

 を使って、ポイントを移動します。

メモリー機能を使う（マイイラスト機能）

■ 模様を保存する

- 1  を押します。



- 2 P. 62 「文字／飾り模様を保存する」を参照して、作成した模様を保存します。

■ 模様を呼び出す

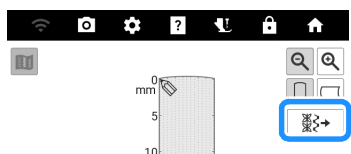
P. 62 「模様を呼び出す」を参照してください。

3

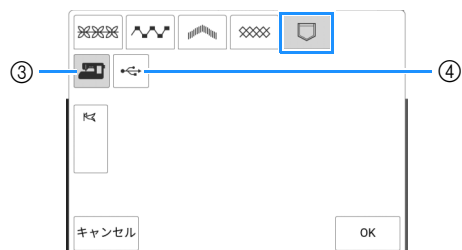
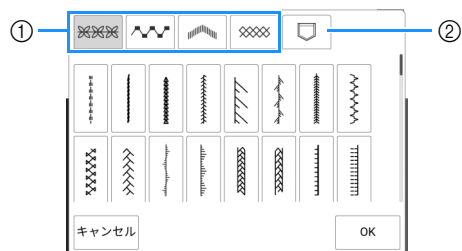
いろいろな使い方

■ 模様を呼び出して編集する

1  を押します。



2 模様のカテゴリを選択します。 を選択したときは、保存先を押します。



① サンプル模様

② 保存したマイイラスト模様

③ ミシンのメモリーから呼び出します。

④ USB メディアから呼び出します。

* USB メディアが2つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。

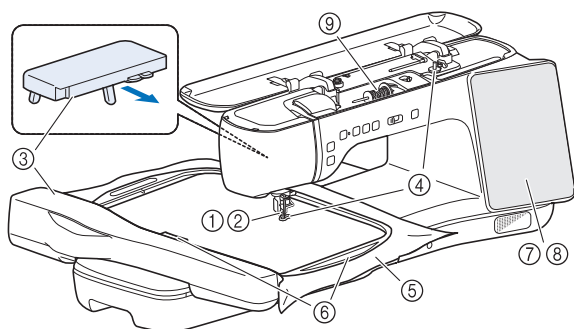
3 編集したい模様を選択し、[OK] を押します。

第4章 基本の刺しゅう

刺しゅうの準備

刺しゅうの手順

刺しゅうの準備手順は次のとおりです。



	目的	操作	参照
①	押えの取り付け	刺しゅう押え<W>を取り付けます。	123
②	針の確認	刺しゅうには、11番の針を使用します。	34
③	刺しゅう機／サポートテーブルの取り付け	刺しゅう機とサポートテーブルを取り付けます。	124
④	下系のセット	刺しゅう用下糸を巻いて下糸をセットします。	35
⑤	布地の準備	接着芯を貼った布地を刺しゅう枠に張ります。	125
⑥	刺しゅう枠の取り付け	刺しゅう枠を刺しゅう機にセットします。	129
⑦	模様の選択	電源スイッチを入れ、刺しゅう模様を選びます。	132
⑧	レイアウトの確認	刺しゅうの大きさと位置を確認して調整します。	137
⑨	上系のセット	模様に合わせて上糸をセットします。	40

刺しゅう押え<W>を取り付ける

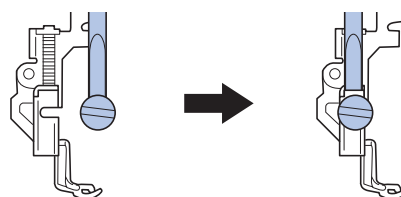
⚠ 注意

- 刺しゅう押えを取り付けるときは、必ず画面のを押してください。スタート/ストップスイッチが押されると、けがの原因となります。
- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう押え<W>を使用してください。針が折れ、けがをするおそれがあります。
- 付属のマルチドライバーを使用して、押えホルダーのネジをしっかりしめてください。ネジがゆるい場合、針が刺しゅう押えに当たり、けがをするおそれがあります。

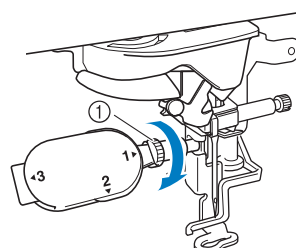
1 を押します。押えレバーを上げて、押えと押えホルダーを取り外します。(P. 46)

2 押え棒のネジに刺しゅう押え<W>のミゾを合わせて取り付けます。

側面



3 刺しゅう押えを右手で押えながら、付属のマルチドライバーで押えホルダーのネジをしっかりとしめます。



① 押えホルダーのネジ

4 を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

→ すべてのキーと操作スイッチのロックが解除され、元の画面が表示されます。

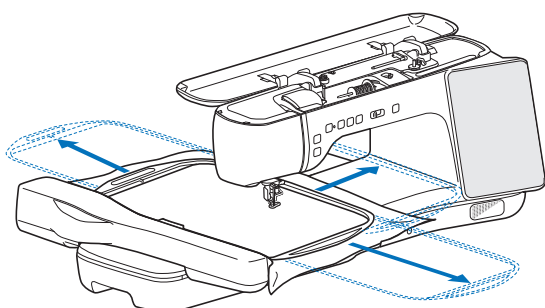
刺しゅう機を取り付ける

▲ 注意

- 刺しゅう機を本体に取り付けたまま、持ち運ばないでください。刺しゅう機が落下するおそれがあり、けがの原因となります。

重要

- 刺しゅう縫製中は、刺しゅうキャリッジや刺しゅう枠に手や物を近づけないでください。損傷や故障の原因となります。
- 必ず電源スイッチを切ってから、刺しゅう機の取り付けや取り外しを行ってください。ミシンが故障する原因となります。
- 刺しゅう機のコネクタには触らないでください。コネクタピンの破損の原因になります。
- 刺しゅう機のキャリッジを持って持ち上げたり、キャリッジに強い力を加えたりしないでください。刺しゅう機が故障する原因となります。
- 刺しゅう機を取り付けるときは、キャリッジを押さないでください。キャリッジを動かすと、刺しゅう機の故障の原因となります。
- 刺しゅう機のキャリッジが移動できる十分なスペースがあることを確認してください。刺しゅう枠が物に接触すると、模様が正しく刺しゅうされなかったり、破損するおそれがあります。刺しゅう機の背面から 50 cm のスペースが必要です。



- キャリッジが初期設定の位置へ移動するまで、触らないでください。

💡 お願い

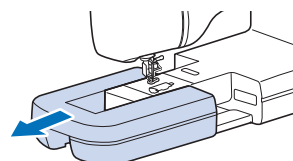
- 刺しゅうをするときは、サポートテーブルを取り付けてください。刺しゅう枠と布地を支えるサポートテーブルを使うことで、縫製品質を保つことができます。
- 刺しゅう模様の歪みをふせぐために、刺しゅう縫製中は、キャリッジや刺しゅう枠に触れないでください。
- 刺しゅう機の損傷を防ぐために、刺しゅう機を安全な場所に保管してください。

📖 お知らせ

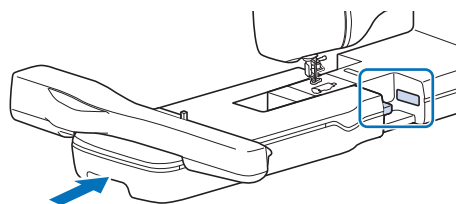
- 刺しゅう機が取り付けられた状態でも、実用ぬいや文字・模様ぬいができます。を押してから、ホーム画面で【実用・文字模様】を押してください。

■ 刺しゅう機を取り付ける

- 電源スイッチを切り、補助テーブルを外します。



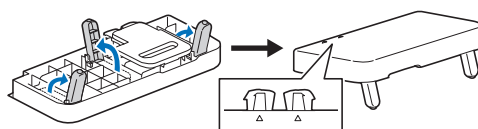
- コネクタを差し込み口にカチッと音がするまで刺しゅう機を差し込みます。



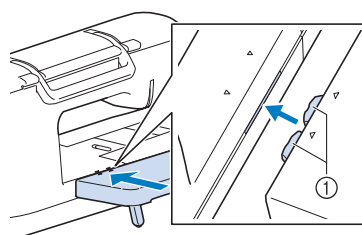
💡 お願い

- 刺しゅう機と本体の間にすき間ができないようにしてください。すき間があると、模様くずれの原因となります。

- サポートテーブルの背面にある 3 本の脚を、カチッと音がするまで起こし、△印がある側が上になるようにサポートテーブルを置きます。



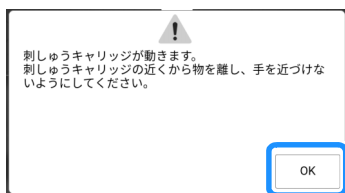
- ミシン背面とサポートテーブルの△印を合わせ、ツメをミシンに挿入します。



① ツメ

- 電源スイッチを入れます。

6 [OK] を押します。



→ キャリッジが初期設定の位置に移動します。

■ 刺しゅう機の取り外し方

1 刺しゅう枠を取り外します。

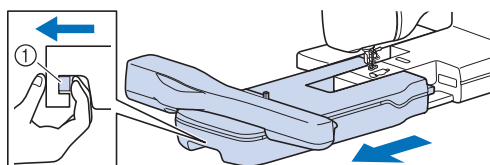
* 刺しゅう枠の取り外しについて詳しくは、P. 130「刺しゅう枠の取り外し方」を参照してください。

2 ホーム画面で[刺しゅう]を押してからを押します。

→ キャリッジが収納位置に移動します。

3 電源スイッチを切ります。

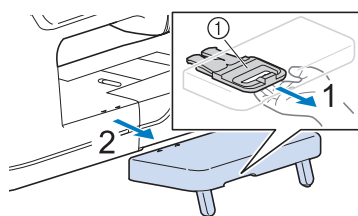
4 刺しゅう機取り外しレバーを押して、刺しゅう機をミシンから引き出します。



① 刺しゅう機取り外しレバー

お知らせ

- 実用模様は、サポートテーブルを取り付けた状態でもぬうことができます。サポートテーブルは常にミシンに取り付けておくことをお勧めします。ミシンを持ち運ぶときは、取り外しレバーを手前に引き、サポートテーブルを取り外してください。



① 取り外しレバー

刺しゅう枠に布地を張る

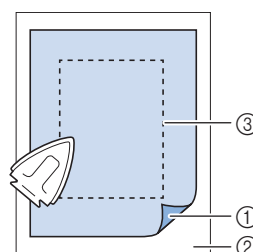
▲ 注意

- 布地の厚さは2mmより薄いものを使用してください。2mm以上の厚さの布地を使用すると、針が折れ、けがをするおそれがあります。
- 伸びる布地や薄地、目の粗い織物、模様が縮む布地を刺しゅうするときは、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。接着芯を使用しないと、針が折れ、けがをするおそれがあります。

■ 接着芯を布地に貼る

1 布地の裏側に接着芯をアイロンをかけて貼ります。

- 使用する刺しゅう枠より大きい接着芯を準備します。



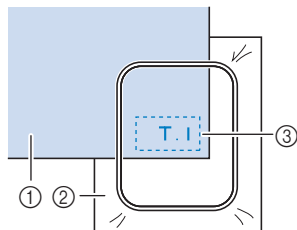
- ① 接着面
- ② 布地（裏面）
- ③ 刺しゅう枠の大きさ

お願い

- アイロンがかけられない布地（タオルなどの起毛している布地）やアイロンのかけにくい場所に刺しゅうをするときは、接着せずに、布地の下に接着芯を重ねて刺しゅう枠に張ってください。

お知らせ

- 刺しゅう枠に張ることができない小さい布地に刺しゅうをする場合は、接着芯を土台にします。軽くアイロンで布地を接着芯に貼り、刺しゅう枠に張ります。アイロンで布地を接着芯に貼ることができない場合は、しつけをします。接着芯は刺しゅうが終わってからていねいに取り除きます。



- ① 布地
- ② 接着芯
- ③ しつけ

- オーガンジーやローンなど薄手の素材やタオル、コーデュロイなど起毛している布地に刺しゅうをするときは、水で溶ける刺しゅう用水溶性シート（別売）を使用してください。水で洗うとシートが溶け、固くならずきれいに仕上がります。厚地のパイル織りのタオルには、水溶性シートをタオルの表面に置いて布と一緒に枠に張ることをおすすめします。タオル地の毛足がカバーされて、よりきれいに仕上がります。

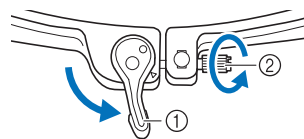
刺しゅう枠の種類

刺しゅう枠	縫製範囲
	465 mm × 297 mm (P. 126)
	272 mm × 272 mm (P. 127)
	180 mm × 130 mm (P. 128)
	100 mm × 100 mm (P. 128)

刺しゅう枠（465 mm × 297 mm）に布地を張る

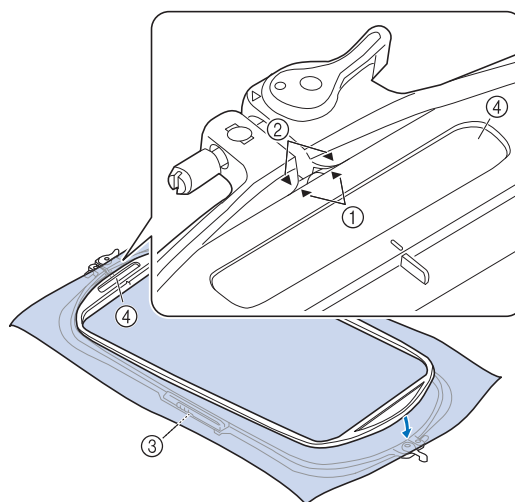
1 外枠のレバーをゆるめ、内枠を外します。

- * 内枠が外れない場合は、枠調節ネジをゆるめてください。



- ① レバー
- ② 枠調節ネジ

2 刺しゅう枠のガイドを左にして、外枠の上に布地を置きます。内枠の長方形の部分(④)が上を向いていることを確認し、内枠の▲と外枠の▼の位置を合わせて内枠をはめ込み、布地を固定します。内枠の上部が、外枠上部の縁に収まるようにしてください。



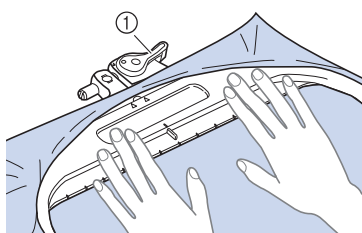
- ① 内枠の ▲
- ② 外枠の ▼
- ③ 刺しゅう枠のガイド
- ④ 長方形部分

お知らせ

- 内枠の取り付けを間違えると、内枠が外れて刺しゅうが正しくできません。

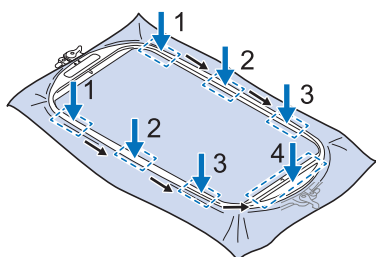
3 上部のレバーをしめた状態で、内枠を外枠に押し込みます。

* 下部のレバーはゆるめます。

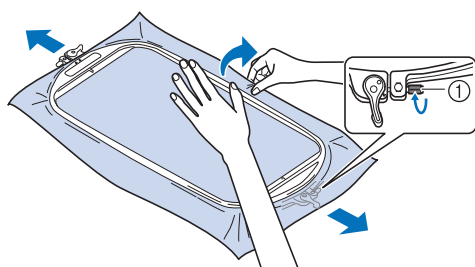


① 上部のレバーをしめます。

4 図に示す順で内枠を外枠に押し込みます (上から下)。



5 布地をやさしく伸ばします。下部のレバーはゆるめたままで枠調節ネジを少ししめ、布地の端を引っ張ってたるみを取ります。



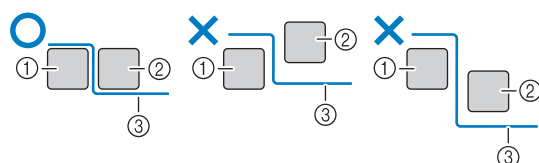
① 枠調節ネジ

💡 お願い

- 布地が厚いときなど、上部の布がピンと張れない場合は、上部のレバーを少しゆるめ、上部の枠調節ネジをゆるめ、布地の端を引っ張ってたるみをなくしてください。

6 布地を伸ばした後、布地がピンと張っていること、内枠と外枠の位置が合っていることを確認します。

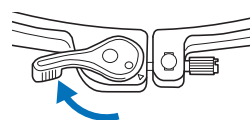
* 刺しゅうを始める前に、内枠と外枠の高さが同じになっていることを確認してください。



- ① 外枠
- ② 内枠
- ③ 布地

7 下部のレバーをしめます。

* レバーがしまらない場合は、枠調節ネジをゆるめてください。



■ 刺しゅう枠 (272 mm × 272 mm) に布地を張る

1 外枠のレバーをゆるめ、内枠を外します。

* P. 126 「刺しゅう枠 (465 mm × 297 mm) に布地を張る」の手順 **1** を参照してください。

2 P. 128 「レバーのない刺しゅう枠に布地を張る」の手順 **2** ~ **5** を行います。

3 枠調節ネジをしめ、レバーをしめます。

* P. 126 「刺しゅう枠 (465 mm × 297 mm) に布地を張る」を参照し、手順 **7** に進んでください。

4

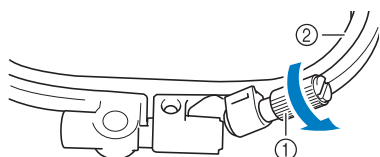
基本の刺しゅう

■ レバーのない刺しゅう枠に布地を張る

💡 お願い

- 刺しゅう枠の布地の張り方がゆるいと、模様くずれの原因となります。布地は平らな場所で、たるまないよう、刺しゅう枠にしっかりと張ってください。

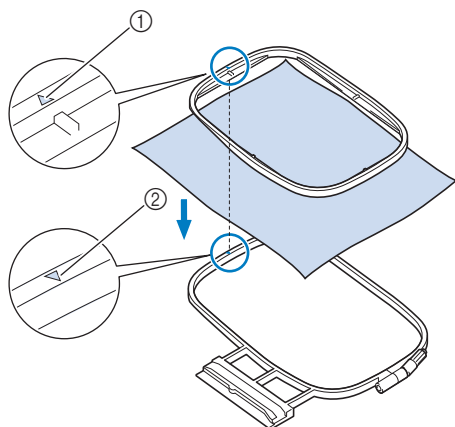
- 1 枠調節ネジを引き起こしてネジをゆるめ、内枠を外します。



- ① 枠調節ネジ
- ② 内枠

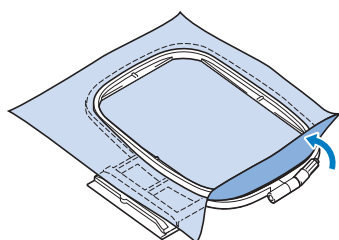
- 2 布地の表側を上にして外枠の上にのせます。

- 3 内枠の△と外枠の▽が合うように、内枠を差し込みます。



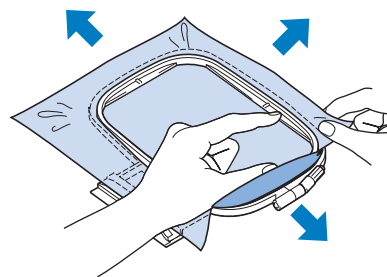
- ① 内枠の △
- ② 外枠の ▽

- 4 枠調節ネジを軽くしめ、布地の端を引っ張りながらたるみをなくします。

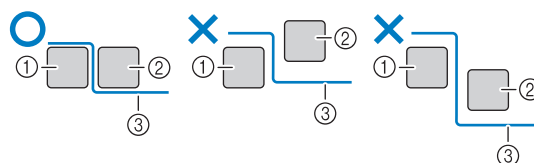


- 5 布地をやさしく伸ばします。布地が平らでシワがないことを確認します。

- * 布地を引っ張った後、ピンと張っていることを確認してください。

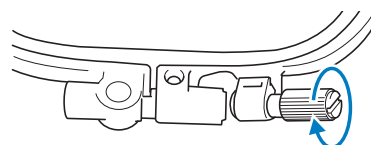


- * 刺しゅうを始める前に、内枠と外枠の高さが同じになっていることを確認してください。



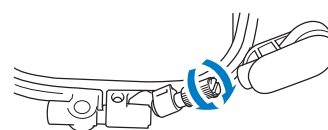
- ① 外枠
- ② 内枠
- ③ 布地

- 6 枠調節ネジをしめ、元の位置に戻します。



📖 お知らせ

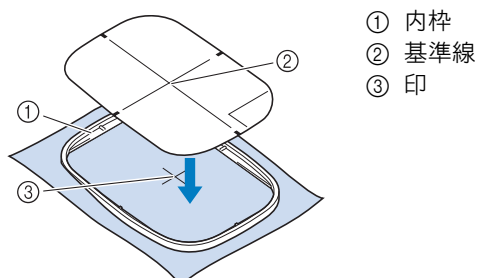
- 枠調節ネジをゆるめたり、しめたりするときは、付属のマルチドライバーを「3」の位置にして使用します。



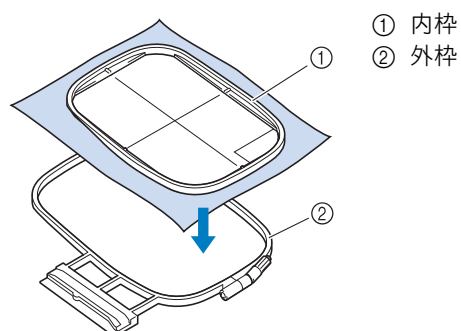
■ 刺しゅうシート（別売）の使い方

刺しゅうシート（別売）を使うと、刺しゅうの位置合わせができます。

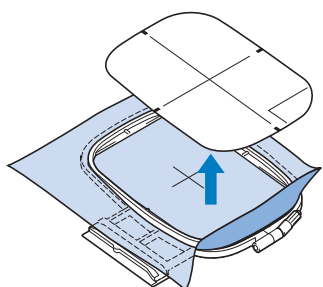
- 1 布地の刺しゅうする位置にチャコペンで印を付けます。
- 2 刺しゅうシートを内枠にのせます。刺しゅうシートの基準線と布地の印を合わせます。



- 3 折り目やしわができないように、布をやさしくと引っ張り、内枠を外枠にはめます。



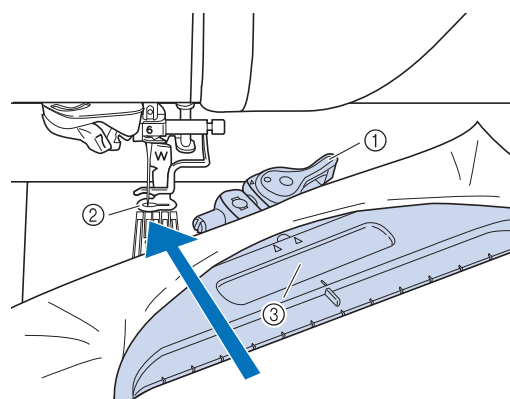
- 4 刺しゅうシートを取り出します。



刺しゅう枠をセットする

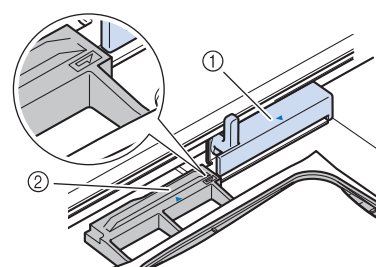
❖ お願い

- 465 mm×297 mm の刺しゅう枠をミシンに着脱するときは、図のように刺しゅう枠レバーが押えに当たらないように斜めにしてください。刺しゅう枠のレバーが布地で隠れている場合は、内枠の長方形の部分（くぼみ）が押えに当たらないように着脱してください。



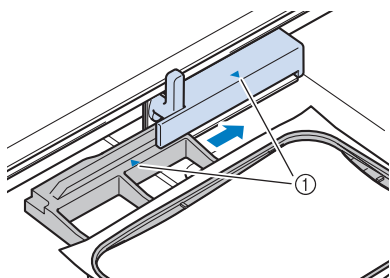
- ① 刺しゅう枠レバー
 - ② 刺しゅう押え
 - ③ 長方形の部分（くぼみ）（この部分に刺しゅう押えが当たらないようにしてください。）
- 刺しゅう枠をセットする前に、刺しゅう用下糸を巻いてボビンをセットしてください。ボビンに糸が十分あることを確認してください。
 - 刺しゅう枠を刺しゅう枠ホルダーに取り付けた後、枠固定レバーが正しく下がっていることを確認してください。

- 1  (押え上下スイッチ) を押して、刺しゅう押えを上げます。
- 2 刺しゅう枠のガイドを刺しゅう枠ホルダーの右側面に合わせます。



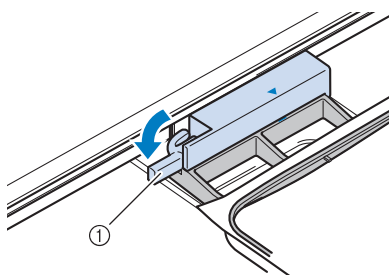
- ① 刺しゅう枠ホルダー
- ② 刺しゅう枠のガイド

- 3** 刺しゅう枠の△がホルダーの▽の位置まで来るように、刺しゅう枠をスライドさせます。



① 矢印の印

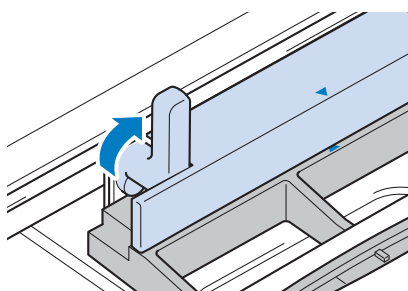
- 4** 枠固定レバーを枠に平行になるまで下げて、刺しゅう枠を刺しゅう枠ホルダーに固定します。



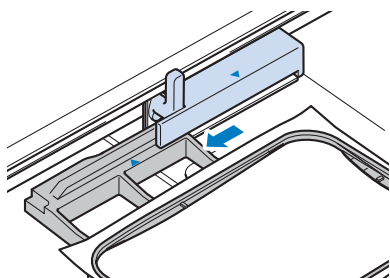
① 枠固定レバー

■ 刺しゅう枠の取り外し方

- 1** 枠固定レバーを上げます。



- 2** 刺しゅう枠を手前に引きます。



きれいに刺しゅうするために

刺しゅうをきれいに仕上げるためには、いくつかのポイントがあります。接着芯の貼り方 (P. 125) や布地の刺しゅう枠への張り方 (P. 128) は大きなポイントです。他のポイントもいくつかあります。

▲ 注意

- 大きなもの（特にジャケットやキルト）に刺しゅうする場合は、布地をミシンを置いた台から下へ垂らさないようにしてください。刺しゅう機の動きが制限され、刺しゅう枠が針に当たり、針が折れてけがをするおそれがあります。

💡 お願い

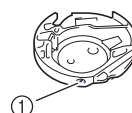
- ぬい上がりを確認するために、実際に使用するものと同じ布と糸で試しぬいをするをお勧めします。

■ 糸

上糸	ブラザー純正の刺しゅう糸をご使用ください。
下糸	付属の 60 番の刺しゅう用下糸またはブラザーが推奨する 60 番の刺しゅう用下糸を使用してください。

■ 内かま

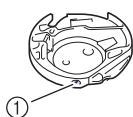
標準内かま（実用ぬいをするとき、付属の 60 番の下糸で刺しゅうするとき）



① 標準内かま（ネジに緑のマーキング）

購入時ミシンに取り付けられている標準内かまはネジに緑のマーキングがあります。刺しゅうをするときは、この内かまと付属の刺しゅう下糸をご使用ください。この内かまの緑のマーキングがあるネジは調整しないでください。

下系張力調整用内かま（ブラザー推奨の刺しゅう下系以外の下系で刺しゅう時に下系調整の調整が必要な場合）

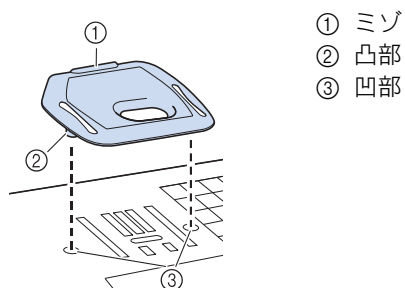


- ① 下系張力調整用内かま（ネジに色は付いていません）

ネジに色のついていない内かまは異なった太さの下系やさまざまな刺しゅうに対応するため、張力が強くセットされています。この内かまは、内側に印が付いています。この内かまを使用するときは試しぬいをして、必要に応じて、締ネジを調整してください。（P. 164）

■ 刺しゅう専用針板カバー

布の種類や接着芯、使用する糸などによって、上糸が浮く場合があります。このようなときは、図のように刺しゅう専用針板カバーを針板の凹部に挿入します。



▲ 注意

- 刺しゅう専用針板カバーはしっかり押し込んで取り付けてください。刺しゅう専用針板カバーの取り付け方が悪いと、針が折れてけがをするおそれがあります。

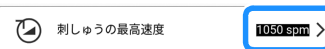
刺しゅう専用針板カバーを取り外すときは、ミゾに爪を当て、持ち上げてください。

💡 お願い

- 刺しゅう専用針板カバーは、刺しゅうの目的以外では使用しないでください。

■ 刺しゅう時の速度

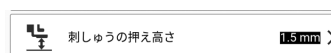
薄地、厚地、重い布地に刺しゅうするとき、メタリック糸などの特殊な糸を使用するときは、速度を遅くします。刺しゅう時の速度は設定画面で設定できます。spm は 1 分間あたりの針数を示します。



■ 刺しゅう押えの高さ

厚い布地や毛羽立った布地は、設定画面で押えの高さを調整することできれいに刺しゅうすることができます。

⚙️を押して、[刺しゅうの押え高さ] で数字を大きくすると、針板から刺しゅう押えまでの高さが大きくなります。



刺しゅうする

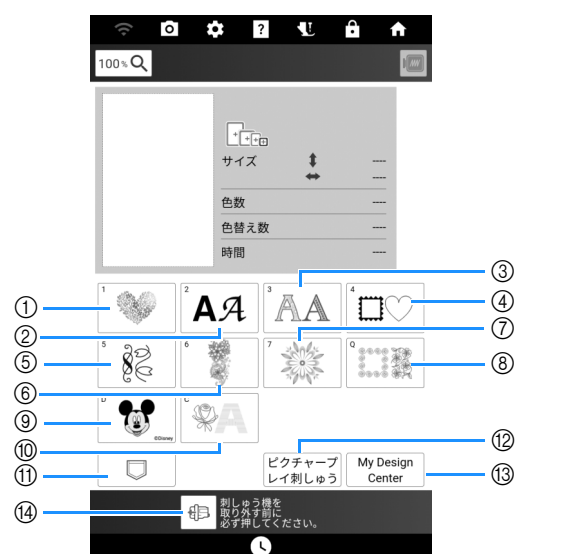
■ 著作権について

ミシンに内蔵されている模様は、一般家庭用としてのみお楽しみいただけます。営利または業務目的での使用は著作権法上固く禁じられておりますのでご注意ください。

刺しゅう模様カテゴリ

📖 お知らせ

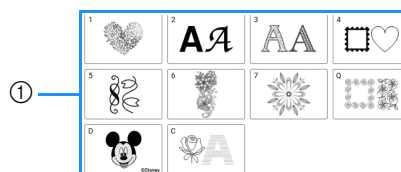
- 各カテゴリの刺しゅう模様については、「模様一覧」を参照してください。
<https://s.brother/cmdaf/> をご覧ください。



- ① 刺しゅう模様
- ② 文字模様 (P. 135)
- ③ 飾リアルファベット模様
- ④ 枠模様
- ⑤ ボタン穴／アイレット模様／デザイン模様 (ボタン穴装飾用)／実用刺しゅう模様
- ⑥ 分割模様 (P. 210)
- ⑦ ロングステッチ刺しゅう模様
刺しゅうをする前に、「模様一覧」できれいに仕上げるための注意事項をお読みください。
- ⑧ キルトサッシ／エッジトゥエッジキルト模様 (P. 193、P. 199、P. 201、P. 206)
- ⑨ ディズニー模様
- ⑩ カウチング模様 (P. 189)
- ⑪ 本機のメモリーやUSB メディアなどに保存された模様 (P. 166)
- ⑫ ピクチャープレイ刺しゅう機能 (P. 175)
- ⑬ マイデザインセンター (P. 225)
- ⑭ このキーを押すと、刺しゅう機が収納位置に移動します (P. 125)

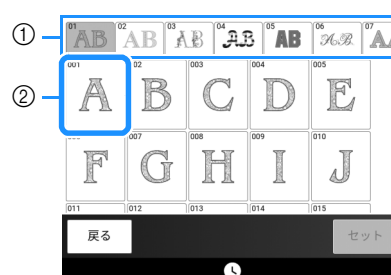
刺しゅう模様を選ぶ

- 1 ホーム画面の[刺しゅう]を押して、刺しゅうしたい模様のカテゴリキーを押します。



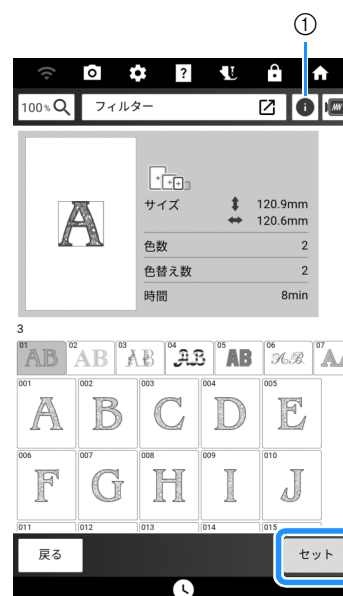
- ① 模様カテゴリキー

- 2 サブカテゴリを選択し、刺しゅう模様を選択します。



- ① サブカテゴリ
- ② 刺しゅう模様

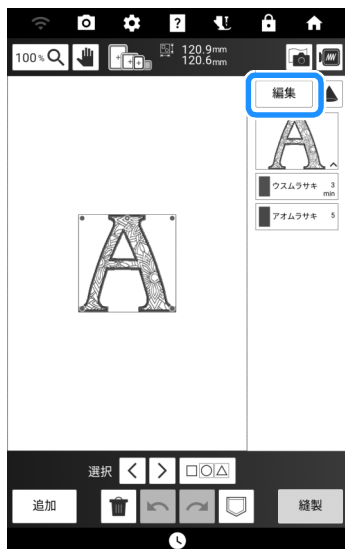
- 3 [セット]を押します。



- ① このキーを押すと、選択した模様の詳細情報が表示されます。

4 必要に応じて、[編集]を押して選択した模様を編集します。

* 「編集」画面については、P. 140「刺しゅう編集画面」を参照してください。

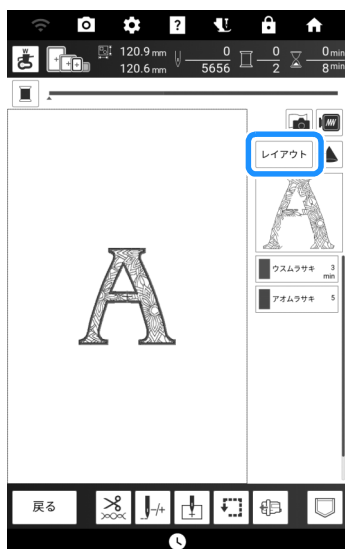


5 [縫製]を押します。

→ 縫製画面が表示されます。

6 必要に応じて、[レイアウト]を押して模様的位置を調整します。

* 詳しくは、P. 143「縫製画面」を参照してください。



7 刺しゅうします。(P. 138)

刺しゅう模様を絞り込む

刺しゅう模様は、サイズや糸色の数で絞り込むことができます。

1 絞り込む刺しゅう模様のカテゴリーを選択します。

* 以下のカテゴリーで絞り込みができます。



2 [フィルター]を押します。



3 刺しゅう枠のサイズと糸色数の上限と下限を指定します。

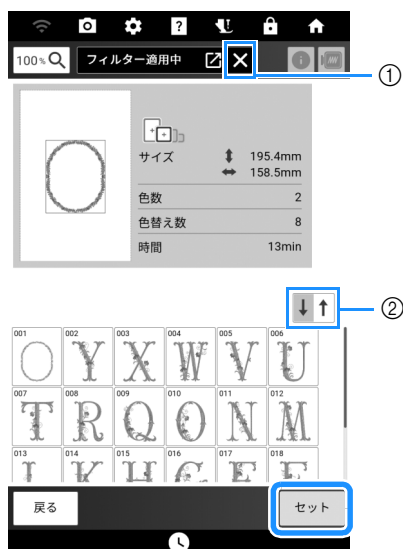


- ① 刺しゅう枠のサイズの上限と下限を指定します。
- ② 糸色の数を指定します。指定したい色数のチェックボックスにチェックマークが入るようにチェックボックスを押します。
- ③ 設定をリセットします。

4 [適用]を押します。

→ 指定した条件を満たす模様が表示されます。刺しゅう枠のサイズを指定した場合は、サイズ順に表示されます。糸色の数を指定した場合は、糸色の数の順に表示されます。刺しゅう枠のサイズと糸色の数の両方を指定した場合は、サイズ順を優先して表示されます。

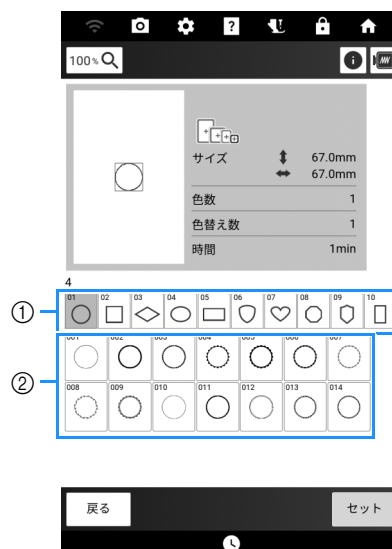
5 模様を選択し、[セット]を押します。



- ① 絞り込みをリセットします。
- ② 降順／昇順を切り替えます。

枠模様を選ぶ

- 1 を押します。
- 2 画面の上段にある、刺しゅうしたい枠の形のキーを押します。
次に、刺しゅうしたい枠模様のキーを押します。

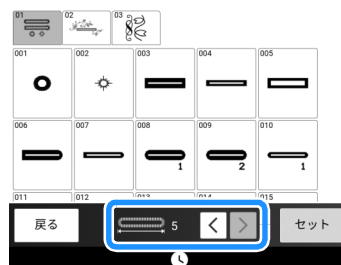


- ① 枠の形
- ② 枠模様

- 3 P. 132「刺しゅう模様を選ぶ」の手順 3～7 を参照して操作します。

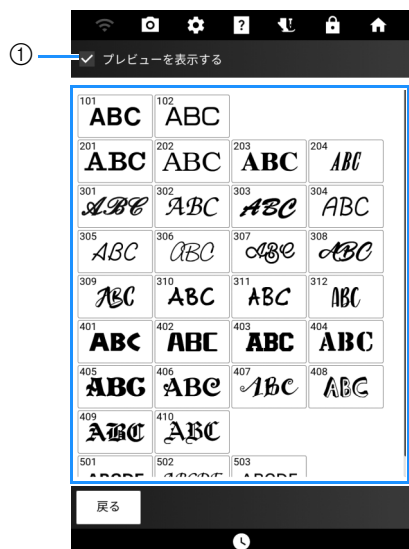
ボタン穴／アイレット模様を選ぶ

- 1 を押します。
- 2 模様を選択して、< >を押してサイズを変更します。



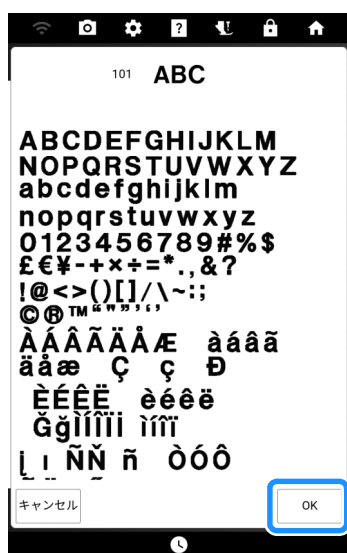
アルファベット文字模様を選ぶ

- 1 **A**を押します。
- 2 刺しゅうしたいフォントのキーを押します。



- ① チェックボックスをオンにすると、フォントを選択した後にすべての文字のプレビューが表示されます。

- 3 文字のプレビューが表示されたら、フォントを確認して、[OK]を押します。



- 4 入力する文字の大きさを指定します。文字のカテゴリを選択し、文字を入力します。



- ① 文字のフォントを変更します。
- ② 文字サイズを指定します。
- ③ カーソルを移動し、文字を選択します。(P. 136)
- ④ 複数文字選択／単一文字選択を切り替えます。(P. 136)
- ⑤ 文字を削除します。
- ⑥ 行を追加します。
- ⑦ スペースを入力します。
- ⑧ 文字を右、左、中央に揃えます。(P. 136)
- ⑨ 文字模様の間隔を変更します。(P. 142)
- ⑩ 文字模様の配列を変更します。(P. 142)

お知らせ

- 文字を入力する場合、カーソルは最後に入力した文字の後に配置されます。フォントや文字サイズの設定を変更すると、次に入力した文字から新しい設定が適用されます。

ABC ①

① カーソル

- 既に入力されている文字を選択することで、そのフォントや文字サイズを変更することができます。詳しくは、P. 136「入力した文字を選ぶ」を参照してください。

- 5 [セット]を押します。
- 6 P. 132「刺しゅう模様を選ぶ」の手順 4～7 を参照して操作します。

■ 入力した文字を選ぶ

入力済みの文字のフォントやサイズを変更するために文字を選びます。

□ 1つの文字を選ぶ

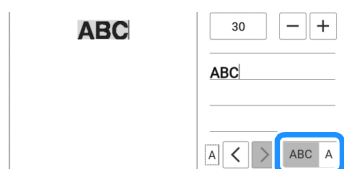
単一文字選択モード (ABC A) で、< > を押して変更する文字を選択します。



① 選択した文字

□ 複数の文字を選ぶ

複数文字選択モード (ABC A) では、すべての文字が選択されます。



文字の選択を解除する場合は、その文字を押します。



① 選択解除した文字

■ 行を追加する

💡 お願い

- 文字入力時に改行の追加や文字の配置の変更を行ってください。[セット]を押した後は変更できません。

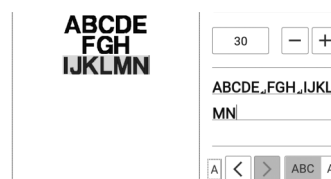
1 1行目の文字を入力し、を押します。

2 2行目の文字を入力し、を押します。3
行目の文字を入力します。



💡 お願い

- 文字が複数行ある複数文字選択モード (ABC A) では、カーソルがおかれた行の文字がすべて選択されます。別の行にある文字を選択する場合は、その行を押してください。



3 を押して、文字の配置を変更します。

 : 右寄せ

 : 左寄せ

ABCDE
FGH
IJKLMN

ABCDE
FGH
IJKLMN

 : 中央揃え

ABCDE
FGH
IJKLMN

模様の位置を確認する

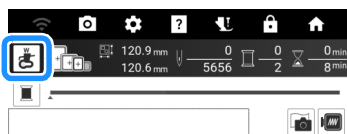
お知らせ

- 模様を布地に映して、模様的位置を確認したり編集することができます。(P. 152)

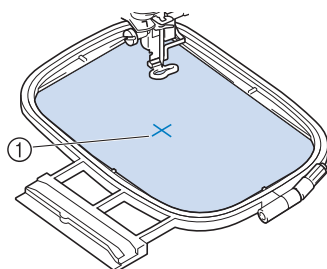
■ プロジェクターで針落ち位置を確認する

プロジェクターのポインターで、刺しゅう前に針落ち位置を確認することができます。

1 縫製画面でを押します。



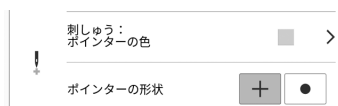
→ プロジェクターのポインターは布地に針落ち位置を示します。



① 針落ち位置

お知らせ

- ポインターの色や形は設定画面で変更できます。



お願い

- 厚い布やキルト布のように、表面の凹凸が大きい布地を使用するときは、布の厚さが正しく測定されることがあります。この場合、ポインターの位置は、目安としてお使いください。

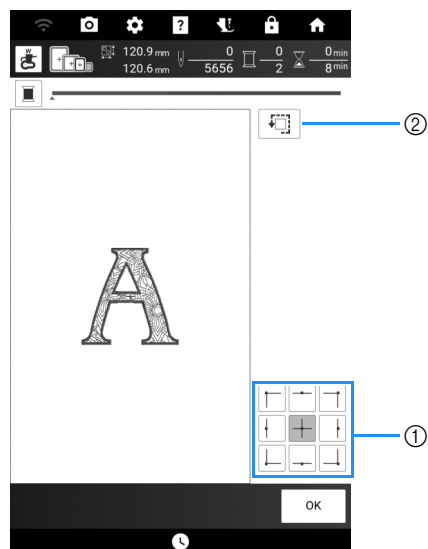
■ 模様の位置を確認する

キャリッジが動いて模様的位置を示します。刺しゅう枠の動きを見て、模様が正しい場所に刺しゅうされることを確認してください。

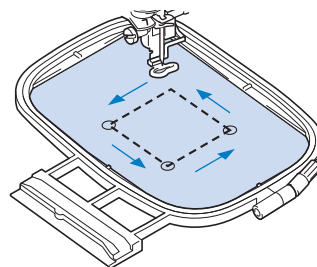
1 を押します。



2 確認したい位置のキーを押します。



- ① 選択した位置を確認するときに押します。
- ② 縫製範囲全体を確認するときに押します。



→ キャリッジが動き、模様的位置を示します。

お知らせ

- を押すと、プロジェクターのポインターは布地に針落ち位置を示します。

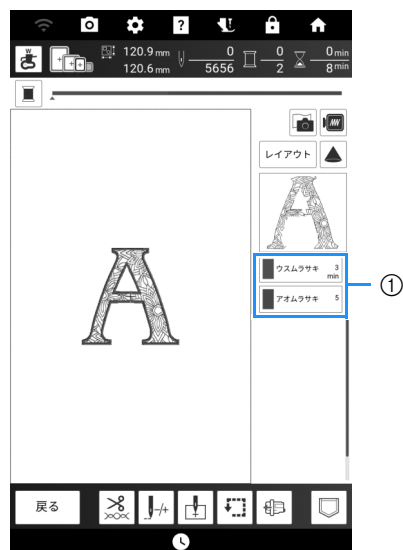
⚠ 注意

- 刺しゅう枠が動いているときは、針を下げないでください。針折れやけがの原因となります。

3 [OK]を押します。

刺しゅうする

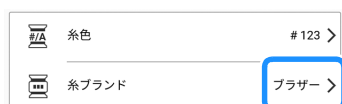
- 1 画面に表示されている色の刺しゅう糸を用意します。



① 色替えの順番

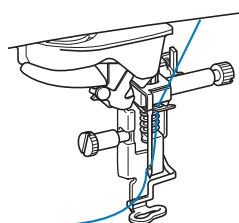
お知らせ

- この画面には、設定画面で選択した設定に応じて、糸色名または糸番号のいずれかが表示されます。糸ブランドを選択することもできます。(P. 23)



- 自動糸切り機能と渡り糸切り機能が使えます。(P. 139)

- 2 糸通し装置を使って、1色目の糸を通します。

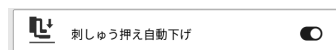


- 3 刺しゅう押えを下げ、スタート/ストップスイッチを押して刺しゅうを始めます。

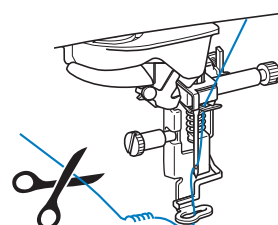
→ 1色目の刺しゅうが終わると、ミシンが止まります。
次にぬう色が、色替えの順番表示の一番上に移動します。

お知らせ

- 設定画面で、押えが上がっていてもスタート/ストップスイッチを押すと自動的に刺しゅう押えが下がるように設定できます。(P. 23)



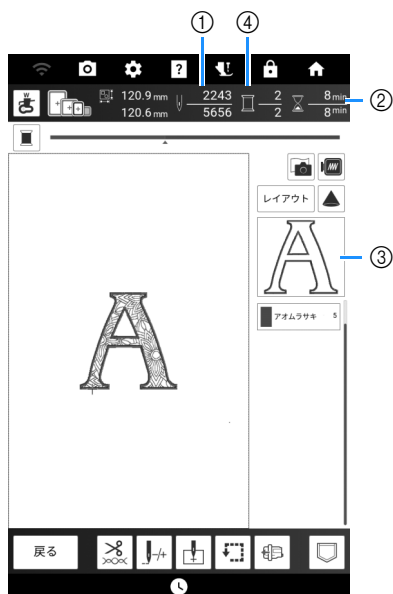
- よりきれいな仕上がりにしたい場合は、以下の手順で糸の処理をします。
 - 5～6針ぬった後、もう一度スタート/ストップスイッチを押して、ミシンを止めます。
 - ぬい始めの余分な糸を切ります。刺しゅう押えの下にぬい始めの糸が隠れているときは、刺しゅう押えを上げてから余分な糸を切ってください。



- 余分な糸が残っていると、縫製中に模様の下にぬい込まれることがあり、模様の完成後、糸の処理がむずかしくなります。各糸替えの始めに糸を切ってください。

- 4 1色目の糸をミシンから取り外します。次の色の糸を通します。

- 5 残りの色も同じ手順を繰り返して、刺しゅうします。



- ① 現在の針数 / 総針数
 ② 現在の時間 / 総時間
 ③ 次に刺しゅうする箇所
 ④ 刺しゅうした色数 / 総色数
 → 最後の色が刺しゅうされると、画面に [ぬい終わりました。] と表示されます。[OK] を押して、元の画面に戻ります。

- 6 余分な渡り糸を切ります。

■ 自動糸切り／渡り糸切り機能

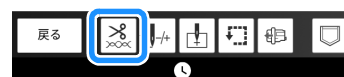
自動糸切り機能 は、各色のぬい終わりに自動的に糸を切ります。

渡り糸切り機能 は、余分な渡り糸を自動的に切ります。これらの機能は初期設定でオンになっています。

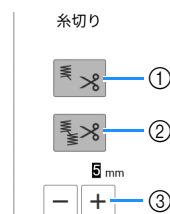
ABCDEF

- ① 渡り糸

- 1 縫製画面で を押します。



- 2 自動糸切り／渡り糸切り機能のオン／オフを切り替えます。



- ① 自動糸切り機能のオン／オフを切り替えます。
 ② 渡り糸切り機能のオン／オフを切り替えます。
 ③ または を押して、渡り糸の長さを設定します。例えば、値を 25 mm に設定すると、ミシンは次のぬい目に移動する前に、25 mm 以下の渡り糸を切らずに残します。

📖 お知らせ

- 糸切りの多い模様の場合は、布地の裏面に残る糸の量を減らすために、渡り糸の長さ調節を長めに設定することをお勧めします。
- 渡り糸の長さに設定する数値が大きくなるほど、糸を切る回数が減ります。この場合、布地にはより多くの渡り糸が残ることになります。

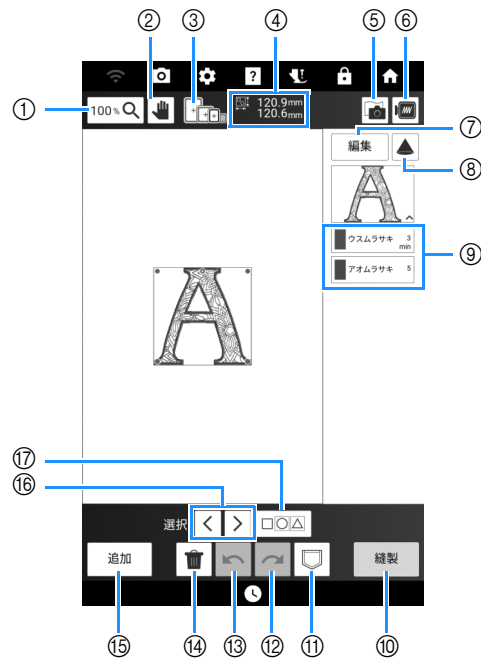
キーのはたらき（刺しゅう）

刺しゅう編集画面

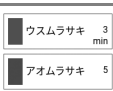
各キーを押して、模様を編集します。

 お知らせ

- ・キー表示が灰色の場合、選択した模様とその機能を使うことはできません。

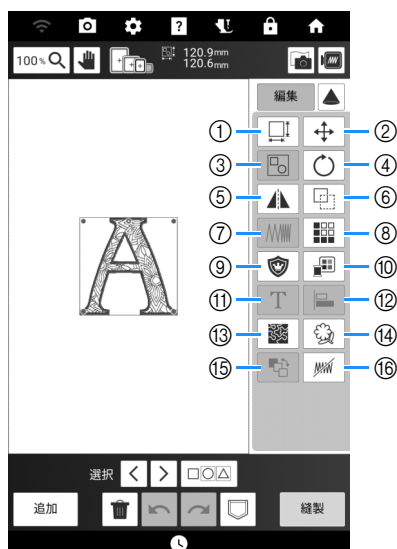


No.	表示	はたらき	参照
	名称		
①		倍率を選択することができます。	—
	拡大キー		
②		拡大画面で表示領域を動かすことができます。	—
	手のひらツールキー		
③		選択した模様を使用できる刺しゅう枠の種類を示します。	126
	使用可能な刺しゅう枠		
④		組み合わせた模様全体の大きさを示します。	—
	模様の大きさ		
⑤		刺しゅうの位置を合わせるために、布地をスキャンすることができます。	155
	布地スキャンキー		
⑥		刺しゅうのイメージを確認することができます。	151
	プレビューキー		
⑦		[編集]ウィンドウが表示されます。	141
	模様編集キー		

No.	表示	はたらき	参照
	名称		
⑧		プロジェクター機能を使って、模様を映すことができます。	152
	プロジェクターキー		
⑨		現在選択されている模様の色替えの順番と、各色の縫製時間を示します。	138
	糸色の順番		
⑩		縫製画面を表示します。	—
	縫製キー		
⑪		模様をミシンのメモリーまたは USB メディアに保存します。無線接続で模様をパソコンに送ることもできます。	165
	保存キー		
⑫		取り消した最後の操作をやり直します。	—
	やり直しキー		
⑬		最後の操作を取り消します。	—
	元に戻すキー		
⑭		選択した模様（赤い四角で囲まれている模様）を削除します。	—
	削除キー		
⑮		編集中の模様、別の模様を追加することができます。	145
	追加キー		
⑯		画面上に複数の模様があるとき、選択した模様を変更することができます。	145
	選択キー		
⑰		画面上の複数の模様を同時に選択できます。	146、147
	複数選択キー		

■ [編集] ウィンドウ

[編集] を押すと [編集] ウィンドウが表示されます。



No.	表示 名称	はたらき	参照
①	 サイズキー	模様の大きさを変えることができます。	144
②	 移動キー	模様移動ウィンドウを表示することができます。 : 矢印の方向に模様を移動させます。 : 模様を中央に配置します。	—
③	 グループ化／グループ化解除キー	複数の模様を選択してグループ化できます。	—
④	 回転キー	模様回転ウィンドウを表示することができます。 回転させたい方向と角度が表示されたキーを選択します。 : 回転を取り消します。 : 矢印の方向に模様を移動させます。 模様の四隅にある赤い点をドラッグしても、模様を回転することができます。	—
⑤	 左右反転キー	模様を左右に反転することができます。	—
⑥	 複製キー	模様を複製することができます。	—

No.	表示 名称	はたらき	参照
⑦	 糸密度キー	糸密度を変更することができます。文字・枠模様の一部などで設定することができます。他の模様は糸密度が変更できるように設定した後に、糸密度を設定できるようになります。(P. 144)	—
⑧	 ボーダー機能（繰り返し模様作成）キー	連続模様（ボーダー模様）を作って編集することができます。	148
⑨	 アップリケピースキー	選択した模様の輪郭を刺しゅうして、アップリケピースを作ることができます。	182
⑩	 糸色パレットキー	表示されている模様の色を変えることができます。	167
⑪	 文字編集キー	文字の編集をすることができます。	142
⑫	 整列キー	複数の模様を選択して整列することができます。	147
⑬	 スティップリングキー	模様の周囲にスティップリング、エコーキルト、デコラティブフィル模様を追加することができます。	192
⑭	 アウトライン抽出キー	模様の輪郭を抽出することができます。抽出した模様はマイデザインセンターで使用することができます。	247
⑮	 ぬい順キー	組み合わせた模様のぬい順を変えることができます。	170
⑯	 縫製スキップ設定キー	選択した糸色をぬわないよう設定することができます。	169

文字模様編集画面

文字を入力した後も、文字を再編集することができます。[編集]ウィンドウで「T」を押すと、次の画面が表示されます。

お知らせ

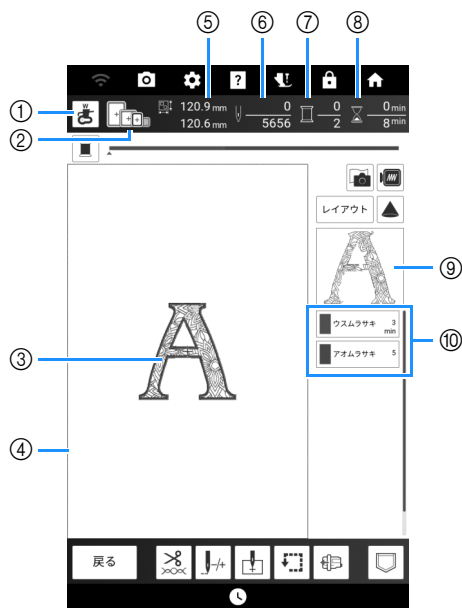
- キー表示が灰色の場合、選択した模様とその機能を使うことはできません。
- 文字模様を再編集するときは、改行キー (⑦) および整列キー (⑩) は使用できません。



No.	表示	はたらき	参照
	名称		
①	101 ABC	文字のフォントを変更します。 使用可能なフォントが表示されます。	—
	フォントタイプ キー		
②	30 - +	文字の大きさを変更します。	—
	フォントサイズ キー		
③	< >	カーソルを移動し、文字を選択 します。	136
	文字選択キー		
④	ABC A	複数の文字を選ぶか、1つの文 字を選ぶかを切り替えます。 • ABC A : 複数文字選択モ ード • ABC A : 単一文字選択モ ード	136
	複数／単一選択 キー		
⑤	—	文字のカテゴリーを選択しま す。	—
⑥	✕	文字を削除します。	—
	削除キー		
⑦	↵	行を追加します。 この機能は、文字を入力する場 合に使用できます。	136
	改行キー		

No.	表示	はたらき	参照
	名称		
⑧	␣	スペースを入力します。	—
	スペースキー		
⑨	セット	文字模様の編集を適用します。	—
	セットキー		
⑩	≡	文字を右、左、中央に揃えま す。この機能は、複数行で文字 が入力されている場合に使用で きます。	136
	整列キー		
⑪	ABC	文字模様の間隔を変更します。 • +ABC+ : 文字間を広げます。 • -ABC- : 文字間を狭くします。 • 選択されている文字と次の文 字の間隔を変更します。 文字「D」を選択した場合： ABCD E ↔ ABCDE すべての文字を選択した場 合： A B C D E ↔ A B C D E • A ^B : 選択されている1文 字を上に移動します。 • A _B : 選択されている1文 字を下に移動します。 • ABC : 間隔をリセットしま す。	—
	文字間キー		
⑫	ABC	文字模様の配列を変更します。 • 文字模様を円弧上に配置する 場合は、ABC、ABC、ABCま たはABCを押します。 • ABC : ゆるやかな曲線にしま す。 • ABC : 急な曲線にします。 • 文字模様を斜めに配置する場 合は、ABCを押します。 • ABC : 傾きを反時計回りに変 更します。 • ABC : 傾きを時計回りに変更 します。 • ABC : レイアウトをリセット します。	145
	配列キー		
⑬	⏏	文字の大きさを微調整します。	—
	サイズキー		
⑭	キャンセル	前の画面に戻ります。	—
	キャンセルキー		

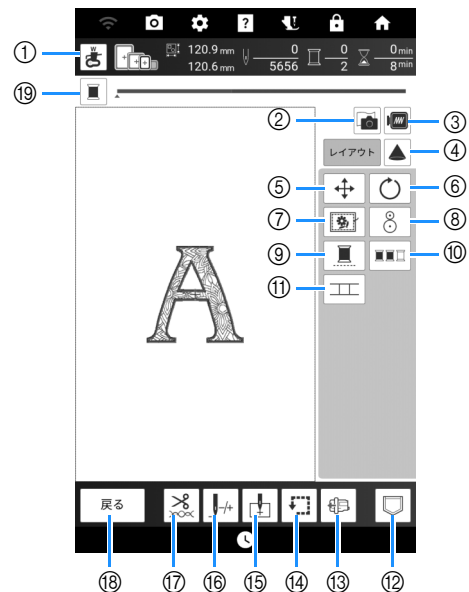
縫製画面



- ① プロジェクターで針落ち位置を確認することができます。（P. 137）
 - ② 選択した模様で使用できる刺しゅう枠の種類を示します。必ず適切な枠を使用してください。（P. 126）
 - ③ 選択した模様が表示されます。
 - ④ 設定画面で選択した枠の縫製範囲を示します。（P. 23）
 - ⑤ 選択した模様の大きさを示します。
 - ⑥ 選択した模様の針数と、現時点でぬい終わった分の針数を示します。
 - ⑦ 選択した模様の色数と、現在刺しゅうしている色の順番を示します。
 - ⑧ 選択した模様を刺しゅうするために必要な時間と、現時点でぬい終わった分のぬい時間を示します（糸色替えの時間と自動的に糸を切る時間は含みません）。
 - ⑨ 色替えの順番の一番上にある糸で刺しゅうされる部分を示します。
 - ⑩ 色替えの順番と、それぞれの糸色の縫製時間を示します。
- * 表示される時間は、縫製に必要と予測される時間の目安です。実際の縫製時間は、使用する刺しゅう枠の種類によっては、表示よりも長くかかります。また、表示される縫製時間には、糸替えにかかる時間は含まれていません。

■[レイアウト]ウィンドウ

[レイアウト]を押すと[レイアウト]ウィンドウが表示されます。



お知らせ

- 模様によっては、操作や機能が使用できない場合があります。キーが灰色の場合、選んだ模様とその操作や機能を使うことはできません。

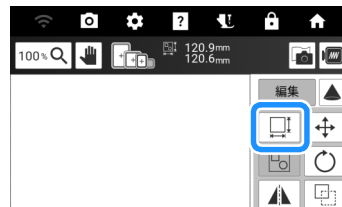
No.	表示 名称	はたらき	参照
①	針落ち位置確認キー	プロジェクターで針落ち位置を確認することができます。	137
②	布地スキャンキー	刺しゅうの位置を合わせるために、布地をスキャンすることができます。	155
③	プレビューキー	刺しゅうのイメージを確認することができます。	151
④	プロジェクターキー	プロジェクター機能を使って、模様を映すことができます。	152
⑤	移動キー	模様移動ウィンドウを表示することができます。	—
⑥	回転キー	模様回転ウィンドウを表示することができます。	—
⑦	しつけキー	模様にしつけぬいを加えることができます。	171
⑧	刺しゅう位置決めキー	内蔵カメラと刺しゅう位置合わせシールを使って、刺しゅう模様の位置合わせをすることができます。	157
⑨	一色ぬいキー	選択した模様を、一色でぬうことができます。	169

No.	表示	はたらき	参照
	名称		
⑩		選択した模様の縫製順を糸色ごとにまとめ、糸色を交換する回数を減らすことができます。	168
	カラーソートキー		
⑪		模様をつないで刺しゅうすることができます。内蔵カメラを使って、正確に模様をつなぐことができます。	215
	模様つなぎキー		
⑫		模様をミシンのメモリーまたは USB メディアに保存します。無線接続で模様をパソコンに送ることもできます。	165
	保存キー		
⑬		刺しゅう枠を簡単に脱着できるようにキャリッジを移動します。	162
	枠移動キー		
⑭		模様のぬう位置を確認することができます。刺しゅう枠を移動して、模様を刺しゅうするために十分なスペースがあるかを確認できます。	137
	刺しゅう範囲トレースキー		
⑮		ぬい始めの位置を移動して、模様の位置に針を合わせるすることができます。	158、172
	ぬい始め位置キー		
⑯		針を戻したり進めたりすることができます。刺しゅうの途中で糸が切れたときや、刺しゅうを始めからやり直したいときに使います。	161
	進む／戻るキー		
⑰		自動糸切り、渡り糸切り、糸調子を設定できます。	139、163
	糸切り／糸調子キー		
⑱		前の画面に戻ります。	—
	戻るキー		
⑲		プログレスバー（刺しゅうの進捗状況）の表示を 1 色または全色に切り替えることができます。	—
	プログレスバー切り替えキー		

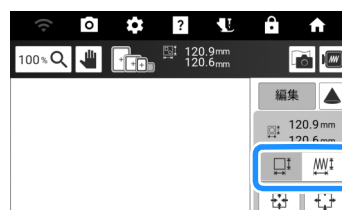
模様の編集

模様の大きさを変える

- 1 [編集] を押してから  を押します。



- 2 大きさを変える方法を選びます。



*  :

針数を保持したまま、模様の大きさを変えます。模様を大きくすると密度が低くなり、小さくすると密度が高くなります。刺しゅうの品質維持のため、模様の拡大、縮小には制限があります。

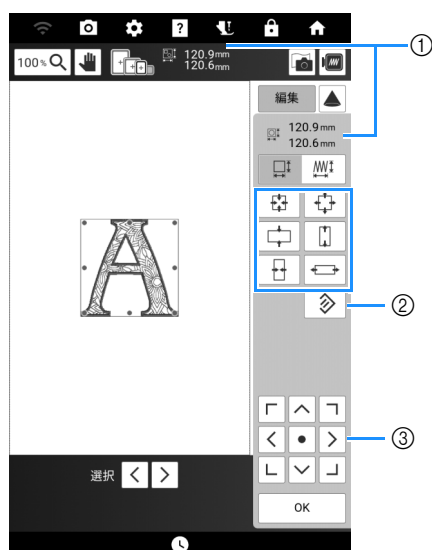
*  :

この機能では、通常の模様の拡大縮小よりも大きな割合で模様を拡大縮小することができます。糸密度を保持したまま、模様の大きさを変えます。模様の大きさに合わせて、針数が再計算されます。このキーが灰色で表示され使用できない場合、この機能は選択した模様で使用できません。連続模様を作る場合は、この機能でサイズを変更してから、連続模様を作ります。

お知らせ

-  で模様サイズを変更した後、刺しゅう編集画面で糸密度を変更することができます。(P. 141)
- 模様を拡大して、ぬい目にすきまがある場合は、糸密度を細かくすると、仕上がりがよりきれいになります。
- 模様を縮小して、ぬい目が密集している場合は、糸密度をあらくすると、仕上がりがよりきれいになります。

3 大きさを変える方向を選びます。



- ① 模様の大きさ
② 元の大きさに戻ります。
③ 模様を移動します。

	縦横比を変えずに、模様を小さくします。
	模様を縦方向に小さくします。
	模様を横方向に小さくします。
	縦横比を変えずに、模様を大きくします。
	模様を縦方向に広げます。
	模様を横方向に広げます。

お知らせ

- 元の大きさと最大縫製範囲によって、模様の拡大縮小できる範囲は異なります。
- 模様や文字によっては 90 度回転させると、さらに拡大できます。
- 模様のイメージの赤い点をドラッグすることで、模様のサイズを変更することもできます。

4 [OK] を押します。

お願い

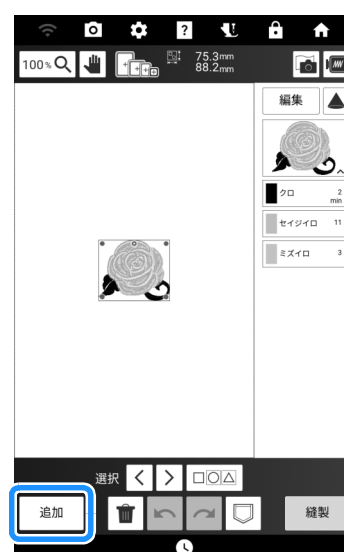
- ぬい上がりを確認するために、作品と同じ布と糸で試しぬいをしてください。

模様を組み合わせる

例：



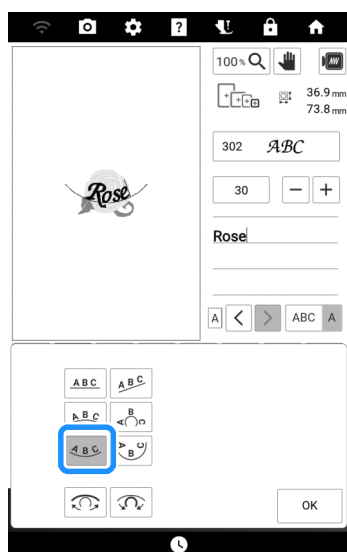
- 1 模様を選択し、[セット]を押します。
2 [追加]を押します。



- 3 **A** を押します。
4 フォントのキーを押して文字を入力します。
(P. 135)

→ 入力した文字が、画面の中央に表示されます。

- 5 を押して、文字の配列を変えます。[OK]を押します。



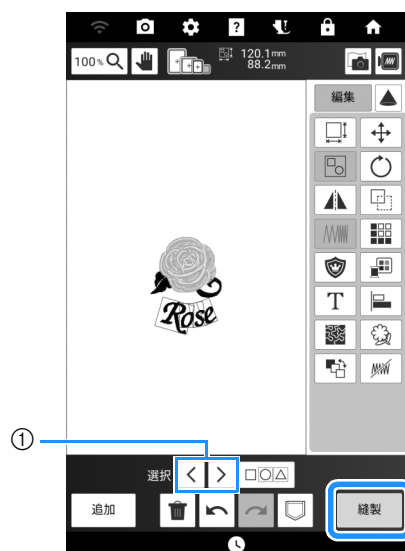
* 文字の配列変更についての詳細は、P. 142 を参照してください。

- 6 [セット]を押してから[編集]を押します。

- 7 を押して、を使って文字を移動します。[OK]を押します。

* 指または付属のデュアルタッチペンで画面の模様を直接ドラッグして移動することもできます。

- 8 すべての編集が終わったら、[縫製]を押します。



- ① 組み合わせた模様を編集する場合は、 を使って編集する模様を選択します。指または付属のデュアルタッチペンで直接画面を押して模様を選択することもできます。

お知らせ

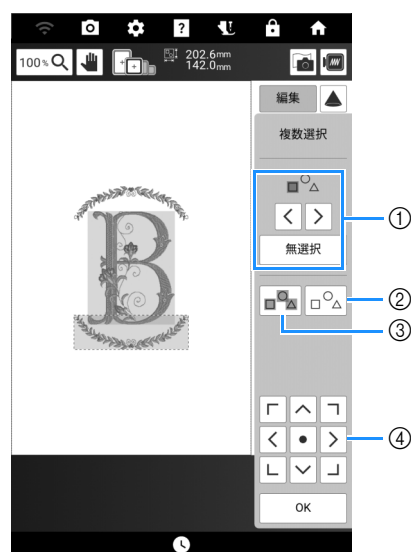
- 組み合わせ模様は、模様を選んだ順番に刺しゅうされます。ぬい順は変更することができません。(P. 170)

複数の模様を選択する

- 1 を押します。



- 2 選択したい模様をそれぞれ押します。



- ①  または を押して選択する模様を確認してから、[選択]を押して模様を選択します。選択した模様は赤で囲まれます。[無選択]を押すと、模様の選択を解除できます。
- ② 模様すべてを選択解除します。
- ③ 表示エリア内の模様すべてを選択します。
- ④ 複数選択画面が表示されているときは、模様を移動することができます。

- 3 [OK]を押します。

→ 選択した各模様は赤で囲まれます。

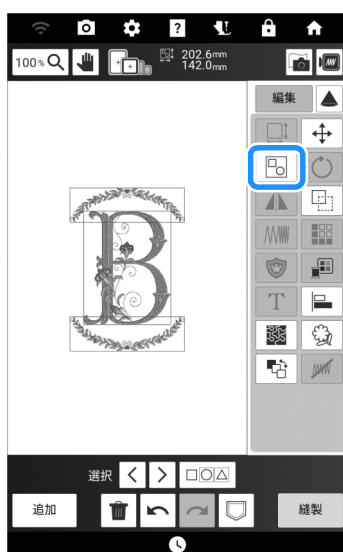
お知らせ

- 一部の編集キーは、複数の模様が選択されている間は灰色で表示され使用できません。

選択した複数の模様をグループ化する

複数の模様をグループ化すると、ひとつの模様として編集することができます。

- 1 を押します。
- 2 選択したい模様をすべて押してから、[OK]を押します。(P. 146)
- 3 を押します。



→ 選択した模様がグループ化されます。

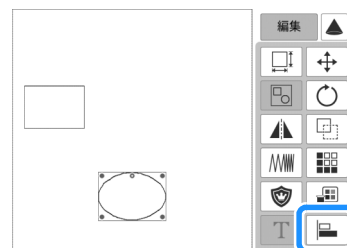
- * を押すと、グループ化を解除します。グループ化された模様が複数ある場合、選択した模様のグループ化が解除されます。

お知らせ

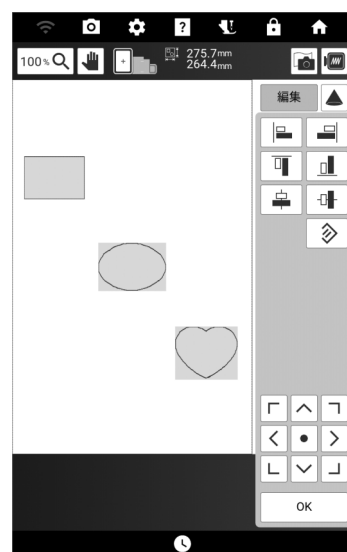
- 一部の編集キーは、複数の模様がグループ化されている間は灰色で表示され使用できません。

模様を整列する

- 1 [編集]を押してから を押します。

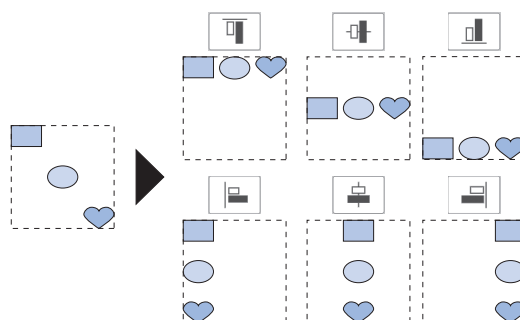


- 2 整列させたい模様をすべて押します。



- 3 整列キーを押します。

例：

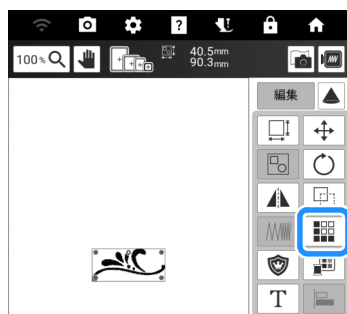


連続模様（ボーダー模様）を作る

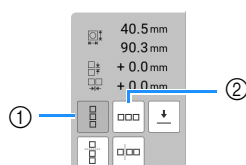
■ 連続模様を作る

ボーダー機能を使用して、連続した模様を作ることができます。

- 1 [編集] を押してから  を押します。



- 2 模様を連続させる方向を選びます。

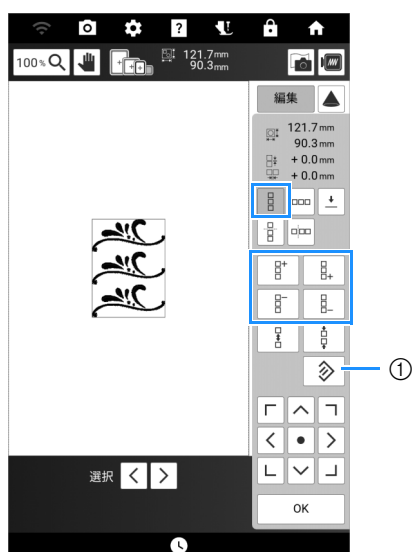


- ① 縦方向
- ② 横方向（P. 148）

→ 選んだ方向によって、模様の方向を示す表示が変わります。

- 3 上に模様を繰り返す場合は  を、下に模様を繰り返す場合は  を押します。

- * 上の模様を削除する場合は、 を押します。
- * 下の模様を削除する場合は、 を押します。



- ① 連続模様キャンセルキー

- 4 連続模様の間隔を調節します。

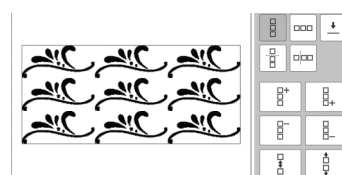
- * 間隔を広げる場合は、 を押します。
- * 間隔を狭くする場合は、 を押します。

- 5 2 から 4 の手順を繰り返して、連続模様を作成します。

- 6 [OK] を押します。

📖 お知らせ

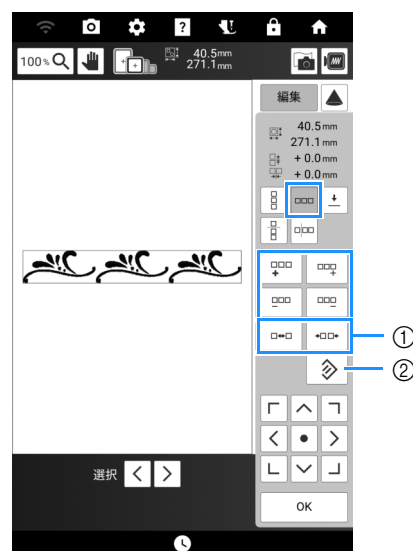
- 2 つ以上の模様がある場合は、すべての模様が赤い枠の中で 1 つの模様としてグループ化されます。



■ 横方向

左に模様を繰り返す場合は  を、右に模様を繰り返す場合は  を押します。

- * 左から模様を削除する場合は、 を押します。
- * 右から模様を削除する場合は、 を押します。



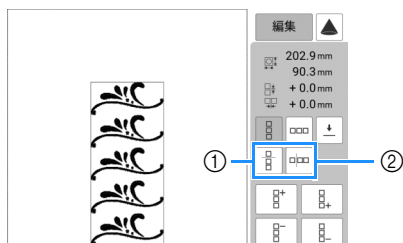
- ① 間隔キー
- ② 連続模様キャンセルキー

■ 連続模様の一部を切り出し繰り返す

分割機能を使用すると、連続模様の一部を切り出し、その模様だけを繰り返すことができます。

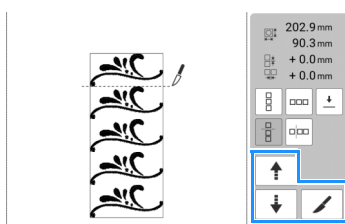
- 1  を押して、連続模様を作ります。
(P. 148)。

- 2 連続模様を切る方向を選びます。



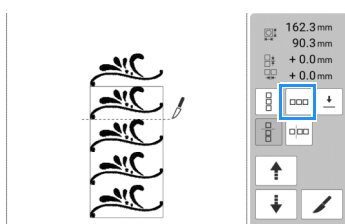
- ① 縦方向に連続した模様を切ります。
 - ② 横方向に連続した模様を切ります。
- 選んだ方向によって、模様の方角を示す表示が変わります。

- 3  と  を使って、切り取り線を移動します。  を押します。

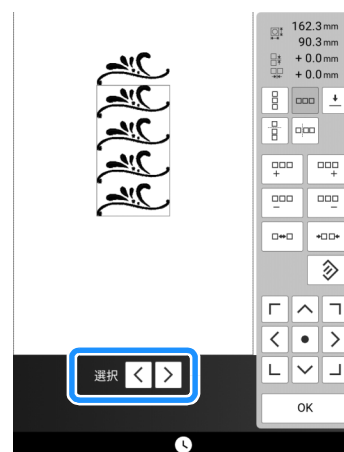


→ 連続模様が分割されます。

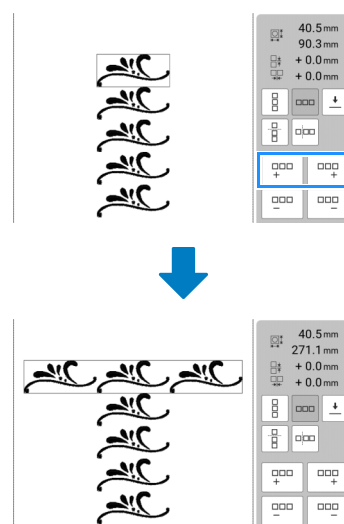
- 4  を押します。



- 5  と  を使って、繰り返す模様を選びます。



- 6 選んだ模様を繰り返します。



- 7 [OK] を押します。

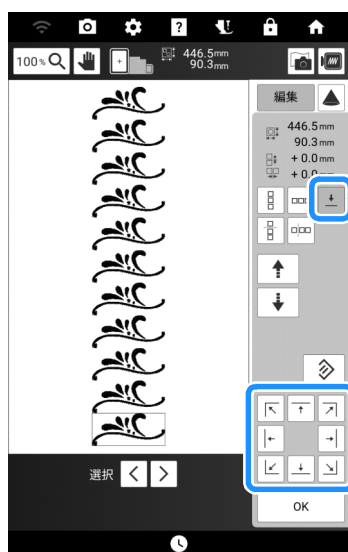
お知らせ

- 連続模様を分割した後は、元の連続模様に戻すことはできません。

模様を繰り返し刺しゅうする

糸印をつけておくと、布地を張り直して連続して刺しゅうするときに、簡単に模様の位置を合わせることができます。

- 1 [編集]を押してから  を押します。
- 2  を押します。
- 3  を押して、糸印をつける場所を選びます。



お知らせ

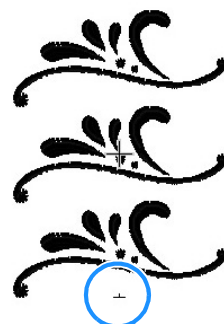
- 2つ以上の模様がある場合は、、 または 、 を押して、糸印を付けたい模様を選んでください。

- 4 [OK]を押してから [縫製]を押します。



- 5 スタート/ストップスイッチを押して、刺しゅうを始めます。

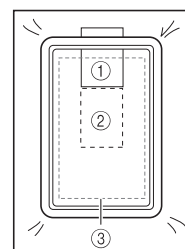
→ 刺しゅうが終わると、最後の糸色を使って、糸印がぬれます。



- 6 刺しゅう枠を取り外します。
- 7 刺しゅう枠に布地を張り直します。

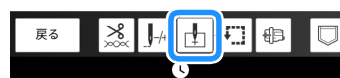
お願い

- 次の模様の刺しゅう範囲が縫製範囲内に収まるように、布地の位置を調整してください。

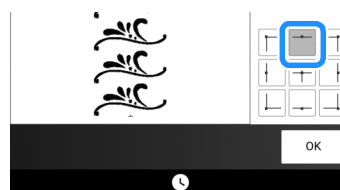


- ① 最初に刺しゅうした模様
- ② 次に刺しゅうする模様の位置
- ③ 縫製範囲

- 8 刺しゅう枠をミシンに取り付けて、 を押します。



- 9  を押して、ぬい始め位置を模様の上中央に設定します。

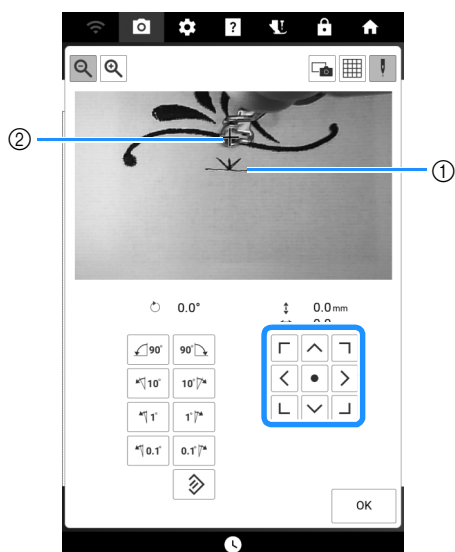


- 10 [OK]を押します。

- 11  (押え上下スイッチ) を押して、刺しゅう押えを下げます。

12 を押します。

13 刺しゅう枠を移動するために、カメラビューウィンドウで布地の糸印がぬい始め位置に合うように移動キーを押します。



- ① 布地の糸印
② ぬい始め位置



💡 お願い

- 移動キーで刺しゅう位置を合わせられない場合は、糸印と次に刺しゅうする模様が縫製範囲に入るように布地を張り替えてから、再度移動キーで位置を合わせてください。
- 連続模様を刺しゅうしているときは、カメラビューウィンドウで模様を回転しないでください。カメラビューウィンドウで模様を回転した場合は、カメラビューウィンドウで糸印とぬい始めの位置をあわせても、正しく位置合わせされた状態で刺しゅうされません。

14 [OK] を押すと、前の画面に戻ります。

15 必要に応じて、糸印を取り除きます。

16 スタート/ストップスイッチを押して、刺しゅうを始めます。

模様のイメージを確認する

1 を押します。



→ 刺しゅうされる模様のイメージが表示されます。

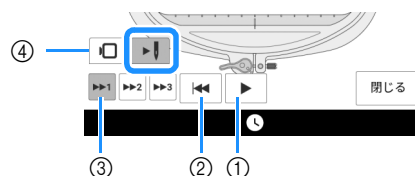
2     を押して、プレビューで使用する刺しゅう枠を選びます。

- * 灰色で表示されている刺しゅう枠は選べません。
- *  を押すと、模様のイメージが拡大表示されます。



3  を押して、ぬい順を確認します。

→ 縫製シミュレーター画面が表示されます。



① 再生/一時停止

 を押すと、アイコンが  に変わります。

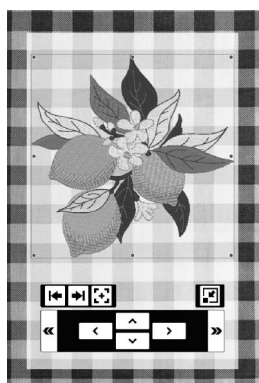
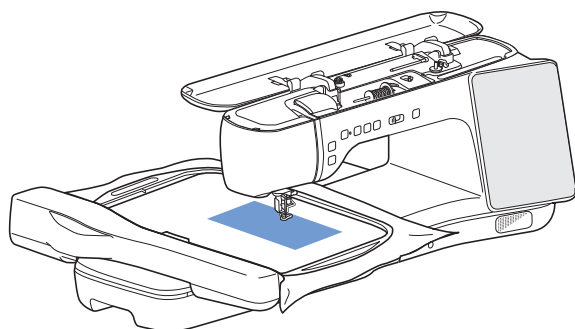


- ② ぬい始めに戻ります。
- ③ シミュレーション速度を選択します。
- ④  を押すと、刺しゅう枠選択画面に戻ります。

布地に映し出した刺しゅう模様を確認／編集する

プロジェクターで刺しゅう模様を確認する

プロジェクター機能で選択した模様を布地に映すことができます。

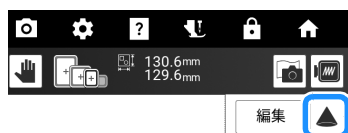


お知らせ

- 本書に掲載されている映像のイラストはイメージです。実際の投影とは異なる場合があります。

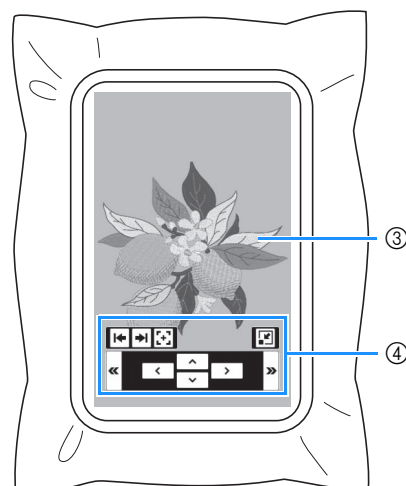
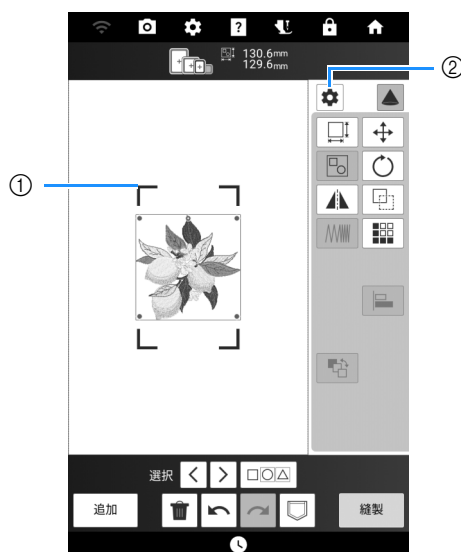
1 刺しゅう枠がミシンに取り付けられていることを確認し、次の画面で▲を押します。

- 刺しゅう編集画面
- 縫製画面
- マイデザインセンターのステッチ設定画面

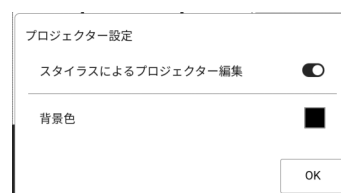


→ キャリッジが移動する旨のメッセージが表示された場合は、[OK]を押します。
刺しゅう模様が布地に映し出されます。

2 布地に映し出された刺しゅう模様を確認します。必要に応じて、ミシンの画面から、布地に映し出す位置やプロジェクター設定を変更します。



- ① 四隅のいずれかの青い線をドラッグして刺しゅう枠を移動し、布地に映し出す位置を変更します。
- ② 押すと、以下の画面を表示します。

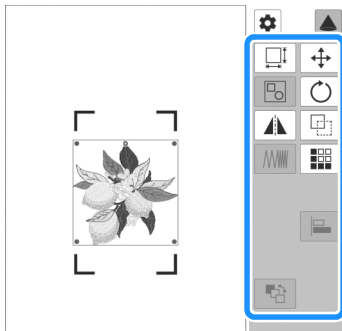


[スタイラスによるプロジェクター編集] (編集キーを布地に映し出す機能) のオン／オフを切り替えます。

[背景色] で、投影時の背景色を選択できます。

- ③ プロジェクターで映し出された刺しゅう模様
- ④ デュアルタッチペンで操作する編集キー (P. 153)

3 必要に応じて、模様を編集します。



お知らせ

- 表示されていない編集キーは、この機能では使用できません。すべての編集機能进行操作したいときは、▲を押してプロジェクターをオフにします。各キーの詳細については、P. 141 「[編集] ウィンドウ」または P. 143 「[レイアウト] ウィンドウ」を参照してください。

4 刺しゅう模様の確認が終了したら、▲を押してプロジェクターをオフにします。

デュアルタッチペンを使用して布地に映し出した刺しゅう模様を編集する（スタイラスによるプロジェクター編集）

刺しゅう編集画面または縫製画面では、刺しゅう模様を布地に映しながら編集することができます。

お知らせ

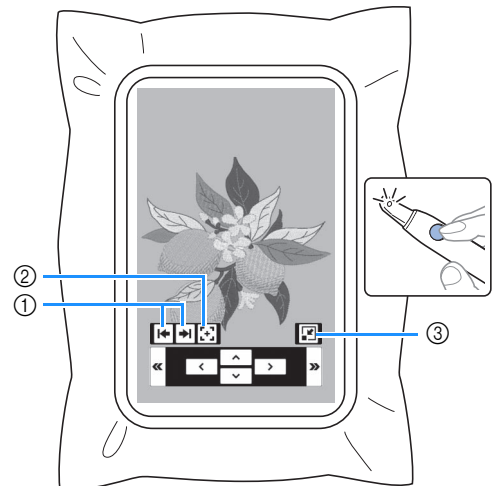
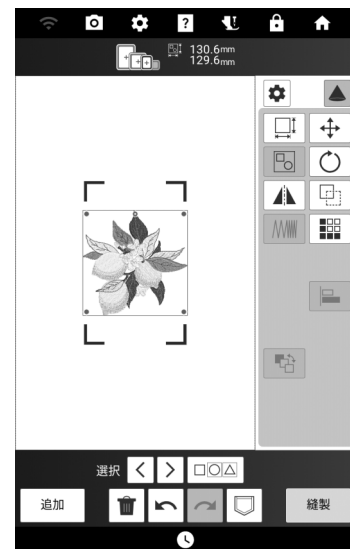
- この機能に対応していない刺しゅう枠が取り付けられている場合、メッセージが表示されます。この場合は、液晶画面から編集してください。

1 デュアルタッチペンを用意します。

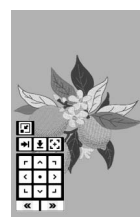
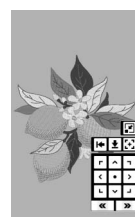
- * デュアルタッチペンの使用方法については、P. 68 「デュアルタッチペンでプロジェクターを操作する」を参照してください。

2 刺しゅう編集画面または縫製画面で▲を押します。（P. 152）

3 必要に応じて、プロジェクター表示を変更します。キーの上でタッチペンのボタンを押して、ライトを点灯させます。



- ① プロジェクターで映し出す編集キーの位置を左、右または下に切り替えます。



- ② 布地に映し出す位置を変更するキーを表示します。（P. 154）
- ③ プロジェクターで映し出すキーを最小化します。

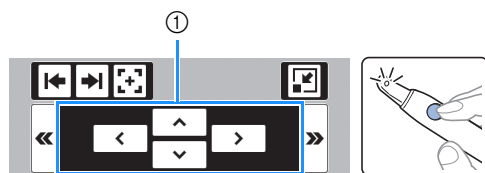


4 デュアルタッチペンのボタンを◀または

▶の上で押してライトを点灯させてモードを切り替え、編集します。

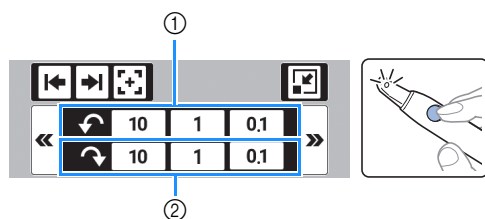
- * 内蔵カメラが光を検知し、刺しゅう模様が編集されます。
- * 編集が終了したら、液晶画面の▲を押してプロジェクターをオフにします。

■ 移動モード



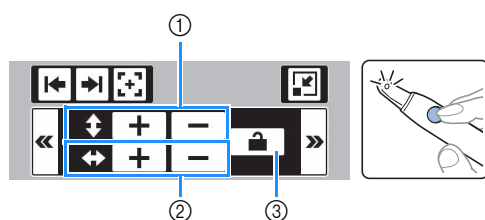
① 刺しゅう模様を移動します。

■ 回転モード



- ① 刺しゅう模様を反時計回りに回転させます。
② 刺しゅう模様を時計回りに回転させます。

■ サイズ変更モード（刺しゅう編集画面のみ）



- ① 刺しゅう模様の高さを変更します。
② 刺しゅう模様の幅を変更します。
③ 縦横比固定を設定／解除します。

■ 映し出す位置を変更する

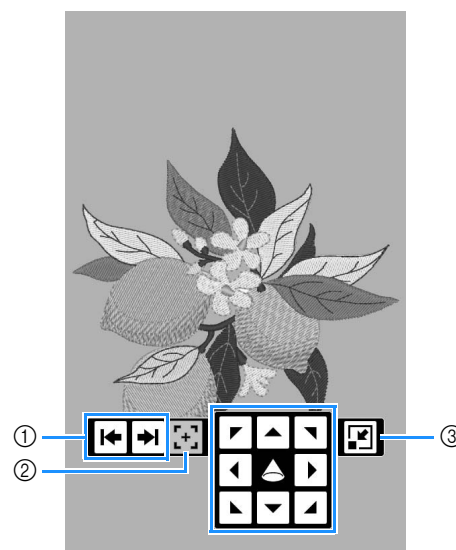
1 刺しゅう枠がミシンに取り付けられていることを確認し、次の画面で▲を押します。

- 刺しゅう編集画面
- 縫製画面
- マイデザインセンターのステッチ設定画面

2 刺しゅう編集画面または縫製画面で▲を押した場合は、デュアルタッチペンを◻の上に合わせて、ボタンを押してライトを点灯させます。



3 デュアルタッチペンを◻のキーの上に合わせ、ボタンを押してライトを点灯させます。



- ① プロジェクターで映し出す編集キーの位置を左、右または下に切り替えます。
② プロジェクターを編集モードに切り替えます（刺しゅう編集画面と縫製画面のみ）。(P. 153)
③ プロジェクターで映し出すキーを最小化します。
→ デュアルタッチペンの光をカメラが検知し、刺しゅう模様を映し出す位置が変更されます。

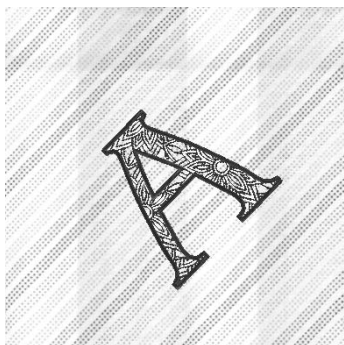
4 編集が終了したら、液晶画面の▲を押してプロジェクターをオフにします。

刺しゅう位置を合わせる

布地を画面に表示する

刺しゅう枠に張った布地を画面に表示して、布地に合わせて刺しゅう位置を調整することができます。

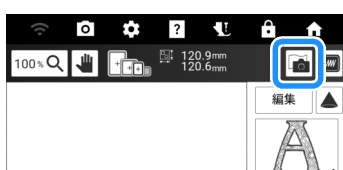
例：



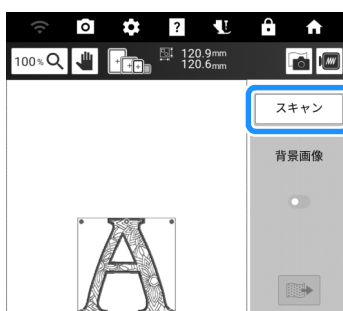
お知らせ

- 別売の縦 20 mm × 横 60 mm の刺しゅう枠を取り付けている場合、この機能は使用できません。
- キルティングのような厚みのある布地を使用する場合は、P. 156「厚い布地を使用して模様の位置合わせをする」を参照してください。

- 1 刺しゅう枠に布地を張り、枠をミシンにセットします。
- 2 模様を選択し、必要に応じて模様を編集します。
- 3  を押します。



- 4 [スキャン] を押します。

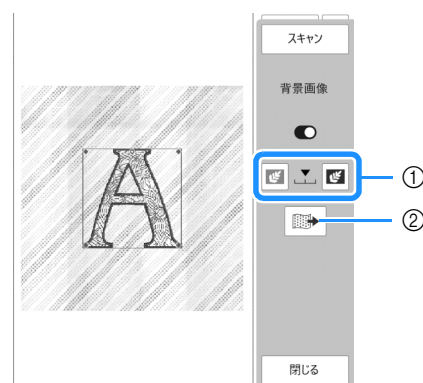


- 5 次のメッセージが表示されたら、[OK] を押します。



→ キャリッジが移動し、布地をスキャンします。

- 6 スキャンした布地が模様の背景に表示されたら、[閉じる] を押します。



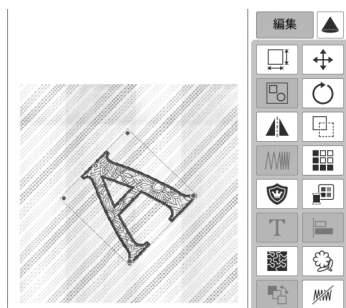
- ① スキャンした背景画像の透明度を調整できます。
 - ② 背景画像を USB メディアに保存することができます。
- * USB メディアが 2 つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。

4

基本の刺しゅう

7 模様をぬきたい位置に合わせます。

- * 「編集」画面については、P. 140 「刺しゅう編集画面」を参照してください。



お知らせ

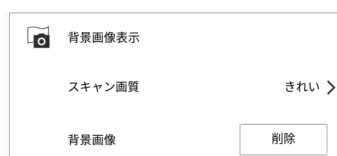
- 指や付属のデュアルタッチペンで画面の模様をドラッグして、模様をぬきたい位置に移動することができます。微調整が必要な場合は、を押して模様を動かしてください。

お願い

- 背景画像の表示／非表示を切り替えることができます。必要に応じて、を押し、[背景画像]のオン／オフを設定してください。



- 設定画面では、背景画像の画質を設定したり、スキャンした画像を削除することができます。



■ 厚い布地を使用して模様の位置合わせをする

キルティングのような厚みがある布地をスキャンして位置合わせをする場合、布地を正しく認識できないことがあります。正しく認識するために、はじめにミシンで布地の厚さを確認します。

- 1 刺しゅう枠に布地を張り、枠をミシンにセットします。
- 2 模様を選択し、必要に応じて模様を編集します。
- 3 を押して、設定画面の[布厚センサー]を表示し、オンに設定します。

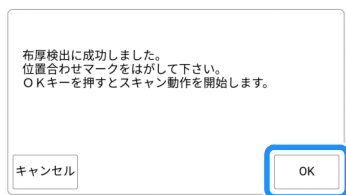


- 4 [OK] を押します。
- 5 を押します。
- 6 [スキャン] を押します。
- 7 プロジェクターで表示される赤い枠内に収まるように、刺しゅう位置合わせシールを布地に貼り、を押します。



→ キャリッジが移動し、布地に貼った位置合わせシールが検出されます。

- 8 次のメッセージが表示されたら、刺しゅう位置合わせシールを布地からはがし、[OK]を押します。



→ キャリッジが移動し、布地をスキャンします。

- 9 P. 155「布地を画面に表示する」の手順 6 を参照して、模様をぬいたい位置に合わせます。

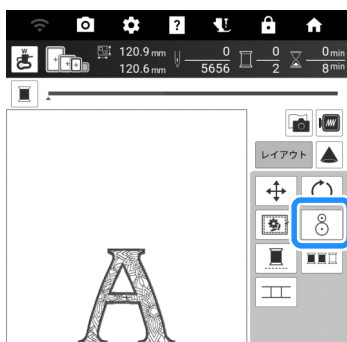
刺しゅう位置合わせシールを使う

内蔵カメラと付属の刺しゅう位置合わせシールを使用して、縫製位置を合わせることができます。

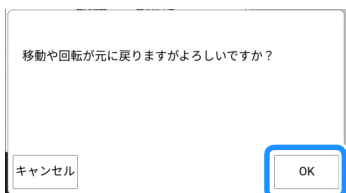
❖ お願い

- 刺しゅう位置合わせシールを貼る前に、使用する布の切れ端に貼って、きれいにはがせることを確認してください。

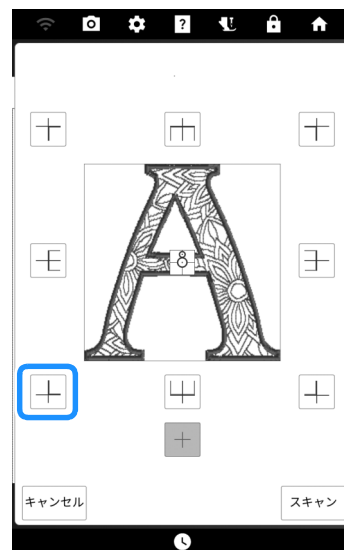
- 1 [レイアウト]を押してレイアウトウィンドウを表示して、を押します。



- 2 次のメッセージが表示されます。[OK]を押します。

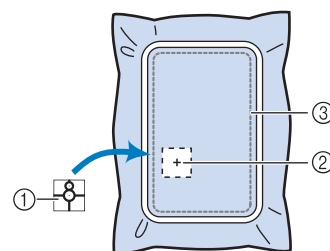


- 3 模様の位置合わせに使う基準点を選択します。この例では模様の左下を基準点にします。



- * 模様を中心に刺しゅう位置合わせシールを合わせたい場合は、を選択します。

- 4 刺しゅう位置合わせシールの大きい円の中心が選択した基準点と合うように、刺しゅう位置合わせシールを貼ります。



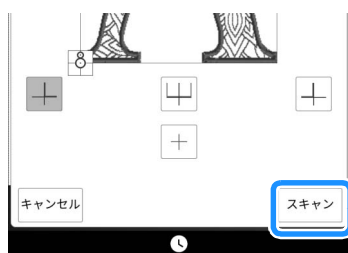
- ① 刺しゅう位置合わせシール
- ② 基準点
- ③ 縫製範囲

📖 お知らせ

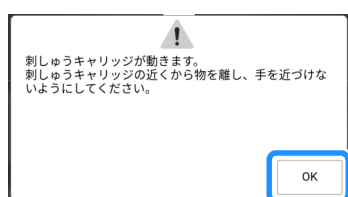
- 小さい円が上になるように刺しゅう位置合わせシールを貼ってください。刺しゅう位置合わせシールを貼る角度によって、模様の角度が変わります。好みの角度にシールを貼りつけて、模様の角度を変えて刺しゅうすることもできます。

5 [スキャン]を押します。

- * [スキャン]を押す前に、刺しゅう押えく W > を取り付けてください。



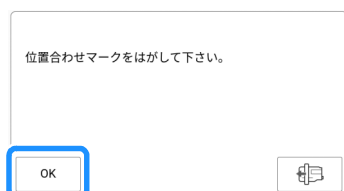
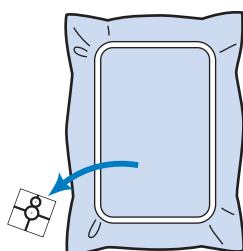
6 次のメッセージが表示されます。[OK]を押します。



→ 内蔵カメラが自動的に刺しゅう位置合わせシールを検出し、選択した刺しゅう模様の基準点が刺しゅう位置合わせシールに合うように、キャリアッジが移動します。

7 確認メッセージが表示されます。刺しゅう位置合わせシールを布地からはがして、[OK]を押します。

- *  を押すと、キャリアッジが動き、刺しゅう位置合わせシールが針の下から少し移動するので、はがしやすくなります。

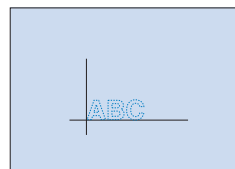


8 スタート/ストップスイッチを押して、刺しゅうを始めます。

模様と針の位置をあわせる

例：模様の左下と針を合わせます。

1 次のように、刺しゅうを始める位置に印をつけます。

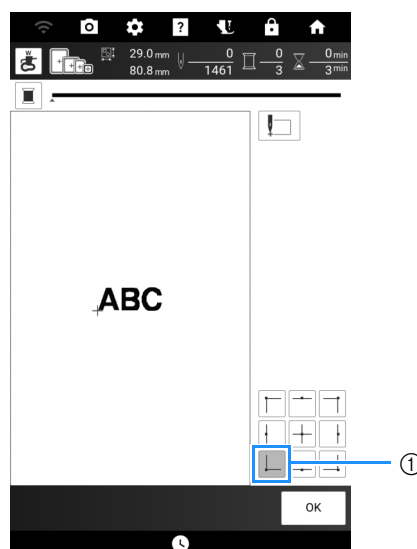


2 縫製画面で を押します。



3 を押してから [OK] を押します。

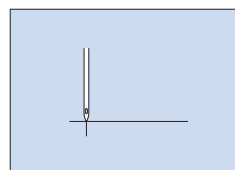
- *  を押すと、プロジェクターのポインターは布地に針落ち位置を示します。(P. 137)



① ぬい始めの位置

→ キャリッジが指定された針位置に移動します。

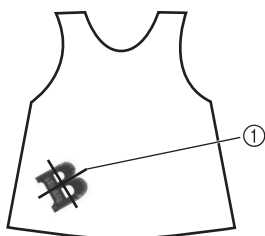
4 [レイアウト]を押してから を押します。その後、針と布地の印を合わせます。



カメラビューウィンドウを使用する

内蔵カメラを使うと、簡単に縫製位置を合わせることができます。

- 1 チャコペンで刺しゅうをしたい位置に十字の印を付けます。
その後、布地を張ります。



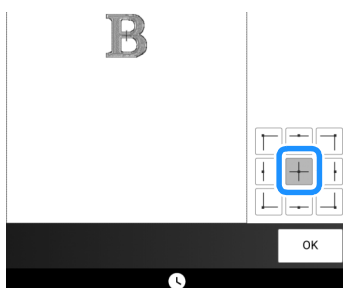
① チャコペンの印

- 2 ミシンで模様を選び、[縫製]を押します。

- 3 縫製画面でを押します。



- 4 を押して、ぬい始めを模様の中心に設定します。



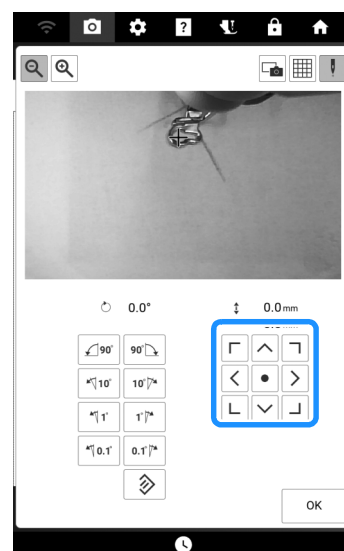
- 5 [OK]を押します。

- 6  (押え上下スイッチ) を押して、刺しゅう押えを下げます。

- 7 を押します。



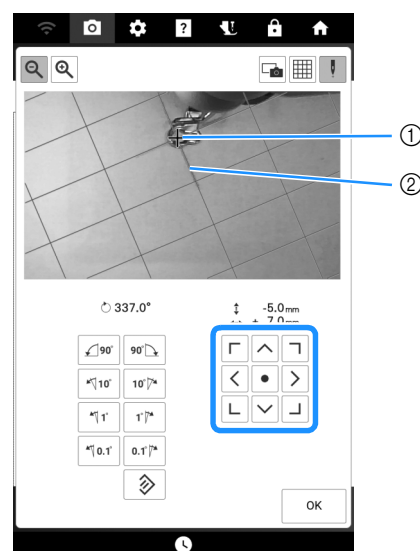
- 8 移動キーを押して、布地に描いたチャコペンの十字の印がカメラビューウィンドウに表示されるまで刺しゅう枠を移動します。



- 9 を押して、グリッド線を表示します。

- 10 角度キーを押し、グリッド線が布に描いた印と並行になるまで角度を調整します。

- 11 移動キーを押して、カメラビューウィンドウの模様の中心点と布地に描いたチャコペンの十字の印が重なるまで刺しゅう枠を移動します。



- ① 模様の中心点
- ② チャコペンの印

- 12 [OK]を押すと、前の画面に戻ります。

刺しゅう時の調整

下糸が少なくなったら

ぬっている途中で下糸が少なくなると、ミシンが止まり、次のようなメッセージが表示されます。



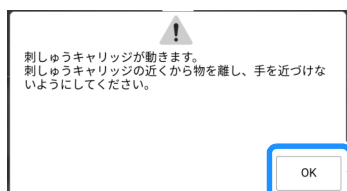
1 メッセージが表示されたまま  (止めぬいスイッチ) を押し、ぬい目がほつれないように止めぬいをします。

2  を押します。

お知らせ

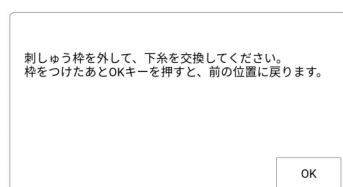
- あと数針で刺しゅうが完了するときにメッセージが表示された場合は、スタート/ストップスイッチを押すことで、10 針ほど刺しゅうができます。
- 設定画面の [上糸・下糸センサー] がオフに設定されている場合は、上記のメッセージは表示されません。
- [戻る] を押すと、元の画面に戻ります。

3 [OK] を押します。



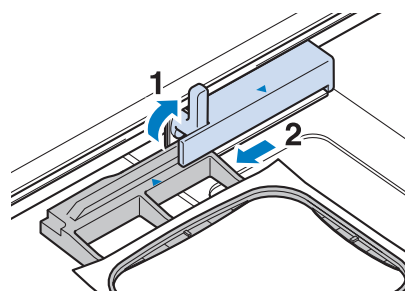
→ 自動的に糸切りが行われた後に、キャリッジが移動します。

4 メッセージが表示されたまま、次の手順に進みます。

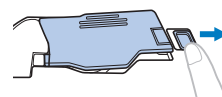


5 枠固定レバーのロックを解除して、刺しゅう枠を外します。

* このとき、布地に無理な力をかけないように注意してください。刺しゅう枠に張った布地がたるむことがあります。



6 下糸を巻いたボビンと交換します。(P. 38 「下糸をセットする」 参照)



7 刺しゅう枠をセットします。

8 [OK] を押します。

→ キャリッジが元の位置に移動します。

9  (止めぬいスイッチ) を押してぬい始めに止めぬいをし、スタート/ストップスイッチを押して刺しゅうを続けます。

刺しゅうの途中で糸が切れたときは

- 1 上糸が切れたり足りなくなった場合は、上糸をかけ直します。

お知らせ

- 下糸が切れた場合は、P. 160「下糸が少なくなったら」の手順を参照してください。

- 2 を押します。



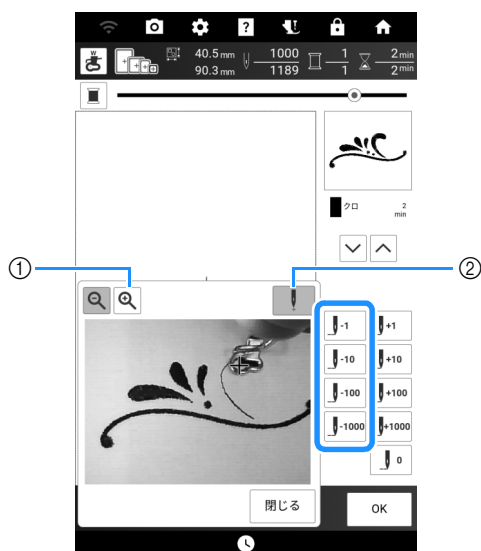
- 3  (押え上下スイッチ) を押して、刺しゅう押えを下げます。

- 4 を押します。



→ カメラビューウィンドウが表示されます。

- 5 、、またはを押して、糸が切れた位置の前まで針数を正しく戻し、針を移動します。



- ① を押すと、拡大表示されます。
- ② を押すと、画面から「+」が消えます。

お知らせ

- 糸が切れたところまで戻らないときは、またはを押して色を選択し、その色のぬい始めの位置に戻ってから、、、またはを押して、糸が切れたところより少し手前まで進めてください。
- 始めからやり直すときは、を押してください。

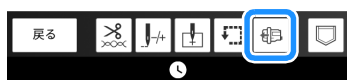
- 6 [閉じる]を押してから [OK] を押します。

- 7  (止めぬいスイッチ) を押してぬい始めに止めぬいをし、スタート/ストップスイッチを押して刺しゅうを続けます。

針に糸を通しにくい場合や刺しゅう枠を外しにくい場合

刺しゅう枠の位置によっては、針に糸を通しにくかったり、刺しゅう枠を取り外しにくい場合があります。その場合は、刺しゅう枠を動かしてください。

- 1 縫製画面でを押します。



- 2 キャリッジが移動する旨のメッセージが表示された場合は、[OK]を押します。

→ キャリッジが移動します。メッセージが再度表示されます。

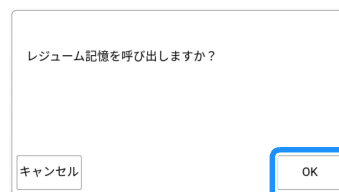
- 3 メッセージを表示させたまま、針に糸を通すか、刺しゅう枠を取り外します。

- 4 [OK]を押します。

→ 刺しゅう枠が元の位置に戻ります。

電源を切った後、刺しゅうを再開する

刺しゅうの途中で電源が切れた場合でも、次にミシンの電源を入れたときに、中断された操作を続けるか模様を消去するかを選ぶことができます。



💡お願い

- 刺しゅう機を外さないでください。模様の記憶が消去されます。
- 1つの糸色の刺しゅうが終わる前に刺しゅうが中断された場合は、針を戻して前のぬい目に数針重なるようにぬうと、ほつれを防ぐことができます。(P. 161)

糸調子を整える

上糸調子を調整する

状況に応じて糸調子を調整します。

■ 正しい糸調子

上糸が布地の裏側に少し見えています。



①

②

① 表
② 裏

■ 上糸が強すぎる場合

下糸が布地の表側に少し見えています。この場合は、上糸調子を弱くします。



①

②

① 表
② 裏

💡 お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強いように見えることがあります。このようなときは、P. 38「下糸をセットする」を参照して、下糸のセットを再度行ってください。

■ 上糸が弱すぎる場合

布地の表にループができます。この場合は、上糸調子を強くします。



①

②

① 表
② 裏

💡 お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱いように見えることがあります。このようなときは、P. 40「上糸通し」を参照して、上糸のセットを再度行ってください。

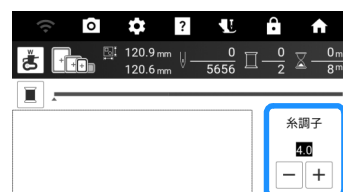
■ 上糸調子を調整する

1 縫製画面で を押します。



2 上糸調子を調整します。

- *  を押して、上糸調子を弱くします。(押すごとに糸調子の数値が小さくなります。)
- *  を押して、上糸調子を強くします。(押すごとに糸調子の数値が大きくなります。)



💡 お願い

- 糸調子を極端に弱く設定すると、途中でミシンが停止することがあります。糸調子を少し強めにし直してください。

■ 上糸調子を全体的に調整する

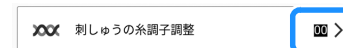
刺しゅうをしているときに、上糸調子が全体的に強すぎたり弱すぎたりする場合は、設定画面で調整してください。

さらに、模様ごとに微調整が必要な場合は、P. 163「上糸調子を調整する」を参照してください。

1 を押してから を押します。

2 [刺しゅうの糸調子調整] で、上糸調子を調整します。

- * 数値を上げると、上糸調子が強くなります。
- * 数値を下げると、上糸調子が弱くなります。

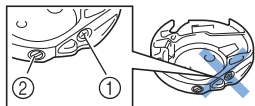


下糸張力調整用内かま（調整ネジに着色なし）を調整する

刺しゅうで下糸の糸調子を調整する場合は、下糸張力調整用内かま（ネジに着色なし）のマイナスネジをドライバー（小）で回してください。

🔧 お願い

- 使用する刺しゅう用下糸によって、使用するかまが異なります。下糸調子を調整できるのは、下糸張力調整用内かまのみです。詳しくは P. 130 「きれいに刺しゅうするために」を参照してください。



- ① プラスネジは回さないでください。
- ② ドライバー（小）で調整します。

重要

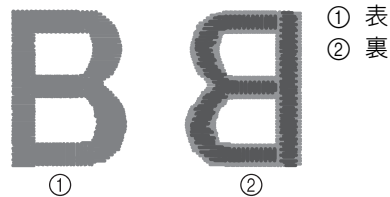
- 下糸張力調整用内かまのプラスネジは回さないでください。内かまが破損し、使用できなくなるおそれがあります。
- マイナスネジを回しにくい場合、無理に回さないでください。ネジを回し過ぎたり、回る方へ無理に回したりすると、破損するおそれがあります。破損した場合、適切な糸調子を維持できなくなる場合があります。

🔧 お願い

- 下糸張力調整用内かまを調整するときは、必ずボビンを取り出してください。

■ 正しい糸調子

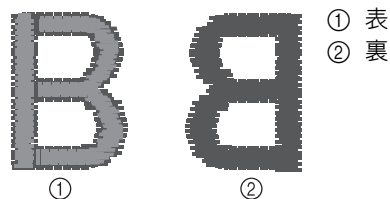
上糸が布地の裏側に少し見えています。



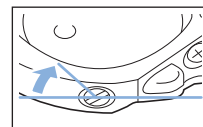
- * 薄い灰色は上糸を表します。
- * 濃い灰色は下糸を表します。

■ 下糸が弱すぎる場合

下糸が布地の表側に少し見えています。

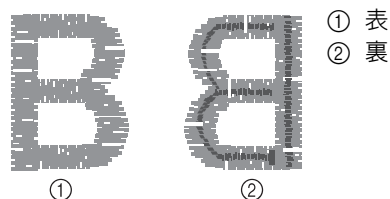


このようなときは、しめ過ぎないように時計回りに 30 ～ 45 度程度マイナスネジを回して、糸調子を強くします。

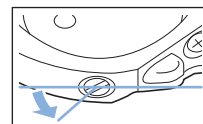


■ 下糸が強すぎる場合

表側の糸が盛り上がり、ループになっていて、下糸が裏側に見えません。



このようなときは、ゆるめ過ぎないように反時計回りに 30 ～ 45 度程度マイナスネジを回して、糸調子を弱くします。



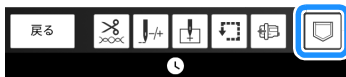
メモリー機能を使う（刺しゅう）

お知らせ

- メモリー機能については、P. 269「仕様」を参照してください。

刺しゅう模様を保存する

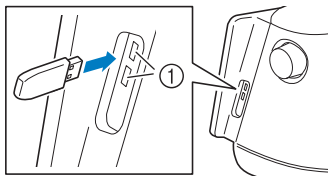
- 保存したい模様が縫製画面に表示されているときに、を押します。



お知らせ

- 刺しゅう編集画面でを押しても保存できません。

- USB メディアに刺しゅう模様を保存する場合は、USB メディアをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。



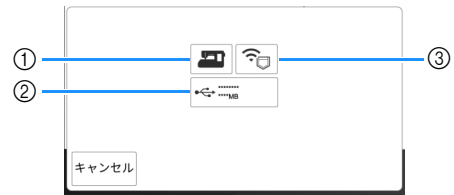
① USB ポートコネクタ

重要

- USB ポートコネクタには、USB メディア以外のものを挿入しないでください。ミシンが破損するおそれがあります。

- 保存先を選択し、保存します。

- * USB メディアが2つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。



- ① ミシンのメモリーに保存します。
- ② USB メディアに保存します。
模様が [bPocket] という名前のフォルダーに保存されます。
- ③ 無線機能を使って保存します。
詳しい手順については、刺しゅう PRO（バージョン 11 以降）の取扱説明書を参照してください。

お願い

- [記憶中...] の画面が表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶しようとしている模様データが消えるおそれがあります。

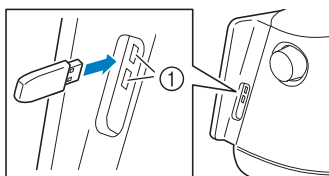
4

基本の刺しゅう

刺しゅう模様を呼び出す

- 1 USB メディアから刺しゅう模様を呼び出す場合は、USB メディアをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。

* 対応しているファイル拡張子について詳しくは、P. 269 「仕様」を参照してください。

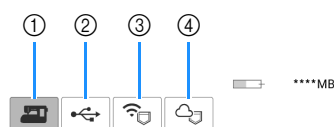


① USB ポートコネクタ

- 2  を押します。



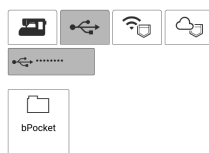
- 3 呼び出し元を押します。



- ① ミシンのメモリーから呼び出します。
- ② USB メディアから呼び出します。
USB メディアが2つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。
- ③ 無線機能で保存された刺しゅう模様を呼び出します。
詳しい手順については、刺しゅう PRO（バージョン 11 以降）または Design Database Transfer の取扱説明書を参照してください。
- ④ Artspira（アーツピラ）アプリから呼び出します。（P. 223）

お知らせ

- 呼び出したい刺しゅう模様が USB メディアのフォルダーにある場合は、そのフォルダーのキーを押します。



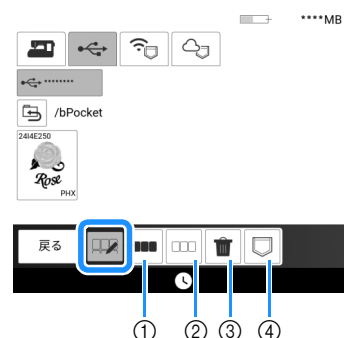
- 4 呼び出したい模様のキーを押します。

*  を押すと、前の画面に戻ります。



お知らせ

-  を押すと、選択した模様を削除したり、ミシンのメモリーに保存したりできます。



- ① すべての模様を選択します。
- ② すべての模様を選択解除します。
- ③ 選択した模様を削除します。
- ④ 選択した模様をミシンに保存します。

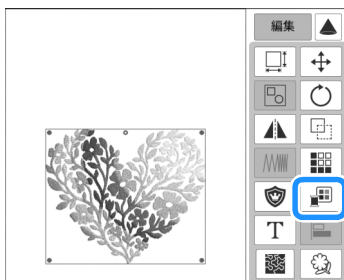
- 5 [セット] を押します。

第5章 いろいろな刺しゅう

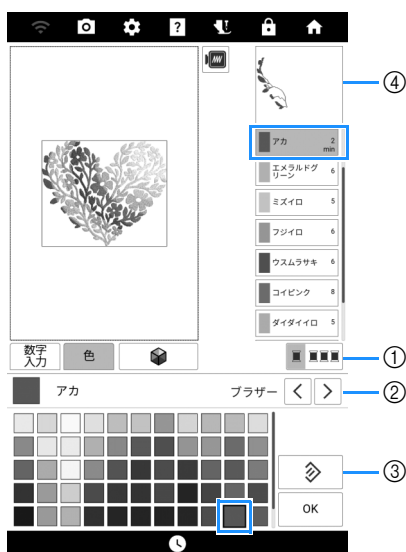
色を編集する

刺しゅうの糸色を変える

- 1 [編集]を押してからを押します。



- 2 変更する部分の色を押し、糸色パレットから新しい色を選択します。



- ① 1色を選択するかすべての色を選択するかを切り替えます。
② 糸ブランドを選択します。
③ 元の色に戻します。
④ 選択された糸色イメージ

お知らせ

- [数字入力]を押して糸番号を入力すると、糸色が検索できます。入力する数字を間違えた場合は、[C]を押します。

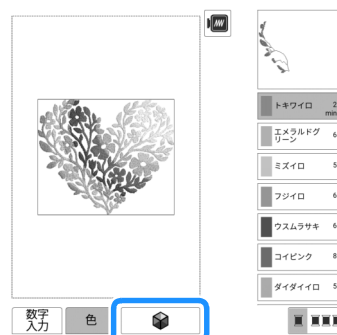
- 3 [OK]を押します。

カラーシャッフル機能を使って、新しい配色を設定する

カラーシャッフル機能を使用すると、選択した刺しゅう模様に、マシンが新しい配色を提示します。

- 1 [編集]を押してからを押します。

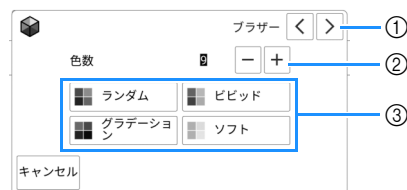
- 2 を押します。



お知らせ

- 選択した模様によっては、この機能を使用できないものがあります（例：連続模様、ライセンスがある模様）。

- 3 模様を作成するときの糸ブランドと色数を選びます。次に、お好みの効果を選択します。



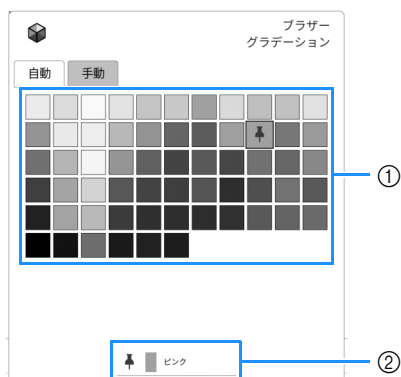
- ① 糸ブランド
② 使用する色数
③ 配色モード

- * [ビビッド]または[ソフト]を選んだ場合は、5に進んでください。

- 4 [ランダム]または[グラデーション]を選択した場合は、[自動]を選択してから、[OK]を押します。

お知らせ

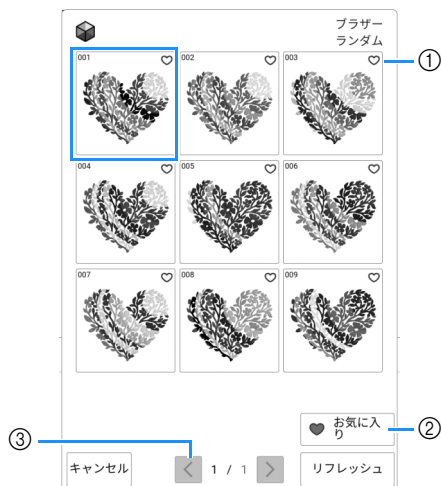
- 使用する糸色を指定する場合は、[手動]を選択します。
[ランダム]モードでは、6色までの糸色を選択できます。選択した糸色でランダムな配色が生成されます。
[グラデーション]モードでは、1色選択できます。選択した糸色でグラデーションが生成されます。



- ① パレットから糸色を選択します。
② 選択した糸色が表示されます。

- 5 見本イメージから、好みの配色を選びます。

- * [リフレッシュ]を押すと、新しい配色が表示されます。



- ① お気に入りの配色を一時的に登録する場合は、を押します。お気に入りの配色を解除する場合は、をもう一度押します。
② 押すと配色のお気に入り画面が表示されます。
を押すと配色のお気に入り画面の配色が解除されます。
③ 前の配色見本を確認するときに押します。

- 6 [セット]を押して、表示された配色を選びます。

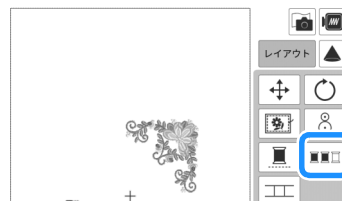
糸色ごとに並べ替える

糸こまを交換する回数を最小にすることができます。

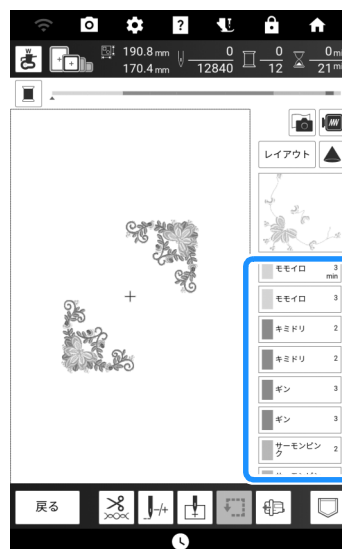
- 1 縫製画面で[レイアウト]を押します。

- 2 を押します。

- * もう一度押すと、設定を解除します。



→ 糸色ごとに並べ替えられて、刺しゅうの順番が変わります。



お知らせ

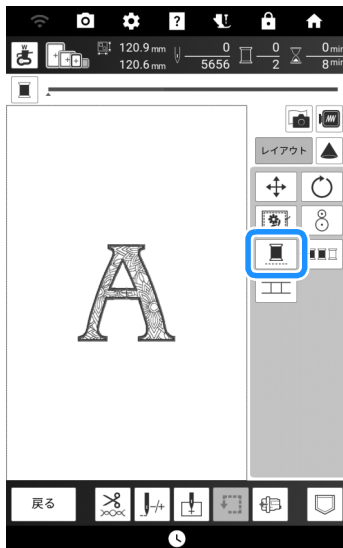
- 糸色ごとに並び替える機能は、模様が重なっていると使用することができません。

1色で刺しゅうする

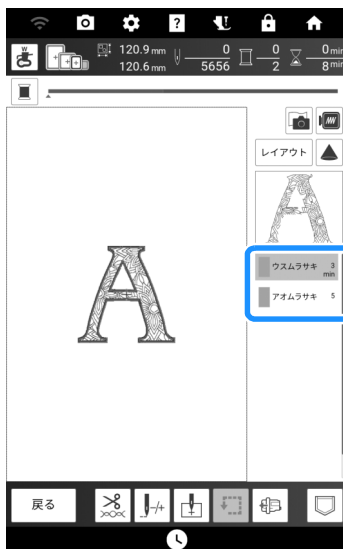
選択した模様を複数の色ではなく1色でぬうことができます。模様が完成するまで、ミシンは糸替えのために停止することなくぬい続けます。

- 1 縫製画面で[レイアウト]を押します。
- 2 を押してから[レイアウト]を押します。

* もう一度押すと、設定を解除します。



→ 画面の糸色が灰色表示になります。

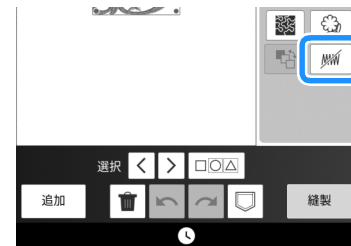


さまざまな刺しゅうの機能

縫製スキップ設定

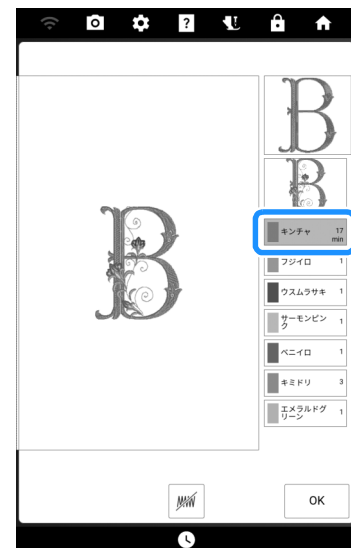
模様の特定の糸色部分に縫製スキップ設定（その糸色だけぬわないようにする設定）を設定することができます。

- 1 刺しゅう編集画面でを押します。



- 2 糸色の順番表示から、縫製をスキップする糸色を選択します。

→ 選択した糸色が青色で強調表示されます。



5

いろいろな刺しゅう

3 を押します。

→ 選択した糸色に、縫製をスキップすることを示すマーク  が表示されます。
模様プレビュー画面では、縫製をスキップする部分が非表示になります。



お知らせ

- 縫製スキップ設定を解除する場合は、糸色を選択して  を押します。

4 必要に応じて、縫製をスキップするすべての糸色に対して、手順 2 と 3 を繰り返します。

5 設定が完了したら、[OK] を押します。

6  を押してから  を押して、刺しゅうの仕上がりの拡大イメージを確認します。

- * 縫製スキップ設定後は、スキップした糸色部分に隠れていたステッチが表に出てくることがありますので、必ず確認してください。

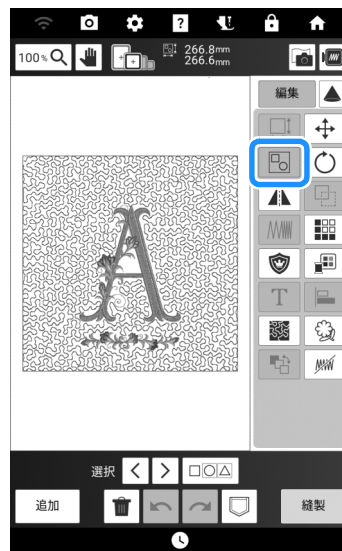
お知らせ

- 縫製スキップを適用した模様は、縫製スキップの設定も保存されます。ただし、すべての糸色に縫製スキップが適用されている場合は、模様の保存ができません。
- 縫製スキップを適用した部分は表示されないだけで、削除されるわけではありません。模様の刺しゅうに必要な縫製範囲は、元の模様と同じです。

組み合わせた模様のぬい順を変える

組み合わせた模様のぬい順を変更することができます。

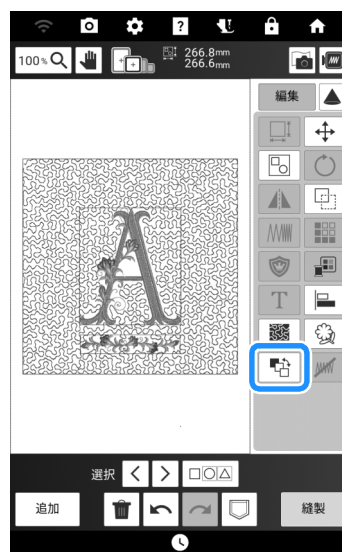
- 1 模様を選択し、模様を追加し、模様のレイアウトを調整し、[編集] ウィンドウを表示します。
- 2 必要に応じて、 を押して模様のグループ化を解除します。



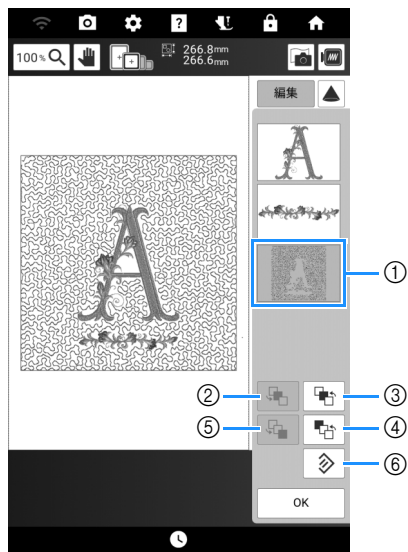
お知らせ

- グループ化された模様のぬい順は、グループごとに変更されます。グループ内の模様のぬい順を変更する場合は、まずその模様のグループ化を解除します。

3  を押します。



- 4 順番を変更したい模様を選択し、キーを押してぬい順の位置を変更します。

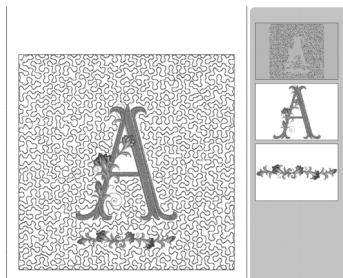


- ① 選択された模様
- ② 選択した模様のぬい順を 1 つ後ろに移動します。
- ③ 選択した模様のぬい順を 1 つ前に移動します。
- ④ 選択した模様のぬい順を先頭に移動します。
- ⑤ 選択した模様のぬい順を最後に移動します。
- ⑥ ぬい順を元に戻します。

お知らせ

- 重なっている模様の位置は、画面右側のプレビューで確認できます。

- 5 [OK] を押します。



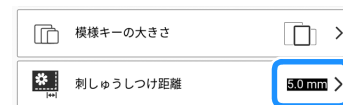
刺しゅうのしつけぬい

刺しゅうする前に、模様のまわりにしつけぬいをすることができます。アイロンやのりで接着芯を貼り付けられないような布地をぬうときに役に立ちます。

お願い

- 模様の組み合わせや編集が終わった後で、しつけぬいを設定してください。しつけ設定をした後に模様を編集すると、しつけと模様がずれることがあります。

- 1 [設定] を押して、設定画面の [刺しゅうしつけ距離] を表示します。
- 2 模様からしつけぬいまでの距離を指定します。



- 3 [OK] を押します。
- 4 [レイアウト] を押してから、[設定] を押して、しつけぬいの設定を選択します。

* もう一度押すと、設定を解除します。



→ しつけぬいが、ぬい順の最初に追加されます。



文字をつなげて刺しゅうする

すべての文字が刺しゅう枠に収まらないときも、文字を一行につなげて刺しゅうすることが出来ます。

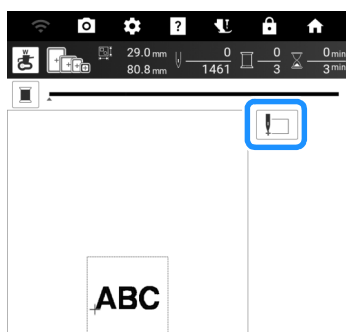
例：10 cm × 10 cm の刺しゅう枠を使って、「ABC」の文字に「DEF」をつなげる。

1 「ABC」の文字模様を選択します。

2 縫製画面でを押します。



3 を押してから [OK] を押します。



→ ぬい始めが、模様の左下に設定されます。刺しゅう枠が指定された針位置に移動します。

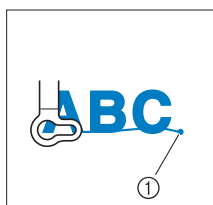
4 を押します。



5 を押して糸切り機能を解除し、[OK] を押します。(P. 139)

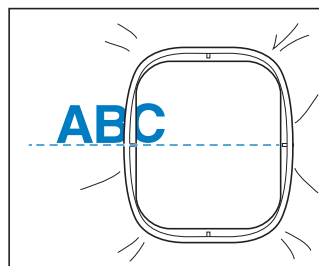
6 スタート/ストップスイッチを押します。

7 文字を刺しゅうしたら、余裕をもって糸を切り、刺しゅう枠を外します。



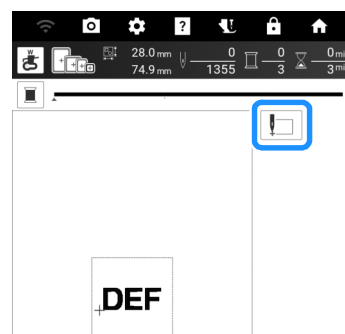
① ぬい終わり位置

8 「C」の文字の右側部分が刺しゅう枠の内側に入るようにして、布地をもう一度しゅう枠に張ります。このとき文字が水平になるように注意します。残りの文字（「DEF」）を刺しゅうするために、刺しゅう枠をもう一度ミシンに取り付けます。



9 手順1と同様に、「DEF」の文字模様を選択します。

10 を押してから を押します。

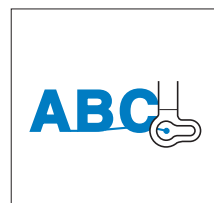


→ 針が模様の左下隅に来るようにキャリッジが移動します。このポイントを、前の模様のぬい終わり位置に合わせる必要があります。

11 [OK] を押します。

12 [レイアウト]を押してからを押し、先に刺しゅうした模様のぬい終わり位置に針を合わせます。

* を押すと、プロジェクターのポインターは布地に針落ち位置を示します。(P. 137)

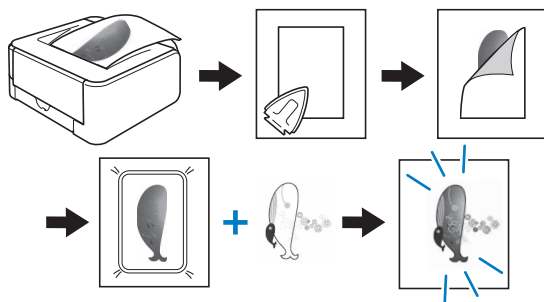


- 13** スタート/ストップスイッチを押して、残りの文字模様をぬいます。

ABCDEF

印刷と刺しゅうの組み合わせ機能

このミシンには、印刷と組み合わせで完成する刺しゅう模様が内蔵されています。
布地にアイロン転写した背景や布地に印刷した背景の上に、刺しゅうを施すことで、美しく立体感のある刺しゅうデザインが完成します。
例：アイロンプリントシートを使う



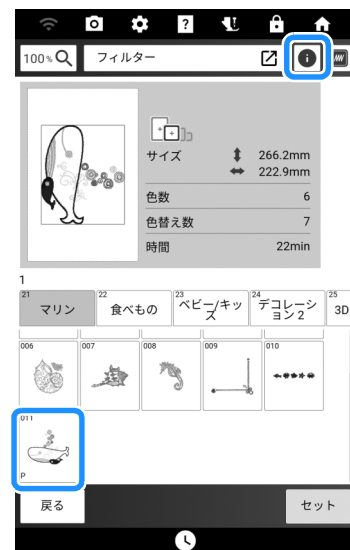
■ 背景と配置画像を出力する

キーの左下に「P」が表示されている模様は、印刷と組み合わせることができます。

お知らせ

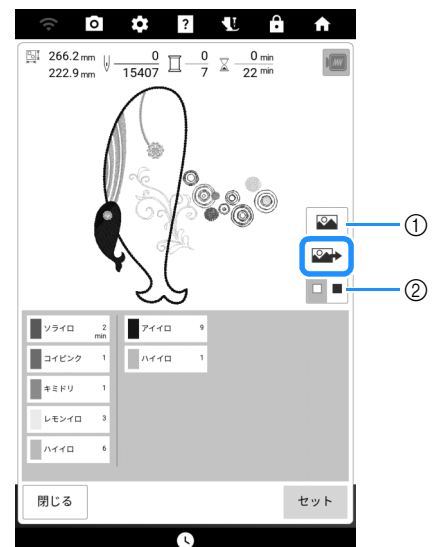
- この機能が使用できる模様については、「模様一覧」を参照してください。

- 1** 印刷したデザインと組み合わせできる模様を選び、**[i]**を押します。



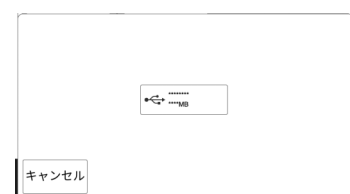
→ 刺しゅう模様のみ表示されます（選択した刺しゅう模様の背景ではありません）。

- 2** 模様を選択し、**[P]**を押します。



- ① 背景と模様を組み合わせたイメージが表示されます。
- ② 背景色を変更します。

- 3** ファイルを保存するメディアのキーを押します。



→ 背景画像 2 点と刺しゅう位置合わせシート 1 点が、PDF ファイルで USB メディアに保存されます。

5

いろいろな刺しゅう

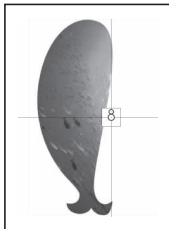
- **__r.pdf**
左右反転した画像（アイロン転写用）



- **__n.pdf**
反転していない画像（印刷できる布地用）



- **__p.pdf**
位置合わせマークがついた反転していない画像（位置合わせ用）



4 **セット**を押します。

■ 背景と刺しゅう位置合わせシートを印刷する

背景と刺しゅう位置合わせシートの PDF ファイルを印刷します。印刷する背景は、アイロンプリントシートまたは印刷できる布地のどちらを使用するかによって異なります。

1 印刷する PDF ファイルを開きます。

💡 お願い

- 背景と刺しゅう位置合わせシートは原寸で印刷してください。サイズを変えて印刷すると、刺しゅう模様と背景の大きさが合わないことがあります。また、内蔵カメラが刺しゅう位置合わせマークを検知できなくなります。印刷設定が正しいか確認してください。

2 背景画像を印刷します。

- * アイロンプリントシートに印刷するときは、「__r.pdf」（左右反転した画像）を印刷します。印刷できる布地に印刷するときは、「__n.pdf」（反転していない画像）を印刷します。

💡 お願い

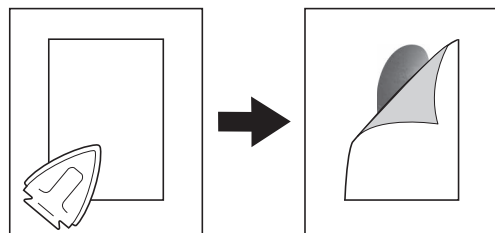
- アイロンプリントシートまたは印刷できる布地に印刷する前に、印刷テストをして、印刷設定をご確認ください。
- アイロンプリントシートまたは印刷できる布地の使い方について詳しくは、それぞれの説明書を参照してください。
- プリンターによっては、アイロンプリントシートを用紙に選択すると、自動的に画像を反転します。詳しくは、お使いのプリンターの説明書を参照してください。

3 刺しゅう位置合わせシート（__p.pdf）を普通紙に印刷します。

💡 お願い

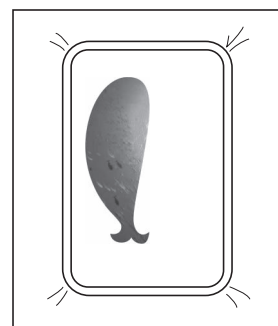
- 刺しゅう位置合わせシートの PDF を印刷するときは、フルカラー印刷で最高画質に設定してください。また、マット紙の使用をお勧めします。印刷設定が行われていない場合、ミシンの内蔵カメラは位置合わせマークを正しく検知できないおそれがあります。

4 アイロンプリントシートをお使いの場合、布地に転写します。



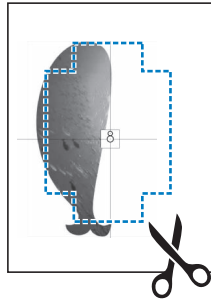
■ 刺しゅうする

1 背景がアイロン転写または印刷された布地に刺しゅう枠に取り付けます。

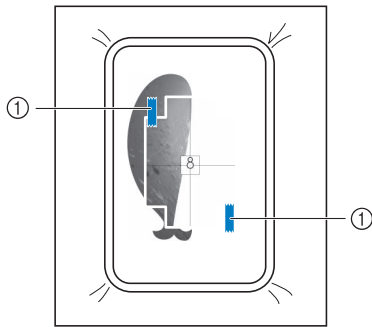


2 刺しゅう位置合わせシートをカットし、布地の背景画像に合わせやすくします。

- * 画像の線や色が変わる境目で位置合わせシートと背景を合わせると、位置合わせがしやすくなります。



3 位置があうように、布の上に位置合わせシートを置いて、ずれないようにセロハンテープで固定します。



① セロハンテープ

4 模様を選択されていることを確認して、[縫製]を押します。

🔔 お願い

- 刺しゅうする前に、刺しゅう位置合わせシートが背景と合っていることを確認してください。

5 P. 157「刺しゅう位置合わせシールを使う」を参照して手順 1 から 7 を参照して、刺しゅうの位置を合わせます。

- * この機能では位置合わせシールの代わりに、布地に固定した位置合わせシートのマークで位置を合わせます。「刺しゅう位置合わせシールを使う」の手順 3 を行うときは、模様を中心を基準点にしてください。手順 4 の刺しゅう位置合わせシールの貼り付けは不要です。

6 刺しゅう位置合わせシートを取り除き、スタート/ストップスイッチを押して、刺しゅうをします。

ピックアップレイ刺しゅう機能

写真を刺しゅうデータに変換できます。

📖 お知らせ

- 自動背景除去機能およびスタイル変換機能は人工知能 (AI) 技術を使用しています。AI 機能を使用することで期待通りの結果が得られることを保証するものではありません。

取り込んだ画像を調整する

📖 お知らせ

- 変換には、刺しゅうする対象物が大きく写っている写真や、明るくシャープな写真が適しています。
- 以下のような写真は、刺しゅう模様の作成には適していません。
 - 集合写真など、被写体が小さい写真
 - 室内の写真や逆光で撮影した写真など、被写体が暗く写っている写真

1 刺しゅうデータに変換する写真を USB メモリーに保存するか、「My Design Snap アプリ」を使ってマシンに転送します。(P. 223)

2 [ピックアップレイ刺しゅう]を押します。



3 呼び出し元を押します。

- * 使用できる画像データファイルについて詳しくは、P. 269「仕様」を参照してください。
- * USB メディアが 2 つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。

画像ファイルを選択してください (JPG, BMP, PNG)。

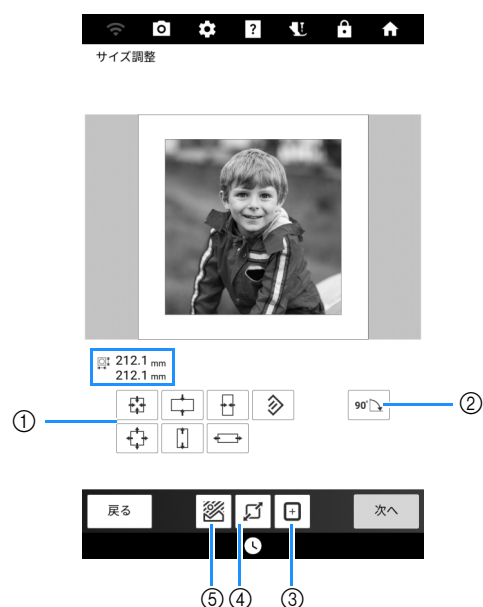


- ① USB メディアから呼び出します。
- ② My Design Snap アプリから送信された画像データを呼び出します。(P. 223)

- 4** 呼び出したい画像を選択し、[セット]を押します。



- 5** 刺しゅう模様のサイズを確認し、調整します。



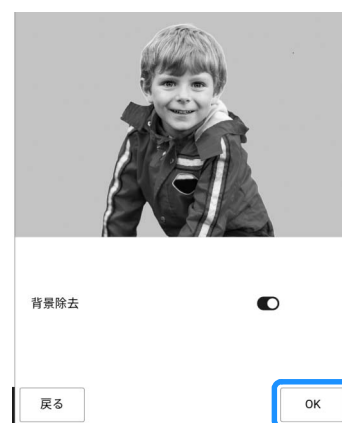
- ① 画像データのサイズを変更します。元のサイズに戻すときは、を押します。
- ② 画像データを 90 度回転させます。
- ③ 刺しゅう枠のサイズに合わせてサイズを変更します。(手順 7 を参照)
- ④ 刺しゅうデータに変換する画像の範囲を指定します。(P. 177 「刺しゅうデータに変換する画像の範囲を指定する」を参照)
- ⑤ 背景を削除します。(手順 6 を参照)

お知らせ

- ・ 刺しゅう模様の推奨サイズは以下の通りです。
 - 顔のみ：100 × 100 mm 以上
 - 頭と顔：130 × 180 mm 以上
 - 細かい刺しゅうを要する被写体：75 × 75 mm 以上
- ・ 範囲指定機能 (④) と背景除去機能 (⑤) は同時に使用できません。

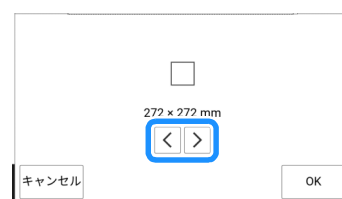
- 6** 必要に応じて、背景を除去します。を押して [自動 (AI)] を選択し、[背景除去] をオンに切り替えます。[プレビュー]を押して切り抜き範囲を確認して、[OK]を押します。

* [自動 (AI)] を選択して [背景除去] をオンに設定している場合、自動的に背景が除去されます。思い通りの仕上がりにならない場合は、P. 177 「[カスタム] モードで背景を除去する」を参照してください。

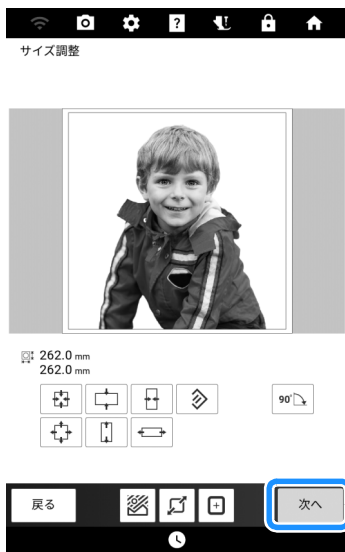


- 7** 必要に応じて、を押して、指定した刺しゅう枠のサイズに合うように模様のサイズを変更します。

* この機能で利用できる刺しゅう枠が表示されます。



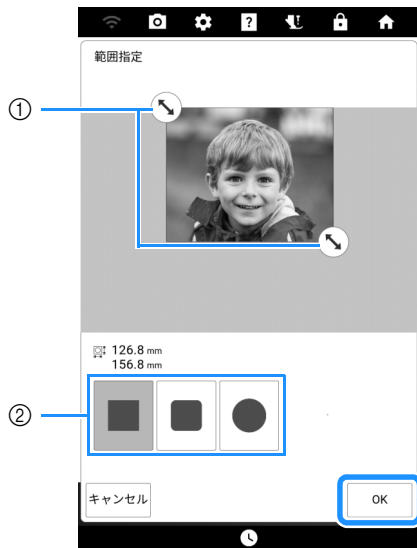
- 8 画像の編集が終わったら、[次へ]を押します。



→ P. 179「変換方法を選択する」に進みます。

■ 刺しゅうデータに変換する画像の範囲を指定する

- 1 P. 175「取り込んだ画像を調整する」の手順 2～5 を行います。
- 2  を押します。指定する画像範囲を選択し、[OK] を押します。



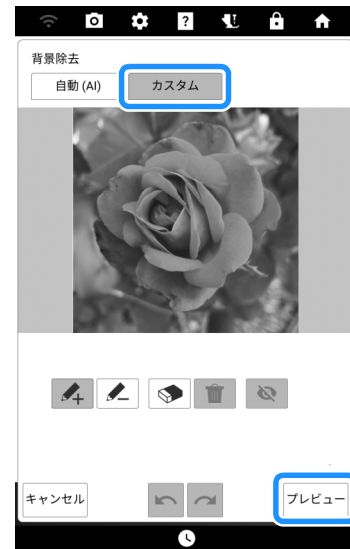
- ① ドラッグして画像範囲を指定します。
- ② 範囲指定する形を選択します。

- 3 P. 175「取り込んだ画像を調整する」の手順 7～8 を行います。

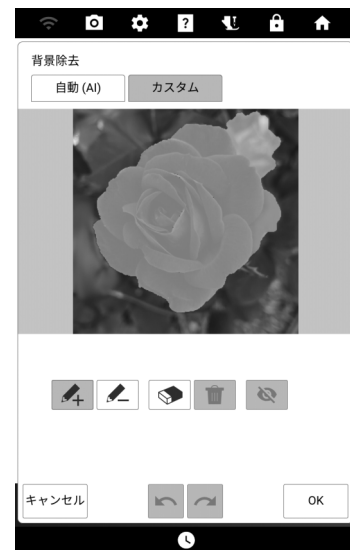
■ [カスタム] モードで背景を除去する

この例では、花の写真から背景を除去します。

- 1 P. 175「取り込んだ画像を調整する」の手順 6 で [カスタム] を押します。
この例では、まず [プレビュー] を押して切り抜き範囲を表示します。



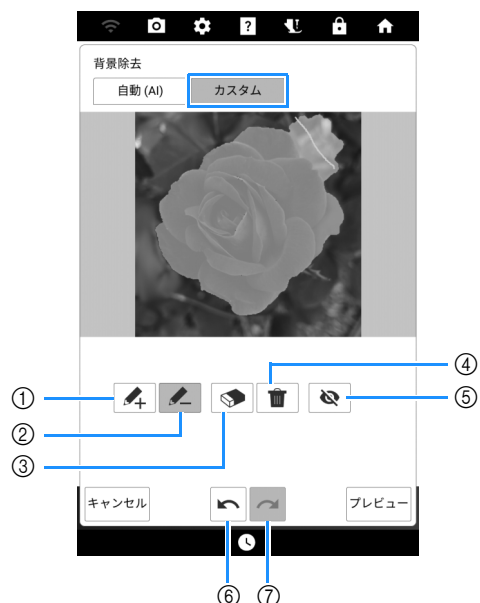
→ 切り抜き範囲が青色で強調表示されます。



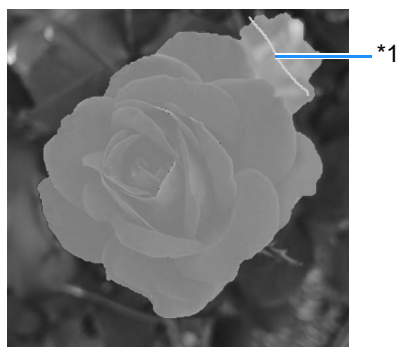
お知らせ

- [カスタム] モードで指定なしで切り抜き範囲を抽出した場合と、[自動 (AI)] モードで背景を除去した場合とでは、結果が異なることがあります。

- 2** ペン機能を使って、抽出する領域と抽出しない領域を描きます。終わったら、[プレビュー]を押して切り抜き範囲を確認します。



- ① ピンクのペンで抽出する領域に線を引きます（切り抜き範囲に追加されます）。
- ② 黄緑色のペンで抽出しない領域に線を引きます（切り抜き範囲から削除されます）。
- ③ 上記 ① または ② で引いた線の上をなぞると、引いた線が消去されます。
- ④ すべての線を消去します。
- ⑤ ペン①または②で引いた線をすべて非表示にします。
- ⑥ 前の操作を取り消します。
- ⑦ 取り消した最後の操作をやり直します。

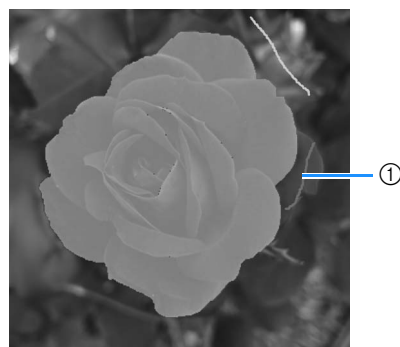


*1 を選択し、黄緑色のペンで抽出しない領域に線を引きます。

お知らせ

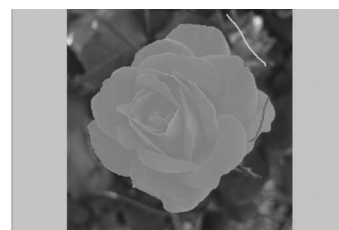
- 切り抜き範囲を追加または削除する場合、領域全体をペンで完全に塗りつぶす必要はありません。

- 3** 意図した切り抜き範囲になるまで、線を描いて[プレビュー]で確認を続けます。

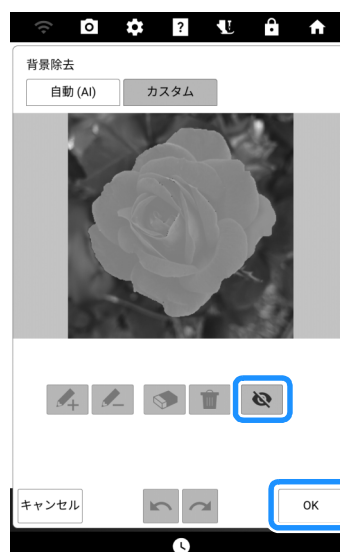


- ① を選択し、ピンクのペンで抽出する領域に線を引きます。

- 4** [OK] を押します。



- * を押すと、ペンで描いたすべての線が非表示になります。

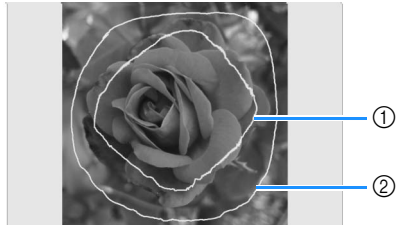


- 5** [次へ] を押します。



お知らせ

- 抽出前に、切り抜き範囲を指定する場合は、[プレビュー]を押さずに、手順 1 を行います。手順 2 で抽出する領域と抽出しない領域を大まかに描いて、[プレビュー]を押します。そのあとは手順 3 を続けて行ってください。



- ① [ペン] を選択し、ピンクのペンで抽出する領域に線を引きます。
- ② [ペン] を選択し、黄緑色のペンで抽出しない領域に線を引きます。

変換方法を選択する

■ 元の画像を使用する（スタイル変換しない）

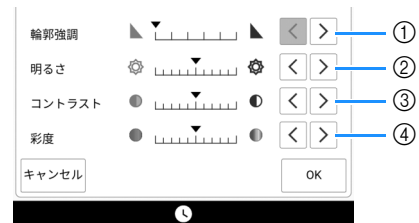
表示されている画像を、スタイル変換しないでそのまま刺しゅうデータに変換します。必要に応じて刺しゅうデータに変換する前に、画像を調整します。

- 1 [オリジナル]がボックスに表示されていることを確認します。



- ① ボックス

- 2 [調整] を押して、画像の明るさなどを調整します。
[OK] を押して設定を反映します。



- ① 画像の輪郭を強調する割合を調整します。[右] を繰り返し押すことで、明るい部分と暗い部分の境界がはっきりします。
- ② 画像の明るさを調整します。
- ③ 画像のコントラストを調整します。
- ④ 画像の彩度を調整します。

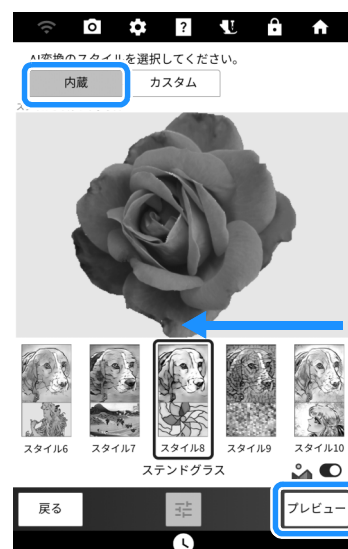
- 3 [次へ] を押します。

→ P. 181 「適切な糸色と糸密度を選択する」に進みます。

■ [内蔵] スタイルを使用して変換する

マシンに内蔵されているスタイルを使うと、元の画像と印象の異なるさまざまな画像を作り、刺しゅうデータに変換することができます。この例では、花の写真を変換します。

- 1 ボックスにお好みの[スタイル]が表示されるまでスワイプします。[オン/オフ]の切り替えます。その後、[プレビュー]を押します。

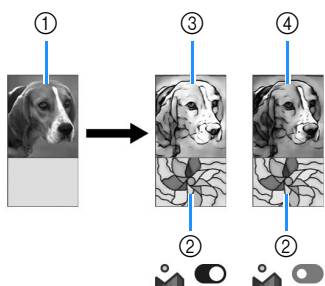


5

いろいろな刺しゅう

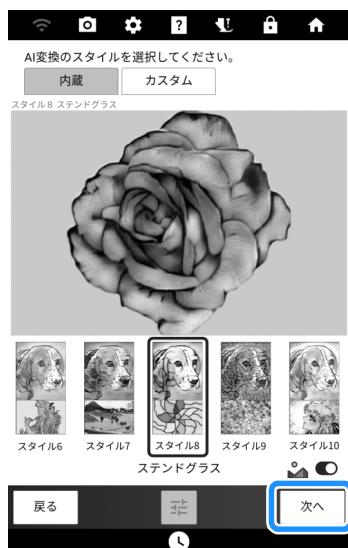
お知らせ

- ・  をオフにすると、元の写真の色を使用するスタイル変換が適用されます。



- ① サンプル画像（スタイル変換なし）
- ② スタイル画像
- ③ サンプル画像（スタイル画像の色を使用してスタイル変換）
- ④ サンプル画像（元の写真の色を使用してスタイル変換）

2 画像を確認し、[次へ]を押します。



→ P. 181 「適切な糸色と糸密度を選択する」に進みます。

■ [カスタム] スタイルを使用して変換する

お好みの画像をスタイル画像に設定すると、個性的なスタイル変換画像を作ることができます。
この例では、山の写真を変換します。

1 スタイルとして使用する画像と刺しゅうデータに変換する写真を USB メディアに保存します。

2 取り込んだ画像を調整します。(P. 175)

3 [カスタム]を押します。 を押して、保存した画像を選択します。 のオン/オフを切り替えます。その後、[プレビュー]を押します。



4 画像を確認し、[次へ]を押します。



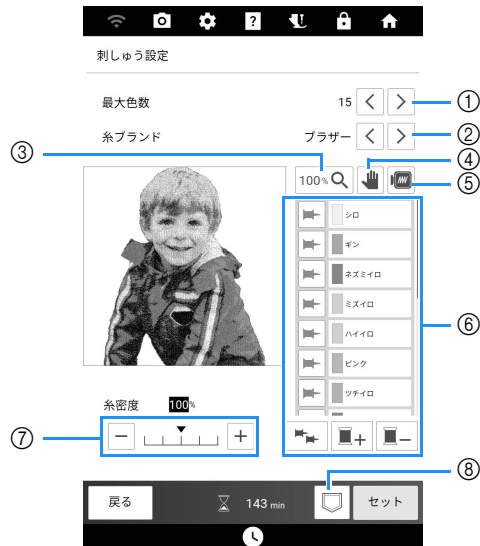
- ① オフにすると、元の写真の色を使用するスタイル変換が適用されます。詳しくは P. 179 「[内蔵] スタイルを使用して変換する」を参照してください。



→ P. 181 「適切な糸色と糸密度を選択する」に進みます。

適切な糸色と糸密度を選択する

- 1 変換結果を確認し、問題がなければ[セット]を押して手順3に進みます。必要に応じて、糸色の最大数、使用する糸色、糸密度を指定します。



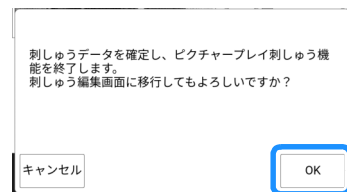
- ① 糸色の最大数を指定します。
- ② 糸ブランドを指定します。
- ③ イメージを表示する倍率を変更します。
- ④ イメージを拡大表示しているときに、このキーを押してイメージエリアをドラッグすると、表示位置を変更できます。
- ⑤ 刺しゅう模様のイメージを表示します。
- ⑥ 糸色リストの設定をします。使用する糸色を変更できます。
 (糸色保持キー) のピンが青色の場合、横のキーの糸色が刺しゅうデータへの変換時に保持されます。(ピンが灰色) を押すと、キーの横の糸色を保持します。(ピンが青色) を押すと、キーの横の糸色が保持されなくなります。
 を押すと、すべての糸色が保持されます。もう一度キーを押すと、すべての糸色が保持されなくなります。
 を押して糸色を選択し、[OK] を押すと、選択した糸色が糸色リストに追加されます。
 糸色リストで糸色を選択し、を押すと、選択した糸色を削除します。
- ⑦ 糸密度を調節します。
- ⑧ 刺しゅう模様を保存します。

- 2 この例では、最大色数を 12 色、2 つの糸色を保持して変換します。[プレビュー]を押して、模様を設定を適用します。



- ① 糸色の最大数
- ② 保持する糸色 (青色のピン)

- 3 変換結果を確認して、[セット]を押します。
 → 次のメッセージが表示されます。[OK]を押すと、変換された模様が刺しゅう編集画面に表示されます。



お願い

- 変換した模様は糸密度が高いため、刺しゅうしたときに縮むことがあります。布地を刺しゅう枠にしっかりと固定してから刺しゅうしてください。ピックアッププレイ機能を使用する場合は、布地をよりしっかりと固定できる別売のマグネット枠を使用することをお勧めします。

アップリケとカウチング

アップリケピースを作る

内蔵模様や読み込んだ模様から、アップリケピースを作ることができます。布地に直接刺しゅうできないときや、衣類にアップリケを貼りたいときに便利です。

■ アップリケピースを作る



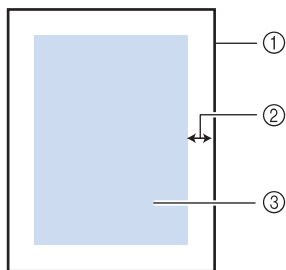
💡 お願い

- ・アップリケピースをつくるときは、フェルトやデニムの使用をお勧めします。薄い布地など、模様や布地によっては、ぬい縮みすることがあります。
- ・きれいに仕上げるため、刺しゅう用接着芯の使用をお勧めします。

1 模様を選択し、必要に応じて編集します。

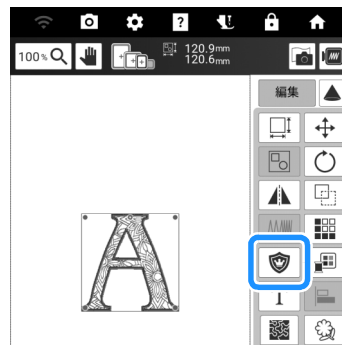
💡 お願い

- ・模様の組み合わせや編集を終えてから、アップリケ設定をしてください。アップリケ設定をした後に模様を編集すると、アップリケぬいと模様がずれることがあります。
- ・アップリケ設定をすると輪郭線が追加されるため、模様が大きくなります。次の図のように、はじめに模様の大きさと位置を調整してください。

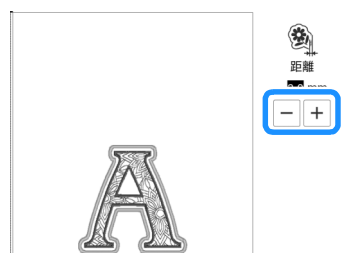


- ① 縫製範囲
- ② 約 1 cm
- ③ 模様の大きさ

2 [編集] を押してから [🛡️] を押します。



3 模様からアップリケピースの輪郭線までの距離を指定し、[OK] を押します。



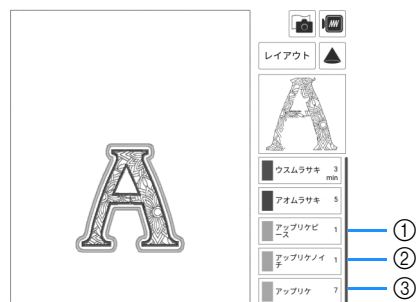
→ 模様とアップリケピースの輪郭線はグループ化されます。

4 [縫製] を押します。

→ アップリケピースの作成ステップが、刺しゅうの順番に追加されます。

📄 お知らせ

- ・刺しゅうの順番に、アップリケの切り取り線、布地にアップリケを配置する位置、アップリケぬいの 3 つのステップが追加されます。



- ① アップリケの切り取り線
- ② 布地にアップリケを配置する位置
- ③ アップリケぬい（輪郭線）

- ・設定画面で[糸色]を[#123]（糸番号）に設定すると、次の画面が表示されます。



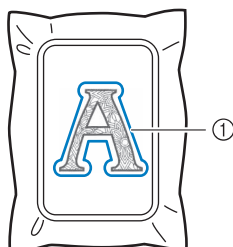
🔍 お問い合わせ

- 模様が大きいときや複雑なとき、組み合わせ模様が近い位置にないときは、アップリケピースを作ることはできません。選択した模様が縫製範囲に収まっても、輪郭線が追加されることで、アップリケの模様全体が縫製範囲を超える場合があります。エラーメッセージが表示されたときは、別の模様を選択するか、編集を行ってください。

5 アップリケピースとして使用する布（フェルトやデニム）の裏に、接着芯を貼ります。

6 アップリケ布を刺しゅう枠に張り、ミシンにセットして、刺しゅうします。

7 模様の刺しゅうが終わったら、切り取り線に使用する上糸を通して、切り取り線（アップリケピース）をぬいます。

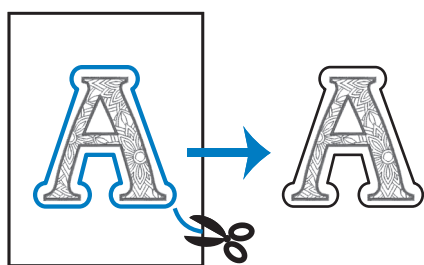


① アップリケの切り取り線

📖 お知らせ

- アップリケの切り取り線には、布地に近い糸色を使用することをお勧めします。

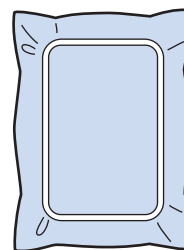
8 アップリケ布を刺しゅう枠から外し、ぬい目の上をていねいに切り取ります。その後、糸をきれいに取り除きます。



🔍 お問い合わせ

- 模様の糸密度や布地によっては、模様がぬい縮みしたり、位置がずれることがあります。切り取り線より少し外側を切ることをお勧めします。
- 上下対称、左右対称の模様をぬうときは、切り取る前に、チャコペンで模様の向きがわかるように印をつけてください。
- 必ずぬい目の上をていねいに切り取ってください。ぬい目よりも内側を切るとアップリケをぬうときに布地に糸がかからなくなります。

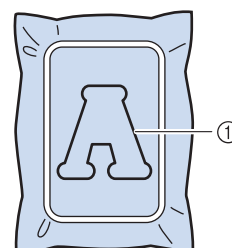
9 水溶性シート（不織布タイプ）を2枚重ねて、刺しゅう枠に張ります。



🔍 お問い合わせ

- 縫製中に水溶性シートが破れるおそれがありますので、2枚重ねて使用してください。

10 手順 12 で輪郭線をぬうときに使用する上糸を通して、模様の配置線（アップリケノイチ）をぬいます。

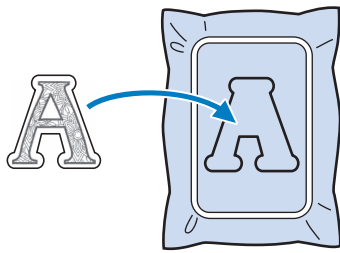


① 模様の配置線

5

いろいろな刺しゅう

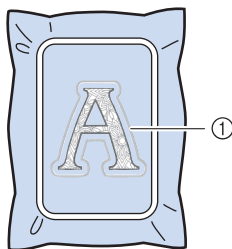
- 11** のりを薄くつけ、アップリケピースを配置線に合わせて貼り付けます。



🔔 **お願い**

- 貼り付ける前に、アップリケピースが配置線と合っていることを確認してください。

- 12** 手順 **10** から使用している輪郭線用の上糸で、輪郭線（アップリケ）をぬいます。



① アップリケの輪郭線

📖 **お知らせ**

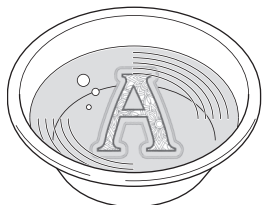
- アップリケの輪郭線はサテンぬいでぬわれます。
- このとき、刺しゅう押えや針、針板にのりが付着することがあります。アップリケ縫製後にのりをふき取ってください。

- 13** 刺しゅうが終わったら、刺しゅう用接着芯を刺しゅう枠から外します。

- 14** アップリケの輪郭線の外側の余分な水溶性シートをはさみで切ります。

- 15** アップリケピースを水に浸し、水溶性シートを溶かします。

- * 詳しくは、水溶性シートの取扱説明書を参照してください。



- 16** アップリケピースを乾かし、必要に応じてアイロンをかけます。

🔔 **お願い**

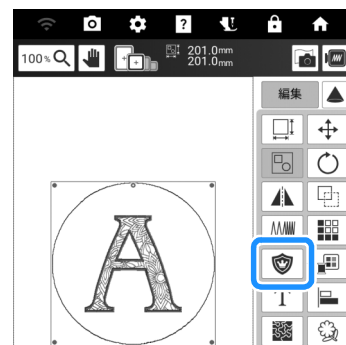
- アイロンで強い力をかけないでください。ぬい目が損傷するおそれがあります。

■ 輪郭に枠模様を使う

お好みの枠模様をアップリケの輪郭として追加することができます。枠模様の選択については、P. 134 「枠模様を選ぶ」を参照してください。



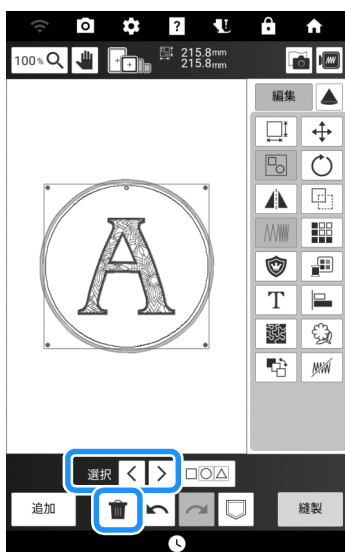
- 1 模様を選択し、必要に応じて編集します。その後、[追加]を押します。
- 2 お好みの枠模様を選択し、アップリケ模様を追加します。
- 3 [編集]を押して、アップリケ模様の大きさに合うように枠模様を編集します。
- 4 を押します。



- 5 枠模様からアップリケピースの輪郭線までの距離を指定し、[OK]を押します。

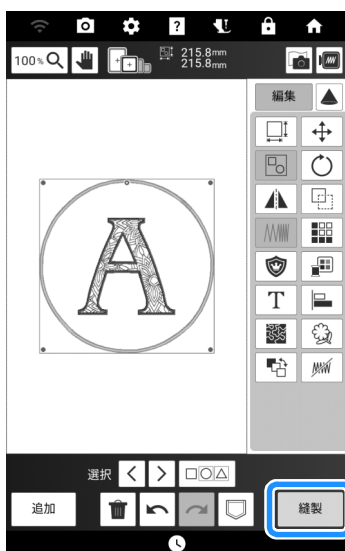
- 6 を押して、グループ化を解除します。

- 7 で枠模様を選択し、 を押して、[OK] を押します。



→ 枠模様が消去されます。

- 8 [縫製] を押します。



- 9 P. 182「アップリケピースを作る」の手順 5 以降の操作を行い、アップリケピースを完成します。

アップリケ模様を刺しゅうする

🔔 お願い

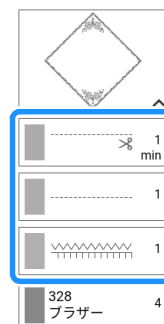
- 「模様一覧」を参照して、内蔵のアップリケ模様を刺しゅうするための推奨方法を確認してください。アップリケ模様によっては、本書の手順と異なる場合があります。

このマシンでは、アップリケが含まれている模様を刺しゅうすることができます。アップリケを含む刺しゅう模様を選ぶと、アップリケの手順が刺しゅう色順番表示に表示されます。[糸色] 設定によって表示は変わります。(P. 23)

①



②



- ① [糸色名] を選択した場合。
② [#123] (糸番号) を選択した場合。

用意するもの

- アップリケピース用の布地
- アップリケ土台用の布地
- 刺しゅう用接着芯
- 手芸用のり
- 刺しゅう糸

📄 お知らせ

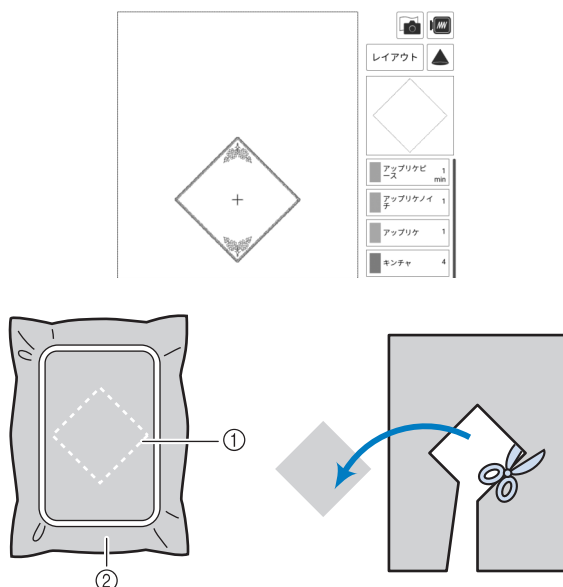
- 刺しゅう色順番表示には、アップリケピースを作ったり、貼り付けたりするときに使う具体的な糸色の名前と番号は表示されません。アップリケの模様や布地に合った糸色を使用してください。

5

いろいろな刺しゅう

■ 1. アップリケピースを作る

- 1 アップリケピース用の布地の裏に刺しゅう用接着芯を貼ります。
- 2 アップリケピースの切り取り線をぬいます。アップリケピースの布地を刺しゅう枠から取り外し、ぬい目の上をていねいに切り取ります。



- ① アップリケピースの切り取り線
② アップリケピース用の布地

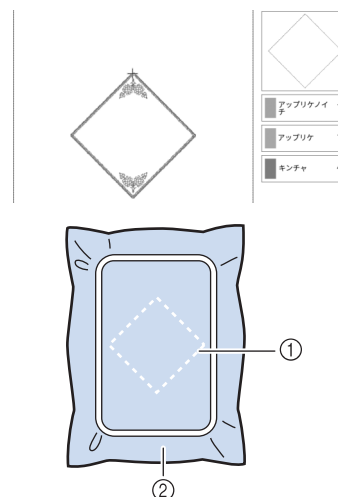
💡 お願い

- 切り取り線よりも内側を切ると、布地に正しくぬいつけられなくなります。必ず切り取り線の上をていねいに切り取ってください。
- アップリケピースを切り取った後、糸はきれいに取り除いてください。

■ 2. 土台用の布地にアップリケの位置をぬう

- 1 アップリケの土台になる布地の裏側に刺しゅう用接着芯を貼ります。

2 アップリケの位置をぬいます。



- ① アップリケの位置
② 土台用の布地

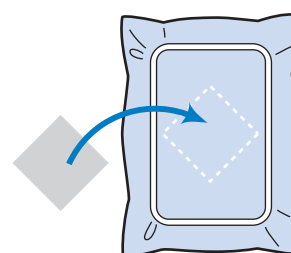
3 刺しゅう枠を刺しゅう機から取り外します。

💡 お願い

- 土台用の布地は、刺しゅうがすべて終わるまで刺しゅう枠から外さないでください。

■ 3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける

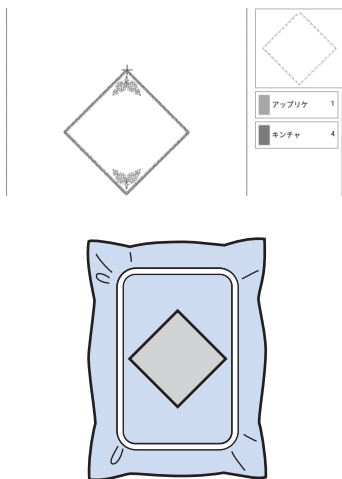
- 1 アップリケピースの裏側に手芸用のりを薄く付け、P. 186「2. 土台用の布地にアップリケの位置をぬう」の2でぬったアップリケの位置線に合わせてしっかり貼り付けます。



💡 お願い

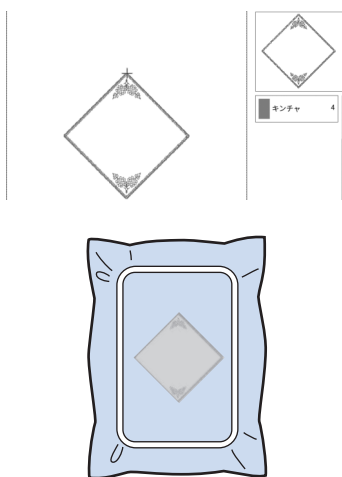
- 手芸用のりでアップリケピースを土台用の布地にしっかり固定できない場合は、しつけ糸で仮止めぬいをしてピースを固定してください。
- アップリケピースに薄い布地を使用するときは、アイロン接着シートで布地の補強と位置合わせをしてください。アップリケしたい場所にアイロンで接着できます。

- 2 アップリケピースを貼り付けたら、刺しゅう枠をミシンにセットします。
- 3 刺しゅう糸をセットし、押えを下げ、スタート/ストップスイッチを押し、アップリケを刺しゅうします。



■ 4. 残りのパーツを刺しゅうする

- 1 刺しゅう色順番表示を確認して刺しゅう糸を交換し、残りのパーツを刺しゅうします。



📖 お知らせ

- 刺しゅう押えや針、針板にのりが付くことがありますので、アップリケ模様の刺しゅうが終わったら、のりをきれいに拭き取ってください。
- きれいに仕上げるために、糸替えごとに余分な糸は切ってください。

枠模様を使ってアップリケを作る

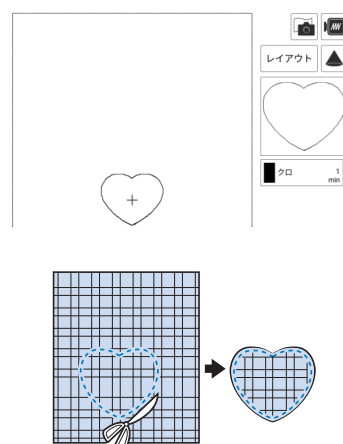
大きさと形が同じ枠模様を使用して、アップリケを作ることができます。直線ぬいで1つの模様をぬい、サテンぬいでもう1つの模様をぬいます。

💡 お願い

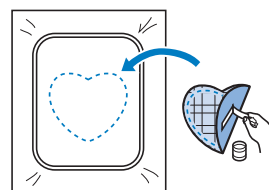
- アップリケを作るときに、大きさやぬい位置を変えた場合は、サイズと位置を書き留めてください。

■ 方法 1

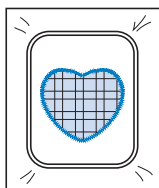
- 1 直線ぬいの枠模様を選択します。アップリケ布に模様を刺しゅうをしてから、ぬい目の外側をていねいに切り取ります。



- 2 1と同じ模様を土台布に刺しゅうします。
- 3 1で作った布の裏側に、薄くのりまたは布用スプレーのりを付けます。土台布のぬい目に合わせて、アップリケを貼り付けます。

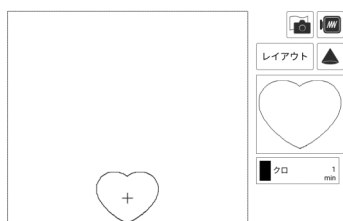


- 4** 同じ形のサテンぬいの枠模様を選択します。
3 のアップリケ布と土台布の上に刺しゅうをして、アップリケを作ります。



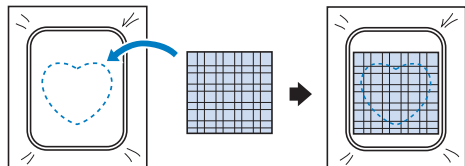
■ 方法 2

- 1** 直線ぬいの枠模様を選択し、土台布に刺しゅうします。

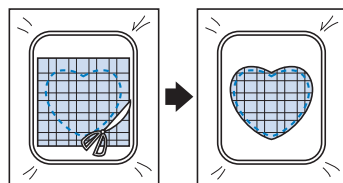


- 2** 手順 **1** で刺しゅうした模様の上にアップリケ布を置き、同じ模様を刺しゅうします。

* このとき、ぬい目がアップリケ布からはみでないようにしてください。



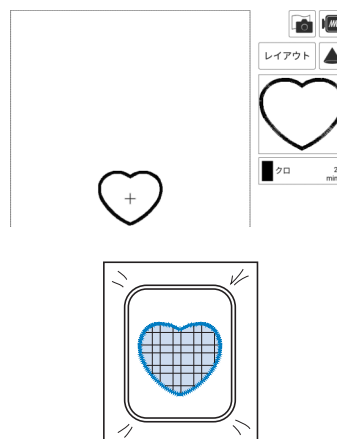
- 3** 刺しゅう機から刺しゅう枠を外し、アップリケ布のぬい目の外側を切り取ります。その後、刺しゅう枠を刺しゅう機に再び取り付けます。



💡 お願い

- 布地は刺しゅう枠にはめたまま切ってください。また、布地に無理な力をかけないでください。刺しゅう枠に張った布地がたるむことがあります。

- 4** アップリケと同じ形のサテンぬいの枠模様を選択し、サテンぬい模様を刺しゅうしてアップリケを作ります。



カウチング模様を刺しゅうする

毛糸を使ったカウチング模様を刺しゅうすることができます。

⚠ 注意

- 推奨する毛糸の太さは並太タイプ、または4番 (4) です。細すぎる毛糸や太すぎる毛糸、または特別な形状 (平ら、毛足が長い) の毛糸、2本以上の毛糸を使用すると、きれいに仕上がらなかったり、けがや故障の原因となったりします。

💡 お願い

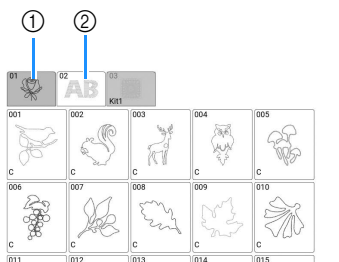
- 作品を作る前に、実際に使用するものと同じ布地で試しぬいをしてください。

■ カウチング刺しゅうの準備をする

- 電源を切ります。
刺しゅう機を取り付けます。
- 刺しゅう用下糸を巻きつけたボビンを取り付けます。
- 電源を入れます。
- ホーム画面で[刺しゅう]を押してから  を押します。



- お好みのカテゴリーから模様を選択します。
その後、[セット]を押します。



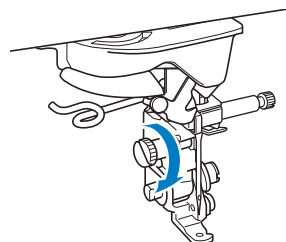
- カウチング模様
- カウチング文字模様

📖 お知らせ

- [Kit 1]と表示されている灰色のタブおよびキーは、アップグレードキット[KIT 1]を購入して有効にすると使用できるようになります。

- を押して、すべてのキーと操作スイッチをロックしてから、押えレバーを上げます。

- カウチング刺しゅう押え<Y>を取り付けます。

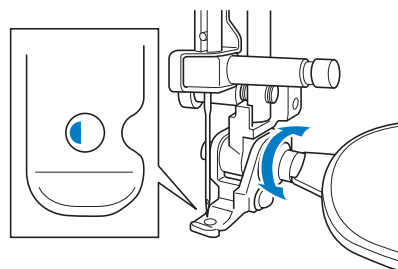


⚠ 注意

- カウチング刺しゅう押え<Y>を使用する場合は、ミシンが刺しゅうモードになっていることを確認してください。他のモードを選ぶと、針がカウチング刺しゅう押えに当たり、折れてけがをするおそれがあります。

- プーリーを回し、針がカウチング刺しゅう押え<Y>の穴の左半分に入っていることを確認します。

針が左半分に入っていない場合は、マルチドライバーを使ってカウチング刺しゅう押え<Y>のネジを回し、刺しゅう押えの位置を調整します。ネジを手前に回すと、刺しゅう押えが右に移動します。ネジを後ろ側に回すと、刺しゅう押えが左に移動します。調整後、プーリーを回し、針が押えに当たらないことを確認してください。

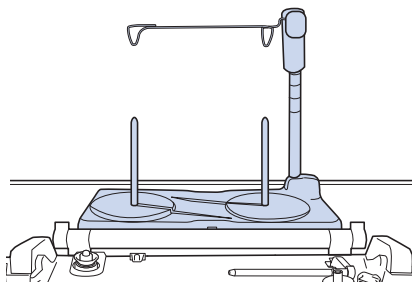


5

いろいろな刺しゅう

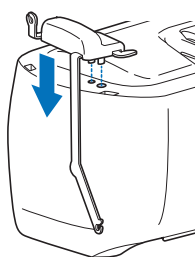
9 ミシンに糸たてスタンドを取り付けます。

このとき、アンテナを延ばさないでください。

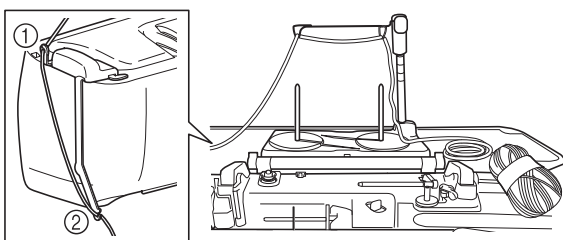


* 詳しくは、P. 43「糸たてスタンドを使う」を参照してください。

10 カウチング用糸ガイドをミシンの左上にある差し込み口に挿入します。



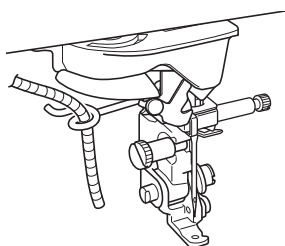
11 毛糸をアンテナとカウチング用糸ガイドに通します (① から ② へ)。



💡 お願い

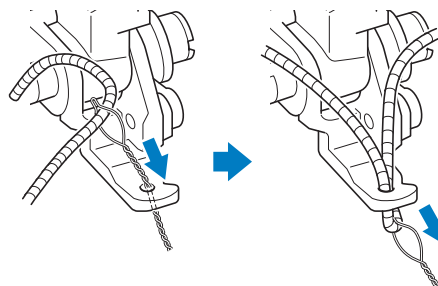
- 毛糸がピンと張らないように、毛糸玉から適量の毛糸を引き出してください。
- 作業中に毛糸がからまないように注意してください。

12 カウチング刺しゅう押え<Y>のガイドに毛糸を通します。



13 カウチング刺しゅう押え<Y>に毛糸を通します。

毛糸を紐通しの輪に通し、紐通しをカウチング刺しゅう押え<Y>の穴の上から下へ通します。毛糸を手前に引き出します。

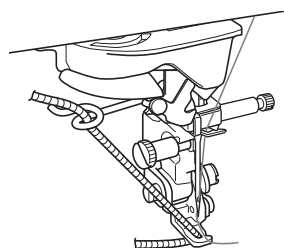


📄 お知らせ

- 押えの下に紙を敷くと、紐通しをスムーズにカウチング刺しゅう押え<Y>の穴に通すことができます。

14 []を押して、すべてのキーと操作スイッチのロックを解除します。

15 糸たて棒を使用して上糸をミシンにセットします。(P. 40)



💡 お願い

- 上糸に糸たてスタンドを使わないでください。糸同士がからまるおそれがあります。

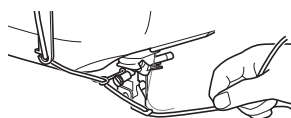
📄 お知らせ

- 毛糸と同じ色の上糸を使うと、よりきれいに仕上がります。

16 [] (押え上下スッチ) を2回押して押えを上げ、刺しゅう枠を刺しゅう機に取り付けます。

■ カウチング模様を刺しゅうする

- 1 [縫製] を押します。
- 2 毛糸を 20 cm ほど手前に引き出します。
- 3 毛糸を手前に持ったまま、スタート/ストップスイッチを押します。



⚠ 注意

- 毛糸を上引っ張ると、針に引っかって毛糸が切れることがあります。毛糸が針に引っかからないように注意してください。

💡 お願い

- 刺しゅうをする前に、毛糸、上糸、下糸が十分にあることを確認してください。
- 毛糸が糸ガイドにスムーズに通ることを確認してください。毛糸がぴんと張らない程度に、毛糸玉から毛糸を引き出してください。
- 結び目のない毛糸を使ってください。

4 数針刺しゅうしたら、毛糸を放します。

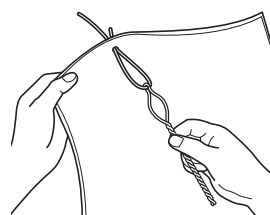
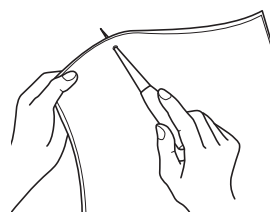
→ 刺しゅうが終わると、自動的に糸を切って止まります。

📖 お知らせ

- 密度の高い毛糸を使用すると、上糸の糸調子が乱れることがあります。その場合は、設定画面の[刺しゅうの押え高さ]を 1 mm ほど上げると改善されます。

5 糸を約 20 cm 残して切ります。

- 6 目打ちやタペストリー針などで布地に穴を開け、紐通しで残した毛糸を布地の裏側に引き出します。



- 7 毛糸が抜けないように端を結び、余った毛糸をはさみで切ります。

5

いろいろな刺しゅう

キルト作品に刺しゅうを使う

デザインの周りにキルティング模様を作る

マイデザインセンターを使わずに、ミシンに内蔵の模様や刺しゅうデータの周りにスティップリング、エコーキルト、デコラティブフィル模様を作ることができます。

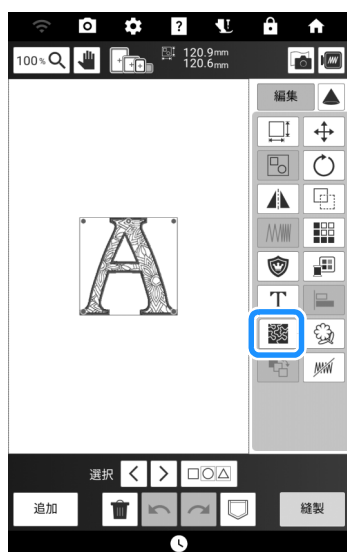
お知らせ

- キルト綿を布にはさんだ状態でこの機能を使うと、刺しゅう模様とスティップリングがずれる場合があります。スティップリングは、模様を刺しゅうした後、マイデザインセンターで追加することができます。詳しくは P. 247 「模様の周りに飾りぬいをする」を参照してください。

1 周りにスティップリングを施したい模様を選択します。

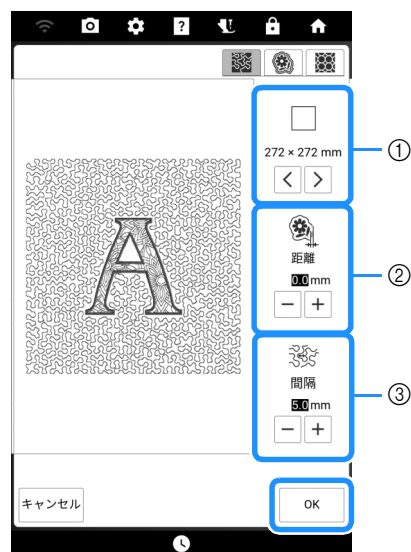
- * 複数の模様を選択するときは、P. 146 「複数の模様を選択する」を参照してください。

2 刺しゅう編集画面で を押します。



→ 選択した模様の周囲にスティップリングが自動で作成されます。

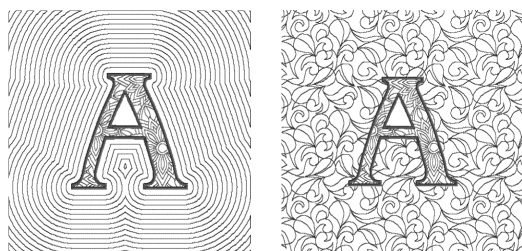
3 スティップリングの設定をした後、[OK] を押します。



- ① 選択した刺しゅう枠のサイズの範囲内でスティップリングを追加できます。選択した刺しゅう枠のサイズより模様が大きい場合、刺しゅう枠のサイズを示す範囲が灰色の表示になり、スティップリングは追加されません。
- ② 模様の輪郭からスティップリングまでの距離を設定します。
- ③ スティップリングの間隔を設定します。

お知らせ

-  を押してエコーキルト模様を作成します。
 を押してデコラティブフィル模様を作成します。



*1

*2

*1 エコーキルト模様

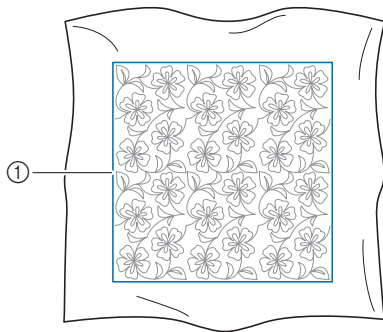
*2 デコラティブフィル模様

布地全体にキルト模様を刺しゅうする（エッジトゥエッジキルト機能）

指定した範囲の端から端までキルト模様をつないで刺しゅうします。刺しゅう枠を張り替えることで、大きな布地いっぱいキルト模様を刺しゅうできます。

■エッジトゥエッジキルトデータを作成する

- 1 刺しゅうする範囲を決めて、チャコペンで布地に線を引きます。幅と高さを測ります。

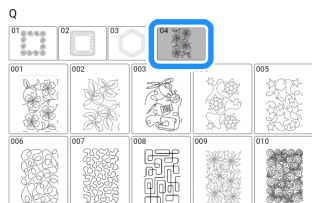


① 刺しゅうする範囲

💡 お願い

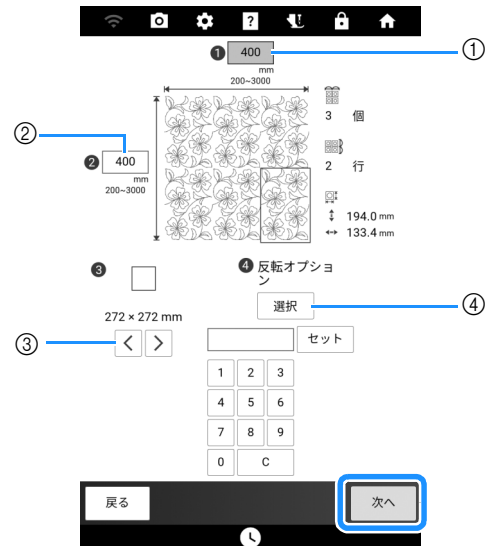
- 刺しゅう枠に布地を張ったときに、チャコペンの線が刺しゅう枠の縫製範囲に入るようにしてください。

- 2  を押してから  を押します。

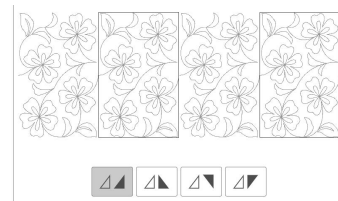


- 3 刺しゅうする模様を選択し、[セット]を押します。

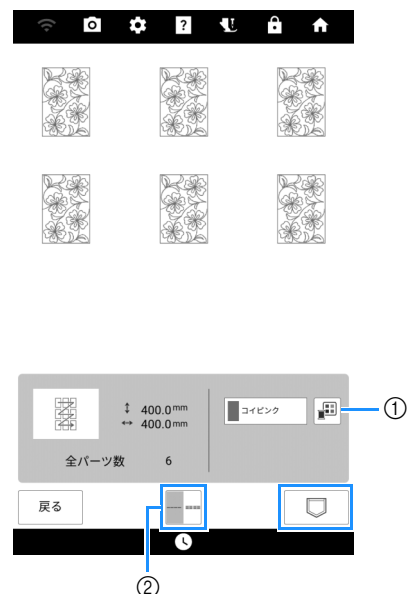
- 4 ①～④を指定して、[次へ]を押します。



- ① 幅
- ② 高さ
- * 値を入力した後、[セット]を押して値を適用します。入力した値を消去するときは、[C]を押します。
- ③ < または > を押して刺しゅう枠のサイズを選択します。
- ④ [選択]を押すと、1つおきに模様を反転させることができます。反転キーからお好みの反転配置（反転なし、左右反転、上下反転、左右上下反転）を選び、[OK]を押します。

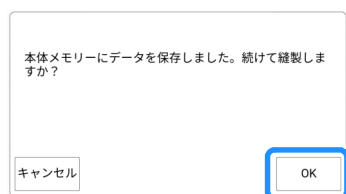


- 5 模様を確認し、 を押して保存します。



- ① 糸色を変更できます。
- ② 1重ぬいまたは3重ぬいを選択します。

- 6** 次のメッセージが表示されたら、[OK] を押します。



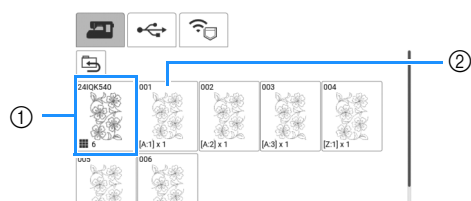
→ ミシンのメモリーから模様を選択できる画面が表示されます。

■ エッジトゥエッジキルト模様を刺しゅうする

- 1** ミシンのメモリーから模様を選択する画面で、保存したデータを選択します。



- 2** この例では、画面のガイダンスに従ってエッジトゥエッジキルト模様を刺しゅうするので、エッジトゥエッジキルト模様全体のサムネイルを選択します。その後、[セット]を押します。



- ① このキーを押すと、画面のガイダンスに従ってエッジトゥエッジキルト模様を刺しゅうできます。左下の数字は、エッジトゥエッジキルト模様の総数を示します。
- ② 目視で位置合わせをして刺しゅうするときは、刺しゅうしたい個所が表示されたキーを押します。各キーに表示されている符号でその模様を刺しゅうする場所と刺しゅうする回数を確認できます。「A」は最後の行以外、「Z」は最後の行を指し、数字は模様をつなぐ順番を表します。

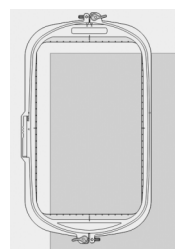
例：模様を 2 行 3 列でつなぐ場合

A:1	A:2	A:3
Z:1	Z:2	Z:3

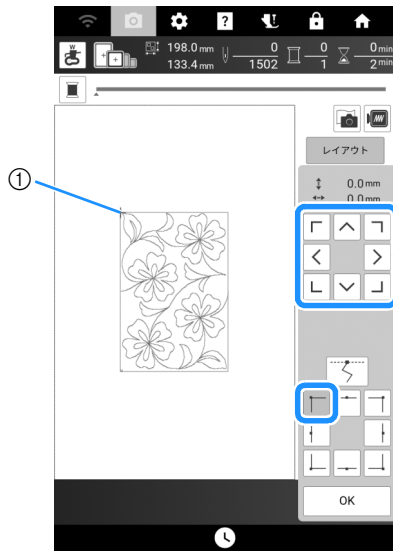
例：模様を 4 行 4 列でつなぐ場合

A:1	A:2	A:3	A:4
A:1	A:2	A:3	A:4
A:1	A:2	A:3	A:4
Z:1	Z:2	Z:3	Z:4

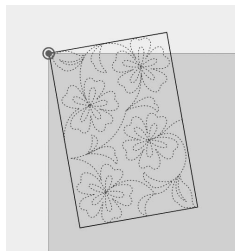
- 3** エッジトゥエッジキルト模様の左上の角が縫製範囲に収まるように、布地を刺しゅう枠に張り、刺しゅう枠を取り付けます。



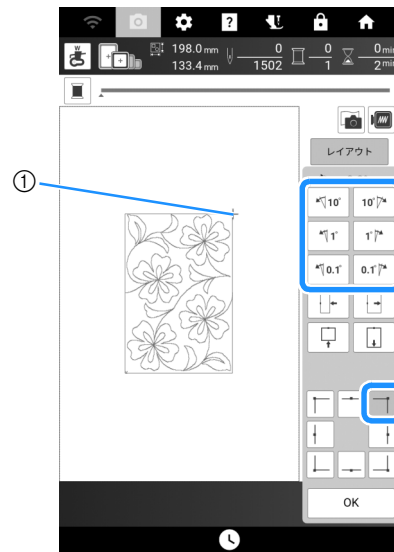
- 4 模様移動キーを使って、チャコペンの線の左上の角と、プロジェクターから布地に映し出された模様の左上の角を合わせます。その後、[OK]を押します。



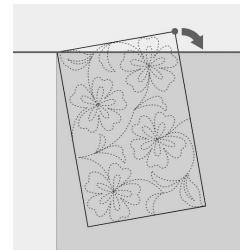
① 左上の角



- 5 模様を回転させ、右上の角をチャコペンの線に合わせます。



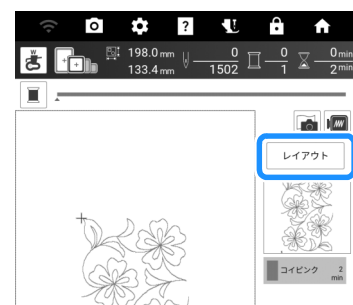
① 右上の角



- 6 [OK]を押して、縫製画面を表示します。

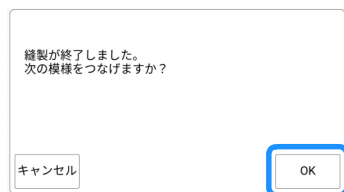
お知らせ

- 模様の位置や角度を再調整するときは、[レイアウト]を押してから または を押します。



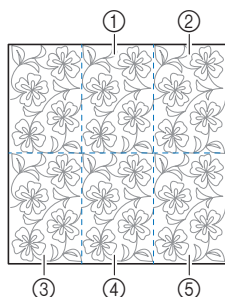
- 7 スタート/ストップスイッチを押して、最初の模様を刺しゅうします。

8 刺しゅうが終わって次のメッセージが表示されたら、[OK]を押します。



→ 次に刺しゅうする模様が表示されます。

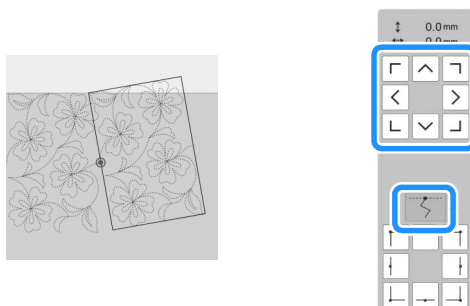
9 画面のガイダンスに従って、模様ごとに位置合わせをして刺しゅうします。ぬい始めの位置合わせや刺しゅう枠の張り直しが必要なときは、メッセージが表示されます。



① 最初の行の2列目 ()



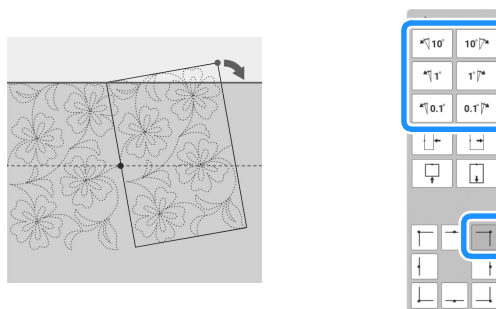
模様移動キーを使って、ぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせます。



💡 お願い

- ぬい始め位置を正確に合わせるために、プーリーを手前に回して針落ち位置を確認してください。針の位置を確認したら、必ず針上下スイッチで針を一番高い位置に戻してください。

模様を回転させ、右上の角をチャコペンの線に合わせます。

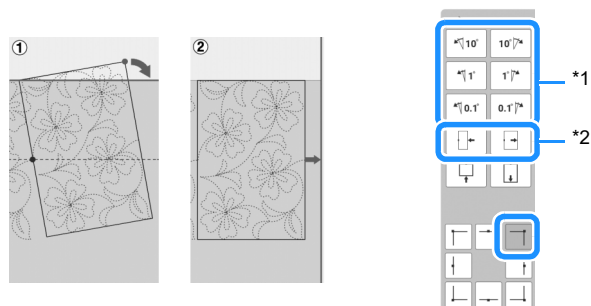


② 最初の行の右端の列 ()

模様移動キーを使って、ぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせます。



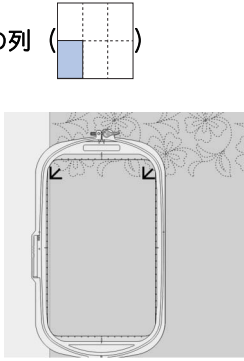
右上の角をチャコペンの右上の角に合わせるため、模様の角度と幅を調整します。



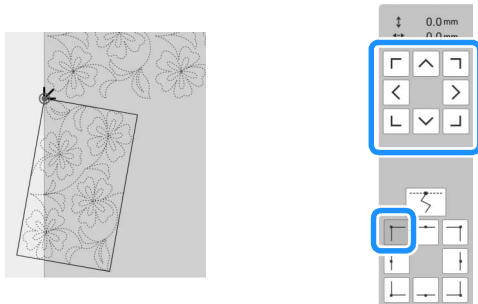
*1 模様の角度を変更します。

*2 模様の幅を変更します。

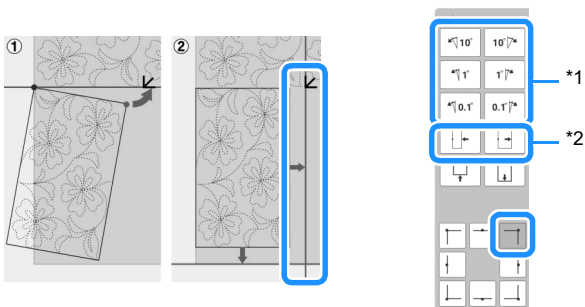
③ 2行目の左端の列 ()



模様移動キーを使って、左上の角を刺しゅうされた上の模様の糸印に合わせます。



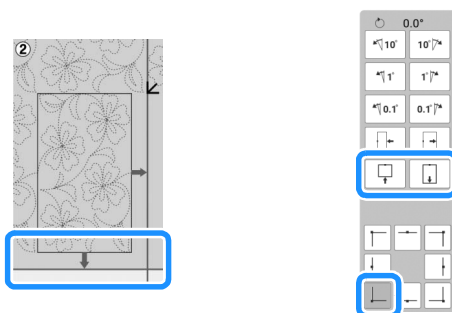
右上の角を刺しゅうされた上の模様の糸印に合わせるため、模様の角度と幅を調整します。



*1 模様の角度を変更します。

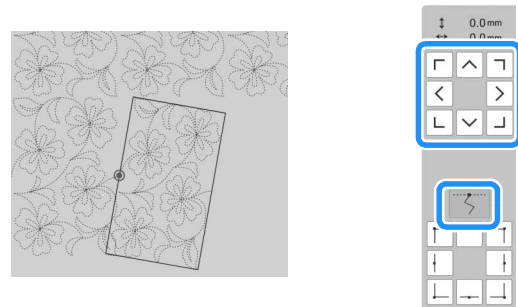
*2 模様の幅を変更します。

⏏を押して、模様がチャコペンの線に合うように長さを調整します。

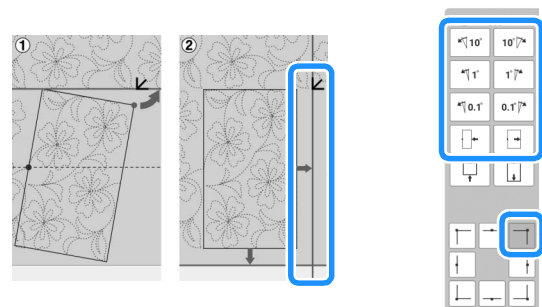


④ 2行目 (最後の行) の2列目 ()

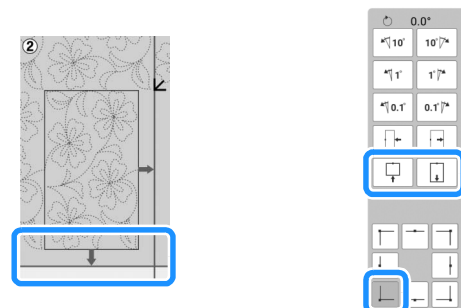
模様移動キーを使って、ぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせます。



右上の角を刺しゅうされた上の模様の糸印に合わせるため、模様の角度と幅を調整します。



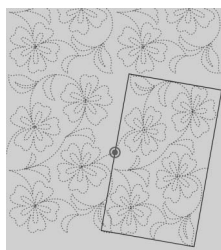
⏏を押して、模様がチャコペンの線に合うように長さを調整します。



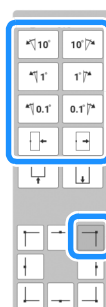
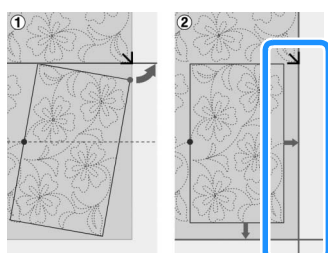
⑤ 2行目（最後の行）の右端の列



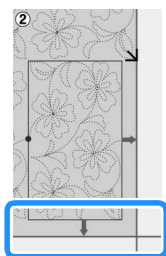
模様移動キーを使って、ぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせます。



右上の角を刺しゅうされた上の模様の糸印に合わせるため、模様の角度と幅を調整します。



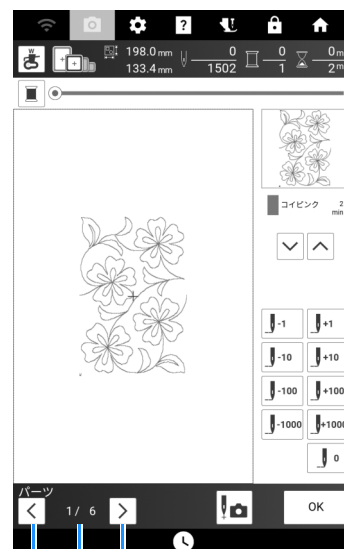
↓を押して、模様がチャコペンの線に合うように長さを調整します。



10 糸印を取り除きます。

お知らせ

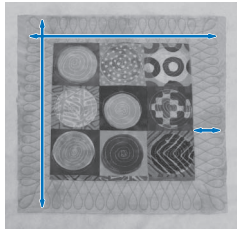
- 模様をぬい直したり、ぬわないで次の模様をぬう必要がある場合は、縫製画面で [] を押して次の模様に進んだり、前の模様に戻ったりすることができます。刺しゅうしたいぬい順の模様を選び、[OK] を押します。



- ① 前の模様に戻ります。
- ② 現在の模様のぬい順／模様の総数
- ③ 次の模様に進みます。

キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）を刺しゅうする（自動模様つなぎ）

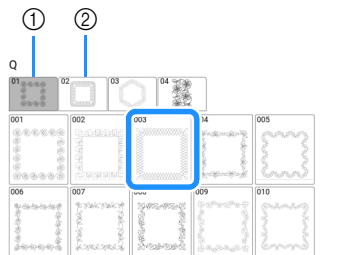
キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）を4分割して、布地を張り替えながら模様をつなぎます。内蔵カメラを使用して模様の位置を合わせます。あらかじめ刺しゅうしたいキルトサッシの大きさを測っておきます。



1  を押します。



2 四角形のキルトサッシ模様のカテゴリから1つを選択します。この例では、1色の四角形キルトサッシ模様を選択します。

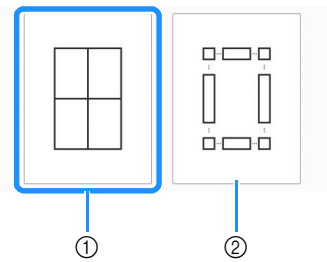


① 1色の四角形キルトサッシ模様

② 2色の四角形キルトサッシ模様

3 キルトサッシ模様を選択して、[セット]を押します。

4 模様をつなぎ方法を選択します。この例では、「自動模様つなぎ」を選択します。



① 自動模様つなぎ

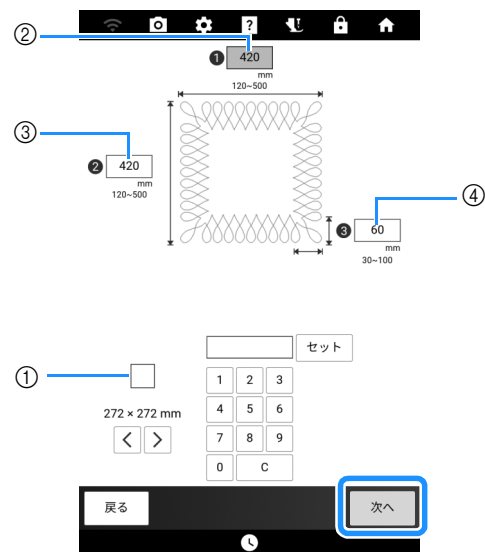
② 半自動模様つなぎ

詳しくは P. 201 「キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）を刺しゅうする（半自動模様つなぎ）」を参照してください。

お願い

- 選択した模様のつなぎ方によって、作成できる模様のサイズが異なります。「自動模様つなぎ」で作成したい模様のサイズに設定できない場合は、「半自動模様つなぎ」を選択してください。

5 使用する刺しゅう枠のサイズを指定します。幅と高さ、キルトサッシの幅の値を入力します（各値は[セット]で確定します）。3つの値を入力したら、[次へ]を押します。



① 刺しゅう枠のサイズ

② 幅

③ 高さ

④ キルトサッシの幅

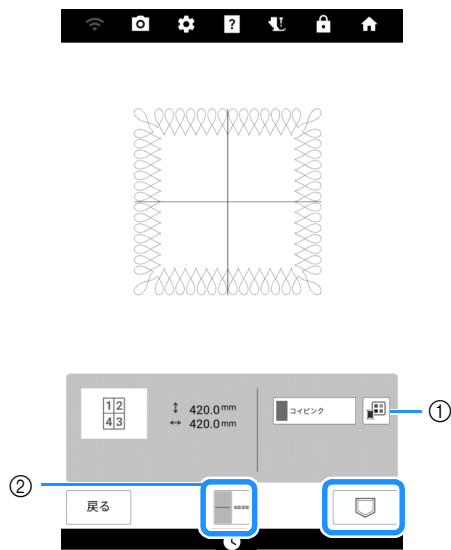
* 値を消去するときは、[C]を押します。

→ 設定を反映した模様が表示されます。

5

いろいろな刺しゅう

6 分割模様を確認して、を押します。



- ① 糸色を変更します。
 - ② 1重ぬいまたは3重ぬいを選択します。
- 分割模様のデータがミシンに記憶されます。

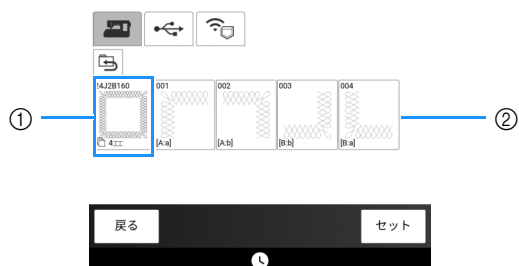
お知らせ

- ・ 分割模様のデータはミシン外部に保存できません。

7 [OK] を押します。



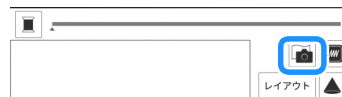
8 刺しゅう方法を選択し、[セット]を押します。



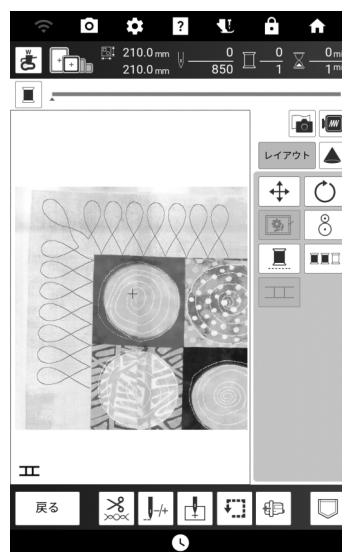
- ① 内蔵カメラで位置合わせをして刺しゅうするときは、模様全体が表示されたキーを押します。
 - ② 目視で位置合わせをして刺しゅうするときは、刺しゅうしたい個所が表示されたキーを押します。
- * ここでは①の方法を紹介しています。②の方法はP. 213「手動で模様をつなぐ」を参照してください。

9 [縫製] を押します。

10 最初の模様が縫製範囲に収まるように布地を刺しゅう枠に張り、刺しゅう枠をミシンに取り付け、スキャンします。背景スキャンについては、P. 155「布地を画面に表示する」を参照してください。



11 模様を移動、回転させて、背景に合わせます。

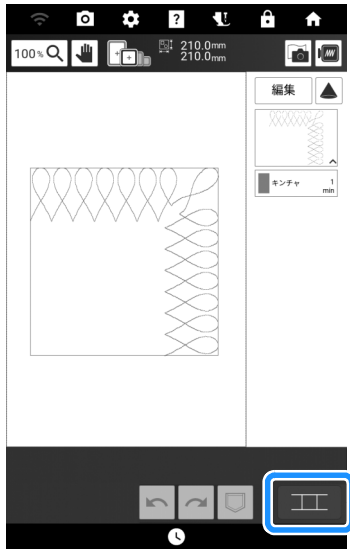
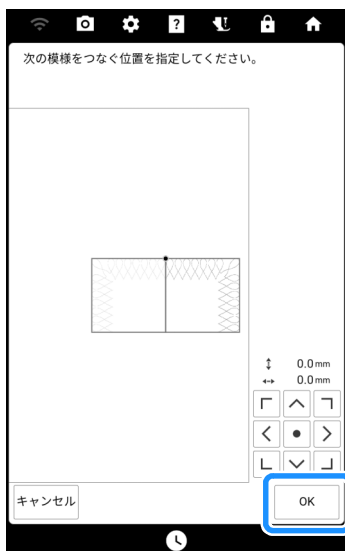


- ・ 模様の移動や回転については、P. 143「[レイアウト]ウィンドウ」を参照してください。

12 最初の模様を刺しゅうします。

13 最初の模様がぬい終わると、次のメッセージが表示されます。[OK]を押します。

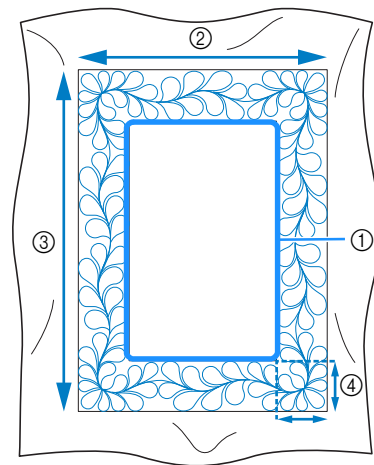


14 を押します。**15** [OK] を押します。**16** P. 215 「位置を指定して模様をつなぐ」の手順 **13** ~ **18** を参照して、残りの部分を刺しゅうします。**キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）を刺しゅうする（半自動模様つなぎ）**

布地を張り替えながら模様をつなぎあわせることで、大きなキルトサッシ模様（キルトの縁飾り）を作ることができます。手動で模様の位置合わせをします。

■ キルトサッシのデータを作成する

- 1 布地にチャコペンでキルトサッシの内周を描きます。
キルトサッシの大きさを測ります。



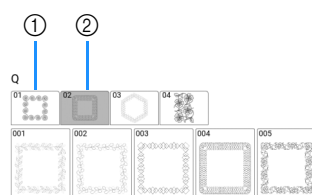
- ① チャコペンで描いた内周（位置合わせに使用）
- ② 幅（サッシの幅を含む）
- ③ 高さ（サッシの高さを含む）
- ④ キルトサッシ模様の幅

お知らせ

- 刺しゅう枠に布がはれるように、10 cm ほどの余裕をもたせてキルト布（表地、キルト綿、裏地）を裁断してください。

2 を押します。

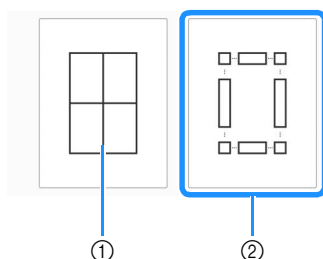
- 3** サブカテゴリーを選択します。
この例では、2色の四角形キルトサッシ模様を選択します。



- ① 1色の四角形キルトサッシ模様
② 2色の四角形キルトサッシ模様

- 4** 刺しゅうする模様を選択し、[セット]を押します。

- 5** 模様の分割方法を選択します。この例では、「半自動模様つなぎ」を選択します。

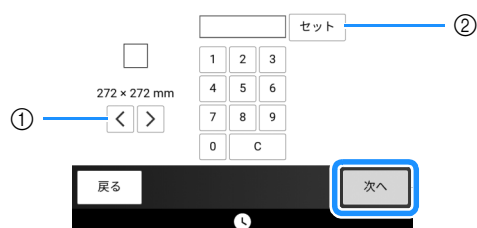
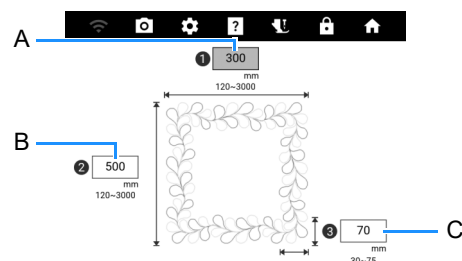


- ① 自動模様つなぎ
詳しくはP. 199「キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）を刺しゅうする（自動模様つなぎ）」を参照してください。
② 半自動模様つなぎ

- 6** 使用する刺しゅう枠のサイズとキルトサッシのサイズを指定し、[次へ]を押します。

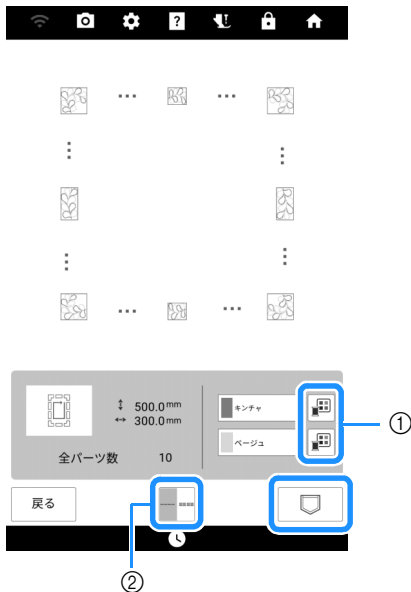
お知らせ

- 向きを間違えないように、チャコペンでキルトサッシの右上の角にしるしをつけておいてください。布地のしるしが右上にあることを確認して、画面で幅と高さを入力します。



- ① < または > を押して刺しゅう枠のサイズを選択します。
② 幅 (A)、高さ (B)、キルトサッシの幅 (C) を指定し、[セット]を押します。

7 模様を確認し、を押して保存します。

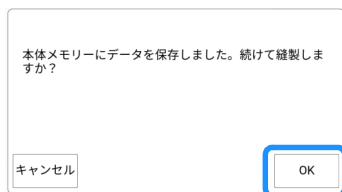


- ① 糸色を変更します
② 1重ぬいまたは3重ぬいを選択します。

お知らせ

- 模様の端が短く表示されることがあります。

8 次のメッセージが表示されたら、[OK]を押します。



→ ミシンのメモリーから模様を選択できる画面が表示されます。

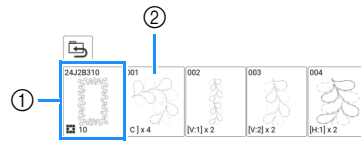
■ キルトサッシ模様を刺しゅうする

1 ミシンのメモリーから模様を選択する画面で、保存したデータを選択します。

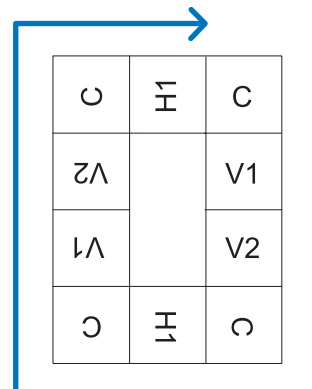


→ キルトサッシ模様全体のサムネイルと、分割模様のサムネイルが表示されます。

2 この例では、画面のガイダンスに従ってキルトサッシ模様を刺しゅうするので、キルトサッシ模様全体のサムネイルを選択します。その後、[セット]を押します。

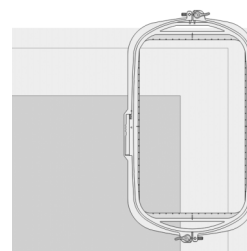


- ① このキーを押すと、画面のガイダンスに従ってキルトサッシ模様を刺しゅうできます。左下の数字は、分割されたキルトサッシ模様の総数を示します。
- ② 目視で位置合わせをして刺しゅうするとき、刺しゅうしたい分割模様が表示されたキーを押します。各キーの左下の符号でその模様を刺しゅうする場所と刺しゅうする回数を確認できます。



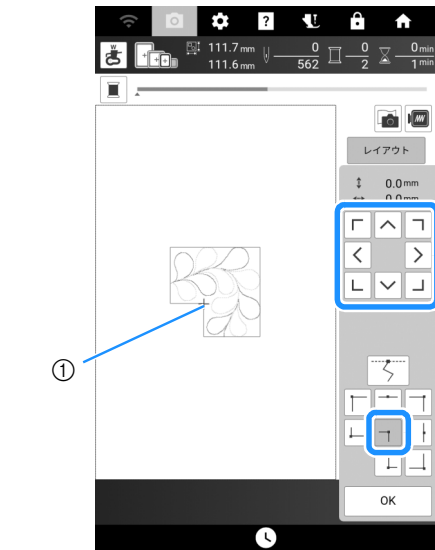
C: 角
V1: 縦側の最初の模様
V2: 縦側の2番目の模様
H1: 横側の最初の模様

3 キルトサッシ模様の右上の角が縫製範囲に収まるように、キルト布を刺しゅう枠に張り、刺しゅう枠を取り付けます。

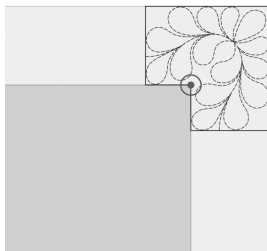


4 右上の角の位置を合わせます。

①を選択すると、針が内側の角に移動します。模様移動キーを使って、キルト布に書いた右上の角と、プロジェクターで映した内側の角を合わせます。



① 内側の角



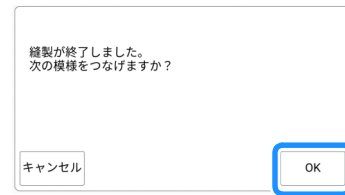
お知らせ

- プロジェクターから映し出される針落ち位置は、設定画面で補正することができます。手順については P. 255 「カメラ／プロジェクターの針位置調整」を参照してください。
- 必要に応じて、模様を回転させ、チャコペンで書いた線に合わせてください。

5 [OK] を押して、縫製画面を表示します。

6 スタート／ストップスイッチを押して、最初の模様を刺しゅうします。

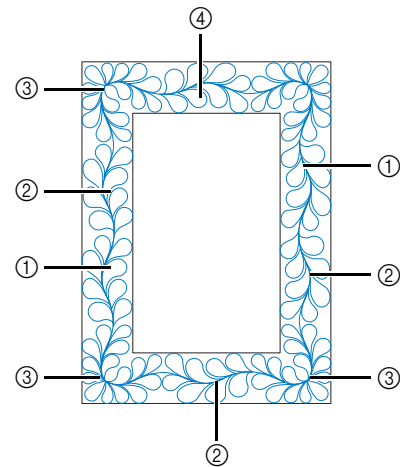
7 刺しゅうが終わって次のメッセージが表示されたら、[OK] を押します。



→ 次に刺しゅうする模様が表示されます。

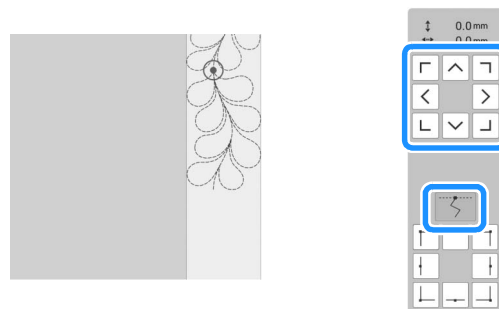
8 画面のガイダンスに従って、模様ごとに位置合わせをして刺しゅうします。

ぬい始めの位置合わせや模様の回転、刺しゅう枠の張り直しが必要なときは、メッセージが表示されます。



① 角の次の模様を刺しゅうする場合

模様移動キーを使って、プロジェクターから映し出されたぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせ、[OK] を押します。



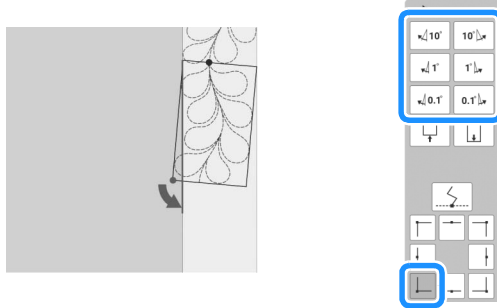
お願い

- ぬい始め位置を正確に合わせるために、プーリーを手前に回して針落ち位置を確認してください。針の位置を確認したら、必ず針上下スイッチで針を一番高い位置に戻してください。

お知らせ

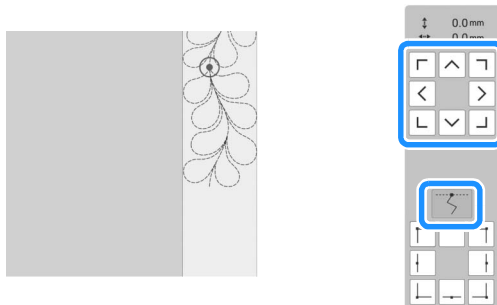
- 布地を張り直さずに次の模様を刺しゅうできる場合は、模様が自動的にぬい始め位置に合うので、位置合わせの案内は表示されません。

模様を回転させて角をチャコペンで書いた線に合わせ、[OK]を押します。

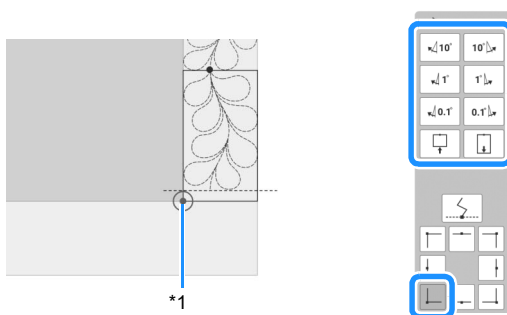


② 角の直前の模様を刺しゅうする場合

模様移動キーを使って、プロジェクターから映し出されたぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせ、[OK]を押します。



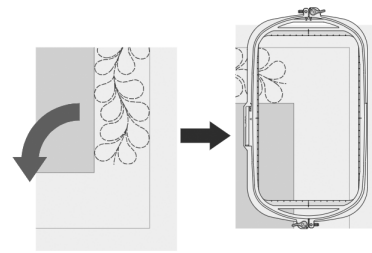
次に、左下の点（次に刺しゅうする模様の内側の角）をチャコペンで書いた角に合わせます。模様の角度がずれている場合は、回転させてください。模様の長さが合わない場合は、左下の点がチャコペンで書いた角に合うように模様の長さを調整します。調整後、[OK]を押します。



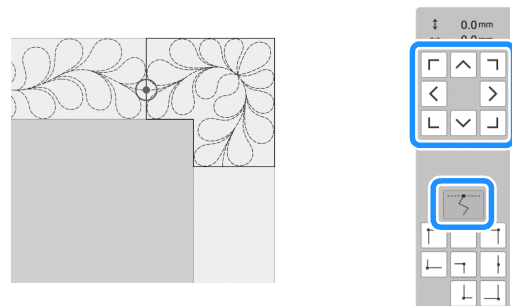
*1 次に刺しゅうする模様の内側の角

③ 角の模様を刺しゅうする場合

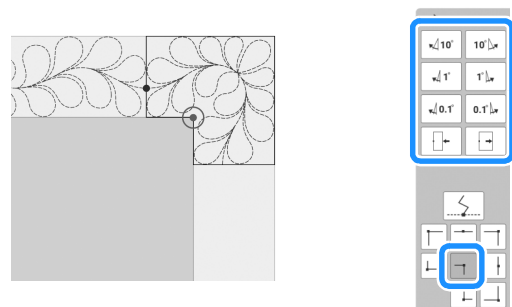
キルト布を反時計回りに 90 度回転させ、張り直し、刺しゅう枠をミシンに取り付けます。



模様移動キーを使って、プロジェクターから映し出されたぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせ、[OK]を押します。



次に、模様の内側の角をチャコペンで書いた角に合わせます。

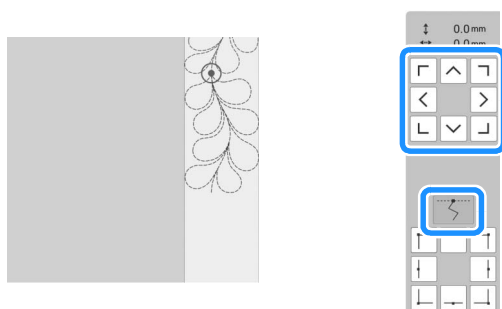


お知らせ

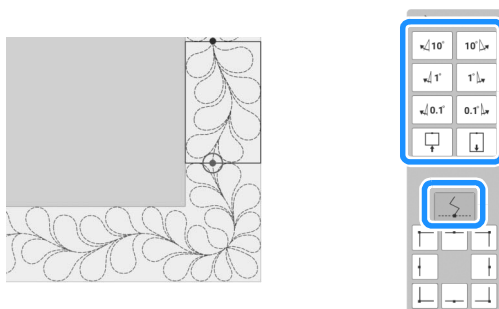
- 角の模様の幅は、内側の角に合うように調整できます。ただし、形が崩れないように調整してください。

④ 最後の模様を刺しゅうする場合

模様移動キーを使って、プロジェクターから映し出されたぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせ、[OK]を押します。

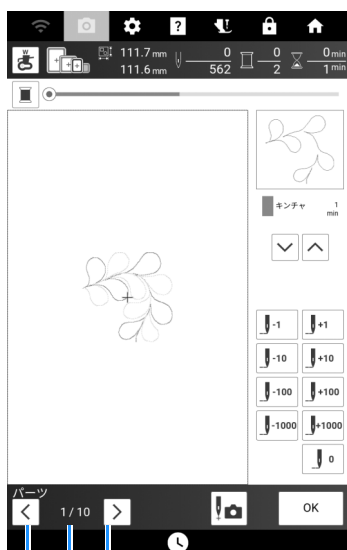


次に、模様のぬい終わり位置を最初の模様のぬい始め位置に合わせます。模様の角度がずれている場合は、回転させてください。模様の長さが合わない場合は、模様の長さを調整します。調整後、[OK]を押します。



お知らせ

- 模様をぬい直したり、ぬわないで次の模様をぬう必要がある場合は、縫製画面で[1/10]を押して次の模様に進んだり、前の模様に戻ったりすることができます。刺しゅうしたいぬい順の模様を選び、[OK]を押します。



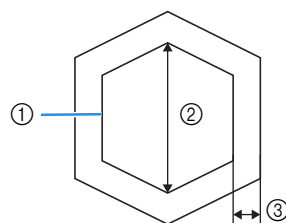
① ② ③

- ① 前の模様に戻ります。
- ② 現在の模様のぬい順／分割された模様の総数
- ③ 次の模様に進みます。

六角形キルトサッシ模様（キルトの縁飾り）

■ キルトサッシのデータを作成する

- 1 布地にチャコペンでキルトサッシの内周を描きます。
図のように内周の対角線とキルトサッシの幅を測ります。



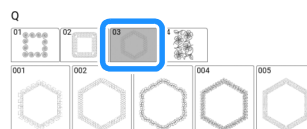
- ① チャコペンで描いた内周（位置合わせに使用）
- ② 対角線
- ③ キルトサッシ模様の幅

お知らせ

- 刺しゅう枠に布がはれるように、10 cm ほどの余裕をもたせてキルト布（表地、キルト綿、裏地）を裁断してください。

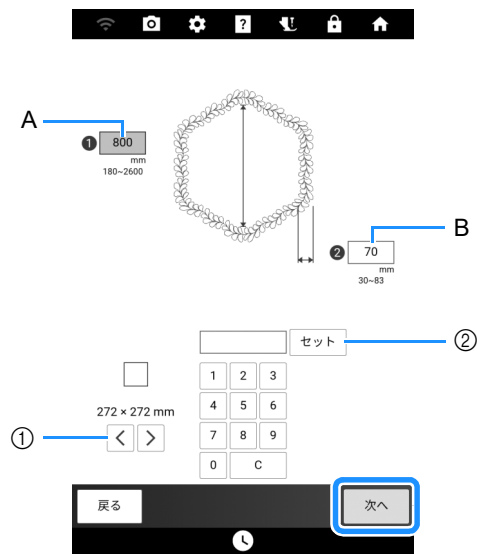
- 2 [0]を押します。

- 3 [03]を押します。



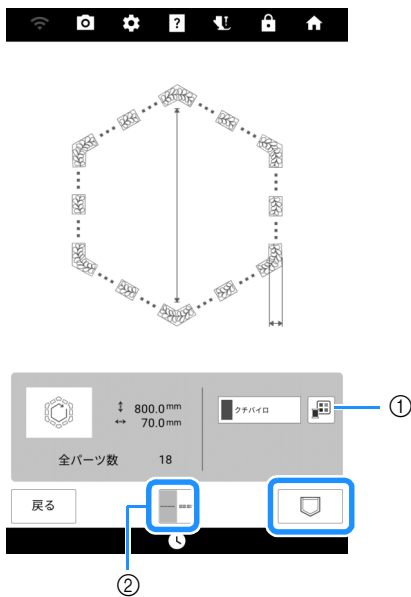
- 4 刺しゅうする模様を選択し、[セット]を押します。

- 5** 使用する刺しゅう枠のサイズとキルトサッシの寸法を指定し、[次へ]を押します。



- ① < または > を押して刺しゅう枠のサイズを選択します。
- ② 内周の対角線の長さ (A) とキルトサッシ模様の幅 (B) を指定し、[セット]を押します。

- 6** 模様を確認し、[保存]を押して保存します。



- ① 糸色を変更します。
- ② 1重ぬいまたは3重ぬいを選択します。

お知らせ

- 模様の端が短く表示されることがあります。

- 7** 次のメッセージが表示されたら、[OK]を押します。



→ ミシンのメモリーから模様を選択できる画面が表示されます。

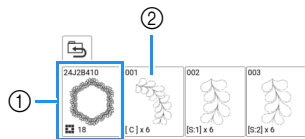
■ キルトサッシ模様を刺しゅうする

- 1** ミシンのメモリーから模様を選択する画面で、保存したデータを選択します。

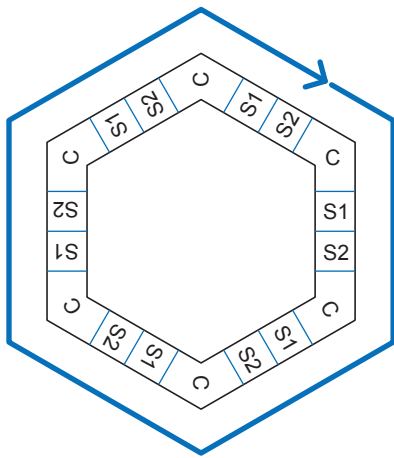


→ キルトサッシ模様全体のサムネイルと、分割模様のサムネイルが表示されます。

- 2** この例では、画面のガイダンスに従ってキルトサッシ模様を刺しゅうするので、キルトサッシ模様全体のサムネイルを選択します。その後、[セット]を押します。

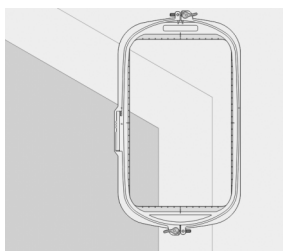


- ① このキーを押すと、画面のガイダンスに従ってキルトサッシ模様を刺しゅうできます。左下の数字は、分割されたキルトサッシ模様の総数を示します。
- ② 目視で位置合わせをして刺しゅうするときは、刺しゅうしたい分割模様が表示されたキーを押します。各キーの左下の符号でその模様を刺しゅうする場所と刺しゅうする回数を確認できます。



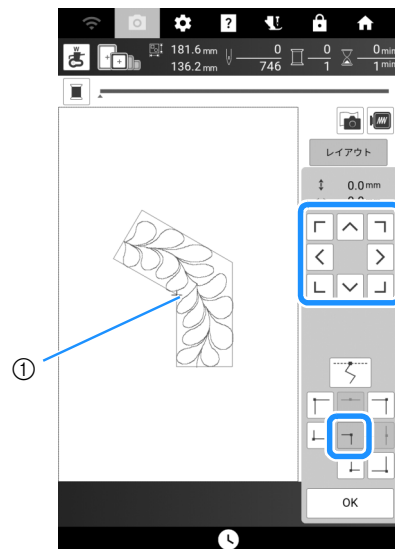
C: 角
S: 側面

- 3** キルトサッシ模様の角が縫製範囲に収まるように、キルト布を刺しゅう枠に張り、刺しゅう枠を取り付けます。

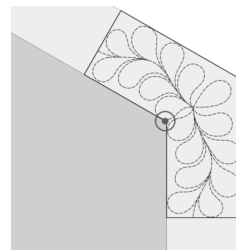


- 4** 角の位置を合わせます。

模様移動キーを使って、キルト布に書いた角と、プロジェクターで映した内側の角を合わせます。



- ① 内側の角



お知らせ

- プロジェクターから映し出される針落ち位置は、設定画面で補正することができます。手順についてはP. 255「カメラ／プロジェクターの針位置調整」を参照してください。
- 必要に応じて、模様を回転させ、チャコペンで書いた線に合わせてください。

- 5** [OK] を押して、縫製画面を表示します。

- 6** スタート／ストップスイッチを押して、最初の模様を刺しゅうします。

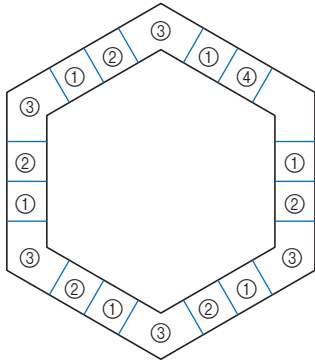
- 7** 刺しゅうが終わって次のメッセージが表示されたら、[OK]を押します。



→ 次に刺しゅうする模様が表示されます。

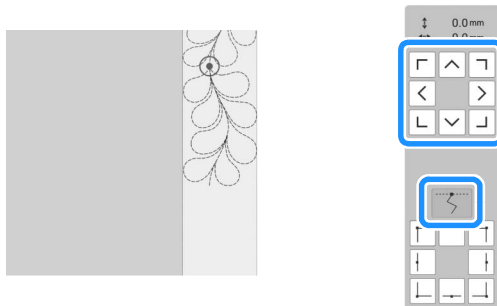
8 画面のガイダンスに従って、模様ごとに位置合わせをして刺しゅうします。

ぬい始めの位置合わせや模様の回転、刺しゅう枠の張り直しが必要なときは、メッセージが表示されます。



① 角の次の模様を刺しゅうする場合

模様移動キーを使って、プロジェクターから映し出されたぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせ、[OK]を押します。



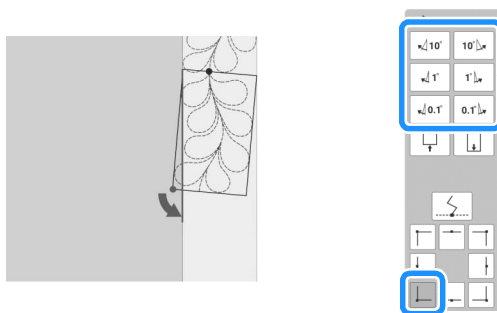
💡 お願い

- ぬい始め位置を正確に合わせるために、プリーを手前に回して針落ち位置を確認してください。針の位置を確認したら、必ず針上下スイッチで針を一番高い位置に戻してください。

📖 お知らせ

- 布地を張り直さずに次の模様を刺しゅうできる場合は、模様が自動的にぬい始め位置に合うので、位置合わせの案内は表示されません。

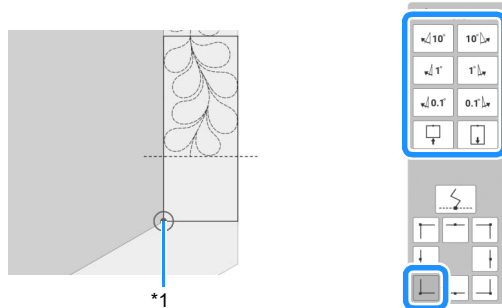
模様を回転させて映し出した模様の角をチャコペンで書いた線に合わせ、[OK]を押します。



② 角の直前の模様を刺しゅうする場合

模様移動キーを使って、プロジェクターから映し出されたぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせ、[OK]を押します。

次に、左下の点（次に刺しゅうする模様の内側の角）をチャコペンで書いた角に合わせます。模様の角度がずれている場合は、回転させてください。模様の長さが合わない場合は、左下の点がチャコペンで書いた角に合うように模様の長さを調整します。調整後、[OK]を押します。



*1 次に刺しゅうする模様の内側の角

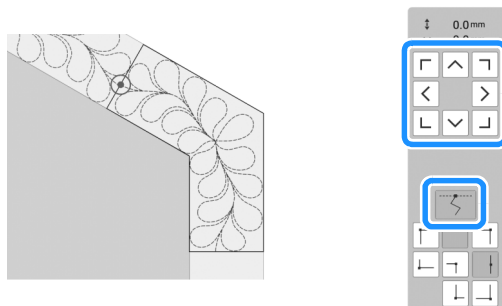
📖 お知らせ

- 六角形の全体の形を保つためには、角の直前にぬう模様の長さに注意して、調整することが重要です。

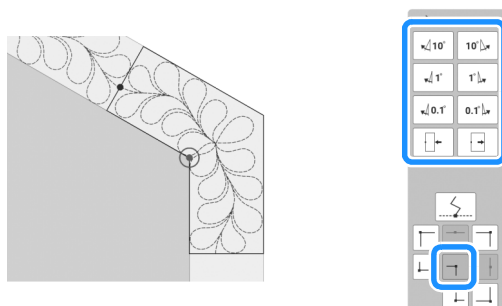
③ 角の模様を刺しゅうする場合

キルト布を反時計回りに回転させ、張り直し、刺しゅう枠をミシンに取り付けます。

模様移動キーを使って、プロジェクターから映し出されたぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせ、[OK]を押します。



次に、模様の内側の角をチャコペンで書いた角に合わせます。



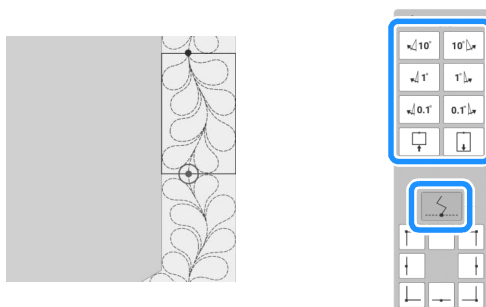
📖 お知らせ

- 角の模様幅は、内角に合うように調整できます。ただし、形が崩れないように調整してください。

④ 最後の模様を刺しゅうする場合

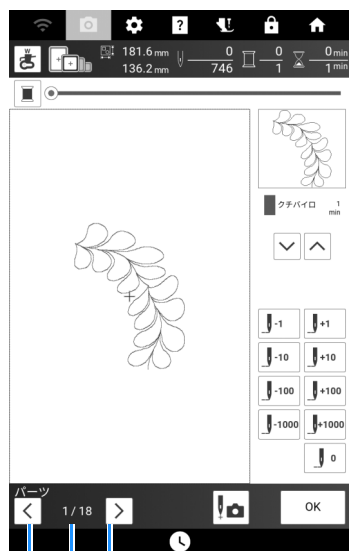
模様移動キーを使って、プロジェクターから映し出されたぬい始め位置を前の模様のぬい終わり位置に合わせ、[OK]を押します。

次に、模様のぬい終わり位置を最初の模様のぬい始め位置に合わせます。模様の角度がずれている場合は、回転させてください。模様の長さが合わない場合は、模様の長さを調整します。調整後、[OK]を押します。



お知らせ

- 模様をぬい直したり、ぬわないで次の模様をぬう必要がある場合は、縫製画面で[下]を押して次の模様に進んだり、前の模様に戻ったりすることができます。刺しゅうしたいぬい順の模様を選び、[OK]を押します。



① ② ③

- ① 前の模様に戻ります。
- ② 現在の模様のぬい順／分割された模様の総数
- ③ 次の模様に進みます。

カメラを使って模様をつなぐ

分割模様を刺しゅうする

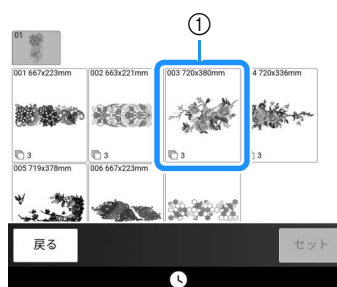
ミシンには分割模様が内蔵されています。分割模様は大きな模様がいくつか分割されています。分割された模様をつないでいくことで、大きな模様を作ります。刺しゅう PRO バージョン 7 以降では、分割模様を作成できます。詳しくは、刺しゅう PRO の取扱説明書を参照してください。

内蔵カメラで模様をつなぐ方法と、手動で模様をつなぐ方法があります。

■ カメラで模様をつなぐ

1 [カメラ]を押してから、模様を選択します。

- * 分割模様を確実に刺しゅうできるように、模様全体の大きさよりも縦横それぞれ 300mm 以上大きな布地と接着芯を準備してください。

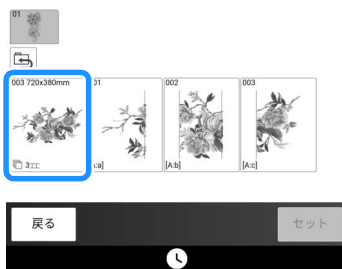


- ① 模様全体の大きさ

お知らせ

- 分割模様の印刷用テンプレートが <https://s.brother/cmdke/> からダウンロードできます。テンプレートを参考に模様を配置してください。印刷時は拡大、縮小しないで、原寸で印刷してください。
- 刺しゅう PRO で作成した分割模様を刺しゅうする場合、USB メディアなどを使って、模様を呼び出してください。模様の呼び出しについて詳しくは、P. 166 「刺しゅう模様を呼び出す」を参照してください。模様全体の大きさの確認は、刺しゅう PRO をご使用ください。

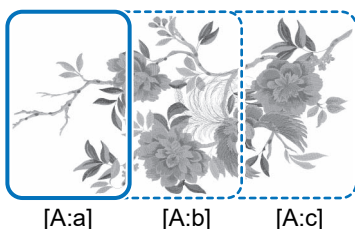
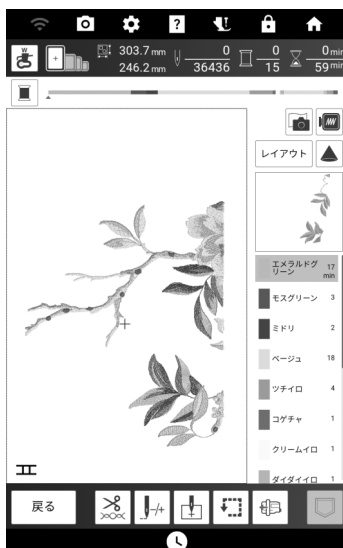
- 2** カメラを使って模様をつなぐ場合は、模様全体が表示されているキーを押して、[セット]を押します。



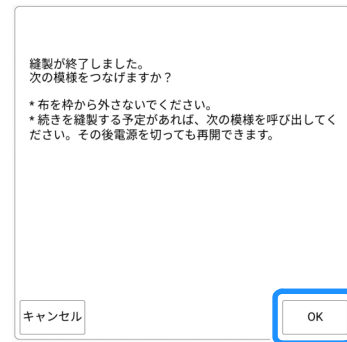
お知らせ

- カメラを使用しないで模様をつなぐ場合は、P. 213 「手で模様をつなぐ」を参照してください。

- 3** 最初の模様を刺しゅうします。



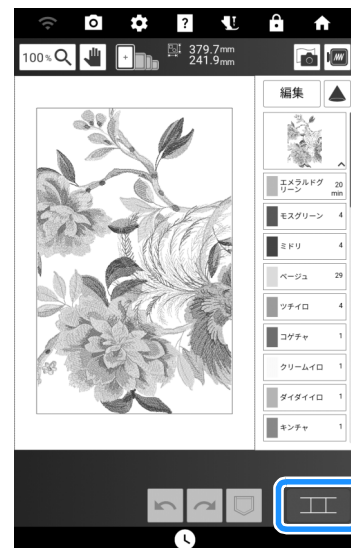
- 4** [OK] を押します。



お願い

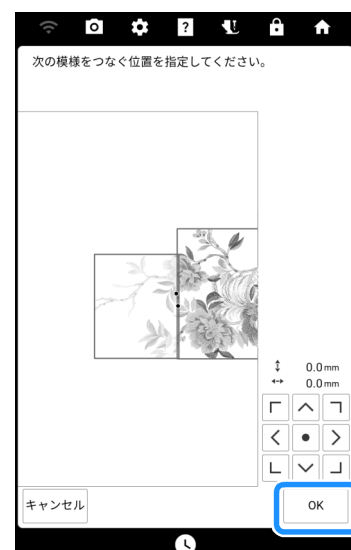
- 布地は刺しゅう枠から外さないでください。

- 5**  を押します。

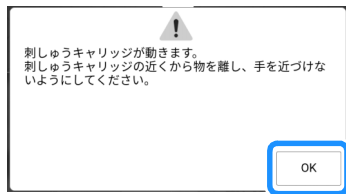


- 6** 模様の配置を確認し、[OK] を押します。

- * 内蔵されている各模様は適切に配置されるので、移動させる必要はありません。



7 [OK] を押します。



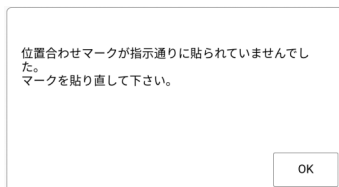
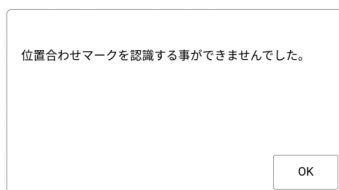
8 1つ目の刺しゅう位置合わせシールを赤い枠線の中に収まるよう、シールの四隅を両手で押え付けて布地に貼ります。画面に表示されているように、シールの大きな円が上側になるようにします。その後、[スキャン]を押します。



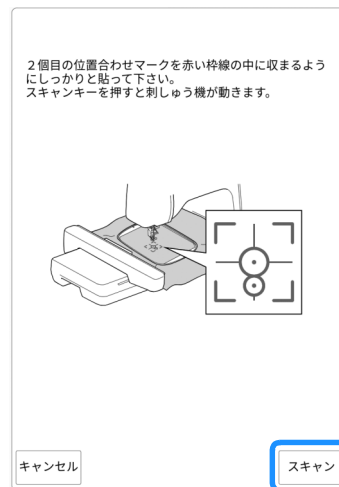
→ 内蔵カメラが、1つ目の位置合わせシールの検出を開始します。

💡 お願い

- 次のメッセージが表示された場合は、刺しゅう位置合わせシールを正しい位置にしっかりと貼り直してください。



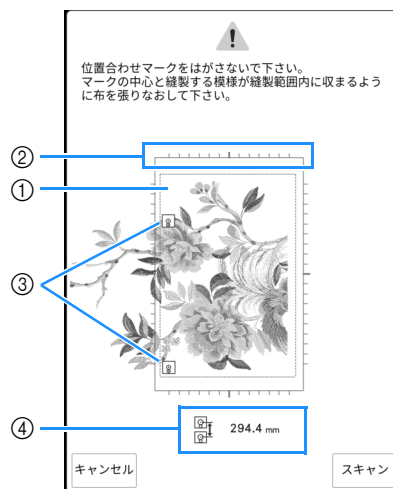
9 手順8と同様に2つ目の刺しゅう位置合わせシールを布地に貼り、[スキャン]を押します。



→ カメラが2つ目の刺しゅう位置合わせシールの検出を開始します。

10 2つの刺しゅう位置合わせシールがはがれないように注意して、ミシンから刺しゅう枠を取り外し、布地を張り直します。

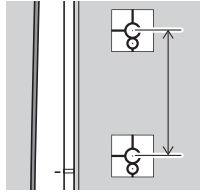
- * その際、次に刺しゅうする模様と2つの位置合わせシールが、縫製範囲に収まっていることを確認します。



- ① 縫製範囲
- ② 内蔵の分割模様を選択されている場合、使用する刺しゅう枠の大きさによっては、目盛が表示されることがあります。
- ③ 刺しゅう位置合わせシール
- ④ 刺しゅう位置合わせシールの2点間の距離

お知らせ

- 1つ目と2つ目の模様をきれいにつなげるために、布地を張り直す前と後で、刺しゅう位置合わせシールの間隔（大きな円の中心間の距離）が同じであることを確認してください。距離が同じでない場合は、布地にたるみがあります。このとき、シールを動かして距離を修正しないでください。



- 手順 11 の後で次のメッセージが表示された場合は、表示された距離と同じになるように布地を張り直します。その後、[スキャン]を押します。



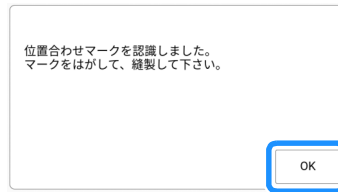
- 次のメッセージが表示された場合は、布地を張り直してください。画面に表示されているように、次に刺しゅうする模様と2つの刺しゅう位置合わせシールを縫製範囲に収めます。問題が解決しない場合は、ミシンが刺しゅう位置合わせシールを検知していない可能性があります。以下を確認してください。
 - 刺しゅう位置合わせシールを邪魔するものがないことを確認してください。
 - 刺しゅう枠に布地を正しく張ってください。
 - 部屋やミシンの照明の明るさを調節してください。

位置合わせマークが見つかりませんでした。
マークの中心と縫製する模様が縫製範囲内に収まるように布を張りなおして下さい。

- きれいに仕上げるため、布地にしわがよっている場合は、布地の裏側にアイロンをあてて伸ばしてから張り直してください。このとき、刺しゅう位置合わせシールにアイロンをかけたり、シールをはがしたりしないでください。

- 11 刺しゅう枠を再び取り付けて、[スキャン]を押します。

- 12 [OK] を押して、シールをはがします。



お知らせ

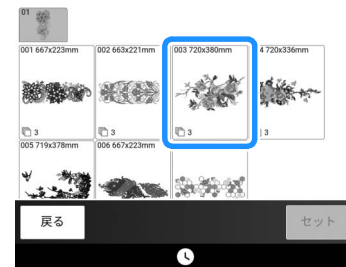
- 内蔵の分割模様は、布地を張り直す前と後で刺しゅう位置合わせシールの間隔（大きな円の中心間の距離）が数ミリ異なる場合は、模様サイズが自動的に調整されます。

- 13 2番目の模様を刺しゅうします。

- 14 残りの模様も同じように刺しゅうします。

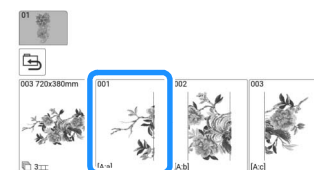
■ 手動で模様をつなぐ

- 1  を押してから、模様を選択します。

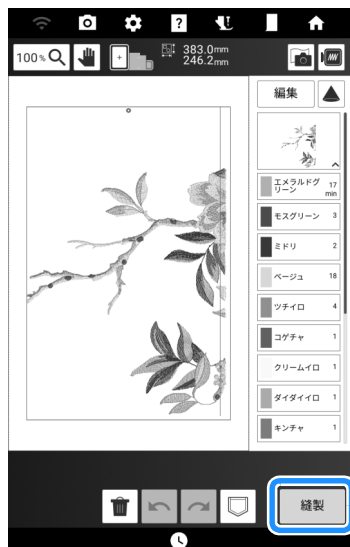


- 2 刺しゅうする模様  を選択します。

* 模様はアルファベット順に選択していきます。

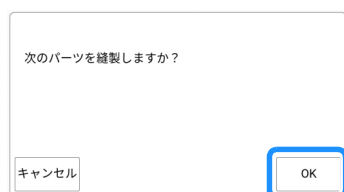


3 [縫製] を押して、縫製画面を表示します。

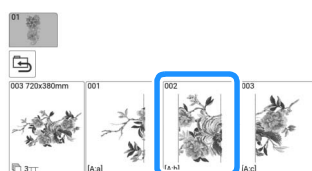


4 最初の模様を刺しゅうします。
→ 模様と位置合わせ用の糸印が刺しゅうされます。

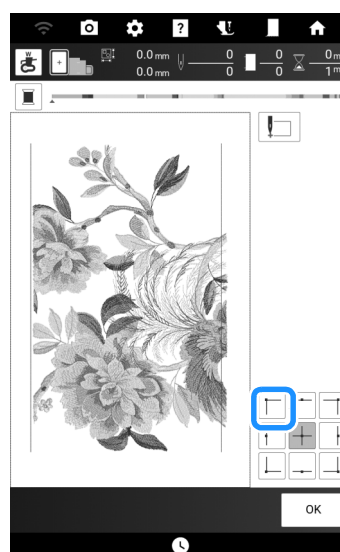
5 [OK] を押します。



6 次の模様を選択し、[縫製] を押します。



7 布地を張り替えます。最初の模様で刺しゅうした位置合わせ用の糸印と次の模様の針位置が合うように、次の模様の位置と角度を調整します。この例では、を押して左上の針位置を選び、[OK] を押します。

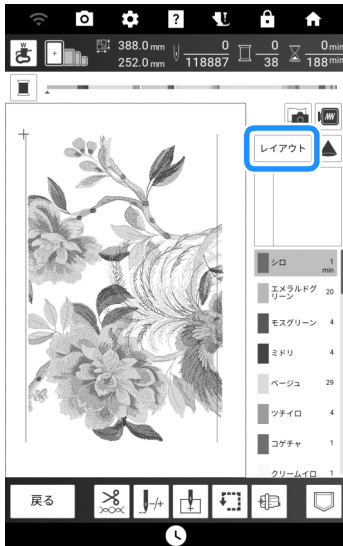


 お知らせ

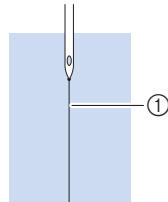
- きれいに仕上げるため、布地にしわがよっている場合は、布地の裏側にアイロンをあてて伸ばしてから張り直してください。

8 [レイアウト] を押し、最初の模様で刺しゅうした位置合わせ用の糸印と針位置が合うように、次の模様の位置と角度を調整します。

- * 模様の位置を調整する場合は、 を押します。
- * 模様の角度を調整する場合は、 を押します。



① 位置合わせ用の糸印



9 同様に、左下の針位置を選択し、最初の模様で刺しゅうした位置合わせ用の糸印に針が合うように、次の模様の位置と角度を調整します。

10 2 番目の模様を刺しゅうします。

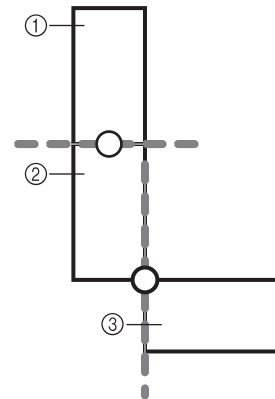
11 残りの模様も 2 つ目の模様と同じように刺しゅうします。

12 位置合わせ用の糸印を取り除きます。

位置を指定して模様をつなぐ

糸印の代わりに内蔵カメラを使用して、縫製画面で刺しゅう模様をつなぐことができます。刺しゅう模様の大きさに合わせて、適切な刺しゅう枠を選んでください。模様と刺しゅう枠の縫製範囲の間隔は、少なくとも 3 cm 必要です。この機能で模様つなぎをする場合、別売の刺しゅう枠 (20 mm × 60 mm) は使用できません。

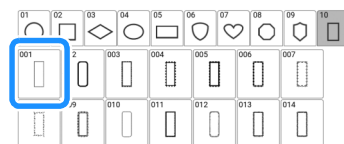
例：



- ① 模様 A
- ② 模様 B
- ③ 模様 C

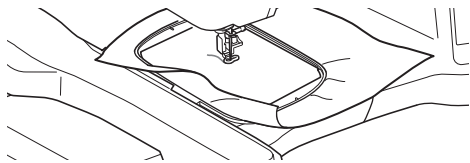
1 はじめに模様 A を選択し、[セット] を押します。

- * 枠模様の選択については、P. 134 「枠模様を選ぶ」を参照してください。



2 上糸と下糸をミシンにセットします。

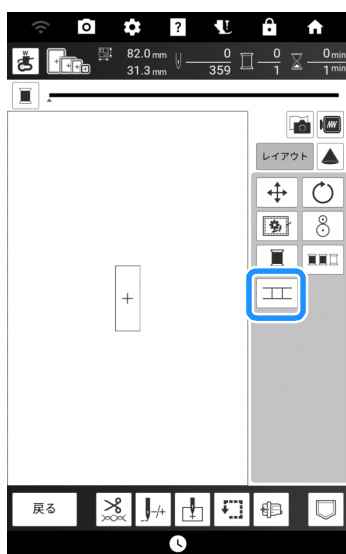
- 3** 刺しゅう枠に布地を張り、枠をミシンにセットします。この例では、刺しゅう枠 (180 mm × 130 mm) を使います。



- 4** [縫製] を押して、縫製画面を表示します。

- 5** [レイアウト] を押します。

- 6**  を押します。



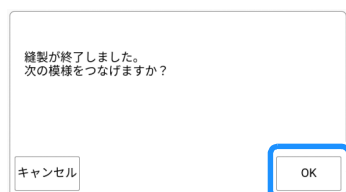
→  が [戻る] キーの上に表示され、 が  に変わります。

お知らせ

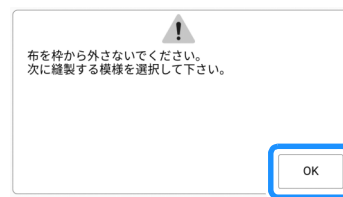
-  は、刺しゅうの途中で押すこともできます。
- 模様つなぎ中は、ミシンに模様を保存することはできません。

- 7** 刺しゅう押えを下げて、1 番目の模様を刺しゅうします。

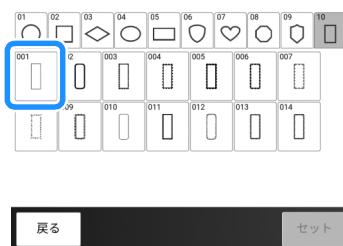
- 8** 1 番目の模様がぬい終わると、次のメッセージが表示されます。[OK] を押します。



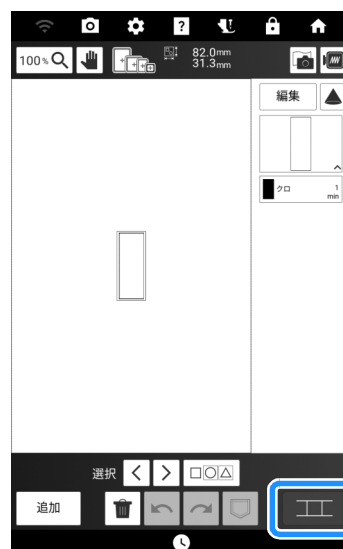
- 9** 次のメッセージが表示されたら、[OK] を押します。



- 10** 2 番目の模様 B を選択し、[セット] を押します。



- 11**  を押し、模様のつなぎ方を選択します。

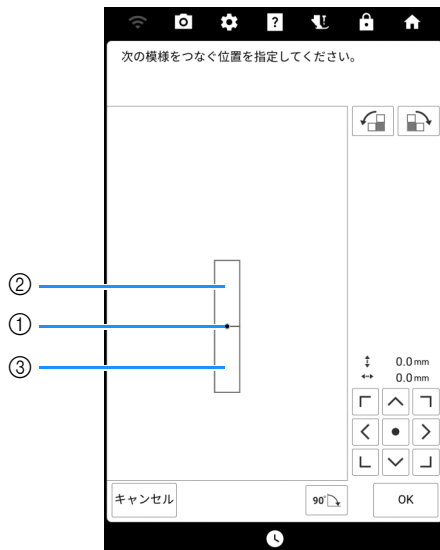


→ 模様つなぎ設定画面が表示されます。

お知らせ

- この画面で 2 番目の模様を編集することができます。

- 12** 画面を押して、2 番目の模様をつなぐ位置を指定します。位置を指定したら、[OK] を押します。



- ① つなぐ位置
② 1 番目の模様 A
③ 2 番目の模様 B

* 2 番目の模様の位置は、以下のキーを使って調整できます。

	1 番目の模様を中心として 2 番目の模様が時計回りに回転します。
	1 番目の模様を中心として 2 番目の模様が反時計回りに回転します。
	2 番目の模様を時計回りに 90 度回転します。

→ メッセージが表示され、[OK] を押すと、キャリッジが移動します。

お知らせ

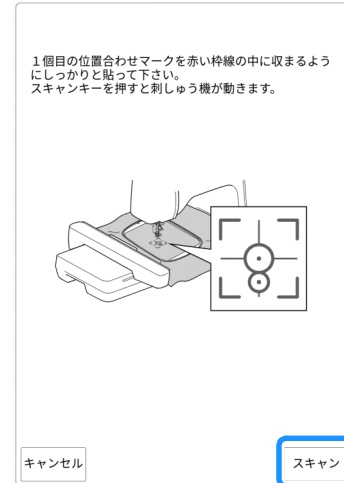
- 2 番目の模様は、自動的に 1 番目の模様につながります。2 番目の模様の位置を手動で変更したいときは、 を使って調整してください。
- 2 番目の模様の位置は、画面上でドラッグして移動することもできます。

- 13** 刺しゅう位置合わせシールを、2 つ用意します。内蔵カメラが位置合わせマークを検出できるように、画面の指示に従って、刺しゅう位置合わせシールを 2 つ布地に貼ります。

お願い

- 刺しゅう位置合わせシールは、付属のものを使用してください。または、お買い上げの販売店で交換用シールを購入してください。上記以外のシールを使用すると、カメラがシールを検出できないことがあります。

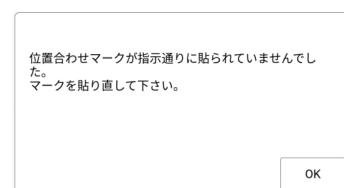
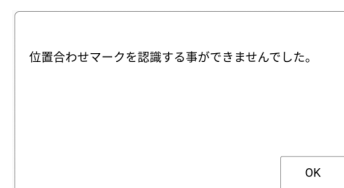
- 14** 1 つ目の刺しゅう位置合わせシールを赤い線の中に収まるよう、シールの四隅を両手で押え付けて布地に貼ります。画面に表示されているように、シールの大きな円が上側になるようにします。その後、[スキャン] を押します。



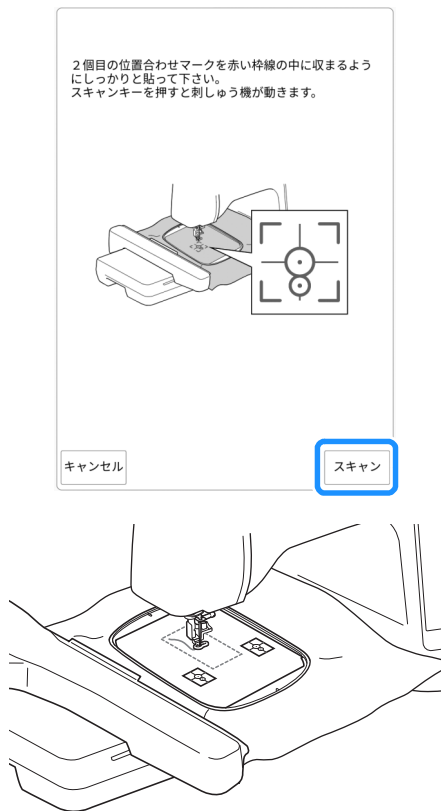
→ 内蔵カメラが、1 つ目の位置合わせシールの検出を開始します。

お願い

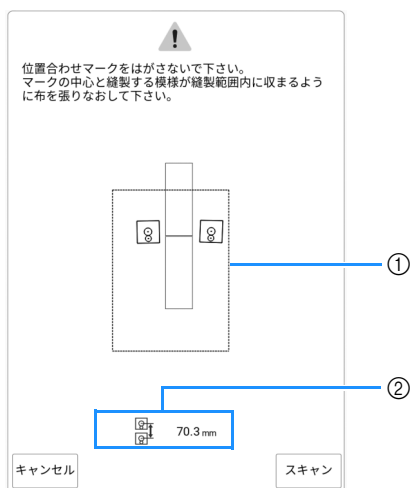
- 1 つ目の位置合わせシールをはがして、2 つ目の位置合わせに使用しないでください。
- 位置合わせシールは、常に新しいものを使用してください。一度使用したシールは、はがれやすくなります。検出中にシールがはがれると、模様をつなぐことができません。
- 位置合わせシールを布地へ貼るときは、指先で四隅をしっかりと押え付けてください。シールがしっかり貼られていない場合、カメラが誤検出する可能性があります。
- 次のメッセージが表示された場合は、位置合わせシールを正しい位置へ貼り直してください。その際、大きな円が上側にあることを確認してください。



- 15** 画面に表示されているように、2つ目の位置合わせシールを赤い線の中に収まるよう、シールの四隅を両手で押え付けて布地に貼り、[スキャン]を押します。

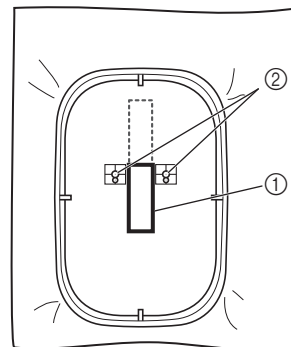


→ カメラが2つ目の刺しゅう位置合わせシールの検出を開始します。2つの位置合わせシールが検出されると、次のメッセージが表示されます。



- ① 縫製範囲
- ② 刺しゅう位置合わせシールの距離 (P. 210「カメラで模様をつなぐ」の手順 **10**の「お知らせ」を参照してください)

- 16** 2つの刺しゅう位置合わせシールがはがれないように注意して、ミシンから刺しゅう枠を取り外し、布地を張り直します。その際、次に刺しゅうする模様と2つの位置合わせシールが、刺しゅう枠の縫製範囲に収まっていることを確認します。刺しゅう枠を再び取り付けて、[スキャン]を押します。

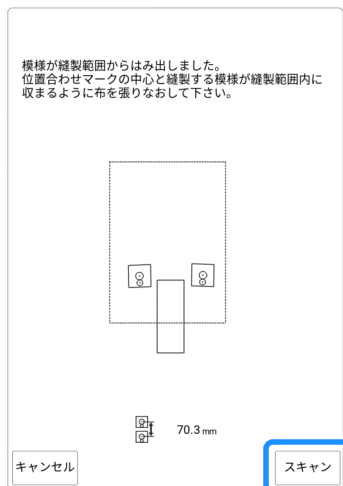
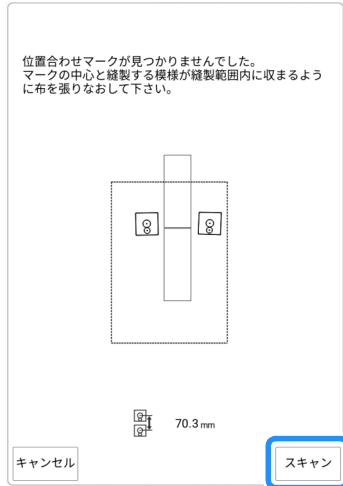


- ① 次に刺しゅうする模様
- ② シールの大きい円の中心

→ 内蔵カメラが2つの位置合わせシールの検出を開始します。

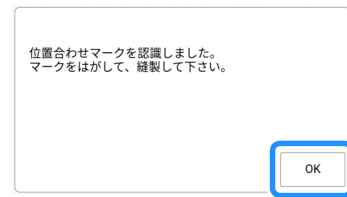
🔍 お願い

- 以下のいずれかのメッセージが表示された場合は、布地を張り直してください。画面の指示に従って、次に刺しゅうする模様と2つの位置合わせシールを縫製範囲に収めます。[スキャン]を押して、刺しゅう位置合わせシールの検知します。



- 次の模様と2つの刺繍位置合わせシールの大きな円の中心が縫製範囲に収まらないことをミシンが検出すると、メッセージが表示されます。画面の指示に従って、刺繍位置合わせシールの位置を変更してください。詳しくは、P. 220「位置合わせシールの位置を変更する」を参照してください。
- 検出中にシールがはがれると、模様をつなぐことができません。その場合は、作業をはじめからやり直してください。
- 位置合わせを終了するときには、[キャンセル]を押します。

- 17** 2つの刺しゅう位置合わせシールが検出されたら、[OK] を押し、シールをはがします。

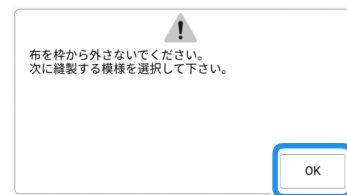


- 18** 刺しゅう押えを下げて、2番目の模様を刺しゅうします。

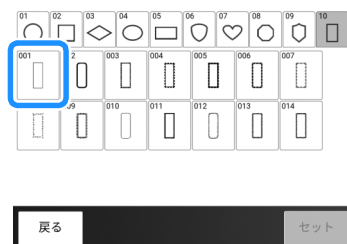
→ 刺しゅうが終わると、次の画面が表示されます。3番目の模様をつなぐには、[OK] を押します。



- 19** 次のメッセージが表示されたら、[OK] を押します。



- 20** 3番目の模様Cを選択し、[セット]を押します。



- 21**  を押し、模様のつなぎ方を選択します。

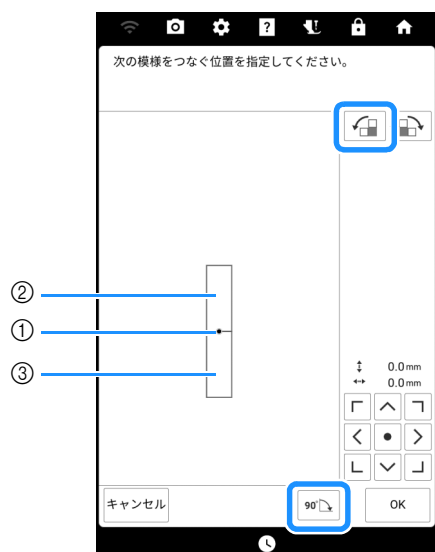
→ 模様つなぎ設定画面が表示されます。

📖 お知らせ

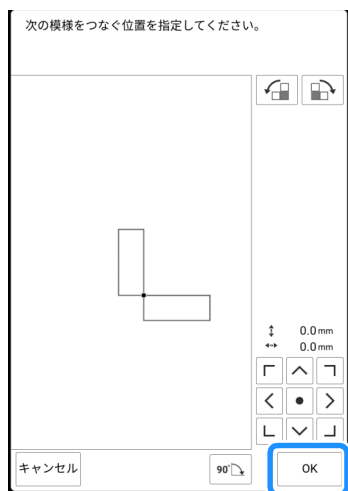
-  を押す前に模様を編集できます。

22 画面を確認しながら、3 番目の模様をつなぐ位置を指定します。

この例では、 を 2 回押してつなぐ位置を指定し、 を押します。位置を指定したら、[OK] を押します。



- ① つなぐ位置
- ② 2 番目の模様 B
- ③ 3 番目の模様 C

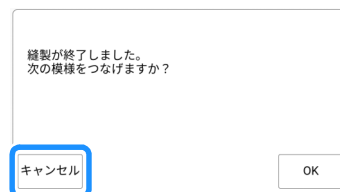


→ メッセージが表示され、[OK] を押すと、キャラリッジが移動します。

P. 215 「位置を指定して模様をつなぐ」の手順 14 ~ 17 を参照して、模様を配置します。

23 刺しゅう押えを下げて、3 番目の模様を刺しゅうします。

→ 刺しゅうが終わると、次の画面が表示されます。
[キャンセル]を押して、模様つなぎ機能を終了します。

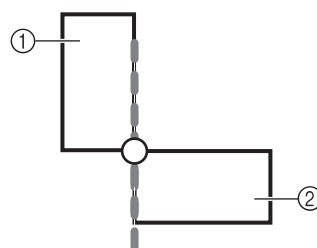


→ 刺しゅうが終わると、[戻る]キーの上に表示されていた  が消えます。
3 つの模様をつなぐことができました。

■ 位置合わせシールの位置を変更する

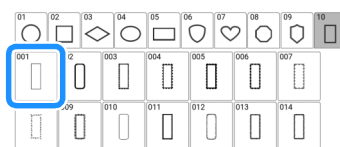
つなげたい模様や刺しゅう位置合わせシールが縫製範囲にうまく収まらない場合は、P. 215 「位置を指定して模様をつなぐ」の手順 15 の後に表示される画面指示に従って、シールを移動してください。

例として、刺しゅう枠（縦 100 mm × 横 100 mm）を使用して下記のように模様をつなぐ場合は、シールを移動するための指示画面が表示されます。

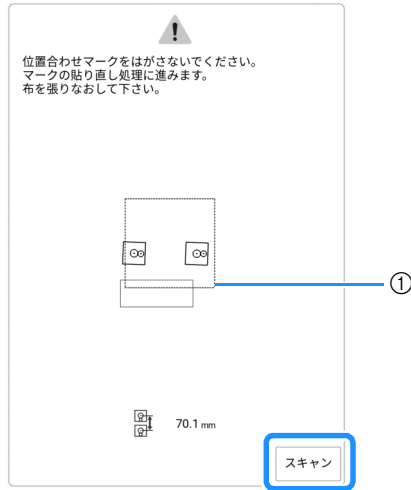


- ① 模様 A
- ② 模様 B

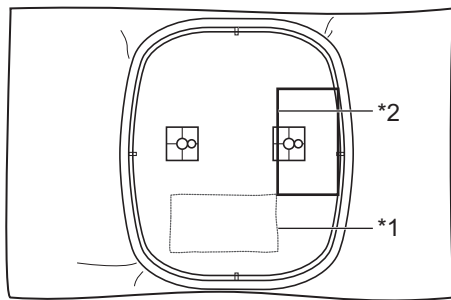
1 P. 215 「位置を指定して模様をつなぐ」の手順 1 から 15 を参照して、刺しゅう枠（縦 100 mm × 横 100 mm）を使用して、1 番目の模様を刺しゅうして 2 番目の模様をつなげます。



- 2** 2番目の模様や布地に貼られた刺しゅう位置合わせシールが縫製範囲内に収まらない場合、P. 215 「位置を指定して模様をつなぐ」の手順 **16** で次のメッセージが表示されます。画面に表示されるように、刺しゅう枠を張り替えて、[スキャン]を押します。



① 縫製範囲

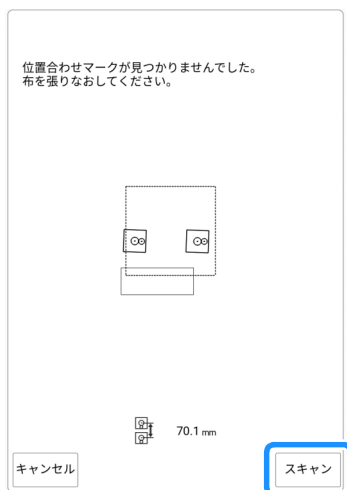


*1 刺しゅう済みの1番目の模様

*2 次に刺しゅうする模様

💡 お願い

- 次のメッセージが表示されたら、画面の指示に従って布地を張り直し、[スキャン]を押してください。



- 3** シールが検出されたら、[OK] を押し、シールをはがします。



- 4** 2番目の模様や位置合わせシールのマークが縫製範囲に収まるようにするために、画面の指示に従って、もう一度位置合わせシールを貼ります。1つ目のシールを貼り、[スキャン]を押します。



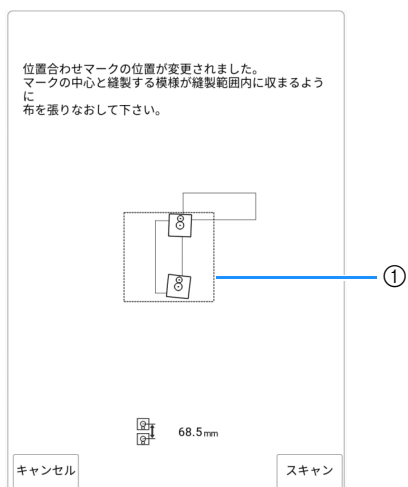
→ 内蔵カメラが、1つ目の位置合わせシールの検出を開始します。

- 5** 2つ目のシールを貼り、[スキャン]を押します。

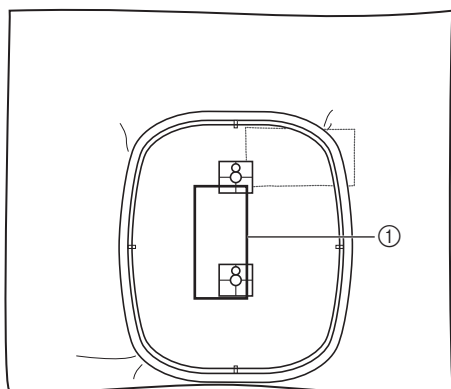


→ カメラが2つ目の刺しゅう位置合わせシールの検出を開始します。

- 6** 2つの位置合わせシールが検出されると、次のメッセージが表示されます。位置合わせシールがはがれないように注意して、画面に表示された例のように布地を張り直します。



① 縫製範囲



① 次に刺しゅうする模様

- 7** [OK] を押した後、P. 215 「位置を指定して模様をつなぐ」の手順 **17** 以降の操作を続けます。

■ レジューム機能

模様つなぎ機能を使用中にミシンの電源を切った場合、再度電源を入れたときにミシンが自動的に中断された操作を再開します。再開する工程は、電源が切られたときの操作段階によって、次のように分けられます。

例：2つ模様をつなぐとき

- 1 番目の模様を選択します。模様つなぎキー  を押します。
1 番目の模様の刺しゅうを開始します。

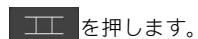


1 番目の模様の刺しゅう完了 (A)

この枠内の工程途中でミシン本体の電源を切った場合、再度電源を入れるとミシンは (A) の工程から再開します。



2 番目の模様を選択します。



模様をつなぐ位置を設定します。

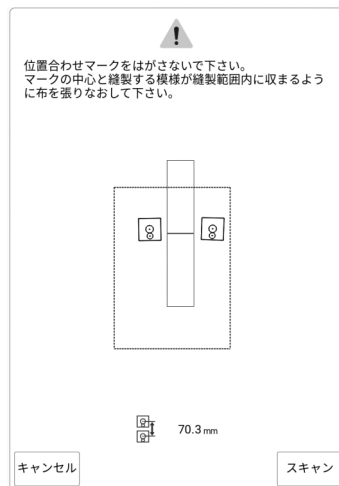


カメラによる位置合わせシール (2箇所) の検出を開始します。



位置合わせシールの検出完了 (B)

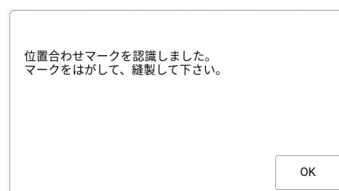
この枠内の工程途中でミシン本体の電源を切った場合、再度電源を入れるとミシンは (B) の工程から再開します。



布地を張り替えます。



位置合わせシール (2箇所) の検出完了



2 番目の模様の刺しゅうを開始します。



2 番目の模様の刺しゅうを完了します。

モバイルアプリを使用する

My Stitch Monitor アプリ

My Stitch Monitor アプリをモバイル端末にインストールして、ミシンとモバイル端末を同じ無線ネットワークに接続すると、ミシンの動作状況を確認できます。また、ミシンが停止した際に通知を受け取ることができます。

■ アプリをインストールする

- 1 モバイル端末で下記の QR コードを読み取り、Google Play または App Store にアクセスします。



<https://s.brother/cadke/>

- 2 [My Stitch Monitor] をインストールします。



My Stitch Monitor

📖 お知らせ

- Google Play または App Store で [My Stitch Monitor] を検索してアプリのダウンロードとインストールを行うこともできます。
- アプリのサポート情報については、以下のウェブサイトをご覧ください。
<https://s.brother/cpdaf/>

■ モニタリング

📖 お知らせ

- アプリは随時更新されます。以下の説明は実際の画面や操作と異なる場合があります。

- 1 ミシンを無線 LAN に接続します。
* 詳しくは、P. 29「無線 LAN 接続機能」を参照してください。
- 2 モバイル端末とミシンが同じネットワークに接続されていることを確認します。

- 3 モバイル端末の [My Stitch Monitor] のアイコンをタップしてアプリを起動します。
- 4 アプリに表示されるガイダンスに従って、アプリとミシンを接続します。

- * ミシンの設定画面で [マシン名] の横に表示される名前を選択してください。
→ ミシンをモニタリングできるようになります。

Artspira (アーツピラ) アプリ

アプリに掲載されているコンテンツをミシンに転送したり、アプリの機能を使ってオリジナルの作品作りを楽しんだりすることができます。アプリについて詳しくは、専用ウェブサイトを参照ください。また、アプリを使ったミシンの操作方法については、専用ウェブサイトに掲載されている Artspira (アーツピラ) アプリ簡単ガイドをご覧ください。



<https://s.brother/cadkg/>

My Design Snap アプリ

モバイル端末に保存した画像をミシンに転送し、刺しゅう模様を作成することができます。

📖 お知らせ

- アプリの表示言語は英語となります。

■ My Design Snap アプリをインストールする

- 1 モバイル端末で下記の QR コードを読み取り、Google Play または App Store にアクセスします。



<https://s.brother/cadkf/>

2 [My Design Snap] をインストールします。



My Design Snap

お知らせ

- Google Play または App Store で [My Design Snap] を検索してアプリのダウンロードとインストールを行うこともできます。
- アプリのサポート情報については、以下のウェブサイトをご覧ください。
<https://s.brother/cpdaf/>

■ モバイル端末からミシンに画像を転送する

お知らせ

- アプリは随時更新されます。以下の説明は実際の画面や操作と異なる場合があります。

1 ミシンを無線 LAN に接続します。

- * 詳しくは、P. 29 「無線 LAN 接続機能」を参照してください。

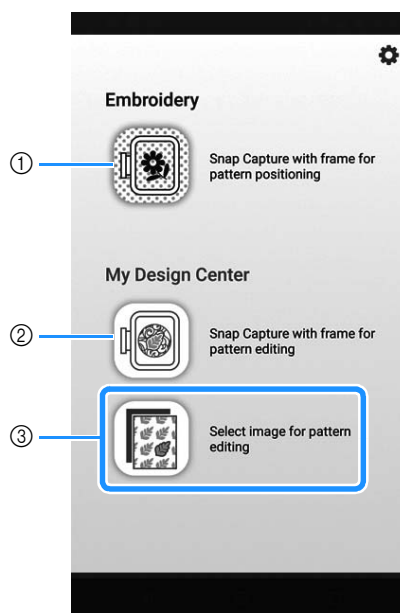
2 モバイル端末とミシンが同じネットワークに接続されていることを確認します。

3 モバイル端末の [My Design Snap] アイコンをタップし、アプリを起動します。

4 アプリに表示されるガイダンスに従って、アプリとミシンを接続します。

- * ミシンの設定画面で [マシン名] の横に表示される名前を選択します。

5 を押します。



- ① このアイコンはお使いのミシンでは使用できません。カメラを搭載していないミシンのためのアイコンです。お使いのミシンでは内蔵カメラを使って刺しゅう模様の位置を合わせます。詳しくは P. 155 「布地を画面に表示する」を参照してください。
- ② このアイコンはお使いのミシンでは使用できません。カメラを搭載していないミシンのためのアイコンです。お使いのミシンでは内蔵カメラを使ってマイデザインセンターで刺しゅう模様を作成します。詳しくは P. 239 「スキャンした画像や画像データを使って模様を作成する」を参照してください。
- ③ このアイコンを使って、モバイル端末からミシンに画像を転送し、刺しゅう模様を作成することができます。

6 画像を選択してから [Send to the Machine (ミシンに送る)] を選択して、モバイル端末からミシンに転送します。

→ 画像がミシンに正常に送信されたことを示す確認メッセージがアプリに表示されます。

お知らせ

- 転送した模様を呼び出すときは、各機能の説明を参照して操作してください。
 - ピクチャープレイ刺しゅう機能 (P. 175)
 - マイデザインセンター (P. 239)

第6章 マイデザインセンター

マイデザインセンター

マイデザインセンターで以下の機能を使用することができます。

- 液晶画面で描いた絵や、内蔵のスタンプ、図形を使って刺しゅう模様を作成できます。
- 内蔵カメラで線画やイラストをスキャンして刺しゅう模様を作成できるほか、USB メディアからデータを取り込んで刺しゅう模様を作成できます。
- モバイル端末からミシンに画像を送信して刺しゅう模様を作成できます。
- 作成した模様のステッチの種類、色を設定できます。
- 作成した刺しゅう模様とミシンに内蔵の模様を組み合わせることができます。

マイデザインセンターは、ホーム画面の [My Design Center] を押すか、刺しゅう模様選択画面で [My Design Center] を押して起動します。

模様を作る前に

画面上の模様は、実際の大きさより小さく表示されます。[刺しゅう枠表示] の設定で、実際の模様サイズを確認することができます。

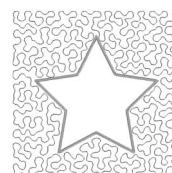
- 1  を押して、設定画面の [刺しゅう枠表示] を表示します。
- 2 グリッド線と刺しゅう枠を選択します。



- ① 刺しゅう枠の種類
② グリッドの種類

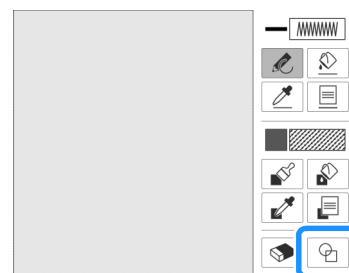
基本操作でスティップリング模様を作る

例：



- 1 [My Design Center] を押して、 を押します。

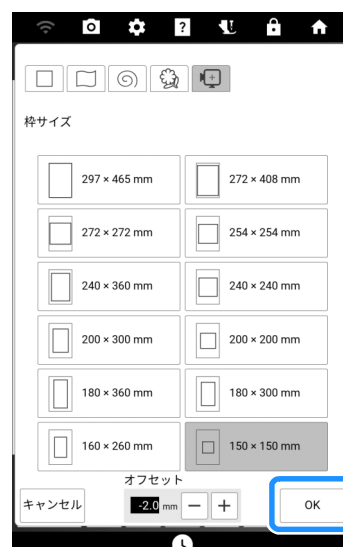
* 画面の詳細については、P. 228 「描画画面」を参照してください。



- 2  を押して、枠サイズを選択します。その後、[OK] を押します。

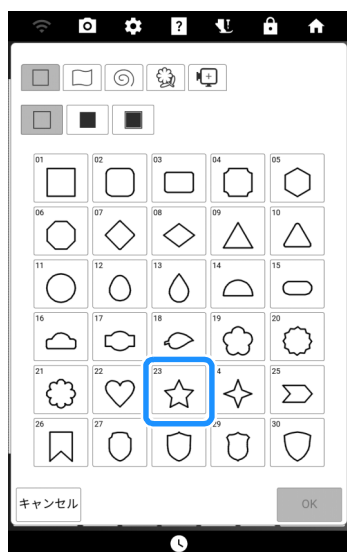
*  を押して、いろいろな形を選択することもできます。

* 画面の詳細については、P. 229 「スタンプキーの使い方」を参照してください。

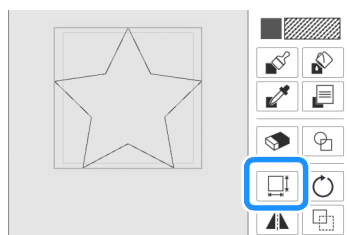


- 3  を押します。

- 4** お好みのスタンプ図形を選択して、[OK] を押します。

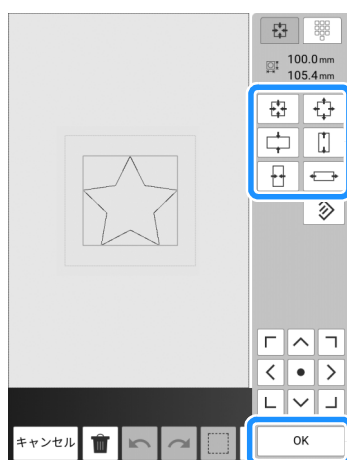


- 5**  を押します。



- 6** 大きさを変えたい方向のキーを押してサイズを変更し、[OK] を押します。

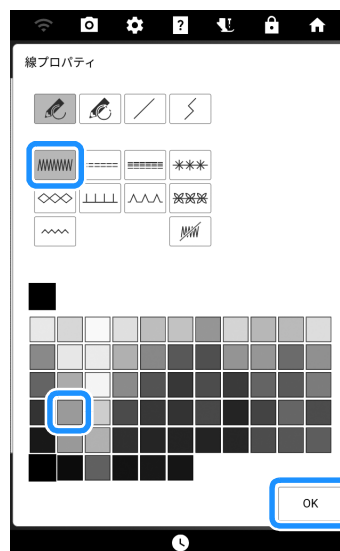
* 詳しくは、P. 234 「サイズキーの使い方」を参照してください。



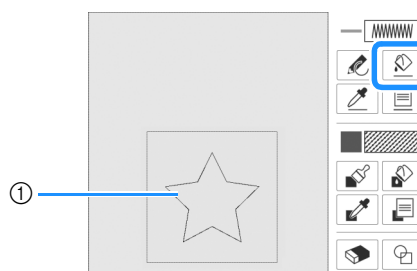
- 7**  を押します。

- 8** ステッチの種類とステッチの色を選択し、[OK] を押します。

* 画面の詳細については、P. 231 「線やステッチの種類、色を設定する」を参照してください。



- 9**  を押してから、スタンプ図形を押します。



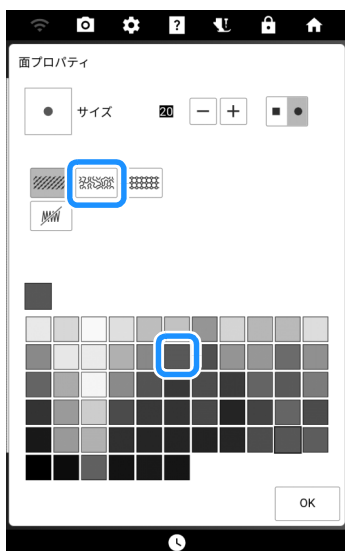
① スタンプ図形

- 10** ステッピングの色とステッチの種類を設定するために、 を押します。

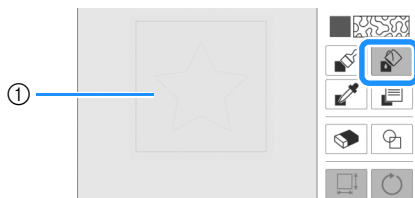


- 11**  (ステッピング) を押して、ステッチの色を選択します。その後、[OK] を押します。

* 画面の詳細については、P. 232 「ブラシの種類、ステッチの種類、塗りつぶしの色を設定する」を参照してください。

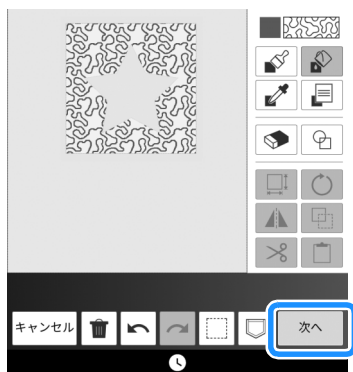


- 12**  を押してから、ステッピングを施す面を押します。



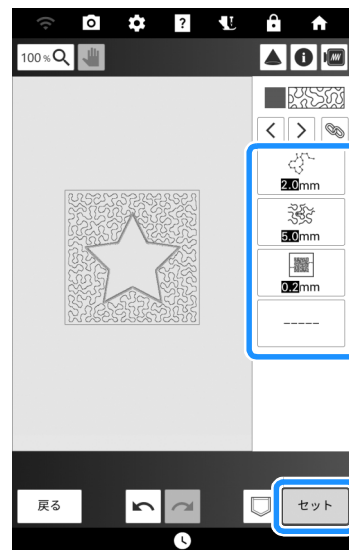
① ステッピングを施す面

- 13** [次へ] を押します。



- 14** ステッピングの設定を行い、[セット] を押します。

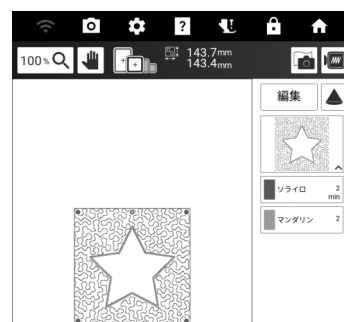
* 詳しくは P. 238 「面ぬいの設定」を参照してください。



→ [OK] を押すと、刺しゅう編集画面が表示されます。



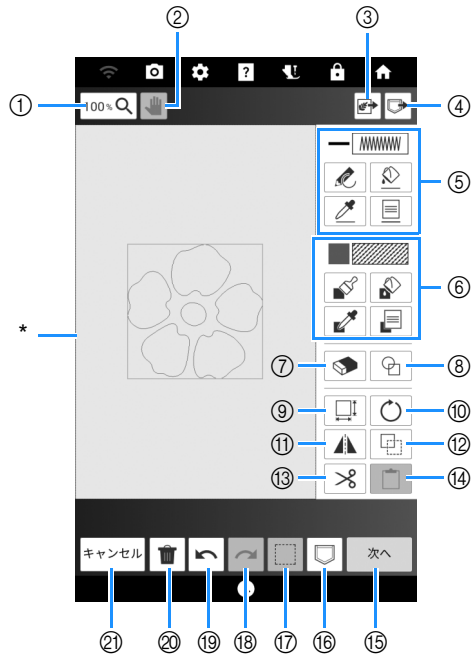
- 15** 必要に応じて、[編集] を押して選択した模様を編集します。(P. 140)



- 16** [縫製] を押します。刺しゅうを始めます。(P. 138)

キーのはたらき（マイデザインセンター）

描画面面



* 描画エリア

No.	表示	はたらき	参照
	名称		
①		模様を拡大します。	—
	拡大キー		
②		拡大画面で表示領域を動かします。	—
	手のひらツールキー		
③		スキャンした画像、線画、イラスト、画像のデータファイルを使って模様を作成します。	239
	スキャン／デザインキー		
④		マイデザインセンターで作成した模様データをミシンのメモリーや USB メディアから呼び出します。	—
	呼び出しキー		

No.	表示	はたらき	参照
	名称		
⑤		[線プロパティ]画面で指定した色とステッチの種類を表示します。	231
	線表示		
		線を描画します。[線プロパティ]画面で線の種類を指定します。	230
	線ツールキー		
		選択した線に、[線プロパティ]画面で指定した色とステッチの種類を適用します。	231
	線のバケツツールキー		
⑥		模様の線から色とステッチの種類を抽出します。抽出した色とステッチの種類は[線プロパティ]画面に反映されます。	—
	線のスポイトツールキー		
		[線プロパティ]画面を表示します。線の種類、ステッチの種類、色を設定します。	231
⑦		線プロパティキー	
		[面プロパティ]画面で指定した塗りつぶし色とステッチの種類を表示します。	232
	面表示		
		ブラシで描画します。[面プロパティ]画面でブラシの種類とサイズを指定します。	230
	ブラシツールキー		
⑧		[面プロパティ]画面で設定した色とステッチの種類を、閉じている図形の内側に適用します。	232
	面のバケツツールキー		
		模様の面から塗りつぶし色とステッチの種類を抽出します。抽出した塗りつぶし色とステッチの種類は[面プロパティ]画面に反映されます。	—
⑨	面のスポイトツールキー		
		[面プロパティ]画面を表示します。ブラシの種類、ステッチの種類、塗りつぶし色を設定します。	232
面プロパティキー			
⑦		描いた線や図形を消します。消しゴムの大きさや形を選択できません。	233
	消しゴムキー		
⑧		スタンプ図形を選択します。	229
	スタンプ図形キー		
⑨		選択した部分の大きさを変更します。	234
	サイズキー		
⑩		選択した部分を回転します。	—
	回転キー		
⑪		選択した部分を左右反転します。	—
	反転キー		
⑫		選択した部分を複製します。	—
	複製キー		
⑬		選択した部分を切り取ります。	—
	切り取りキー		
⑭		前に複製または切り取った部分を貼り付けます。	—
	貼りつけキー		

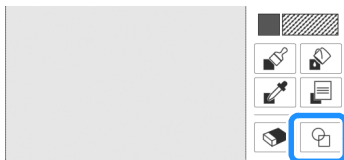
No.	表示	はたらき	参照
	名称		
⑮	 次へ	ステッチ設定画面に進みます。 (P. 236)	—
	次へキー		
⑯	 保存	模様描画データを保存します。	—
	保存キー		
⑰	 選択	編集する部分を選択します。	233
	選択キー		
⑱	 やり直し	元に戻すキーで元に戻した操作をやり直します。キーを押すたびに操作が1つずつやり直されます。	—
	やり直しキー		
⑲	 元に戻す	最後の操作を取り消して、直前の状態に戻ります。キーを押すたびに操作が1つずつ取り消されます。	—
	元に戻すキー		
⑳	 全削除	線や図形データをすべて消去して、起動時の状態にします。取り込んだ下絵も削除されます。	—
	全削除キー		
㉑	 キャンセル	マイデザインセンターを終了します。すべての線や図形データが消去されます。	—
	キャンセルキー		

お知らせ

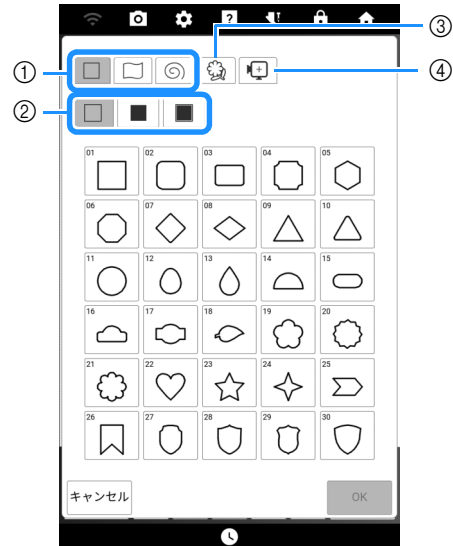
- 模様描画データのファイル拡張子については、P. 269「仕様」を参照してください。

スタンプキーの使い方

1 を押します。



2 スタンプの種類と図形を選択します。



- ① スタンプ図形
- ② スタンプの種類
- ③ 保存した刺しゅう模様の輪郭
- ④ 刺しゅう枠の縫製範囲

・ スタンプ図形

	基本図形
	閉じた図形
	開いた図形

・ スタンプの種類 (基本図形のみ)

	輪郭
	タタミぬい
	輪郭とタタミぬい

・ 保存した刺しゅう模様の輪郭

	刺しゅう模様の輪郭をスタンプ図形として登録できます。スタンプ図形として登録できるのは20個までです。登録した図形が20個以上になると、古い図形から削除されます。スタンプ図形の登録方法について、詳しくは、P. 247「模様の周りに飾りぬいをする」を参照してください。
---	--

・ 刺しゅう枠の縫製範囲

	各刺しゅう枠の縫製範囲を図形として配置できます。 オフセット値を指定すると、内側にオフセットされた図形が表示されます。モチーフステッチなどで枠模様を作る場合は、模様の大きさに合わせてオフセット値を指定し、選択した刺しゅう枠の縫製範囲に模様が収まるようにします。
---	---



- 3** [OK] を押して選択したスタンプを配置します。

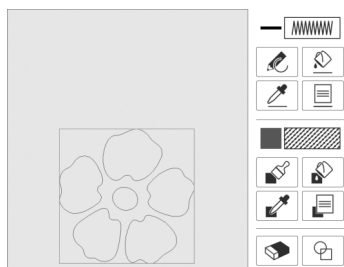


お知らせ

- [Kit 1]と表示されている灰色のタブおよびキーは、アップグレードキット[KIT 1]を購入して有効にすると使用できるようになります。

- 4** 模様を編集します。

- * 詳しくは P. 228 「描画画面」を参照してください。

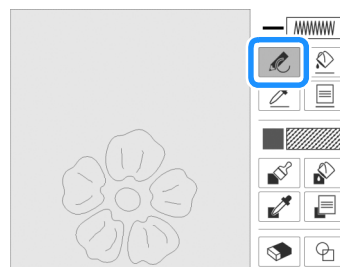


- 5** [次へ] を押して、ステッチを設定します。

- * 詳しくは P. 236 「模様ごとにぬい方を設定する」を参照してください。

線を描く

- 1** [] を押して、線やステッチの種類、色を設定します。(P. 231)
- 2** 線ツールキーを押して線を描きます。



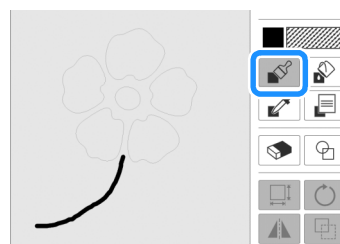
お知らせ

- 線ツールキーを押すと、線と区別するために、面部分の表示が薄くなります。

- 3** [次へ] を押して、ステッチを設定します。(P. 236)

模様を塗る

- 1** [] を押して、ブラシの種類、ステッチの種類、塗りつぶしの色を設定します。(P. 232)
- 2** [] を押してブラシで塗ります。

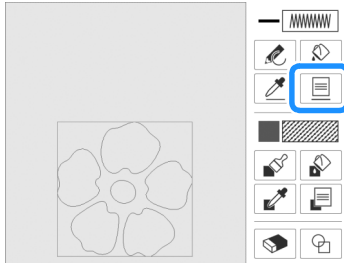


- 3** [次へ] を押して、ステッチを設定します。(P. 236)

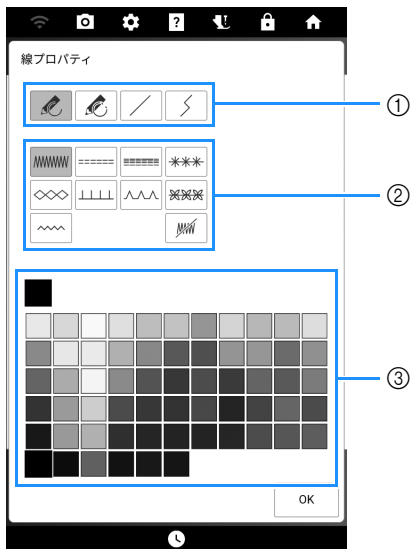
線やステッチの種類、色を設定する

線やステッチの種類、色はいつでも変更ができます。線を描く前に設定することもできます。

- 1  を押して、線やステッチの種類、色を設定します。



→ [線プロパティ] 画面が表示されます。



- ① 線の種類
② ステッチの種類
③ 線の色選択：線の色をカラーパレットから選択します。

• 線の種類

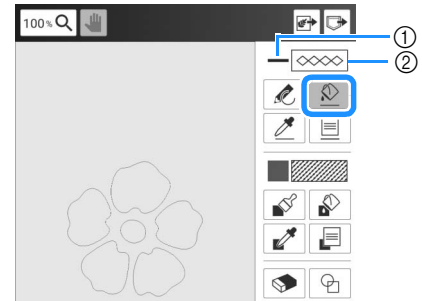
	手書き線を描きます。
	手書き線を描きます。線は自動的に始点と終点を結びます。
	直線を引きます。
	選択した位置毎に直線の向きが変わります。始点の近くに終点を作ると、閉じた図形が作られます。

• ステッチの種類

	ジグザグステッチ
	走りぬい
	3重ぬい
	キャンドルウィックステッチ
	チェーンステッチ
	E ステッチ
	V ステッチ
	モチーフステッチを選択します。 表示されるモチーフステッチの選択画面で、 [選択] を押すと、ステッチを選択できます。
	アップリケジグザグステッチ
	線をぬわないようにします。ぬわないように設定された線は薄い灰色の線で区別されます。

- 2 [OK] を押すと、描画面に戻ります。

- 3  を押してから設定を変更する線を押します。



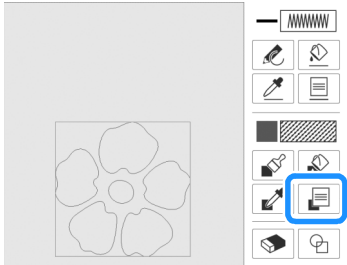
- ① 色
② ステッチの種類

お知らせ

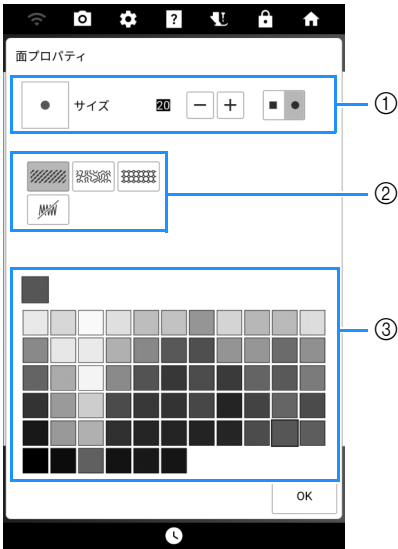
- ステッチの種類を変更しても、線の外観は変わりません。指定したステッチの種類はステッチ設定画面で確認できます。(P. 236)
- 意図通りに線が押せないときは、 を押して拡大表示してください。
-  を押してから線を押すと、その線の設定が [線プロパティ] 画面に反映されます。

ブラシの種類、ステッチの種類、塗りつぶしの色を設定する

1 を押して、ブラシの種類、ステッチの種類、塗りつぶしの色を設定します。



→ [面プロパティ] 画面が表示されます。



- ① ブラシの種類
- ② ステッチの種類
- ③ 塗りつぶしの色の選択：塗りつぶす色をカラーパレットから選択します。

• ブラシの種類

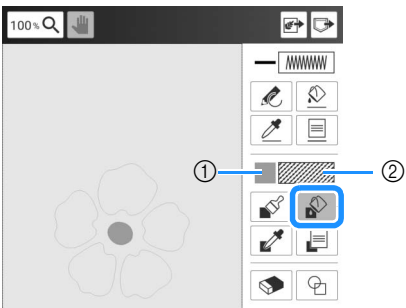
ブラシのサイズを選択するときは、またはを押します。

	角ブラシ	
	丸ブラシ	

• ステッチの種類

	タタミぬい
	スティップリング
	デコラティブフィル模様を選択します。 表示されるデコラティブフィル模様の選択画面で、  を押すと、模様を選択できます。
	ステッチで模様を塗りつぶしたくないときは、このキーを選択します。

- 2 [OK] を押すと、描画画面に戻ります。
- 3 を押してから塗りつぶす面を押して、塗りつぶしの色とステッチの種類を変更します。



- ① 色
- ② ステッチの種類

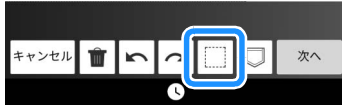
 お知らせ

- 意図通りに塗りつぶす面が押せないときは、を押して拡大表示してください。
- を押してから面を押すと、その面の設定が[面プロパティ]画面に反映されます。

選択キーの使い方

模様の一部を選択して移動または編集できます。

1 を押します。



2 編集範囲の選択方法を選びます。

[閉じる]を押します。

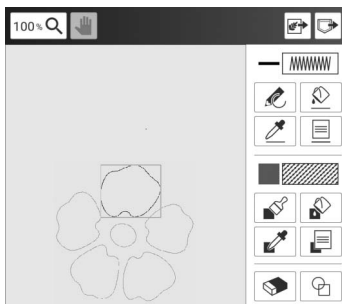


	ボックス選択	描画されたボックス内のオブジェクトをすべて選択します。
	多角形選択	描画された多角形内のオブジェクトをすべて選択します。画面を押して点を追加して多角形を描き、開始点の赤い四角を押して終点を指定します。
	自由曲線選択	描画された曲線内のオブジェクトをすべて選択します。
	自動選択	押した模様が選択されます。これにより、1本の線のみ、またはドーナツ型の外側の模様のみを選択することができます。
	全選択	すべての模様を選択します。

3 編集する範囲を選択します。

- * 選択した範囲が赤い枠で囲われます。
- * 画像を拡大すると選択しやすくなります。

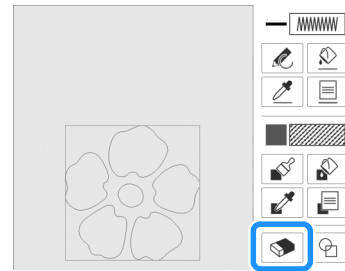
を押して模様を拡大して、を押して選択しやすい領域を表示します。



4 模様を編集します。(P. 228)

消しゴムキーの使い方

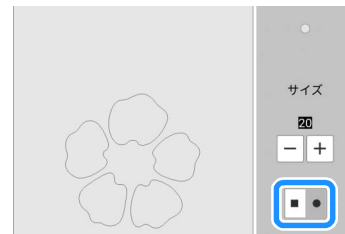
1 を押します。



2 消しゴムの形を選択します。

次に、消去したい面または線に沿ってドラッグします。

- * 消しゴムのサイズを選択するときは、またはを押します。



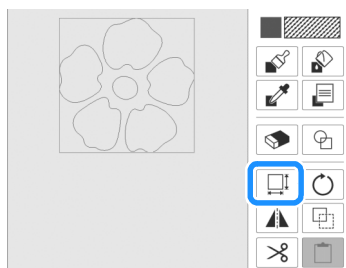
3 [OK]を押します。

お知らせ

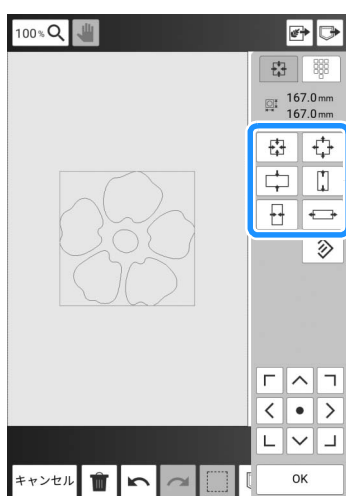
- キーがと表示されている間、面または線を消去できます。

サイズキーの使い方

- 1  を押します。

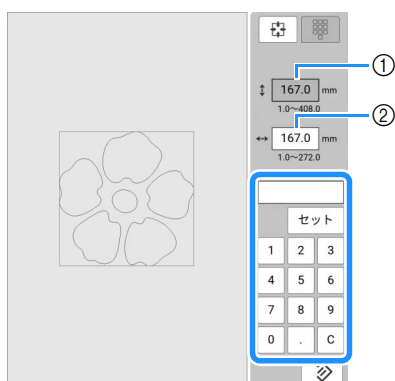


- 2 大きさを変える方向のキーを押してサイズを変更します。



お知らせ

- 数値でサイズを指定する場合は、 を押します。高さまたは幅のボックスを押して、数字キーで数値を指定し、[セット]を押します。



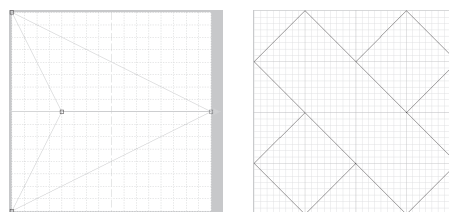
- ① 高さのボックス
- ② 幅のボックス

- 3 [OK] を押します。

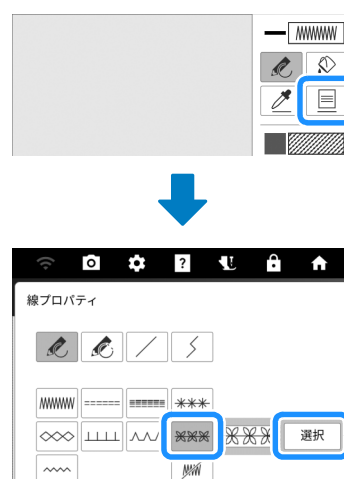
モチーフステッチデータまたはデコラティブフィル模様データを取り込む

刺しゅう PRO の [ステッチクリエイター] で作成したモチーフステッチデータやデコラティブフィル模様データをマイデザインセンターに取り込むことができます。

- * モチーフステッチは刺しゅう PRO バージョン 4 以降で作成できます。デコラティブフィル模様 (刺しゅう PRO では飾り模様) は刺しゅう PRO バージョン 11 以降で作成できます。
- * モチーフステッチやデコラティブフィル模様の拡張子については、P. 269 「仕様」を参照してください。



- 1 モチーフステッチデータ、デコラティブフィル模様データを USB メディアに保存します。
- 2 USB メディアをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。
- 3 [My Design Center] を押します。
- 4 モチーフステッチデータを取り込む場合は、 を押します。[線プロパティ] 画面が表示されたら、 を押し、[選択]を押します。



- 5 [カスタム] を押してから  を押します。



6 モチーフステッチデータを選択し、[OK] を押します。

- * USB メディアが2つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。



→ モチーフステッチデータがミシンに保存されます。

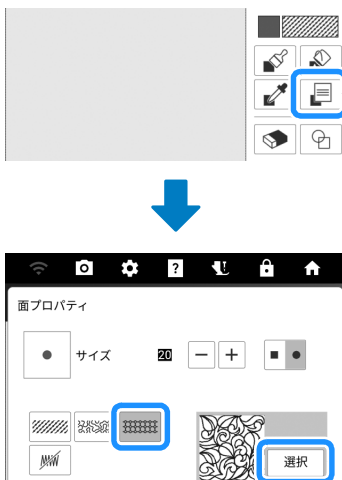
7 使用するモチーフステッチを選択し、[OK] を押します。



お知らせ

- 保存されたモチーフステッチには模様番号が付けられます。模様番号はキーの左上に表示されます。
- ミシンに保存できるモチーフステッチは12個までです。それ以上の模様データを保存しようとする、メッセージが表示されます。画面の指示に従って、入れ替えるモチーフステッチデータの模様番号を選択します。
- 保存したモチーフステッチデータをすべて削除する場合は、[全て削除]を押します。

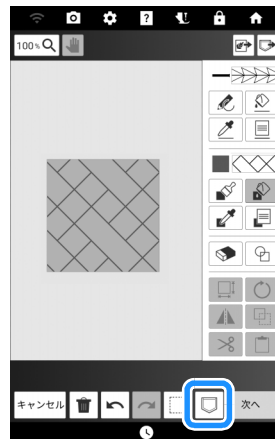
8 デコラティブフィル模様データを取り込む場合は、を押します。[面プロパティ]画面が表示されたら、を押し、[選択]を押します。



9 手順5～7を参照して、取り込んだデコラティブフィル模様を選択します。

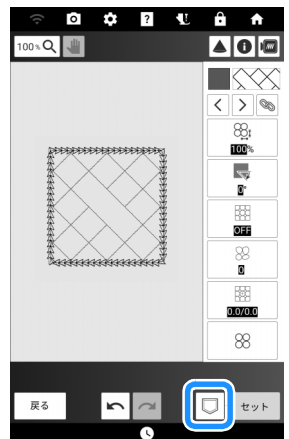
10 模様を編集します。必要に応じて、を押して模様を保存します。

①



① 描画面

②



② ステッチ設定画面

お知らせ

- 取り込んだモチーフステッチやデコラティブフィル模様を模様描画データとして保存する場合は、ミシンのメモリーにのみ保存できます。
- 描画面でミシンのメモリーに保存した模様を呼び出すと、現在[カスタム]に登録されている模様番号のモチーフステッチまたはデコラティブフィル模様を反映した模様が表示されます([カスタム]の模様番号に登録されているモチーフステッチまたはデコラティブフィル模様を保存時から変更した場合は、保存時と異なる模様が表示されます)。
- [カスタム]に登録されているモチーフステッチまたはデコラティブフィル模様がすべて消去された状態で模様を呼び出した場合は、初期設定のステッチに置き換えられます。モチーフステッチはジグザグステッチに置き換えられます。デコラティブフィル模様は、タタミぬいに置き換えられます。
- ステッチ設定画面もしくは刺しゅう編集画面で模様を保存すると、刺しゅうデータとして保存されるためモチーフステッチまたはデコラティブフィル模様は保持されます。

ステッチ設定画面

描画画面（P. 228）で模様描画データを作成した後、次のことができます。

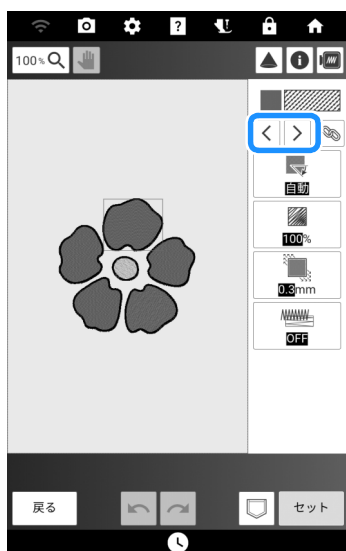
- 線と面それぞれのステッチ設定を確認して変更します。
- 模様描画データを保存します。
- 刺しゅう模様に変換し、刺しゅう編集画面に進み、刺しゅう模様を保存します。

模様ごとにぬい方を設定する

ステッチ設定画面で模様を選択して、線や面のぬい方を設定します。

- 1 **< >** を使って、線ぬいまたは面ぬい部分を選択します。

→ **< >** を押すごとに、選択部分が赤枠で囲われます。

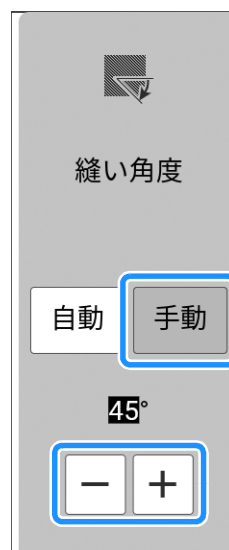


- 2 変更する設定を選択した後、表示されたポップアップ画面で設定を変更します。（この例では、刺しゅうのぬい角度を変更します。）

* 各設定の詳細については、P. 237「線ぬいと面ぬいの設定」を参照してください。



- 3 [手動] を押して、**- +** を使ってぬい角度を変更します。



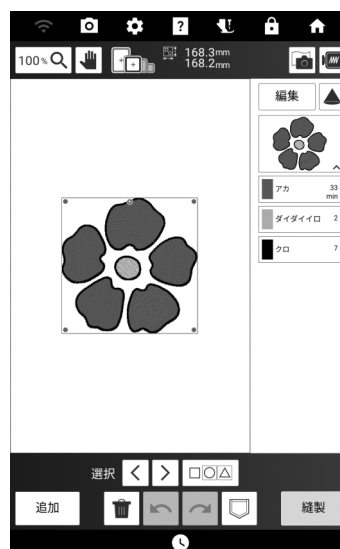
- 4 [OK] を押して設定します。

* 同様に、ほかの設定も変更します。

- 5 必要に応じて、**保存** を押して模様を保存します。

- 6 [セット] を押して刺しゅう模様に変換します。

→ [OK] を押すと、刺しゅう編集画面が表示されます。

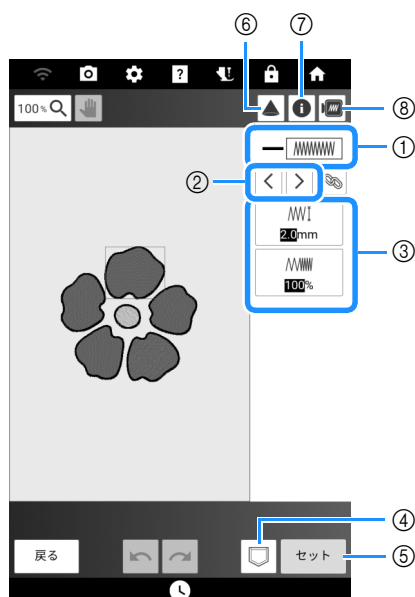


お知らせ

- [My Design Center] で作成した模様を組み合わせるには、[追加] を押してから [My Design Center] を押します。

線ぬいと面ぬいの設定

■ 線ぬいの設定



- ① 選択した線のステッチの種類や色を表示／変更します。
- ② 変更したい線を選択します。
- ③ 選択した線のぬい方設定を表示／変更します。
- ④ 模様描画データと刺しゅうデータを保存します。
- ⑤ 刺しゅう編集画面に進みます。
- ⑥ プロジェクターで模様を映し出します。(P. 152)
- ⑦ 模様の詳細情報を確認します。
- ⑧ 模様のイメージを表示します。

□ 線のぬい方を設定する

ジグザグステッチ  /

アップリケジグザグステッチ 

 [ジグザグ幅]	ステッチの間隔を指定します。
 [糸密度]	ステッチの糸密度を指定します。

走りぬい  /

3重ぬい 

 [走りピッチ]	ステッチの長さを指定します。
  [下打ち]	下打ちの ON / OFF を指定します。 走りぬいで下打ちを OFF にすると1重ぬいで模様が作成できます。ただし糸切りの回数が増えることがあります。

キャンドルウィックステッチ

 [サイズ]	模様を拡大／縮小します。
 [間隔]	キャンドルウィックステッチの間隔を指定します。

チェーンステッチ

 [サイズ]	模様を拡大／縮小します。
 [重なり]	同じ部分を繰り返し刺しゅうする回数を指定します。

E ステッチ

 [ステッチ幅]	模様を拡大／縮小します。
 [間隔]	E ステッチの間隔を指定します。
 [重なり]	同じ部分を繰り返し刺しゅうする回数を指定します。
 [反転]	模様を反転する／しないを指定します。

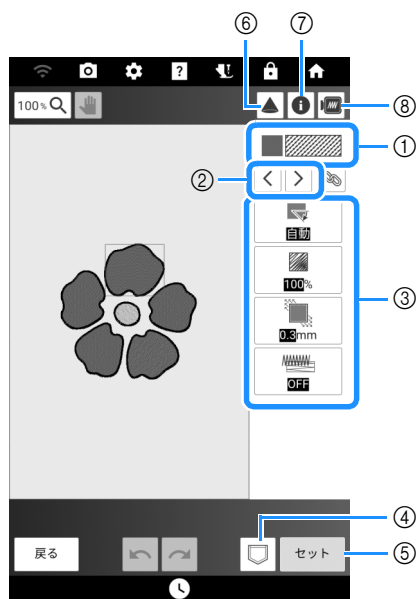
V ステッチ

 [ステッチ幅]	模様を拡大／縮小します。
 [間隔]	V ステッチの間隔を指定します。
 [重なり]	同じ部分を繰り返し刺しゅうする回数を指定します。
 [反転]	模様を反転する／しないを指定します。

モチーフステッチ

 [サイズ]	模様を拡大／縮小します。
 [間隔]	モチーフステッチの間隔を指定します。
 [反転]	模様を反転する／しないを指定します。

■ 面ぬいの設定



- ① 選択した面のステッチの種類や色を表示／変更します。
- ② 変更したい面を選択します。
- ③ 選択した面のぬい方設定を表示／変更します。
- ④ 模様描画データと刺しゅうデータを保存します。
- ⑤ 刺しゅう編集画面に進みます。
- ⑥ プロジェクターで模様を映し出します。(P. 152)
- ⑦ 模様の詳細情報を確認します。
- ⑧ 模様のイメージを表示します。

□ 面のぬい方を設定する

タタミぬい 

 [縫い角度]	刺しゅうのぬい角度を指定します。[手動]を選択すると、タタミぬいのぬい角度を変更できます。
 [糸密度]	タタミぬいの糸密度を指定します。
 [縮み補正]	ぬい目を少し短くしたり長くしたりして、模様のぬい縮み補正をします。試しぬいの後に模様のぬい縮み具合を確認してから、設定を変更します。
 [下打ち]	布を安定させるために、必要に応じて下打ちの有無を選択します。

スティップリング 

 [走りピッチ]	スティップリングのステッチの長さを指定します。
 [間隔]	スティップリングをするときのステッチの間隔を指定します。
 [距離]	模様の輪郭からスティップリングまでの距離を指定します。
----- [ぬい目]	ぬいの種類 (1重／3重ぬい) を指定します。

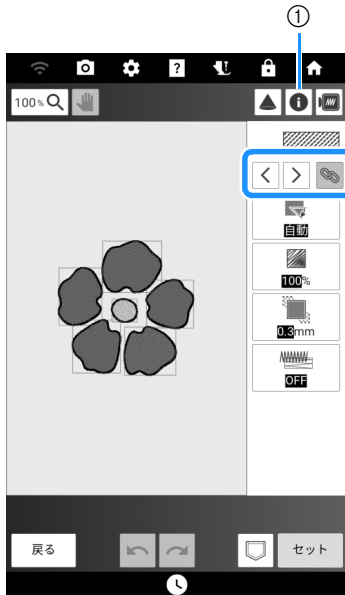
デコラティブフィル模様 

 [サイズ]	模様を拡大／縮小します。
 [縫い角度]	模様の回転角度を指定します。
 [アウトライン]	[ON] または [OFF] を選択して、輪郭も刺しゅうデータに変換するか指定します。 [ON] にすると、渡り糸の数を減らすことができます。
 [ゆらぎ]	模様のゆらぎのレベルを指定します。 [ゆらぎ] に 1 以上を指定すると、[ゆらぎ] の [タイプ] 設定を選択できます。
 [位置のオフセット]	模様の基点位置を指定します。
 [重なり]	2 ～ 3 重ぬい／ 1 ～ 2 重ぬいを指定します。

一括でぬい方を設定する

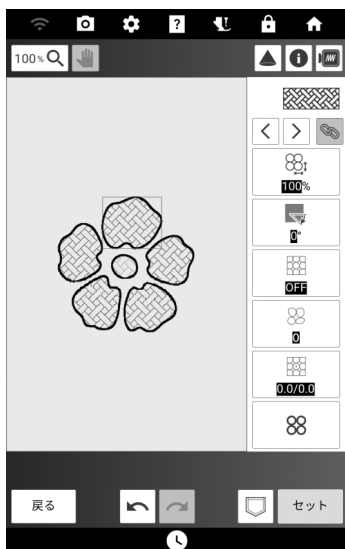
同じぬい種類の複数の模様に対して、一括でぬい設定を変更できます。

- 1 < > で設定を変更する模様を選択して、
🔗を押します。



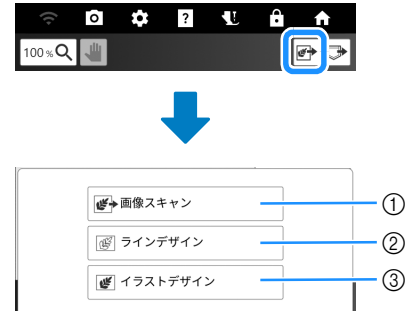
- ① ⓘを押すと、糸色など様々な情報を確認することができます。
→ 同じぬい種類が一括で選択されます。

- 2 設定を変更して、刺しゅう模様に変換します。(P. 236)



スキャンした画像や画像データを使って模様を作成する

布地をスキャンした画像、線画、イラスト、画像のデータを使用して模様を作成することができます。



- ① 画像を下絵として使用します。(P. 241、P. 242)
- ② 線画を刺しゅうデータに変換します。(P. 243)
- ③ イラストを刺しゅうデータに変換します。(P. 245)

スキャン枠を使用する

- 1 お好みのイラストなどを準備します。

重要

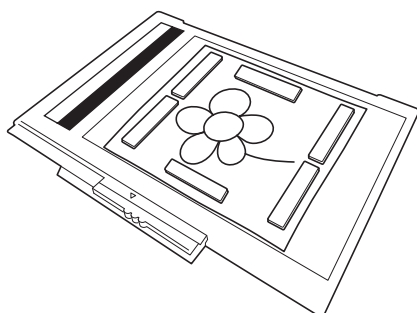
- ・ スキャン中に刺しゅう押えがスキャン対象（イラストなど）に接触すると、スキャン対象や刺しゅう押えが破損することがあります。厚手の素材やシワや折り目のある素材など、刺しゅう押えに接触する可能性のある素材はスキャンしないでください。

お知らせ

- ・ スキャンする時、スキャン枠に配置できる紙は1枚のみです。

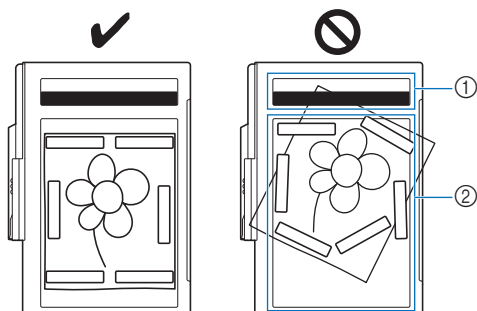
2 スキャンする紙をスキャン枠に配置し、マグネットで固定します。

- * スキャンする対象が隠れていないことを確認して、紙の周りの6カ所をマグネットで固定します。



🔔 お願い

- スキャン枠に紙を置いた時にホワイトバランスエリアが隠れていないことを確認してください。正しくスキャンできないおそれがあります。この時、スキャン可能エリアにスキャン対象が収まるように配置してください。スキャン対象がスキャン可能エリアから出ているとスキャンされません。



- ① ホワイトバランスエリア
- ② スキャン可能エリア

- ホワイトバランスエリアやスキャン可能エリアに傷や汚れが無いことを確認してください。正しくスキャンできないおそれがあります。
- スキャン対象を固定するときは、スキャン枠に付属しているマグネットを使用してください。
- 紙がしっかりと固定されるようにマグネットを配置してください。紙が歪んでいるとうまくスキャンできないおそれがあります。
- スキャン枠が汚れている場合は、水かぬるま湯を含ませた、やわらかい布を固く絞ってふいてください。ふいた後は、乾いたやわらかい布で水分をふき取ってください。

3 刺しゅう機をミシンに取り付け、ミシンの電源を入れます。

- * P. 124「刺しゅう機を取り付ける」を参照してください。

📖 お知らせ

- 糸が針から抜けたり、刺しゅう枠に引っかかったりしないように、上糸を通していない状態にしてください。

4 (↑) (押え上下スイッチ) を押して、刺しゅう押えを上げ、(↓) (針上下スイッチ) を押して、針を上げます。

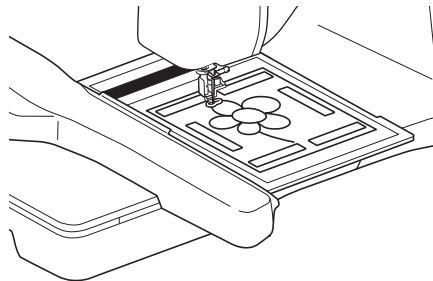
- * 押えレバーを使うと、刺しゅう押えは充分な高さまで上がりません。

重要

- 刺しゅう押えと針はしっかりと上げてください。刺しゅう押えと針が下がったままでスキャンが始まると、スキャン枠がミシンに当たり、破損する場合があります。

5 刺しゅう機にスキャン枠を取り付けた後は、枠固定レバーを手前に倒しスキャン枠を固定します。

- * 詳しくは、P. 129「刺しゅう枠をセットする」を参照してください。

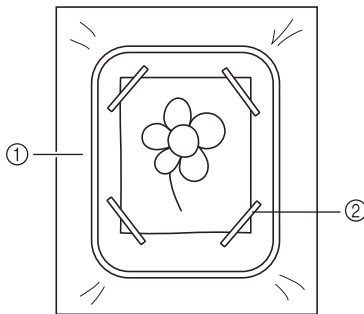


🔔 お願い

- 刺しゅう押え< W >以外の押えは取り付けないでください。押えがスキャンされることがあります。

■ 刺しゅう枠でスキャンする

刺しゅう枠を使って、線画やイラストをスキャンすることもできます。スキャンする紙を布地に置き、テープで固定します。



- ① 布地
- ② テープ

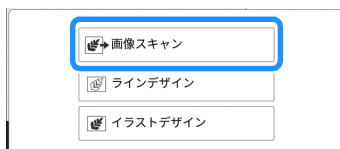
下絵をスキャンする

布地やイラストをスキャンして、ミシンに取り込み、下絵として表示して、模様を作ります。

- 1 を押します。



- 2 [画像スキャン]を押します。



- 3 スキャン枠にマグネットでイラストを固定してから、ミシンにスキャン枠を取り付けます。(P. 239)
布地をスキャンする場合は、刺しゅう枠をミシンに取り付けます。(P. 129)

- 4 [スキャン]を押します。



- 5 次のメッセージが表示されたら、[OK]を押します。



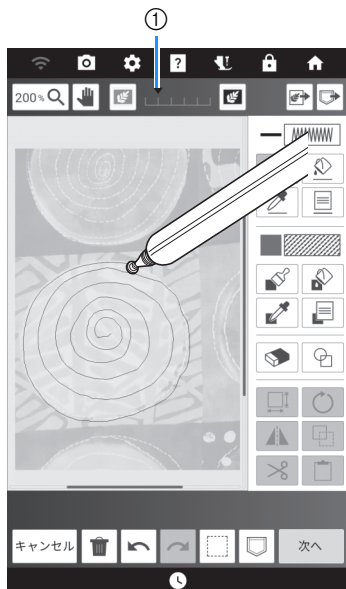
→ スキャンを開始します。スキャンが終わると、描画エリアに下絵が薄く表示されます。

6

スキャンデザインセンター

6 を押して、付属のデュアルタッチペンを使って下絵をなぞります。

- * を押すと模様が拡大できます。を押すと、表示領域を移動することができます。
- * 線について、詳しくは P. 230 「線を描く」を参照してください。



- ① またはを押して、下絵の濃淡を調整します。

7 編集が終わったら、[次へ]を押して設定を行います。

- * 模様の編集について詳しくは、P. 228 「キーのはたらき (マイデザインセンター)」を参照してください。

8 [セット]を押して、刺しゅう編集画面を表示します。

- * 詳しくは、P. 236 「模様ごとにぬい方を設定する」を参照してください。

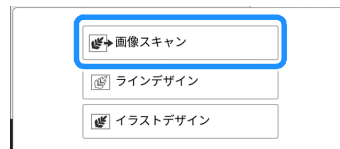
下絵を取り込む

画像データをミシンに取り込み、下絵として表示して模様を作ります。

1 を押します。

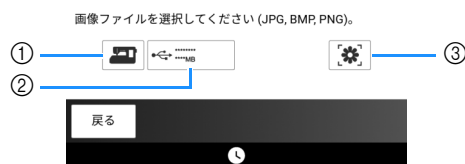


2 [画像スキャン]を押します。



3 データが保存されているデバイスを選択します。

- * USB メディアが2つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。



- ① 直近にスキャンした画像は自動的にミシンのメモリーに保存されています。このキーを押してスキャン画像を取り込みます。
- ② USB メディアに保存されたデータファイルを取り込みます。USB メディアに .jpg、.bmp、.png のファイル形式で保存します。取り込めるファイルの詳細については、P. 269 「仕様」を参照してください。
- ③ My Design Snap アプリから転送された画像データを取り込みます。(P. 224)

4 データを選択して、[セット]を押します。

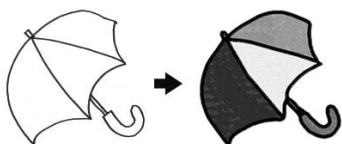


→ 描画エリアに選択した画像が薄く表示されます。

5 刺しゅう模様を作成します。 P. 241 「下絵をスキャンする」の手順 6 を参照してください。

線画変換で模様を作る

線画から刺しゅう模様を作成できます。線画をスキャンしたり、画像データを取り込んで模様を作ります。



線画変換に適した線画

- 1 mm ほどの太さの線ではっきりと描かれているもの。
- 線の明暗がはっきりしているもの。
- 線が短すぎたり密集しすぎていると、正しく変換できません。

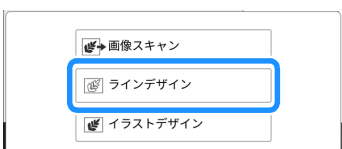
お知らせ

- カラーイラストから刺しゅう模様を作成する方法について、詳しくは P. 245 「イラスト変換で模様を作る」を参照してください。

1 を押します。



2 [ラインデザイン]を押します。

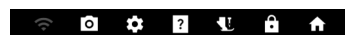


お知らせ

- 画面に表示されている下絵を変換する場合は、手順 4 に進みます。

3 スキャン枠や刺しゅう枠を使ってスキャンするときは、[スキャン]を押します。画像データファイルを取り込む場合は、保存先のデバイスを選択します。

- * USB メディアが 2 つ接続されている場合は、表示されている USB メディア名を確認し、使用する USB メディア名を押してください。



ラインスキャンまたはイラストスキャンする場合は、適切な色情報を取得するために、[スキャン枠]を使用してください。



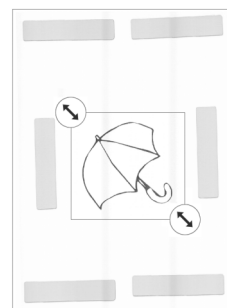
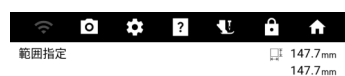
本機能を使用する場合、お客様はコンテンツに以下を含まないことに同意するものとします。
 ・すべての適用法令に反する目的(特に人種差別、差別、憎悪、ポルノまたは児童ポルノのコンテンツもしくは公序良俗に反する発言)に使用すること
 ・他の人のプライバシーやパブリシティの権利を侵害すること

画像ファイルを選択してください (JPG, BMP, PNG)。

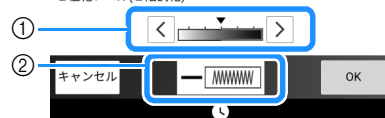


- ① このキーを押すと、スキャン開始のメッセージが表示されます。[OK] を押して、スキャンを開始します。
- ② 直近にスキャンした画像は自動的にミシンのメモリーに保存されています。このキーを押してスキャン画像を取り込みます。
- ③ USB メディアに保存されたデータファイルを取り込みます。USB メディアに .jpg、.bmp、.png のファイル形式で保存します。取り込めるファイルの詳細については、P. 269 「仕様」を参照してください。
- ④ My Design Snap アプリから転送された画像データを取り込みます。(P. 224)

4 を動かして、刺しゅう変換する範囲を指定します。その後、[OK]を押します。



2 値化レベル(2 階調化)



- ① 画像を 2 階調に変換するためのしきい値を調整します。
- ② 線の色とステッチの種類を変更します。(P. 231)

5 変換された画像を確認し、[セット]を押します。



- * 必要に応じて、[2 値化レベル (2 階調化)]、線の色、ステッチの種類を変更します。設定を変更すると、[セット] が [再試行] に変わります。[再試行] を押して、意図通りに変換されていることを確認します。
- *  を押すと、画像を拡大することができます。
- * [原画表示] を押すと、変換される前の画像が表示されます。

6 必要に応じて、模様を編集します。

- * 詳しくは、P. 228 「キーのはたらき (マイデザインセンター)」を参照してください。



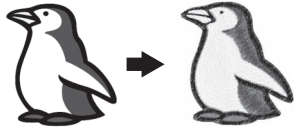
- * 画像はステッチに変換された後、描画画面の下絵として表示されます。 または  を押して、下絵の濃淡を調整します。

お知らせ

- 小さな点や不要な線は、消しゴムキーで消すことができます。(P. 233)
- 線の太さは認識されずに線画は変換されます。線の太さを変更する場合は、ステッチ設定画面で変更します。P. 236 「ステッチ設定画面」を参照してください。

イラスト変換で模様を作る

カラーイラストから刺しゅう模様を作成できます。イラストをスキャンしたり、画像データを取り込んで模様を作ります。



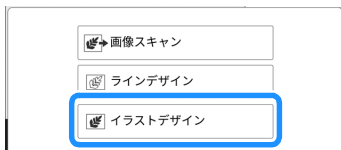
イラスト変換に適したイラスト

- ぼかしやグラデーションなどを含まない、はっきりと描かれたもの。
- 5 mm 四方を超えるもの。
- 単純な形状のもの。

1 [] を押します。



2 [イラストデザイン] を押します。



お知らせ

- 画面に表示されている下絵を変換する場合は、手順 4 に進みます。

- 3 スキャン枠や刺しゅう枠をスキャンするときは、[スキャン]を押します。画像データファイルを取り込む場合は、保存先のデバイスを選択します。
この例では、画像データファイルを取り込みます。



ラインスキャンまたはイラストスキャンする場合は、適切な色情報を取得するために、[スキャン枠]を使用してください。



本機能を使用する場合、お客様はコンテンツに以下を含まないことに同意するものとします。
・すべての適用法令に反する目的(特に人種差別、差別、憎悪、ポルノまたは児童ポルノのコンテンツもしくは公序良俗に反する発言)に使用すること
・他の人のプライバシーやパブリシティの権利を侵害すること

画像ファイルを選択してください (JPG, BMP, PNG)。



- ① このキーを押すと、スキャン開始のメッセージが表示されます。[OK] を押して、スキャンを開始します。
- ② 直近にスキャンした画像は自動的にミシンのメモリーに保存されています。このキーを押してスキャン画像を取り込みます。
- ③ USB メディアに保存されたデータファイルを取り込みます。USB メディアに .jpg、.bmp、.png のファイル形式で保存します。取り込めるファイルの詳細については、P. 269「仕様」を参照してください。
- ④ My Design Snap アプリから転送された画像データを取り込みます。(P. 224)

4 ④を動かして、刺しゅう変換する範囲を指定します。その後、[OK]を押します。

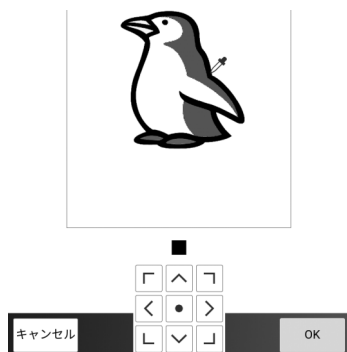
* お好みの模様に変換できるよう、画像を調整します。



- ① 画像内の色数を指定した色数以下にします。
- ② 背景除去の設定をします。
- ③ ④を押すと、画像の輪郭を線に変換します。
(押していない場合、画像の輪郭が面に変換されます。) 線の太さは④で指定できます。



④を押すと、輪郭の色を選択できます。色選択画面で色を直接押すか、④を使って④を動かして選択します。

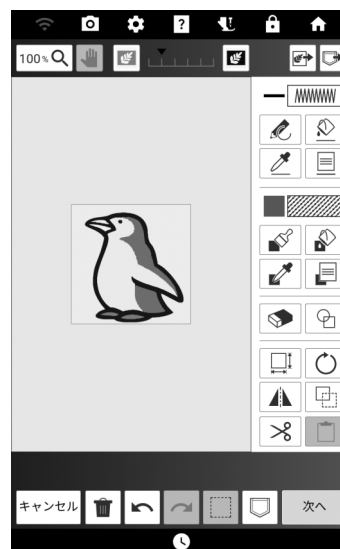


5 変換された画像を確認し、[セット]を押します。



- * 手順 4 と同様に、必要に応じて画像を調整します。設定を変更すると、[セット]が【再試行】に変わります。【再試行】を押して、意図通りに変換されていることを確認します。
- * ④を押すと、画像を拡大することができます。
- * 【原画表示】を押すと、変換される前の画像が表示されます。

6 必要に応じて、模様を編集します。



- * 画像はステッチに変換された後、描画画面の下絵として表示されます。④または④を押して、下絵の濃淡を調整します。

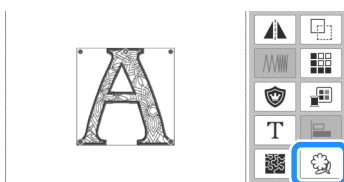
マイデザインセンターでさまざまな刺しゅうをする

模様の周りに飾りぬいをする

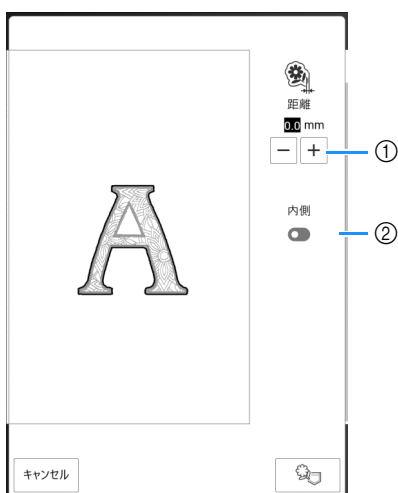


■ 模様の輪郭線を保存する

- 1 ホーム画面で[刺しゅう]を押し、模様を選択します。
- 2 [編集]を押してから  を押します。



- 3 設定を行い、 を押します。



- ① 模様から輪郭線までの距離を指定します。
- ② オンに設定すると、模様の内側の線も抽出します。

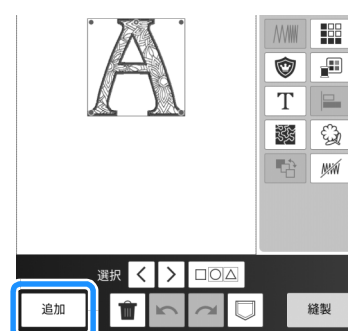
- 4 [OK] を押します。



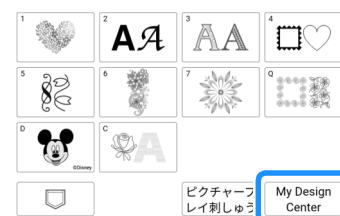
→ 模様の輪郭線がスタンプ図形としてマイデザインセンターに保存されます。

■ 保存した輪郭線を使って模様を編集する

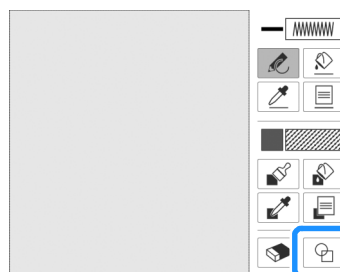
- 1 [追加]を押します。



- 2 [My Design Center] を押します。



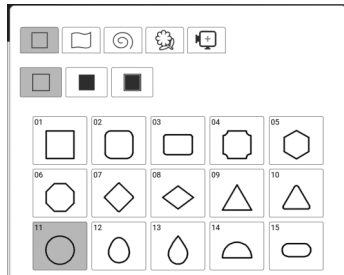
- 3  を押してから  を押します。



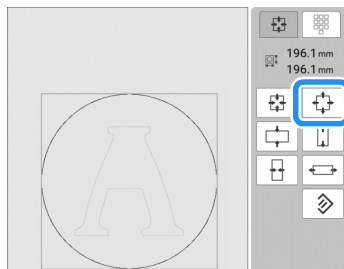
- 4 保存した輪郭線を選択します。



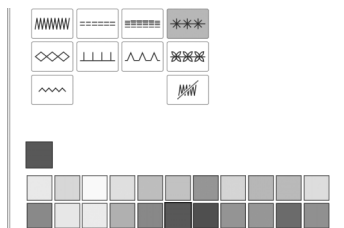
5 を押して、スタンプ図形を選択します。



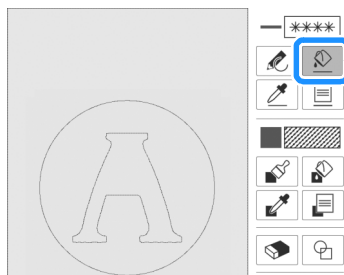
6 を押して、サイズを変更します。



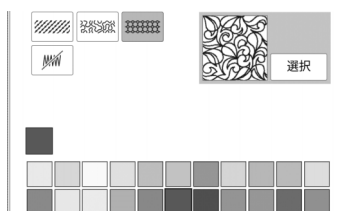
7 を押して、ステッチの種類と円の色を選択します。



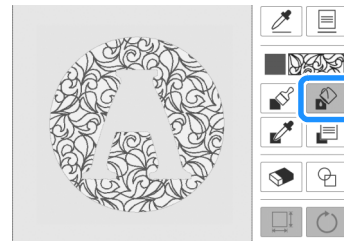
8 を押して、円を押します。



9 を押して、ステッチの種類と色を選択します。



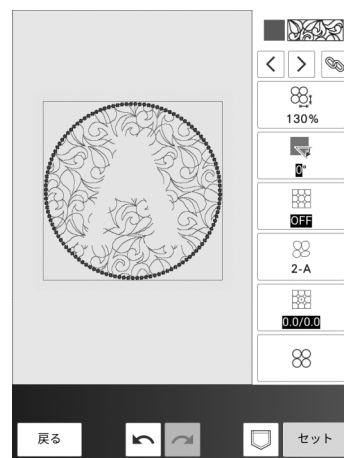
10 を押して、デコラティブフィル模様を施したい面を押します。



11 [次へ]を押します。

12 ステッチ設定を行い、[セット]を押します。

* 詳しくは P. 236 「模様ごとにぬい方を設定する」を参照してください。



→ [OK] を押すと、刺しゅう編集画面が表示されます。



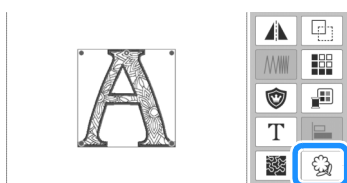
2枚の布地にキルト綿を挟んで刺しゅうする場合

表地に刺しゅうを施した後、スキャン機能を使って模様的位置を合わせます。

お知らせ

- きれいに刺しゅうするために、刺しゅう速度を遅くしてください。
- きれいに仕上げるために、接着芯を付けた表地を刺しゅう枠に張り、模様を刺しゅうしてください。このとき、キルト綿と裏地は一緒に刺しゅうしないでください。

- 1 模様を選びます。を押して、模様の輪郭線をスタンプとして登録します。(P. 247)



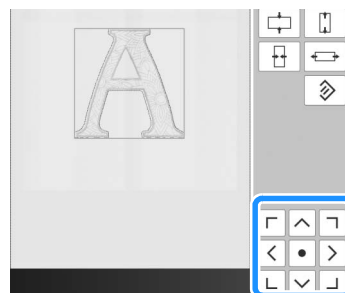
- 2 [縫製]を押して、模様を刺しゅうします。
- 3 刺しゅうした表地を刺しゅう枠から外します。接着芯をはがします。表地にキルト綿と裏地を重ね、刺しゅう枠で3枚を固定します。
- 4 刺しゅう枠をセットします。
- 5 を押してから[OK]を押します。ホーム画面で[My Design Center]を押します。
- 6 を押してから[画像スキャン]を押します。[スキャン]を押して、刺しゅうされた布をスキャンします。(P. 242)
- 7 を押してからを押します。



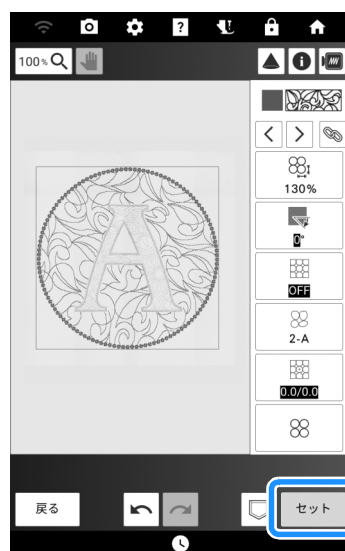
- 8 手順1で保存した輪郭線を選択します。

- 9 を押して、スキャンした刺しゅう模様とスタンプ図形が重なるようにスタンプ図形を編集します。

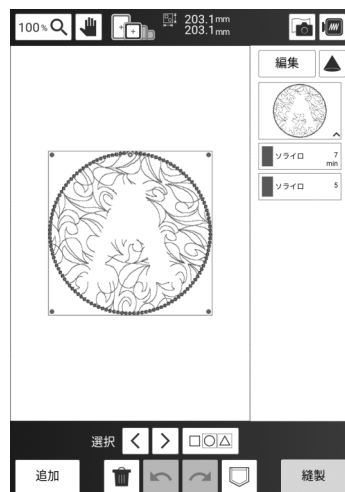
* スタンプを回転するときは、を押します。



- 10 模様を編集し、[次へ]を押します。
- 11 ステッチ設定を行い、[セット]を押します。



* 詳しくは P. 236 「模様ごとにぬい方を設定する」を参照してください。
→ [OK] を押すと、刺しゅう編集画面が表示されます。

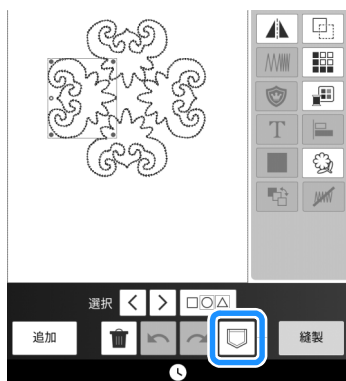


カウチング模様の周りに飾りぬいをする



■ カウチング模様の輪郭線を保存する

- 1 ホーム画面で[刺しゅう]を押し、カウチング模様を編集します。(P. 189)
- 2 を押して、組み合わせたカウチング模様をミシンのメモリーに保存して後で使えるようにします。



- 3 を押してすべての模様を選択してから、を押します。
- 4 設定を行い、を押します。



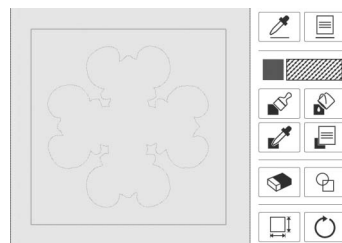
- 5 を押してから [OK] を押します。

■ 飾り模様を刺しゅうする

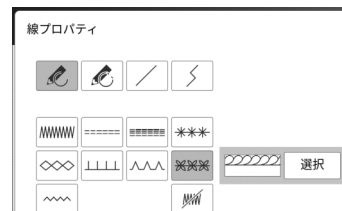
- 1 ホーム画面で [My Design Center] を押します。
- 2 を押して、P. 250「カウチング模様の輪郭線を保存する」の手順 4 で保存した輪郭線を選択します。



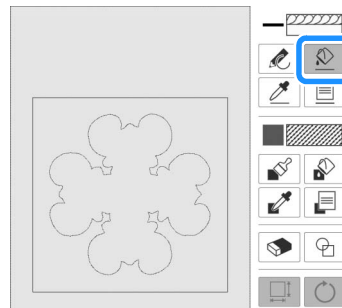
- 3 を押して、正方形を選択します。次に、を押してサイズを変更します。



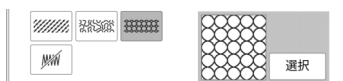
- 4 を押して、ステッチの種類と色を選択します。



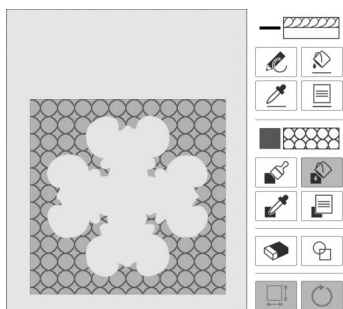
- 5 を押して、正方形を押します。



- 6 を押して、模様と色を選択します。



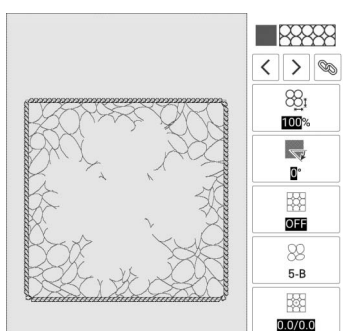
- 7 を押して、デコラティブフィル模様を施したい面を押します。



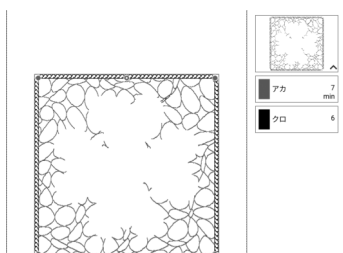
- 8 [次へ]を押します。

- 9 ステッチ設定を行い、[セット]を押します。

* 詳しくは P. 236 「模様ごとにぬい方を設定する」を参照してください。



- 10 [縫製]を押して、模様を刺しゅうします。



- 11 を押してから [OK] を押します。

■ カウチング模様を刺しゅうする

- 1 ホーム画面で[刺しゅう]を押して、を押します。

- 2 保存したカウチング模様を呼び出します。



- 3 ミシンでカウチングの準備をします。カウチング刺しゅう押え<Y>を取り付け、毛糸を通し、ミシンに上糸を通します。

* 詳しくは P. 189 「カウチング模様を刺しゅうする」を参照してください。

第7章 お手入れとトラブルシューティング

お手入れのしかた

▲ 注意

- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがをするおそれがあります。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。
本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。
万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

結露によるさびの発生など、故障の原因となりますので、以下の場所にミシンを保管しないでください。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気が多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所

💡 お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

お手入れ

■ 画面の汚れの掃除

画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布などで軽くふき取ってください。

📖 お知らせ

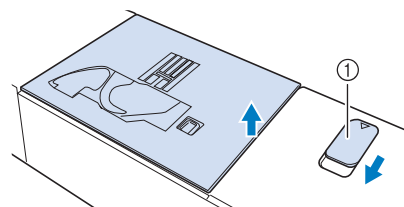
- 液晶画面が結露したり、曇ったりする場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、結露や曇りはなくなります。

■ 本体表面の掃除

本製品の汚れをふき取るときは、水かぬるま湯を含ませたやわらかい布を固く絞ってふいてください。
ふいた後は、乾いたやわらかい布で水分をふき取ってください。

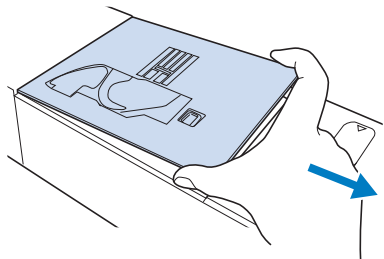
■ かまの掃除

- 1  (針上下スイッチ) を押して針を上げます。
- 2 電源スイッチを切って、電源プラグを抜きます。
- 3 針と押えを取り外します。(P. 34、P. 46)
- 4 補助テーブルまたは刺しゅう機を取り付けている場合は外します。
- 5 針板レバーを手前にスライドさせます。

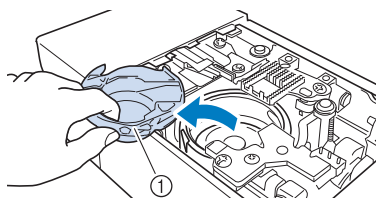


- ① 手前にスライドさせます。
→ 針板が開きます。

6 右手で針板を引き出して取り外します。

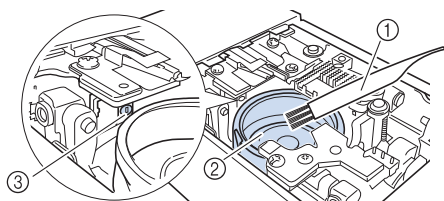


7 内かまをつかみ、そっと取り出します。



① 内かま

8 ミシンブラシや掃除機で、外かまと下糸センサーの周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



① ミシンブラシ
② 外かま
③ 下糸センサー

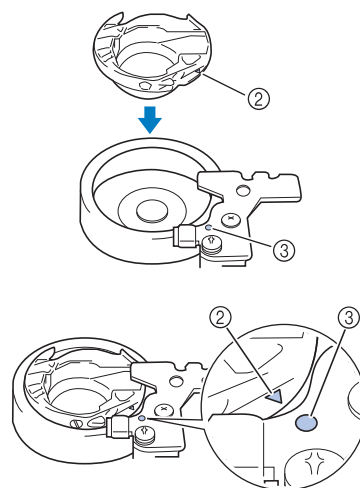
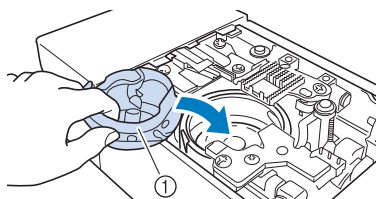
重要

- 内かまに油をささないでください。

お知らせ

- 糸くずやほこりが下糸センサーの周辺にたまると、センサーが正しく作動しないおそれがあります。

9 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



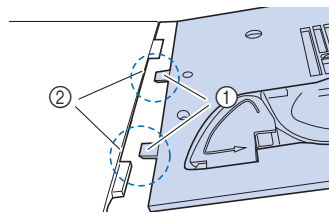
① 内かま
② 内かまの▲印
③ ミシンの●印

* 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

注意

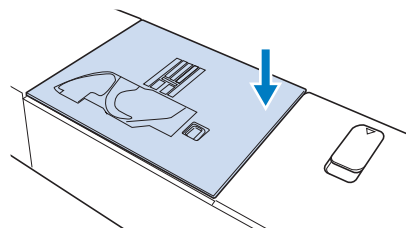
- 内かまに傷やバリがあるものは、絶対に使用しないでください。上糸が絡まったり、針が折れてけがをするおそれがあります。内かまの交換が必要な場合は、「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針が折れてけがをするおそれがあります。

10 針板の出っ張り部をミシンのミゾに入れます。



① 出っ張り部
② ミゾ

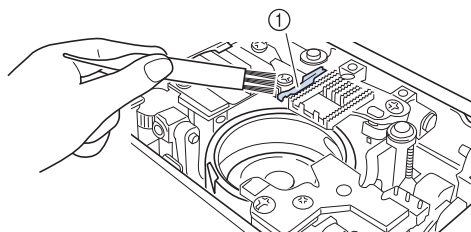
11 針板の右側を押し下げて固定します。



■ 内かま周辺のカッターの掃除

カッターにほこりや糸くずがたまると、 (糸切りスイッチ) を押したときや自動糸切り機能を使用したときに、糸が切れにくくなります。糸が切れないときは、カッターを掃除してください。

- 1 P. 253 「かまの掃除」の手順 **1** ～ **7** に従って、針板と内かまを取り外します。
- 2 ミシンブラシや掃除機で、内かま周辺のカッターの糸くずやほこりを取り除きます。



① カッター

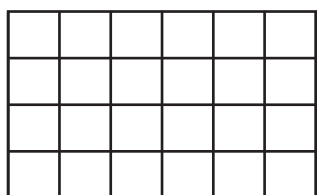
⚠ 注意

- けがをするおそれがありますので、カッターに触らないでください。

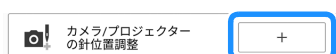
- 3 針板を取り付けます。

カメラ／プロジェクターの針位置調整

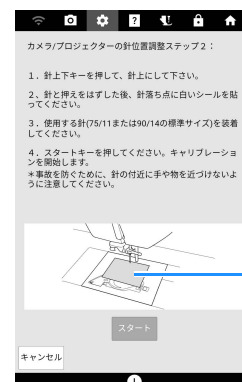
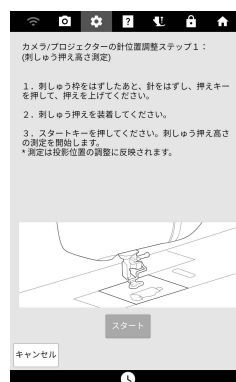
カメラ機能またはプロジェクター機能を使うときは、針位置調整を必ず行ってください。針位置の調整をいつも行う必要はありませんが、針を交換した時はこの設定を行うことをおすすめします。付属のキャリブレーションステッカーを使用します。



- 1  を押して、設定画面の [カメラ／プロジェクターの針位置調整] を表示します。
- 2  を押します。



- 3 画面に表示される手順を確認して、設定を行います。



① キャリブレーションステッカー

💡 お願い

- キャリブレーションステッカーは新しいものを使用してください。ステッカーに穴が開いていたり、汚れていたりすると、カメラの針位置が正しく設定できません。

→ 設定が終了すると、[OK] が表示されます。

OK

💡 お願い

- [NG] が表示されたときは、新しいキャリブレーションステッカーを貼り、[再試行] を押します。針が落ちる位置の設定を繰り返しても設定できない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にお問い合わせください。

- 4 [OK] を押して、位置設定データを保存します。

OK



OKキーを押すと、針落ち点を記憶します。

キャンセル

OK

- 5 ステッカーをはがします。

製品を貸与・譲渡・廃却するときの注意

以下の情報を消去し、お買い上げ時の状態にリセットしてください。

- 保存されているすべてのデータ
- 設定した内容
- ネットワーク設定情報

1 を押してから、[初期状態にリセット]の横にある[リセット]を押します。

2 [リセット]を押します。

💡 お願い

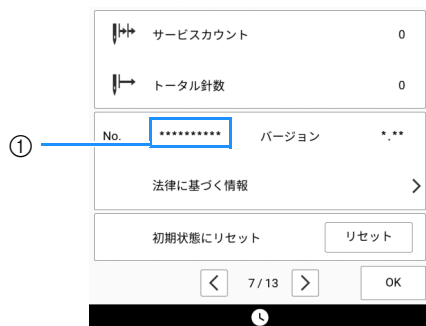
- [削除中...]の画面が表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。

プロダクトナンバー／シリアル番号（機械番号）を確認する

■ プロダクトナンバーを確認する

1 を押します。

2 以下の設定画面を表示します。



① プロダクトナンバー

■ シリアル番号（機械番号）を確認する

ミシン背面の銘板を確認します。



① シリアル番号（機械番号）

ミシンのソフトウェアをアップデートする

次の2つの方法をいずれかで、ミシンのソフトウェアをアップデートします。

模様編集や刺しゅうが完了していない場合は、完了後にアップデートしてください。アップデートすると中断したところから再開できなくなります。

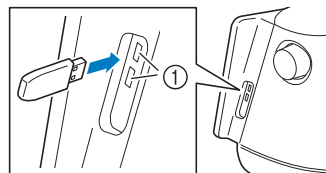
USB メディアでアップデートする

<https://s.brother/cpdaf/> でアップデートプログラムが公開されている場合、ウェブサイトと下記の手順に従ってファイルをダウンロードしてください。

💡 お願い

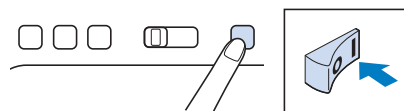
- USB メディアを初期化してください。
- USB メディアにはアップデートファイル(.upf ファイル)のみを保存してください。
- USB ポートから他の USB メディアを取り外してください。
- 一部の USB メディアは、このミシンで使用できない場合があります。対応している USB メディアについては、P. 269「仕様」を参照してください。

1 電源スイッチを切ります。USB メディアを USB ポートコネクタに差し込みます。

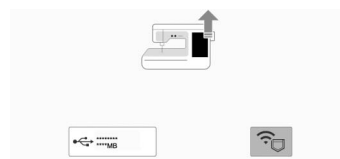


① USB ポートコネクタ

2  (自動糸通しスイッチ) を押し続けながら、電源スイッチを入れます。



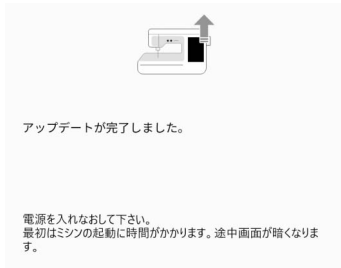
* 以下の画面が表示されるまで  を押し続け、表示されたらスイッチから手をはなします。



3  を押します。

4 [取り込み]を押してミシンをアップデートします。

- * 以下のメッセージが表示されるまで、電源を切らないでください。



5 USB メディアを外し、ミシンの電源スイッチを入れ直します。

- * ミシンが起動するまでに時間がかかることがあります。起動中に画面が暗くなることもあります。電源を切らずにオープニング画面が表示されるまでお待ちください。ミシンの設定によっては、オープニング画面ではなく他の画面が表示されることがあります。

無線 LAN でアップデートする

ミシンが強力な信頼性の高い無線ネットワークに接続されている場合は、アップデートファイルをミシンに直接ダウンロードすることができます。

お知らせ

- ミシンは定期的にサーバー上に新しいアップデートファイルがあるかどうかを確認します。新しいアップデートファイルがある場合、無線 LAN キーが  と表示されます。



1 ミシンを無線 LAN に接続します。

- * 詳しくは、P. 29「無線 LAN 接続機能」を参照してください。

2 を押して、設定画面の [更新プログラムダウンロード] を表示します。

3 [スタート]を押します。

- * サーバー上に新しいアップデートファイルがある場合、アップデートファイルのダウンロードが開始されます。

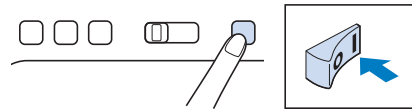


- 無線 LAN キーが  と表示されているときに [スタート] を押すと、新しいアップデートファイルがあるか確認します。新しいファイルがある場合はダウンロードを開始します。

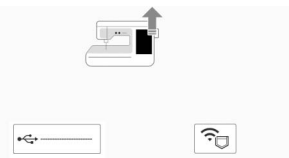
お願い

- ダウンロード中はミシンの電源を切らないでください。
- ダウンロードを一時停止するときは、[中断] を押します。再開するときは、[再開] を押します。

4 ダウンロードが終了したら、ミシンの電源を切り、 (自動糸通しスイッチ) を押しながら電源スイッチを入れます。



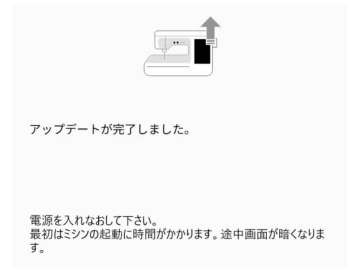
- * 以下の画面が表示されるまで  を押し続け、表示されたらスイッチから手をはなします。



5 を押します。

6 [取り込み]を押してミシンをアップデートします。

- * 以下のメッセージが表示されるまで、電源を切らないでください。



7 ミシンの電源スイッチを入れ直します。

- * ミシンが起動するまでに時間がかかることがあります。起動中に画面が暗くなることもあります。電源を切らずにオープニング画面が表示されるまでお待ちください。ミシンの設定によっては、オープニング画面ではなく他の画面が表示されることがあります。

お知らせ

- 機能の追加や変更があった場合、ミシンに表示される取扱説明書が更新されることがあります。

困ったとき

ミシンが思い通りに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目およびブラザーのサポートサイト（<https://s.brother/cpdaf/>）の「よくあるご質問（Q&A）」を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

お知らせ

- 使い方動画をモバイル端末やパソコンでご覧いただけます。



<https://s.brother/cvdaf/>

- 画面に表示される QR コードからもアクセスできます。（P. 27）

よくあるご相談

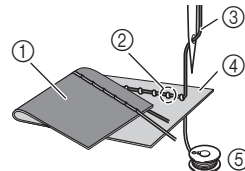
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

- P. 258 「上糸がつる」
- P. 259 「布裏で糸がからまる」
- P. 259 「糸調子が合わない」
- P. 260 「布がミシンに入り込んでとれなくなった」
- P. 261 「ボビン受け座の下に糸がからまってしまった」

上糸がつる

こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の表に下糸がポツポツと出ている。（イラスト参照）
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布地にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



- ① 布地の裏
- ② 布地の表に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の表
- ⑤ 下糸

原因

下糸のセットがまちがっている

下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っぱられてしまいます。そのため、布地の表に糸が出てしまいます。

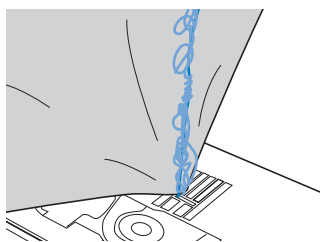
対処方法

下糸を正しくセットし直します。（P. 38）

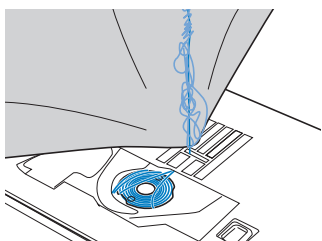
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- 布の裏側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、内かまの中に上糸がたまり、ガタガタと音がします。

■ 対処方法

からんだ糸を取り除き、上糸をセットし直します。

1 からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切ります。

- * 詳しくは、P. 253「かまの掃除」を参照してください。

2 いったん上糸をミシンから取り外します。

3 P. 40「上糸通し」の手順に従って、上糸をかけ直します。

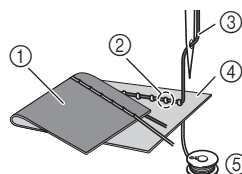
- * ボビンを内かまから取り出した場合は、P. 38「下糸をセットする」を参照して、正しくボビンをセットしてください。

糸調子が合わない

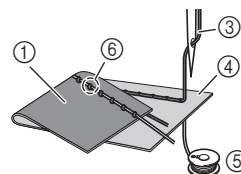
■ こんなとき

- 症状①：布地の表にポツポツと下糸が出ている。
- 症状②：布地の表で上糸が直線になる。
- 症状③：布地の裏にポツポツと上糸が出ている。
- 症状④：布地の裏で下糸が直線になる。
- 症状⑤：布地の裏側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



□ 症状③



- ① 布地の裏
- ② 布地の表に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の表
- ⑤ 下糸
- ⑥ 布地の裏に上糸が出ている

■ 原因／対処方法

□ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

＜上記の症状①、②に該当する場合＞

下糸が正しくセットされていません。

上糸調子を標準設定に戻してから、P. 38「下糸をセットする」を参照して下糸をかけ直します。

＜上記の症状③～⑤に該当する場合＞

上糸が正しく通っていません。

上糸調子を標準設定に戻してから、P. 40「上糸通し」を参照して上糸をかけ直します。

□ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。
ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- * P. 32「布地と糸の種類による針の使い分け」の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

□ 原因 3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。

使用する布地や糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

- * 実際にお使いになる布地の端切れで試しぬいをし、糸調子を調節してください。
- * 下糸が布地の表に出る場合は、上糸の糸調子を下げます。(糸調子を弱くします。)
- * 上糸が布地の裏に出る場合は、上糸の糸調子を上げます。(糸調子を強くします。)

振り幅	長さ	L/Rシフト	糸調子
↑	↑	↑	↑
1.5 mm	2.5 mm	0.00 mm	4.0 mm
↓	↓	↓	↓

💡 お願い

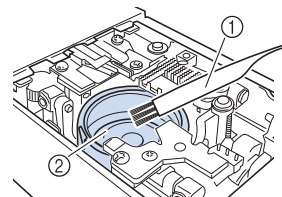
- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。

布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、またはお客様相談室（ミシン 119 番）にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

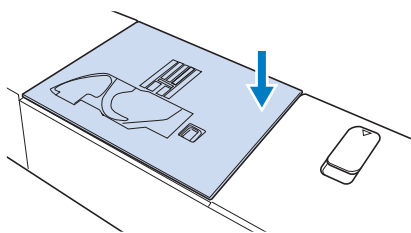
- 1 直ちにミシンを停止させます。
- 2 電源スイッチを切って、電源プラグを抜いてください。
- 3 針を取り外します。
針が布地に刺さっている場合は、プーリーを奥側（時計回り）に回して針を布地から抜いてから、針を取り外してください。
* P. 34「針の交換」を参照してください。
- 4 押えを取り外します。
押えに糸がからみついている場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。押えが破損するおそれがあります。
* P. 46「押えを交換する」を参照してください。
- 5 布地を持ち上げて、布地の下の糸を切りまします。
ここで布地を取り外することができる場合は、取り外してください。かまの掃除をするために引き続き、次の手順へお進みください。
- 6 針板と内かまを取り出します。
内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。
* P. 253「かまの掃除」を参照してください。
- 7 外かまや送り歯の周りについている糸くずを取り除きます。
* P. 253「かまの掃除」の手順 8 を参照してください。



- ① ミシンブラシ
- ② 外かま

8 内かまを挿入し、針板を取り付けます。

- * P. 253 「かまの掃除」の手順 9 ～ 11 を参照してください。



9 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- * P. 34 「針の交換」を参照してください。

■ ミシンの動作を確認する

いったん針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

1 電源を入れます。

→ 針が左右に動きます。

💡 お願い

- エラーが発生する場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

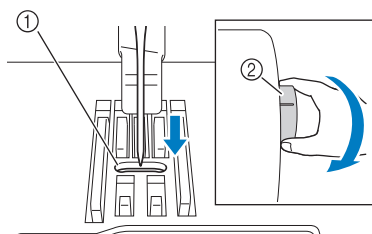
2 直線（中基線）の模様を選択します。

- * P. 271 「ぬい方早見表」を参照してください。

💡 お願い

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

3 プーリーをゆっくりと手前（反時計回り）に回し、針が針穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。



- ① 針穴
- ② プーリー

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

4 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

傷がついたまたは破損した押えを使用しないでください。針折れや縫製不良の原因となります。

- * P. 38 「下糸をセットする」と P. 46 「押えの交換」を参照してください。

5 上糸をかけ直します。

- * 上糸のかけ方については、P. 40 「上糸通し」を参照してください。

💡 お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、糸がからむ原因となります。正しく上糸をセットしてください。

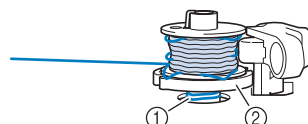
6 普通地で試しぬいをします。

💡 お願い

- 薄い布地をぬう場合、ぬい目の短い中基線を選択し、直線針板を使用して直線ぬいをしてください。また、布地の下に薄い紙や芯地を置いてください。

ボビン受け座の下に糸がからまってしまった

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。以下の手順に従ってボビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。



- ① 糸
- ② ボビン受け座

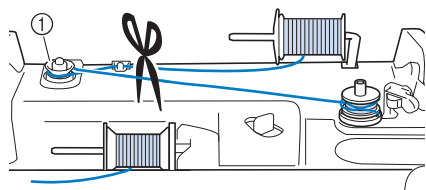
⚠ 注意

- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。ボビン受け座のカッターでけがをするおそれがあります。

1 [ストップ]を押して、下糸巻きを停止します。

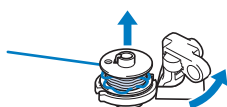


2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。

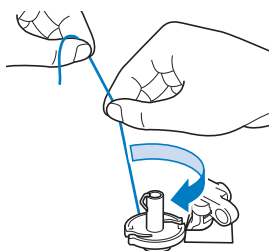


① 下糸巻き案内

3 ボビンホルダーを右へ押し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。ボビンと軸の間で糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。



4 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン受け座近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



こんなときは

修理を依頼する前に、次の項目を確認してください。参照ページが「*」の場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

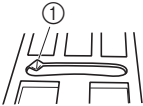
■ めう前の準備

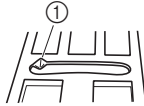
症状、原因／対処	参照
糸通しができない	
針が正しい位置にない。 ・  (針上下スイッチ) を押して針を上げます。	12
針の取り付け方がまちがっている。	34
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
上糸の通し方がまちがっている。	40
糸通しフックが曲がっていて針穴に通っていない。	*
糸通し装置が動かない、または元の位置に戻らない。	*
9 番の針を使っている。 ・ 糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	40
押えレバーで押えを下げるできない	
 (押え上下スイッチ) を使って、押えが上げられている。 ・  (押え上下スイッチ) を押して、押えを下げます。	12
下糸がボビンにきれいに巻けない	
下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていない。	35
ボビンの回転が遅い。	35
引き出した糸を正しくボビンに巻き付けていない。	35
ボビンが下糸巻き軸に正しくセットされていない。	35
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	
下糸巻き案内の皿に糸が正しく通っていない。 ・ からまった糸をほどき、下糸巻きをします。	35

症状、原因／対処	参照
下系を引き出すことができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
下系のセットのしかたがまちがっている。	38
ミシンの操作ができない	
すべてのキーとスイッチが  でロックされている。	16
液晶画面に何も表示されない	
電源スイッチが入っていない。	14
電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	14
液晶画面が見にくい	
画面の明るさ設定が合っていない。	21
液晶画面を押しても、反応しない	
画面がロックされている。 • 次のいずれかのキーを押して、画面ロックを解除します。  	16
液晶画面がくもる	
液晶画面が結露している。 • しばらくすると、結露やくもりはなくなります。	—
デュアルタッチペンで操作できない	
デュアルタッチペンの発光部を掃除してください。	—
新しい電池に交換してください。	68
刺しゅう機が動かない	
刺しゅう機が正しくセットされていない。	124
初期設定を行う前に刺しゅう枠を取り付けた。	124
プロジェクターのポインターが正しい位置を示さない	
布地の表面がでこぼこしていると、正しく位置を認識できません。 • プロジェクターのポインターの表示は、参考程度に使用してください。	—

症状、原因／対処	参照
ミシンを無線 LAN に接続できない	
日付の設定が数週間以上ずれている。 • 画面下部の日時キーを押して、日付を正しく設定してください	—
5GHz 帯で無線 LAN に接続しようとした。 • 本機は 2.4GHz 帯にのみ対応しています。	—
無線 LAN の設定が有効になっていない。	30
セキュリティ情報 (SSID / パスワード (ネットワークキー) / 認証方法) が正しくない。 • SSID とセキュリティ情報を再確認し、必要に応じて正しい情報を入力してください。	30
無線アクセスポイント／ルーターが検出できない。 • 無線アクセスポイント／ルーターの電源が入っていることを確認してください。 • 金属製のドアや壁など、無線ネットワークの電波を遮るものがない場所に移動するか、無線アクセスポイント／ルーターに近づけてください。 • 無線設定を行う際は、無線アクセスポイントから約 1 m 以内にミシンを一時的に移動させてください。 • 無線アクセスポイント／ルーターが MAC アドレスフィルタリングを使用している場合は、ミシンの MAC アドレスがフィルタリングで許可されていることを確認してください。	—
無線アクセスポイント／ルーターで使用されている認証または暗号化方式に本機が対応していない。	269
プロジェクターによる針位置の投影がずれている、またはカメラがずれている	
針位置調整をしてください。	255

■ 操作中

症状、原因／対処	参照
ミシンの操作ができない	
スタート／ストップスイッチを押していない。	12
実用模様が選ばれていない。	49
刺しゅう模様が選ばれていない。	132
押えが下がっていない。	12
フットコントローラーを接続したままスタート／ストップスイッチを押した。	51
スピードコントロールレバーが振りを調節するように設定されているときに、スタート／ストップスイッチを押した。	20、51
針が折れる	
針の取り付け方がまちがっている。	34
針のとめネジがゆるんでいる。	34
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
布地に合った針や糸を使っていない。	32
模様に合った押えを使用していない。	271
上糸調子が強すぎる。	60、163
縫製中に、布地を無理に引っ張っている。	—
糸こま押えが正しくセットされていない。	40
針板の穴の周辺にキズがある。 * 針板の開口部の左側にミゾがあります。これは傷ではありません。	*
 ① ミゾ	
押えの穴の周辺にキズがある。	*
内かまにキズがある。	*
品質の悪い針を使っている。	34
本機純正のボビンを使用していない。	35
上糸の通し方がまちがっている。	40
下糸のセットのしかたがまちがっている。	38
押えの取り付けがまちがっている。	46
押えホルダーのネジがゆるんでいる。	46
布地が厚すぎる。	76
厚い布地などを縫製中に布地を押しこんでいる。	76
ぬい目が細かすぎる。	59
刺しゅうをするときに、布地に刺しゅう用接着芯を貼っていない。	125
下糸が正しく巻かれていない。	35

症状、原因／対処	参照
上糸が切れる	
上糸の通し方がまちがっている（糸こま押えが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、糸が針棒糸かけから外れているなど）。	40
糸にこぶや結び目がある。	—
針に比べて糸が太すぎる。	32
上糸調子が強すぎる。	60、163
糸がからまっている。	—
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
針の取り付け方がまちがっている。	34
針板の穴の周辺にキズがある。 * 針板の開口部の左側にミゾがあります。これは傷ではありません。	*
 ① ミゾ	
押えの穴の周辺にキズがある。	*
内かまにキズがある。	*
布地に合った針や糸を使っていない。	32
縫製中に、糸が結ばれたりからんだりしている。	38、40
本機純正のボビンを使用していない。	35
小さな文字など、ぬい目の短い模様を刺しゅうする場合に、ボールポイント針（刺しゅう用）を使用していない。	32
布裏で糸がからまる	
上糸の通し方がまちがっている。	40
布地に合った針や糸を使っていない。	32
小さな文字など、ぬい目の短い模様を刺しゅうする場合に、ボールポイント針（刺しゅう用）を使用していない。	32
上糸がつる	
下糸のセットのしかたがまちがっている。	38
下糸が切れる	
下糸のセットのしかたがまちがっている。	38
下糸が正しく巻かれていない。	35
傷のあるボビンを使用している。	38
糸がからまっている。	—
本機純正のボビンを使用していない。	35

症状、原因／対処	参照
布地にしわがよる	
上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	38、40
糸こま押えが正しくセットされていない。	40
布地に合った針や糸を使っていない。	32
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
薄い布地に対してぬい目があらずすぎる。	59
糸調子が合っていない。	60、163
模様合った押えを使用していない。	271
模様が正しくぬえない	
模様合った押えを使用していない。	271
糸調子が合っていない。	60
内かまなどで糸がからまっている。	253
ぬい目が飛ぶ	
糸の通し方がまちがっている。	40
布地に合った針や糸を使っていない。	32
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
針の取り付け方がまちがっている。	34
品質の悪い針を使っている。	34
針板の下にゴミがたまっている。	253
薄い布地や伸びる布地をぬっている。	77
ぬい目ができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
下糸のセットのしかたがまちがっている。	38
上糸の通し方がまちがっている。	40
ぬい音が高い／ガタガタと音をする	
送り歯にゴミがたまっている。	253
かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	253
上糸の通し方がまちがっている。	40
本機純正のボビンを使用していない。	35
内かまに針が刺さった穴やすり傷がある。	253
布地を送らない	
送り歯が下がっている。 ・  を押して、フリーモーションモードを解除します。	109
ぬい目が細かすぎる。	59
模様合った押えを使用していない。	271
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
糸がからまっている。	260

症状、原因／対処	参照
ぬい始めに段差があって、ジグザグ押え＜J＞が傾いている。	77
刺しゅう押えがぬい目や布地に引っ掛かっている。 ・ [刺しゅうの押え高さ] の設定値を大きくします。	23
布地が逆方向に送られる	
送り機構が故障した。	*
針が針板に当たる	
針のとめネジがゆるんでいる。	34
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
布地がミシンに入り込んでとれない	
糸が針板の下でからんでいる。	259
折れた針がミシンの中に落ちた	
ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻し、新しい針を取り付けます。 電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回ること、新しい針が針板の穴の中央を通ることを確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	260
プーリーを回したときに重い	
糸が内かまでからんでいる。	259
内蔵カメラがボタン穴かがり押えを検出できない	
ボタン穴かがり押えが汚れている。	85
押えの「A+」マークと3つのドットに影が差している、または手や布に隠れている。	85
刺しゅう位置合わせシールを検知しない	
・ 外からの日光やライトがミシンに入っている。	—
刺しゅう位置合わせシールの検知をさまたげるものがないことを確認してください。	
ライトの明るさを調整します。	
刺しゅう枠に布地を正しく張ってください。	
スキャンした画像がとても明るい、またはとてもぼんやりしている	
外からの日光やライトがミシンに入っている。 ・ 外からの光を遮断してください。	—
針に糸を通しにくい、または刺しゅう枠を外しにくい	
刺しゅう枠を移動します。	162

■ 縫製／刺しゅう後

症状、原因／対処	参照
糸調子が合わない	
上糸の通し方がまちがっている。	40
下糸のセットのしかたがまちがっている。	38
布地に合った針や糸を使っていない。	32
押えホルダーが正しく取り付けられていない。	46
糸調子が合っていない。	60、163
下糸が正しく巻かれていない。	35
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	34
純正のボビンを使用していない。	35
文字模様や飾り模様がくずれる	
模様が正しく調整されていない。	103
模様がくずれる	
模様に合った押えを使用していない。	271
薄い布地や伸びる布地に刺しゅう用接着芯を貼っていない。	77
糸調子が合っていない。	60、163
ぬっている途中で布地を引っ張ったり押えたり、布地がずれて送られたりしている。 ・布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてぬいます。	49
内かまなどで糸がからまっている。	259
刺しゅう模様がくずれる	
糸がからまっている。	—
糸調子が合っていない。	60、163
刺しゅう枠に布地がきちんと張られていない（布地の張り方がゆるいなど）。	128
刺しゅう用接着芯を貼っていない。 ・特に伸びる布地、薄地、目の粗い布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ります。適切な接着芯については、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	125
刺しゅう時に、キャリッジや刺しゅう枠がミシンの周辺に置いてある物に当たっている。	124
刺しゅう押えがぬい目や布地に引っ掛かっている。 ・[刺しゅうの押え高さ]の設定値を大きくします。	23
刺しゅう枠の端からはみでた布地がミシンに干渉し、刺しゅう機が動かない。 ・刺しゅう枠からはみ出た布地がミシンに触れないように布を刺しゅう枠にセットして、模様を回転させて刺しゅうをします。	128

症状、原因／対処	参照
重い衣類に刺しゅうしていたら、刺しゅう機の動きが悪くなった。 ・刺しゅう機の近くに厚い本などを置き、重い側を軽く持ち上げて水平になるようにします。置いた本が刺しゅう機や刺しゅう枠の動きを妨げないようにしてください。	—
テーブルから刺しゅうする布地が垂れ下がっている。 ・布地が垂れ下がった状態で刺しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くなります。テーブルから布地が垂れ下がらないようにします。	130
布地がひっかかっている、またははさみ込まれている。 ・ミシンを止めて布地を正しい位置に直します。	—
刺しゅうの途中で、刺しゅう枠を取り外したり、取り付けたりしたときに、刺しゅう押さえにあてたり、押したりした。または、刺しゅう機を動かした。	160
刺しゅう用接着芯が、刺しゅう枠よりも小さいなど、正しく貼られていない。	125
糸切れなどで刺しゅうを途中から始めると、刺しゅう模様によってはぬい目ができないことがあります。 ・  （止めぬいスイッチ）を押してぬい始めに止めぬいをしてから、刺しゅうを続けてください。	161
刺しゅうした布地の表側に糸のループができる	
糸調子が正しく調節されていない。	163
布地、糸、模様の組み合わせによって、上糸が浮いてしまう。 ・刺しゅう専用針板カバーを使用します。	131
内かまと下糸の組み合わせが正しくない。	130

エラーメッセージ

誤った操作を行うと、液晶画面にメッセージやアドバイスが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、以下の表を参照し、適切な処置を行ってください。表示されたメッセージが一覧にない場合は、画面の指示に従ってください。[OK]を押すか、エラーメッセージが表示されている間に正しい操作をすると、メッセージが消えます。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

No.	エラーメッセージ、原因／対処
1	USB メディアエラー USB メディアでエラーが発生したときに表示されます。他の USB メディアを使用してください。対応している USB メディアについては、P. 269「仕様」を参照してください。
2	アップデートに失敗しました。アップデートプログラムを再度ダウンロードして、インストールしてください。 P. 256「ミシンのソフトウェアをアップデートする」を参照してください。
3	アップデートに失敗しました。プログラムを再度インストールしてください。 * それでも問題がある場合は、アップデートプログラムをダウンロードし直し、インストールしてください。 P. 256「ミシンのソフトウェアをアップデートする」を参照してください。
4	安全装置が働きました。糸がからんでいませんか？ 針が曲がっていませんか？ 糸がらみなどが原因で、モーターがロックしたときに表示されます。
5	位置合わせマークを認識する事ができませんでした。 ミシンが位置合わせマークを認識できなかったときに表示されます。 • 選択範囲の中に位置合わせマークがあることを確認してください。P. 157「刺しゅう位置合わせシールを使う」の手順 3 ~ 4 を参照してください。 • プリントされた位置合わせマークを認識できませんでした。実際のサイズで印刷するよう設定を変更し（拡大縮小しない）、もう一度刺しゅう位置合わせマークをプリントしてみてください。（P. 174） • P. 264「操作中」の「刺しゅう位置合わせシールを検知しない」を参照してください。
6	位置合わせマークをはがして下さい。 ミシンが位置合わせマークを認識したときに表示されます。刺しゅう位置合わせシールをはがして [OK] を押し、操作を続けてください。  を押すと、刺しゅう位置合わせシールをはがしやすくなります。（P. 157）
7	押えレバーを下げてください。 押えレバーが上がっていて針が下がっている状態で、  （押え上下スイッチ）を押したときに表示されます。
8	この USB メディアは使用できません。 使用できないメディアを使おうとしたときに表示されます。他の USB メディアを使用してください。対応している USB メディアについては、P. 269「仕様」を参照してください。

No.	エラーメッセージ、原因／対処
9	このキーは使えません。 実用模様モード以外で [ぬい方] を押したときや、実用模様／文字模様ぬいモード以外で [模様説明] を押したときに表示されます。
10	この刺しゅう枠でぬうことはできません。大きい枠に取り替えて下さい。 刺しゅうモードで、刺しゅう枠を取り付けているときに、選んだ模様が刺しゅう枠に収まりきらない場合に表示されます。 また、内蔵カメラで刺しゅう模様の位置合わせをしているときに、位置調整した模様が取り付けられている刺しゅう枠の縫製範囲に収まっていない場合に表示されます。
11	このファイルは使用できません。 ミシンが対応していないサイズや形式のファイルを読み込もうとしたときに表示されます。ファイルのサイズと形式を確認してください。（P. 269）
12	この模様は使えません。 データが破損している場合など、このミシンでは使用できない模様を呼び出そうとしたときに表示されます。
13	刺しゅう枠を外して、下糸を交換してください。枠をつけたあと OK キーを押すと、前の位置に戻ります。 刺しゅう用下糸を交換するときに表示されます。（P. 160）
14	下糸が少なくなりました。 下糸が少なくなったときに表示されます。スタート／ストップスイッチを押すと数針ぬうことができますが、速やかに新しい下糸と交換してください。（P. 38）
15	下糸が少なくなりました。 * “止めぬいスイッチ”を押すと、止め縫いできます。 * 枠移動キーを押すと、糸切りして、枠を脱着用の位置に移動します。のちほど、前の位置に自動で戻ります。
16	下糸巻きの安全装置が働きました。糸がからんでいませんか？ 下糸が少なくなったときに表示されます。スタート／ストップスイッチを押すと数針ぬうことができますが、速やかに新しい下糸と交換してください。（P. 160）
17	重要なアップデートがあります。 設定画面「更新プログラムダウンロード」からファイルをダウンロードし、アップデートしてください。 * 模様の編集や刺しゅうが完了していない場合は、完了後にアップデートしてください。アップデートすると中断したところから再開できなくなります。
18	サーバーに新しいアップデートファイルがあります。ミシンをアップデートしてください。（P. 257） スピードコントロールレバーで振幅を調節するときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。フットコントローラーを使用してください。 スピードコントロールレバーで振幅を調節するように設定されている状態でスタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。設定画面で [振幅コントロール] をオフに設定してスタート／ストップスイッチを使用するか（P. 20）、フットコントローラーで操作してください（P. 71）。
19	定期点検の時期になりました。 ミシンの定期点検が必要なときに表示されます。上記の表示が出た場合は、お買い上げの販売店にご相談のうえ、定期点検をご依頼ください。[OK] を押すと、表示は消えてミシンの機能を引き続き使うことができますが、適切な点検が完了するまでは何度も表示されます。

No.	エラーメッセージ、原因／対処
20	デュアルフィードモジュールを外してください。 デュアルフィードが取り付けられている状態で刺しゅうをしようすると表示されます。刺しゅうモードに入る前に、デュアルフィードを取り外してください。
21	特別な模様が含まれているため、外部メモリーには保存できません。本体メモリーに保存してください。 著作権で保護された模様を外部に保存しようとしたときに表示されます。著作権法上、複製や編集が禁止されている模様は外部に保存できません。このメッセージが表示された場合は、ミシンのメモリーに模様を保存してください。
22	針板を着脱するときは、電源を切ってください。 直線針板を取り付けた状態で、中基線以外の模様でぬおうとしたときに表示されます。 ミシンの電源を入れたまま針板を取り外したとき、またはミシンの電源を入れて、刺しゅうモードを選択したときにも表示される場合があります。
23	ファイルサイズが大きすぎます。規定サイズ以内のファイルを使用して下さい。 ミシンが対応していないサイズのファイルを読み込もうとしたときに表示されます。ファイルのサイズと形式を確認してください。(P. 269)
24	フットコントローラーが付いているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。 フットコントローラーを取り付けた状態で、実用ぬいや文字・模様ぬいをするためにスタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。
25	ボーダー模様の組み合わせが解除されます。よろしいですか？ 縫製画面上で、連続模様（ボーダー模様）を回転しようとしたときに表示されます。
26	縫製エリアから模様のはみ出します。位置を変更してスキャンし直して下さい。 内蔵カメラで刺しゅう位置合わせをしているときに、刺しゅう位置合わせシールが端に寄りすぎていたり、模様が縫製範囲の外に出ていたりした場合に表示されます。 模様が縫製範囲内に収まるように布地を張り直し、再度位置合わせをしてください。
27	ポケットがいっぱいです。 実用模様の設定をこれ以上保存できない場合に表示されます。この場合、新しい設定を保存するために、保存済みの設定を消去してください。(P. 61)
28	ボタンホール押え「A+」を取り付けてください。内蔵のカメラで、「A+」マークと3つのドットを認識することで、「A+」押えと判断しています。 ボタン穴かがり押え< A+ >を取り付けずにボタン穴かがりぬいを開始すると表示されます。
29	文字の配列ができません。 文字数が多くて曲線の配列ができないときに表示されます。
30	容量が不足しています。 模様の最大数が保存されているか、保存しようとしている模様が大量のメモリを占有しているため、ミシンが保存できない場合に表示されます。ミシンのメモリーから模様を削除するか (P. 166)、USB メディアに模様を保存してください。
31	容量が不足しているためデータを保存できません。他のデータを消去するか、メディアを交換してください。 記憶容量がいっぱいで、模様を記憶できないときに表示されます。模様を保存するために、前に保存した実用模様または刺しゅう模様を削除してください。(P. 62、P. 166)

No.	エラーメッセージ、原因／対処
32	レジューム記憶を呼び出しますか？ 縫製中にミシンの電源を切った後で、もう一度電源を入れたときに表示されます。[OK] を押すと、電源を切ったときの状態（模様の位置と縫製済みの針数）に戻ります。(P. 162)
33	レジューム記憶を呼び出しますか？ (My Design Center) マイデザインセンターで模様を編集中にミシンの電源を切り、その後電源を入れ直してからマイデザインセンターを起動した場合に表示されます。[OK] を押すと、電源を切る前の画面に戻ります。
34	枠をはみ出します。これ以上組み合わせるときは、模様を回転して、追加入力してください。 刺しゅうモードで、組み合わせた文字模様が縫製範囲より大きいときに表示されます。模様を 90 度回転させると、引き続き模様を組み合わせることができます。
35	枠をはみ出します。これ以上は入力できません。 刺しゅうモードで、組み合わせた文字模様が縫製範囲より大きいときに表示されます。
36	F** 使用中に [F**] が表示されるときは、ミシンが故障していることが考えられます。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

第 8 章 付録

仕様

項目	仕様		
本体寸法	751 mm (幅) × 337 mm (奥行) × 350 mm (高さ)		
製品質量	19.1 kg		
刺しゅう機付き本体寸法	1090 mm (幅) × 671 mm (奥行) × 350 mm (高さ)		
刺しゅう機付き本体質量	25.0 kg		
ぬい速度	毎分 70 ～ 1050 針		
刺しゅうの最高速度	毎分 1050 針		
定格電圧／消費電力	100 V (50-60Hz) / 87 W		
インターフェース	無線 LAN ^{*1}	なし、Enhanced Open、WEP、WPA/WPA2-Personal、WPA3-Personal • WPA/WPA2/WPA3 エンタープライズの無線 LAN 接続はできません。	
メモリー	実用模様	1 MB	
	刺しゅう模様	10 MB	
	マイデザインセンター	100 MB	
データの種類 ^{*2}	実用模様 ^{*3}	.pmz、.pmp、.pmv、.pmx、.pmu	
	刺しゅう模様 ^{*4}	.pes、.phc、.phx、.dst、.pen	
	マイデザインセンターで呼び出し／取り込みできるデータ	• 模様描画データ (.pm9) • モチーフステッチデータ (.pmf) • デコラティブフィル模様データ (.plf)	
	マイデザインセンターとピックアップチャープレイ刺しゅう機能で利用できる画像データ	.jpg、.png、.bmp • 6 MB 未満かつ 1600 万画素以内	
飾り模様の組み合わせ数	70 個まで		
最大刺しゅう範囲	465 mm × 297 mm		
使用可能な USB デバイス／メディアの種類	• USB フラッシュドライブ (USB フラッシュメモリー) (Type A) 対応形式：FAT32、ex-FAT、NTFS 推奨容量：8 ～ 32 GB • 本機で使用できない USB メディアもあります。		
【エコモード】と【電源オフサポートモード】の条件	【エコモード】	設定可能な時間	OFF、10 ～ 120 分
		スタート／ストップスイッチ	緑色の点滅
		停止する機能	ミシンライト、画面表示
		復帰後	停止時の操作から再スタート
	【電源オフサポートモード】	設定可能な時間	OFF、1 ～ 12 時間
		スタート／ストップスイッチ	緑のゆっくりした点滅
		停止する機能	全機能
		復帰後	エラーメッセージが表示されます。 ミシンの電源を入れ直して再起動してください
スクリーンセーバーに対応している画像ファイル	ファイル形式	.jpg	
	ファイルサイズ	1 画像につき最大 2MB	
	解像度	800 × 1280 ピクセル以下（幅が 800 ピクセルを超える場合、取り込まれた画像は幅 800 ピクセルに縮小されます。）	
	設定できるファイル数	5 ファイルまで	

* 仕様は予告なしに変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- *1 無線 LAN 接続は、IEEE 802.11b/g/n 規格に準拠し、2.4 GHz の周波数を使用します。
パソコンからミシンにデータを転送するときは、Design Database Transfer または刺しゅう PRO バージョン 11 以降を使用してください。ソフトウェアに対応している OS については、ブラザーのサポートサイト (<https://s.brother/cndkc/>) を参照してください。
- *2 他の機種で保存したデータを読み出すと、保存時と異なる表示になることがあります。呼び出したデータを確認してください。
- *3 「.pmp」、「.pmv」、「.pmu」、「.pmx」ファイルは読み込むことはできますが、本機で保存し直したときは「.pmz」ファイルとして保存されます。本機または「.pmp」、「.pmv」、「.pmx」、「.pmu」に対応したミシンで作成された模様以外のデータを使用すると、ミシンが誤作動するおそれがあります。
- *4 当社正規のデータ作成ソフトウェアまたはミシンで作成された模様以外のデータを扱うと、本機が誤作動するおそれがあります。上記拡張子のファイルをミシンに読み込んで、保存しなおしたときは「.phx」ファイルとして保存されます。
Tajima (.dst) データには、具体的な糸色の情報が含まれていないため、標準的な糸色で表示されます。プレビューを確認し、必要に応じて糸色を変えてください。

🔔 お願い

- ファイルおよびフォルダーの名前には、アルファベット 26 文字 (A ~ Z、a ~ z)、0 ~ 9 の数字、「-」もしくは「_」を使用してください。半角文字を使用してください。

重要

- 当社正規の模様以外の刺しゅうデータを使用する際は、糸密度が細かすぎる縫製や 3 回以上の重ねぬいをする、糸が切れたり、針が曲がったり折れたりするおそれがあります。そのような場合は、当社正規のデータ作成ソフトウェア (刺しゅう PRO など) で、刺しゅうデータを修正して使用してください。

ぬい方早見表

お知らせ

- 各模様の自動返しぬい／止めぬいについては、P. 54「自動返しぬい／止めぬい」を参照してください。
- フリーモーションモードが (オフ) または  (オン) のときに各画面に表示される押えは、「押え」の表に示されています。

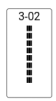
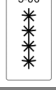
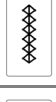
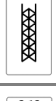
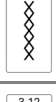
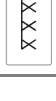
下記の表の「押え」の項目に「*」が付いている実用模様は、ジグザグ押え< J >を取り付ければ2本針でも使用できます。

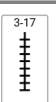
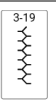
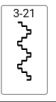
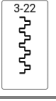
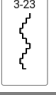
模様	押え	名称／用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	J*/O	直線 (左基線) 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	—	2.5 0.2 - 5.0
	J*/O	直線 (左基線) 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	—	2.5 0.2 - 5.0
	J*/O	直線 (中基線) 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	—	2.5 0.2 - 5.0
	J*/O	直線 (中基線) 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	—	2.5 0.2 - 5.0
	J*/O	3重ぬい 丈夫なぬい目なので、袖つけや股下をぬうときに便利です。また、伸びる布地をぬうときやステッチをかけるときに使用します。	—	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	伸縮ぬい 伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	1.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	—	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	しつけぬい しつけに使用します。	—	5.0 5.0
	J*/O	ジグザグ (中基線) たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0
	J*/O	ジグザグ (中基線) たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0
	J*/O	ジグザグ (右基線) 右の針位置からぬい始まります。	3.5 2.5 - 5.0	1.4 0.3 - 5.0

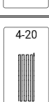
模様	押え	名称／用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	J*/O	ジグザグ (左基線) 左の針位置からぬい始まります。	3.5 2.5 - 5.0	1.4 0.3 - 5.0
	J*/O	2点ジグザグ 普通地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0
	J*/O	2点ジグザグ 普通地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0
	J*/O	3点ジグザグ 普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0
	G	たち目かがり 薄地、普通地のたち目かがりに使用します。	3.5 2.5 - 5.0	2.0 0.4 - 5.0
	G	たち目かがり 厚地のたち目かがりに使用します。	5.0 2.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0
	G	たち目かがり 普通地や厚地、破れやすい布地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	たち目かがり 普通地の伸びる布や厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0
	J/O	たち目かがり 伸びるニット地のたち目かがりに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0
	J*/O	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0
	J*/O	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	1.8 0.4 - 5.0
	S	サイドカッター 布を切りながら直線ぬいをします。	—	2.5 0.2 - 5.0
	S	サイドカッター 布を切りながらジグザグぬいをします。	3.5 3.5 - 5.0	1.4 0.0 - 5.0

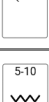
模様	押え	名称/用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	S	サイドカッター 布を切りながらち目かがりをします。	3.5 3.5 - 5.0	2.0 0.4 - 5.0
	S	サイドカッター 布を切りながらち目かがりをします。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0
	S	サイドカッター 布を切りながらち目かがりをします。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	ピーシング直線 (右基線) ピーシング用の直線です。 押えの右端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が6.5 mm でぬえるように針位置が設定されています。	—	2.0 0.2 - 5.0
	J/C	ピーシング直線 (中基線) ピーシング用の直線です。 * フリーモーションキルト押え<C>の使用時は必ず直線針板を使用してください。	—	2.0 0.2 - 5.0
	J/O	ピーシング直線 (左基線) ピーシング用の直線です。 押えの左端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が6.5 mm でぬえるように針位置が設定されています。	—	2.0 0.2 - 5.0
	J/O	手ぬい風直線 上糸にナイロン透明糸、下糸にキルトに合った色の糸を使うと手ぬい風のキルト直線がぬえます。	—	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	ジグザグ アップリケキルトやフリーモーションキルト、サテンぬいなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0
	J/O	アップリケ アップリケやバインディングをするときに使用します。	1.5 0.0 - 7.0	1.8 0.4 - 5.0
	J/O	キルトイング模様 キルトで背景を埋めるときに使用します。	7.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0
	R	まつりぬい 普通地のまつりぬいに使用します。 * 振り幅設定の単位は、mm ではありません。	00 3 ← - → 3	2.0 0.4 - 5.0
	R	まつりぬい 伸びる布地のまつりぬいに使用します。 * 振り幅設定の単位は、mm ではありません。	00 3 ← - → 3	2.0 0.4 - 5.0
	J*/O	アップリケ アップリケに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	アップリケ アップリケに使用します。	2.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	シェルタック シェルタックは貝殻を直線状にならべたような円弧状のひだを作るもので、ふち取りなどに用いるほか、ブラウス、ワンピースなどの胸元や袖に飾りぬいとして使用します。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0

模様	押え	名称/用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	N+*/O	サテンスカラップ 半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をスカラップといいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	0.5 0.1 - 5.0
	N+*/O	スカラップ 半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をスカラップといいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	7.0 0.0 - 7.0	1.4 0.4 - 5.0
	J*/O	つきあわせ パッチワークや飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	1.2 0.2 - 5.0
	J*/O	つきあわせ パッチワークや飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	つきあわせ コードなどを使った飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.2 0.2 - 5.0
	J*/O	スモッキング スモッキングや飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0
	J*/O	ファゴティング 布地と布地の間を離して糸でかがる方法をファゴティングといいます。ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	ファゴティング 布地と布地の間を離して糸でかがる方法をファゴティングといいます。ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	ゴムひもつけ 伸びる布地にゴムひもをつけるときに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0
	J*/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	1.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	J*/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	5.5 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいやゴムひもつけに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいやアップリケに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0

模様	押え	名称/用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	N+*/O	飾りぬい 左基線の3重ぬいで、すそ飾りなどに使用します。	—	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 中基線の3重ぬいで、すそ飾りなどに使用します。	—	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい レースつけやふち飾りなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。	3.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	6.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	6.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0
	N/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	6.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0

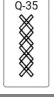
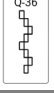
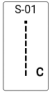
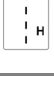
模様	押え	名称/用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	2.0 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい つき合わせや飾りぬいに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	2.0 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りや、ぬった後にリボンを通して飾りとして使用します。	5.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいやスモッキングに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいやスモッキングに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいやスモッキングに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい ふち飾りや、ぬった後にリボンを通して飾りとして使用します。	7.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 2.5
	A+	ボタン穴かがり ねむり穴、横穴用。薄地から普通地のボタン穴かがりに使用します。ブラウス、シャツなどに使用します。	5.0 3.0 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり 横穴用。厚地の布や厚みのあるボタンを使うときに使用します。	5.5 3.5 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり 横穴用。ウエストベルトなど力がかかるところに使用します。	5.0 3.0 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり 横穴用。厚地のボタン穴かがりに使用します。	5.0 3.0 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり ボタン穴かがり + かんどめ	5.0 3.0 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり ねむり穴。普通地から厚地のボタン穴かがりに使用します。ジャケットやブラウスに使用します。	5.0 3.0 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり 両止めボタン穴かがり。麻、木綿など、ある程度腰のある素材に適しています。ホームウェアやブラウスなど手軽にぬえるものに使用します。	5.0 3.0 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0

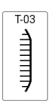
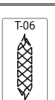
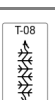
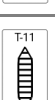
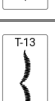
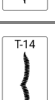
模様	押え	名称／用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	A+	ボタン穴かがり 両止めボタン穴かがり。厚地の布や厚みのあるボタンを使うときに使用します。	5.5 3.5 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり 横穴用。厚地のボタン穴かがりに使用します。	5.0 3.0 - 6.5	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり 伸びる布地や編み地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	6.0 3.0 - 6.5	1.0 0.5 - 2.0
	A+	ボタン穴かがり 伸びる布地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	6.0 3.0 - 6.5	1.5 1.0 - 3.0
	A+	ボタン穴かがり 玉ぶち穴かがり（バウンドボタンホール）を作るときに使用します。	5.0 0.0 - 6.5	2.0 0.2 - 4.0
	A+	ボタン穴かがり はとめ穴。厚地や毛足の長い布のボタン穴かがりに使用します。ブレザー、スーツ、コートなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり はとめ穴。普通地から厚地のボタン穴かがりに使用します。ジーンズ、ズボンなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0
	A+	ボタン穴かがり はとめ穴。厚地や毛足の長い布の横穴ボタン穴かがりに使用します。厚手のコートなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0
	N+/O	4ステップボタンホール 1 4ステップボタン穴かがりの左側です。	5.0 1.5 - 7.0	0.4 0.2 - 1.0
	N+/O	4ステップボタンホール 2 4ステップボタン穴かがりの下側のかんどめです。	5.0 1.5 - 7.0	0.4 0.2 - 1.0
	N+/O	4ステップボタンホール 3 4ステップボタン穴かがりの右側です。	5.0 1.5 - 7.0	0.4 0.2 - 1.0
	N+/O	4ステップボタンホール 4 4ステップボタン穴かがりの上側のかんどめです。	5.0 1.5 - 7.0	0.4 0.2 - 1.0
	A+	ダーニング 普通地のつくりぬいに使用します。	7.0 2.5 - 7.0	2.0 0.4 - 2.5
	A+	ダーニング 厚地のつくりぬいに使用します。	7.0 2.5 - 7.0	2.0 0.4 - 2.5
	A+	かんどめ ぬい目がほだけやすい箇所やポケット口などのあき止まり部分の力の加わる部分を補強したい場合に用います。	2.0 1.0 - 3.0	0.4 0.3 - 1.0

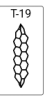
模様	押え	名称／用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	M	ボタンつけ ボタンつけに使用します。	3.5 2.5 - 4.5	—
	N+/O	アイレット ベルトの調節用の穴をかがるときなどに使用します。普通地に使用します。	7.0 5.0 6.0 7.0	7.0 5.0 6.0 7.0
	N+/O	アイレット 星型の穴をかがるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送り直線 でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送り直線 でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送り直線 でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送り直線 でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送り直線 でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送り直線 でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送り直線 でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送り直線 でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送りジグザグ でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送りジグザグ でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送りジグザグ でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
	N+/O	横送りジグザグ でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—

模様	押え	名称/用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	J/C	ピーシング直線 (中基線) ピーシング用の直線です。	—	2.0 0.2 - 5.0
	J/O	ピーシング直線 (右基線) ピーシング用の直線です。押えの右端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が6.5 mmでぬえるように針位置が設定されています。	—	2.0 0.2 - 5.0
	J/O	ピーシング直線 (左基線) ピーシング用の直線です。押えの左端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が6.5 mmでぬえるように針位置が設定されています。	—	2.0 0.2 - 5.0
	J/O	手ぬい風直線 上糸にナイロン透明糸、下糸にキルトに合った色の糸を使うと手ぬい風のキルト直線がぬえます。	—	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	しつけぬい しつけに使用します。	—	5.0 5.0
	J/O	伸縮ぬい 伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	1.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	ジグザグ アップリケキルトやフリーモーションキルト、サテンぬいなどに使用します。	3.50 0.00 - 7.00	1.6 0.0 - 5.0
	J/O	ジグザグ (右基線) 右の針位置からぬい始めます。	3.50 2.50 - 5.00	1.6 0.3 - 5.0
	J/O	ジグザグ (左基線) 左の針位置からぬい始めます。	3.50 2.50 - 5.00	1.6 0.3 - 5.0
	J/O	2点ジグザグ 普通地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.00 0.00 - 7.00	1.0 0.2 - 5.0
	J/O	3点ジグザグ 普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.00 0.00 - 7.00	1.0 0.2 - 5.0
	J/O	アップリケ アップリケやバインディングをするときに使用します。	2.00 0.00 - 7.00	2.0 0.4 - 5.0
	J/O	シェルタック シェルタックは貝殻を直線状にならべたような円弧状のひだを作るもので、ふち取りなどに用いるほか、ブラウス、ワンピースなどの胸元や袖に飾りぬいとして使用します。	4.00 0.00 - 7.00	2.5 0.2 - 5.0
	J/O	アップリケ アップリケに使用します。	3.50 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	キルトイング模様 キルトで背景を埋めるときに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	1.6 0.4 - 5.0
	J/O	たち目かがり 伸びるニット地のたち目かがりに使用します。	5.00 0.00 - 7.00	4.0 0.4 - 5.0

模様	押え	名称/用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	J/O	ゴムひもつけ 伸びる布地にゴムひもをつけるときに使用します。	5.50 0.00 - 7.00	1.4 0.2 - 5.0
	N+/O	飾りぬい 飾りぬいやゴムひもつけに使用します。	5.00 0.00 - 7.00	2.0 0.2 - 5.0
	J/O	ファゴティング ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法です。ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	5.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	ファゴティング ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法です。ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	5.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	つきあわせ コードなどを使った飾りぬいに使用します。	5.00 0.00 - 7.00	1.2 0.2 - 5.0
	J/O	つきあわせ パッチワークや飾りぬいに使用します。	5.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	J/O	スモッキング スモッキングや飾りぬいに使用します。	5.00 0.00 - 7.00	1.6 0.4 - 5.0
	J/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	4.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	N+/O	飾りぬい 飾りぬいやアップリケに使用します。	6.00 0.00 - 7.00	1.0 0.2 - 5.0
	J/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	5.50 0.00 - 7.00	1.6 0.4 - 5.0
	N+/O	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.00 0.00 - 7.00	2.0 0.4 - 5.0
	N+/O	飾りぬい つきあわせや飾りぬいに使用します。	6.00 0.00 - 7.00	2.0 0.4 - 5.0
	J/O	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	6.00 0.00 - 7.00	3.0 0.4 - 5.0
	J/O	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	4.00 0.00 - 7.00	4.0 0.4 - 5.0
	N+/O	アップリケ アップリケや飾り模様ぬいに使用します。	3.00 0.00 - 7.00	2.0 0.4 - 5.0
	N+*/O	アップリケ アップリケに使用します。	4.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0

模様	押え	名称/用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	N+/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	N+/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	N+/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	N+/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	N+/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	N+/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	2.5 0.4 - 5.0
	N+*/O	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	7.00 0.00 - 7.00	0.4 0.1 - 5.0
	X	フリーモーションカウチ ング カウチング押え（別売） でフリーモーションカウ チングをするときに使用 します。	—	—
	N+	フリーモーションしつけ ぬい フリーモーションでしつ けぬいをするときに使用 します。	—	—
	J/O	手ぬい風直線 上糸にナイロン透明糸、 下糸にキルトに合った色 の糸を使うと手ぬい風の キルト直線がぬえます。	—	—
	J/O	手ぬい風直線 上糸にナイロン透明糸、 下糸にキルトに合った色 の糸を使うと手ぬい風の キルト直線がぬえます。	—	—
	J/O	手ぬい風直線 上糸にナイロン透明糸、 下糸にキルトに合った色 の糸を使うと手ぬい風の キルト直線がぬえます。	—	—
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 2.5 - 7.0	1.0 0.1 - 5.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	5.0 2.5 - 7.0	2.5 1.4 - 5.0

模様	押え	名称/用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	5.0 2.5 - 7.0	2.5 1.4 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 2.5 - 7.0	2.0 1.0 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 2.5 - 7.0	3.5 2.5 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 2.5 - 7.0	3.0 2.0 - 5.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 3.0 - 7.0	3.0 2.5 - 5.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 3.0 - 7.0	2.5 2.5 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 2.5 - 7.0	2.5 1.4 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 3.0 - 7.0	2.5 2.0 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 4.0 - 7.0	3.0 2.5 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 2.5 - 7.0	1.0 0.4 - 5.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	6.0 4.0 - 7.0	0.3 0.2 - 2.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	6.0 4.0 - 7.0	0.3 0.2 - 2.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 3.5 - 7.0	0.3 0.1 - 2.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 4.0 - 7.0	3.5 2.5 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 4.0 - 7.0	2.5 2.0 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることがで きます。	7.0 4.5 - 7.0	2.5 2.0 - 4.0

模様	押え	名称／用途	振り幅 (mm)	ぬい目の長さ (mm)
			自動 手動	自動 手動
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることが できます。	7.0 2.5 - 7.0	2.5 1.6 - 4.0
	N+/O	テーパリング ぬい始めとぬい終わりで 模様を細くすることが できます。	7.0 4.0 - 7.0	2.5 2.0 - 4.0
	SR	直線 (中基線) ステッチレギュレーター モードの直線ぬいに使用 します。	—	2.5 1.0 - 4.5
	SR	ジグザグ (中基線) ステッチレギュレーター モードのジグザグぬいに 使用します。	2.5 0.0 - 3.0	1.6 1.0 - 3.0
	SR	フリーモーションしつけ ぬい ステッチレギュレーター モードのしつけぬいに使 用します。	—	20.0 10.0 - 30.0

索引

数字

1 色で刺しゅうする	169
2 本針	104

L

L/R シフト	59
---------------	----

M

My Design Snap アプリ	223
My Stitch Monitor アプリ	223

U

USB マウス	15
USB メディア	62, 165

あ

アイレット	92, 134
アクセサリケース	12
アダプター	46
厚い布地	76
アップデート	256
アプリケ	105, 182
アプリケピース	182
アプリ	223
アルファベット文字	57, 135

い

位置を合わせる	155, 157, 159
糸	
糸調子	60, 163
布地と糸と針の組み合わせ	32
糸案内	35, 37
糸案内板	11, 37, 40
糸色ごとに並べ替える	168
糸切り	11, 49
糸切りスイッチ	12
糸こま押え	11
糸こまネット	33
糸印	150
糸たてスタンド	43
糸たて棒	11
糸密度	141
糸密度キー	19

う

上ふた	11
薄い布地	77
内かま	130
掃除	253
上糸通し	40

え

液晶画面	11, 15
エコーキルト	111, 192
エコモード	25
エッジトゥエッジキルト機能	193
エラーメッセージ	267

お

送り歯	11, 109
押え	

圧力	71
種類	271
取り外す	46
押え上下スッチ	12
押えホルダー	11, 46
押えホルダーのネジ	11
押えレバー	11
お手入れ	253

か

ガイドライン	63
カウチング	99, 189
返しぬいスイッチ	12, 54
返しぬい／止めぬい	53
カメラ	72, 159
カラーシャッフル機能	167
かんどめ	91

き

キーのはたらき	
刺しゅう	140
実用ぬい	17
マイイラスト機能	119
マイデザインセンター	228
記憶する	
刺しゅう模様	165
マイイラスト	121
ミシンのメモリー	62
模様の設定	61
ギャザー	106
キルト	108
刺しゅう	192
ステッチレギュレーター	112
デュアルフィード	109
フリーモーション	109
キルトサッシ模様	199, 201, 206

け

言語	21
----------	----

こ

コードガイドふた	81
困ったとき	258
ゴムひもつけ	106

さ

サポートテーブル	124
----------------	-----

し

シェルタック	107
ジグザグぬい	81
刺しゅう	
アプリケ	182, 185, 187
位置を合わせる	155
糸色を変える	167
キーのはたらき	140
組み合わせ模様	145
組み合わせる	145
自動糸切り機能	139
速度を調節する	131
編集	140
保存する	165
文字をつなげる	172
呼び出す	166

連続模様	148
渡り糸切り機能	139
刺しゅう位置合わせシール	157, 210
刺しゅう押え<W>	123
刺しゅう機	12
キャリッジ	12
刺しゅうシート	129
刺しゅう専用針板カバー	131
刺しゅう範囲トレースキー	137
刺しゅう模様	
位置の確認	137
刺しゅう枠	
刺しゅうシートの使い方	129
取り外し方	129
布地の張り方	128
下糸	130
下糸巻き案内	11, 35, 37
しつけぬい	93, 112, 171
実用ぬい	
キーのはたらき	17
記憶する	61
ぬい方早見表	271
呼び出す	61
自動糸切り	56, 139
自動糸通しスイッチ	12, 40
自動押え圧補正	71
自動止めぬい	54
仕様	269
照明	21

す

スカラップぬい	107
スキャン	
スキャン枠を使用する	239
背景イメージ	155, 241
スクリーンセーバー	25
スタート/ストップスイッチ	12
スティップリング	192, 225
ステッチの種類	49
ステッチレギュレーター	112
ステップ模様	102
スピードコントロールレバー	12, 49

せ

接着芯	125
設定	
刺しゅうの設定	23
実用ぬい、文字模様ぬいの設定	20
自動糸切り	56, 139
設定キー	20
ミシン本体の設定	21

そ

操作スイッチ	12
速度	12, 131
外かま	253

た

ダーニング (つくろいぬい)	91
たち目かがり	82

ち

直線押え	80
直線ぬい	79
直線針板	80

つ

ツールチップ	15
筒もの	76

て

テーパリング機能	96
デコラティブフィル模様	192, 232, 234
デコラティブフィル模様データを取り込む	234
デニム	32, 77
手ぬい風直線	117
デュアルタッチペン	13, 68, 153
デュアルフィード	47, 109
電源オフサポートモード	25
電源コード	14
電源スイッチ	11, 14

と

動画	28
時計	14
止めぬい	53
止めぬいスイッチ	12, 54

な

ナイロン透明糸	32
---------	----

に

ニーリフター	11, 70
ニット用針	32

ぬ

ぬい終わり位置設定	73
ぬい方早見表	271
布地	
厚い布地をぬう	76
薄い布地をぬう	77
布地と糸と針の組み合わせ	32
伸びる布地をぬう	77, 88

の

伸びる布地	77
-------	----

は

針	
2本針	104
ニット用針	32
布地と糸と針の組み合わせ	32
針位置の変え方	79
針位置の確認	72
針の交換	34
針板	11, 253
針板ふた	11, 38, 80, 81
針位置設定	255
針・押え交換キー	34, 46, 104
針上下スイッチ	12
針のとめネジ	11
針棒糸かけ	11, 104
ハンドル	11

ひ

ピーシング	108
皮革	77
ピクチャープレイ刺しゅう機能	175
ビニール生地	77
ピボット	70

ふ

フーリー	11
ファイル形式	269
ファスナーつけ	93
フロント	135

付属品	12
フットコントローラー	51
フリーモーションキルト	
エコーキルト押え<E>	111
オーブントウキルト押え<O>	111
フリーモーションキルト押え<C>	110
フリーモーションモード	109
振り幅コントロール	71
プリントと刺しゅう	173
プレビューキー	119, 151
プロジェクター	
ガイドライン	63
刺しゅう模様	152
実用模様	68
タッチペンでプロジェクターを編集する	153
針落ち位置	137
プロダクトナンバー	256
分割模様	210

ほ

ボーダー機能（繰り返し模様作成）	148
ホーム画面	16
ボイスガイダンス	26
縫製スキップ設定	169
補助糸たて棒	35
補助テーブル	11, 13, 124
ボタンつけ	90
ボタンホール	
1ステップ	85
4ステップ	89
変わった形のボタン／ボタンが台皿にのらない場合	87
刺しゅう	134
ボビン	
下糸が少なくなったら	160
下糸を引き出す	39
セットする	38
巻く	35
ボリウム	21

ま

マイイラスト機能	118
マイデザインセンター	225
キーのはたらき	228
線と領域の設定	237
模様を作成する	239
まつりぬい	83
マルチ機能フットコントローラー	51
マルチドライバー	13

み

ミシンの使い方キー	27
-----------------	----

む

無線 LAN 接続	29
-----------------	----

め

メタリック糸	33, 40
メモリー	62, 165

も

文字間	19, 142
文字・模様ぬい	
調整	103
保存する	62
呼び出す	62
モチーフステッチ	231, 234
モチーフ模様データを取り込む	234
戻る／進むキー	161
模様を組み合わせる	57, 145

模様をつなげる	210
---------------	-----

よ

横送り	101
呼び出す	
刺しゅう模様	166
実用ぬいの設定	61
マイイラスト	121
文字・模様ぬい	62

れ

連続模様	148
------------	-----





別売品に関する情報は <https://s.brother/codkc/> をご覧ください。



必ず最新のソフトウェアをインストールしてください。
最新バージョンでは、様々な機能向上を行っています。

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (マシン 119 番)」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのマシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室 (マシン 119 番)」にご相談ください。

■ お客様相談室 (マシン119番)

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室 (マシン119番)」までお問い合わせください。

お問い合わせ窓口

<https://s.brother/crgka/>



- お客様相談室 (マシン119番) は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
マシン背面の定格ハリマーク (銀色シール) の下記部分をご確認ください。



■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。
<https://www.brother.co.jp/>

ブラザーのサポートサイトでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。
<https://s.brother/cpdaf/>



本製品は日本国内のみでのご使用となりますので、海外でのご使用はお止めください。海外での各国の通信規格に反する場合や、海外で使用されている電源が本製品に適切でないおそれがあります。海外で本製品をご使用になりトラブルが発生した場合、当社は一切の責任を負いかねます。また保証の対象となりませんのでご注意ください。

This machine is made for use in Japan only. We can not recommend using it overseas it may violate the Telecommunications Regulations that country and the power requirements of your machine may not be compatible with the Power available in foreign countries. Using Japan models overseas is at your own risk will void your warranty.